

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	コリツカクイカクシヨウ フクシマケンリツカクイカク 公立大学法人 福島県立医科大学							
フリガナ大学の名称	フクシマケンリツカクイカク 福島県立医科大学 (Fukushima Medical University)							
大学本部の位置	福島県福島市光が丘1番地							
大学の目的	地方独立行政法人法、教育基本法、学校教育法及び公立大学法人福島県立医科大学定款に基づき、広く一般的教養を養い、医学、看護学及び保健科学に関する学理及びその応用を教授研究し、人格を陶冶し、社会の福祉と文化の向上発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	豊かな人間性と倫理観を備え、生涯にわたり知識や技術を学び続ける意欲を持ち、併せて、地域社会に貢献できる専門医療技術者を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	保健科学部 [School of Health Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	福島県福島市栄町9番地1
	理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	40	-	160	学士 (理学療法学) 【Bachelor of Physical Therapy】	令和3年4月 第1年次	
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	40	-	160	学士 (作業療法学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	令和3年4月 第1年次	
	診療放射線科学科 [Department of Radiological Sciences]	4	25	-	100	学士 (診療放射線科学) 【Bachelor of Radiological Sciences】	令和3年4月 第1年次	
臨床検査学科 [Department of Clinical Laboratory Sciences]	4	40	-	160	学士 (臨床検査学) 【Bachelor of Clinical Laboratory Sciences】	令和3年4月 第1年次		
計		145	-	580				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし							

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
		講義	演習	実験・実習	計							
教育課程	保健科学部 理学療法学科	95科目	21科目	11科目	127科目	124単位						
	保健科学部 作業療法学科	87科目	18科目	17科目	122科目	124単位						
	保健科学部 診療放射線科学科	86科目	10科目	18科目	114科目	124単位						
	保健科学部 臨床検査学科	89科目	8科目	20科目	117科目	124単位						
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等				
			教授	准教授	講師	助教	計		助手			
	新 設	保健科学部 理学療法学科	5 (5)	3 (3)	2 (0)	5 (3)	15 (11)	0 (0)	224 (105)			
			保健科学部 作業療法学科	4 (4)	2 (2)	4 (2)	5 (3)	15 (11)	0 (0)	227 (106)		
				保健科学部 診療放射線科学科	5 (5)	3 (3)	3 (1)	3 (1)	14 (10)	1 (1)	152 (105)	
					保健科学部 臨床検査学科	5 (5)	3 (2)	2 (1)	5 (2)	15 (10)	0 (0)	248 (107)
						計	19 (19)	11 (10)	11 (4)	18 (9)	59 (42)	1 (1)
	既 設	医学部 医学科	60 (60)	44 (44)	55 (55)	110 (110)	269 (269)	140 (140)	380 (380)			
			看護学部 看護学科	9 (9)	6 (6)	15 (15)	10 (10)	40 (40)	6 (6)	31 (31)		
				総合科学教育研究センター	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
計					75 (75)	55 (55)	70 (70)	120 (120)	320 (320)	146 (146)	— (—)	
合計	94 (94)	66 (65)	81 (75)	138 (128)	379 (362)	147 (147)	— (—)					
教員以外の 職員の概要	職種		専任	兼任	計							
	事務職員		233 (230)	154 (154)	387 (384)							
	技術職員		60 (60)	21 (21)	81 (81)							
	図書館専門職員		6 (6)	1 (1)	7 (7)							
	その他の職員		16 (16)	38 (38)	54 (54)							
計		315 (312)	214 (214)	529 (526)								

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	福島駅前キャン パス (保健科学部) 借用面積 3,000.01㎡ 借用期間30年				
	校 舎 敷 地	124,746.01㎡	-	㎡	124,746.01㎡					
	運 動 場 用 地	46,197㎡	-	㎡	46,197㎡					
	小 計	170,943.01㎡	-	㎡	170,943.01㎡					
	そ の 他	287,741㎡	-	㎡	287,741㎡					
合 計	458,684.01㎡	-	㎡	-	㎡	458,684.01㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		142,617.83㎡ (142,617.83㎡)	-	㎡ (- ㎡)	-	㎡ (- ㎡)	142,617.83㎡ (142,617.83㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	36室	23室	49室	4室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		保健科学部 理学療法学科			12 室					
		保健科学部 作業療法学科			11 室					
		保健科学部 診療放射線科学科			11 室					
図書・設備		新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分 図書 237,788冊 [96,482冊] 学術雑誌 7,753種 [3,174種] 視聴覚資料、 機械・器具、 標本は保健科 学部での学部 共有分
		保健科学部		1,494 [212]	41 [27]	39 [27]	83	193	0	
		理学療法学科		(270 [5])	(41 [27])	(39 [27])	(9)	(69)	(0)	
		保健科学部		1,428 [185]	50 [28]	39 [24]	79	201	0	
		作業療法学科		(392 [0])	(50 [28])	(39 [24])	(23)	(139)	(0)	
		保健科学部		2,248 [408]	23 [15]	20 [15]	14	76	13	
		診療放射線科学科		(689 [36])	(23 [15])	(20 [15])	(14)	(27)	(5)	
保健科学部		1,342 [152]	33 [14]	30 [13]	170	218	4			
臨床検査学科		(725 [0])	(33 [14])	(30 [13])	(0)	(107)	(4)			
保健科学部		2,374 [15]	0 [0]	0 [0]	0	31	30			
学部共有		(2,374 [15])	(0 [0])	(0 [0])	(0)	(31)	(30)			
計		8,886 [972] (4,450 [56])	147 [84] (147 [84])	128 [79] (128 [79])	346 (46)	719 (373)	47 (39)			
図書館		面積		閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数				
		4,865.09㎡		403		350,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,430㎡		野球場(1面)、庭球場(5面)、洋弓場、和弓場						
経 費 の 見 積 び 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	-	-	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	-	-	
		図書購入費	39,477千円	76,824千円	66,870千円	56,362千円	54,872千円	-	-	
	設備購入費	1,107,206千円	1,663,607千円	104,677千円	34,236千円	0千円	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベース整備費(運営コストを含む)		
		県内出身者 818千円	536千円	536千円	536千円	- 千円	- 千円			
		県外出身者 1,100千円								
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金、雑収入等							

大学等の名称	福島県立医科大学								所在地
	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	医学部 医学科	6	130	-	780	学士(医学)	1.00	昭和27年度	福島県福島市光が丘1番地
	看護学部 看護学科	4	84	-	336	学士(看護学)	1.00	平成10年度	
	大学院 医学研究科医科学専攻(M)	2	10	-	20	修士(医科学)	0.70	平成20年度	
	大学院 医学研究科医学専攻(D)	4	37	-	148	博士(医学)	1.09	昭和36年度 (平成21年度)	
	大学院 医学研究科 災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース(M)	2	5	-	10	修士(医科学)	0.40	平成28年度	
	大学院 医学研究科 災害・被ばく医療科学 共同専攻看護学コース(M)	2	5	-	10	修士(看護学)	0.60	平成28年度	
	大学院 看護学研究科看護学専攻(M)	2	10	-	20	修士(看護学)	0.55	平成14年度	
附属施設の概要	<p>名称：福島県立医科大学附属病院 目的：学位分野の研究・実習 所在地：福島県福島市光が丘1番地 設置年月：昭和62年6月（移転整備、現きぼう棟） 平成28年10月「みらい棟」新築 規模等：【きぼう棟】 土地16,648㎡（建築面積）、建物69,159㎡、11階建 【みらい棟】 土地5,759㎡（建築面積）、建物23,950㎡、8階建 きぼう棟・みらい棟 計39科、778床</p>								
	<p>名称：福島県立医科大学附属医療研修センター 目的：学位分野の研究 所在地：福島県光が丘1番地 設置年月：昭和63年3月 規模等：土地3,047㎡、建物2,639㎡、4階建</p>								
	<p>名称：福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所 ・放射性同位元素研究施設・実験動物研究施設 目的：学位分野の研究 所在地：福島県福島市光が丘1番地 設置年月：平成6年4月（再編整備） 規模等：土地4,839㎡（建築面積）、建物7,668㎡、5階建</p>								
	<p>名称：福島県立医科大学附属医療研修センター 目的：学位分野の研究 所在地：福島県光が丘1番地 設置年月：昭和63年3月 規模等：土地3,047㎡、建物2,639㎡、4階建</p>								
	<p>名称：福島県立医科大学会津医療センター 目的：地域医療の診療、研究、教育 所在地：福島県会津若松市河東町谷沢字前田2 1番地2 設置年月：平成25年5月 規模等：土地50,927.92㎡、建物23,528.93㎡、6階建</p>								
	<p>名称：福島県立医科大学医学部附属実験動物研究施設 目的：学位分野の研究 所在地：福島県光が丘1番地 設置年月：令和2年7月（予定） 規模等：建築面積434㎡、延べ床面積1,721㎡、4階建</p>								
	開設年度の下段、()内は再編年度								

公立大学法人福島県立医科大学保健科学部設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
公立大学法人 福島県立医科大学				公立大学法人 福島県立医科大学				
医学部				医学部				
医学科（6年制）	130	—	780	医学科（6年制）	130	—	780	
看護学部				看護学部				
看護学科	84	—	336	看護学科	84	—	336	
				保健科学部				学部の設置（認可申請）
				理学療法学科	40	—	160	
				作業療法学科	40	—	160	
				診療放射線科学科	25	—	100	
				臨床検査学科	40	—	160	
計	214	—	1116	計	359	—	1696	
公立大学法人 福島県立医科大学大学院				公立大学法人 福島県立医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻（M）	10	—	20	医科学専攻（M）	10	—	20	
医学専攻（4年制D）	37	—	148	医学専攻（4年制D）	37	—	148	
災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース （修士課程）	5	—	10	災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース （修士課程）	5	—	10	
災害・被ばく医療科学 共同専攻看護学コース （修士課程）	5	—	10	災害・被ばく医療科学 共同専攻看護学コース （修士課程）	5	—	10	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻	10	—	20	看護学専攻	10	—	20	
計	67	—	208	計	67	—	208	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(保健科学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			2					兼8	オムニバス・共同(一部)
	福島県を知る	1前	1			○			1					兼9	オムニバス・共同(一部)
	ライフデザイン	1前	1			○								兼1	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			2	0	0	0	0	兼12	
自然科学系科目	数学Ⅰ	1前		1		○								兼2	共同
	数学Ⅱ	1後		1		○								兼2	共同
	応用数学	2前		1		○								兼2	オムニバス・共同(一部)
	統計学	1前	1			○								兼1	
	情報処理	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
	化学Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	化学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	生物学Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	生物学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	物理学Ⅰ	1前		1		○								兼2	オムニバス
	物理学Ⅱ	1後		1		○								兼2	オムニバス
自然科学実験	1前	1					○						兼4	オムニバス・共同(一部)	
小計(12科目)	—	3	9	0	—			0	0	0	0	0	兼8		
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
	言語と社会	1前		1		○								兼1	
	人間関係論	2後	1			○								兼1	
	哲学	4後		1		○								兼1	
	心理学	1後	1			○								兼4	オムニバス
	倫理学	1前	1			○								兼1	
	文学	1前		1		○								兼1	
	歴史と社会	1前		1		○								兼1	
	死生観	2前		1		○								兼1	
	福島県の医療環境	1後	1			○			1			2		兼8	オムニバス・共同(一部)
	社会福祉学	2前		1		○								兼1	
	人間と教育	1後		1		○								兼1	
	日本国憲法	4後		1		○								兼1	
	国際関係論	3前		1		○								兼1	
ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○								兼1		
小計(15科目)	—	5	10	0	—			1	0	0	2	0	兼22		
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○								兼3	
	英語ⅠB	1後	1			○								兼3	
	英語ⅡA	2前	1			○								兼3	
	英語ⅡB	2後	1			○								兼3	
	英語Ⅲ	4後		1		○								兼2	
	ドイツ語	1後		1		○								兼1	
	フランス語	1後		1		○								兼1	
	中国語	1後		1		○								兼1	
	スペイン語	1後		1		○								兼1	
小計(9科目)	—	4	5	0	—			0	0	0	0	0	兼5		
及人体の心身の構造と機能	解剖学概論	1前	1			○								兼11	オムニバス
	機能解剖学	1後	1			○			2	1		1		兼1	オムニバス・共同(一部)
	解剖学実習	1後	1					○	1			1		兼2	オムニバス・共同(一部)
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼5	オムニバス
	生理学実習	1後	1					○	1	2		2		兼7	オムニバス・共同(一部)
	病理学総論	2前	1			○								兼1	
	基礎生化学	1後	1			○								兼2	オムニバス
	生命倫理学	1後	1			○								兼1	
	人間発達学	2前	1			○				1				兼1	オムニバス
	運動学	1後	2			○			1		2				オムニバス

教育課程等の概要																	
(保健科学部理学療法学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	運動学演習	2前	1					○		1		2			兼19	オムニバス・共同(一部)	
	免疫学	2前		1			○								兼1		
	微生物学総論	1後		1			○								兼1		
	医用工学	1後		2			○								兼2	オムニバス	
	医用工学実験	2前		1				○							兼6	オムニバス・共同(一部)	
	環境と放射線	1後		1			○								兼7	オムニバス	
	小計(16科目)	—	12	6	0			—		4	3	2	2	0	兼19		
	疾病と回復過程の成り立ち	医学概論	1前	1				○								兼1	
	画像医学	3前	1				○								兼10	オムニバス	
	薬理学	2前	1				○								兼3	オムニバス	
	臨床心理学	1後	1				○								兼4	オムニバス	
	リハビリテーション医学	2前	1				○			2					兼8	オムニバス	
	整形外科学	2通	2				○			1					兼17	オムニバス	
	内科学	2前	1				○								兼10	オムニバス	
	精神医学	2前	1				○								兼1		
脳・神経内科学	2前	1				○								兼9	オムニバス		
老年学	2後	1				○			1	1				兼7	オムニバス		
小児科学	2前	1				○								兼12	オムニバス		
リハビリテーション栄養学	2後	1				○								兼1			
がんリハビリテーション学	3前		1			○			2					兼11	オムニバス		
臨床技術基礎演習	1前	1					○		1			2		兼15	オムニバス・共同(一部)		
放射線医学概論	2後		1			○								兼8	オムニバス		
小計(15科目)	—	14	2	0			—		3	1	0	2	0	兼75			
保健シヨンの福祉とリハビリ	疫学・公衆衛生学	1後	1				○								兼8	オムニバス	
危機管理学	2前	1					○								兼9	オムニバス・共同(一部)	
リハビリテーション概論	1前	1					○		1						兼5	オムニバス	
災害リハビリテーション論	3前	1					○		1						兼7	オムニバス	
チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2					○		3	1		1			兼23	オムニバス・共同(一部) ※演習	
チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1						○	2	1		2			兼21	集中・オムニバス・共同(一部)	
小計(6科目)	—	7	0	0			—		3	1	0	2	0	兼42			
関連科目	研究方法論	3前	1				○		1						兼6	オムニバス	
医療統計学	2後	1					○								兼1		
医療統計学演習	3前	1						○							兼1		
小計(3科目)	—	3	0	0			—		1	0	0	0	0	兼3			
専門教育科目	理学療法概論	1前	1				○		4							オムニバス・共同(一部)	
	理学療法研究法演習	3後	1					○	5	3	2	3			兼3	共同	
	生体運動計測学	3後	1					○	1		2				兼3	オムニバス・共同(一部)	
	国際理学療法論	3後	1					○	1		1	1			兼3	オムニバス	
	卒業研究	4通	4						5	3	2	3					
	小計(5科目)	—	8	0	0			—	5	3	2	5	0	兼3			
	理学療法管理学	3後	2					○	1	1		1			兼1	オムニバス・共同(一部)	
	小計(1科目)	—	2	0	0			—	1	1	0	1	0	兼1			
	理学療法評価学Ⅰ	2前	2					○	1			2				オムニバス・共同(一部)	
	理学療法評価学Ⅱ	2前	2					○	1	1						オムニバス・共同(一部)	
	理学療法評価学演習	2後	2					○	2	1		3				オムニバス・共同(一部)	
	小計(3科目)	—	6	0	0			—	2	1	0	3	0	0			
	理学療法治療学	運動療法学	2後	1				○		1							共同
	運動療法学演習	2後	1					○	1		1						オムニバス
	物理療法学	2後	1					○			1						共同
物理療法学演習	3前	1					○			1						共同	
義肢装具学	3前	1					○			1				兼1	オムニバス		
義肢装具学演習	3前	1					○			2				兼2	オムニバス・共同(一部)		

教育課程等の概要																	
(保健科学部理学療法学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	運動器障害理学療法	2後	1			○			1		2	1			兼1	オムニバス	
	運動器障害理学療法演習	3前	1				○		1		2	1				オムニバス	
	運動器障害理学療法特論	4前		1		○			1		2	1				オムニバス	
	神経障害理学療法	2後	1			○			1	1						オムニバス	
	神経障害理学療法演習	3前	1				○		1	1						オムニバス・共同(一部)	
	神経障害理学療法特論	4前		1		○				1						オムニバス	
	内部障害理学療法	3前	1			○			2			1				オムニバス	
	内部障害理学療法演習	3前	1				○		2			1				オムニバス	
	内部障害理学療法特論	3後		1		○			2			1				兼1	オムニバス
	発達障害理学療法	3前	1			○				1		1				兼1	オムニバス・共同(一部)
	発達障害理学療法演習	3前	1				○			1		1					共同
	老年期理学療法	3前	1			○				1		1					共同
	老年期理学療法演習	3後		1			○			1		2					共同
	日常生活動作分析援助学	2後	1			○				1		1					共同
	日常生活動作分析援助学演習	3前	1				○			1		1					共同
	痛みに対する理学療法	3前	1			○			1			1				兼2	オムニバス
	痛みに対する理学療法演習	3後		1			○		1			1				兼3	オムニバス・共同(一部)
	予防理学療法	3前	1			○			2	2	1	3				兼1	オムニバス
	予防理学療法演習	3通		1			○			1		2					共同
	がん理学療法	3前	1			○			1								
	がん理学療法演習	3後		1			○		1							兼1	オムニバス
	スポーツ理学療法	3前	1			○					1					兼4	オムニバス
	理学療法発展領域論	4後		1		○			1							兼8	オムニバス・共同(一部)
	小計(29科目)		—	21	8	0	—			5	3	2	5	0		兼22	
	学域療法	地域理学療法	2後	2			○				1					兼2	オムニバス
		地域理学療法演習	3前	1				○			1		2				共同
		小計(2科目)		—	3	0	0	—		0	1	0	2	0		兼2	
	臨床実習	基本的臨床技能演習	3前	1				○		4	3	2	5				共同
		応用的臨床技能演習	4後	1				○		4	3	2	5				共同
臨床実習Ⅰ		1後	1					○	4	3	2	5					
臨床実習Ⅱ		2通	1					○	4	3	2	5					
臨床実習Ⅲ		3後	4					○	4	3	2	5					
臨床実習Ⅳ		3後	7					○	4	3	2	5					
臨床実習Ⅴ		4前	7					○	4	3	2	5					
地域理学療法実習		4前	1					○	4	3	2	5					
小計(8科目)		—	23	0	0	—		4	3	2	5	0	0				
合計(127科目)			—	114	40	0	—		5	3	2	5	0		兼224		
学位又は称号			学士(理学療法)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
1 教養教育科目(計20単位以上) (1)初年次科目 必修3単位 (2)自然科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (3)人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修2単位 (4)外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目(計104単位以上) (1)専門基礎科目(計38単位以上) 必修36単位、選択必修2単位 (2)専門科目(計66単位以上) 必修63単位、選択必修3単位 以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上(専門基礎科目38単位以上、専門科目66単位以上)、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位(半期24単位)						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			60分								

教育課程等の概要																
(保健科学部理学療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			2					兼8	オムニバス・共同(一部)	
	福島県を知る	1前	1			○			1					兼9	オムニバス・共同(一部)	
	ライフデザイン	1前	1			○								兼1		
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			2	0	0	0	0	兼12		
	自然科学系科目	数学I	1前		1		○								兼2	共同
		数学II	1後		1		○								兼2	共同
		応用数学	2前		1		○								兼2	オムニバス・共同(一部)
		統計学	1前	1			○								兼1	
		情報処理	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
		化学I	1前		1		○								兼1	
		化学II	1後		1		○								兼1	
		生物学I	1前		1		○								兼1	
		生物学II	1後		1		○								兼1	
		物理学I	1前		1		○								兼2	オムニバス
		物理学II	1後		1		○								兼2	オムニバス
		自然科学実験	1前	1					○						兼4	オムニバス・共同(一部)
	小計(12科目)	—	3	9	0	—			0	0	0	0	0	兼7		
	人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
		言語と社会	1前		1		○								兼1	
		人間関係論	2後	1			○								兼1	
		哲学	4後		1		○								兼1	
		心理学	1後	1			○								兼4	オムニバス
		倫理学	1前	1			○								兼1	
		文学	1前		1		○								兼1	
		歴史と社会	1前		1		○								兼1	
		死生観	2前		1		○								兼1	
		福島県の医療環境	1後	1			○			1			2		兼8	オムニバス・共同(一部)
		社会福祉学	2前		1		○								兼1	
		人間と教育	1後		1		○								兼1	
		日本国憲法	4後		1		○								兼1	
		国際関係論	3前		1		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○								兼1	
	小計(15科目)	—	5	10	0	—			1	0	0	2	0	兼22		
外国語科目	英語IA	1前	1			○								兼3		
	英語IB	1後	1			○								兼3		
	英語IIA	2前	1			○								兼3		
	英語IIB	2後	1			○								兼3		
	英語III	4後		1		○								兼2		
	ドイツ語	1後		1		○								兼1		
	フランス語	1後		1		○								兼1		
	中国語	1後		1		○								兼1		
	スペイン語	1後		1		○								兼1		
小計(9科目)	—	4	5	0	—			0	0	0	0	0	兼5			
及人体の構造と機能	解剖学概論	1前	1			○								兼11	オムニバス	
	機能解剖学	1後	1			○			2	1		1		兼1	オムニバス・共同(一部)	
	解剖学実習	1後	1					○				1		兼1	オムニバス・共同(一部)	
	生理学I	1前	1			○								兼5	オムニバス	
	生理学実習	1後	1					○	1	2		2		兼7	オムニバス・共同(一部)	
	病理学総論	2前	1			○								兼1		
	基礎生化学	1後	1			○								兼2	オムニバス	
	生命倫理学	1後	1			○								兼1		
人間発達学	2前	1			○								兼1	オムニバス		

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	運動学	1後	2			○			1		2				兼1 兼2 兼6 兼7 兼19	オムニバス オムニバス・共同(一部) オムニバス オムニバス・共同(一部) オムニバス	
	運動学演習	2前	1				○		1		2						
	免疫学	2前		1			○										
	微生物学総論	1後		1			○										
	医用工学	1後		2			○										
	医用工学実験	2前		1				○									
	環境と放射線	1後		1			○										
	小計(16科目)	—	12	6	0	—	—	—	4	3	2	2	0	兼19			
	疾病と障害の回復過程の成り立ちの促進	医学概論	1前	1			○									兼1	
		画像医学	3前	1			○									兼10	オムニバス
		薬理学	2前	1			○									兼3	オムニバス
		臨床心理学	1後	1			○									兼4	オムニバス
		リハビリテーション医学	2前	1			○			2						兼8	オムニバス
		整形外科学	2通	2			○			1						兼17	オムニバス
		内科学	2前	1			○									兼10	オムニバス
		精神医学	2前	1			○									兼1	
脳・神経内科学		2前	1			○									兼9	オムニバス	
老年学		2後	1			○			1	1					兼7	オムニバス	
小児科学		2前	1			○									兼12	オムニバス	
リハビリテーション栄養学		2後	1			○									兼1		
がんリハビリテーション学		3前		1		○			2						兼11	オムニバス	
臨床技術基礎演習		1前	1				○		1			2			兼15	オムニバス・共同(一部)	
放射線医学概論		2後		1		○									兼8	オムニバス	
小計(15科目)	—	14	2	0	—	—	—	3	1	0	2	0	兼75				
保健医療福祉の理念とリハビリ	疫学・公衆衛生学	1後	1			○									兼8	オムニバス	
	危機管理学	2前	1			○									兼9	オムニバス・共同(一部)	
	リハビリテーション概論	1前	1			○			1						兼5	オムニバス	
	災害リハビリテーション論	3前	1			○			1						兼7	オムニバス	
	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			3	1		1			兼23	オムニバス・共同(一部) ※演習	
	チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1				○		2	1		2			兼21	集中・オムニバス・共同(一部)	
小計(6科目)	—	7	0	0	—	—	—	3	1	0	2	0	兼42				
関連科目	研究方法論	3前	1			○			1						兼6	オムニバス	
	医療統計学	2後	1			○									兼1		
	医療統計学演習	3前	1				○								兼1		
小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3				
基礎理学療法学	理学療法学概論	1前	1			○			4							オムニバス・共同(一部)	
	理学療法研究法演習	3後	1				○		5	3	2	3				共同	
	生体運動計測学	3後	1			○			1		2					オムニバス・共同(一部)	
	国際理学療法論	3後	1			○			1		1	1			兼3	オムニバス	
	卒業研究	4通	4					○	5	3	2	3					
小計(5科目)	—	8	0	0	—	—	—	5	3	2	5	0	兼3				
学療法管理	理学療法管理学	3後	2			○			1	1		1			兼1	オムニバス・共同(一部)	
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	1	0	1	0	兼1			
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2前	2			○			1			2				オムニバス・共同(一部)	
	理学療法評価学Ⅱ	2前	2			○			1	1						オムニバス・共同(一部)	
	理学療法評価学演習	2後	2				○		2	1		3				オムニバス・共同(一部)	
小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	2	1	0	3	0	0				

教育課程等の概要															
(保健科学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理学療法治療学	運動療法学	2後	1			○		1						
		運動療法学演習	2後	1				○		1		1			共同
		物理療法学	2後	1			○			1					オムニバス
		物理療法学演習	3前	1				○				1			共同
		義肢装具学	3前	1				○				1			兼1 オムニバス
		義肢装具学演習	3前	1					○			2			兼2 オムニバス・共同(一部)
		運動器障害理学療法学	2後	1				○		1		2	1		オムニバス
		運動器障害理学療法学演習	3前	1					○	1		2	1		オムニバス
		運動器障害理学療法学特論	4前		1			○		1		2	1		兼1 オムニバス
		神経障害理学療法学	2後	1				○		1	1				オムニバス
		神経障害理学療法学演習	3前	1					○	1	1				オムニバス・共同(一部)
		神経障害理学療法学特論	4前		1			○				1			オムニバス
		内部障害理学療法学	3前	1				○		2			1		オムニバス
		内部障害理学療法学演習	3前	1					○	2			1		オムニバス
		内部障害理学療法学特論	3後		1			○		2			1		兼1 オムニバス
		発達障害理学療法学	3前	1				○			1		1		兼1 オムニバス・共同(一部)
		発達障害理学療法学演習	3前	1					○		1		1		共同
		老年期理学療法学	3前	1				○			1		1		共同
		老年期理学療法学演習	3後		1				○		1		2		共同
		日常生活動作分析援助学	2後	1				○			1				共同
		日常生活動作分析援助学演習	3前	1					○		1		1		共同
		痛みに対する理学療法学	3前	1				○		1			1		兼2 オムニバス
		痛みに対する理学療法学演習	3後		1				○	1			1		兼3 オムニバス・共同(一部)
		予防理学療法学	3前	1				○		2	2	1	3		兼1 オムニバス
		予防理学療法学演習	3通		1				○		1		2		共同
		がん理学療法学	3前	1				○		1					兼1 オムニバス
		がん理学療法学演習	3後		1				○	1					兼1 オムニバス
		スポーツ理学療法学	3前	1				○				1			兼4 オムニバス
		理学療法発展領域論	4後		1			○		1					兼8 オムニバス・共同(一部)
	小計 (29科目)	—	21	8	0	—		5	3	2	5	0	兼22		
学域療法	地域療法	地域理学療法学	2後	2			○			1				兼2 オムニバス	
		地域理学療法学演習	3前	1				○		1		2		共同	
		小計 (2科目)	—	3	0	0	—	0	1	0	2	0	兼2		
臨床実習	臨床実習	基本的臨床技能演習	3前	1				○		4	3	2	5		共同
		応用的臨床技能演習	4後	1				○		4	3	2	5		共同
		臨床実習Ⅰ	1後	1					○	4	3	2	5		
		臨床実習Ⅱ	2通	1					○	4	3	2	5		
		臨床実習Ⅲ	3後	4					○	4	3	2	5		
		臨床実習Ⅳ	3後	7					○	4	3	2	5		
		臨床実習Ⅴ	4前	7					○	4	3	2	5		
		地域理学療法学実習	4前	1					○	4	3	2	5		
	小計 (8科目)	—	23	0	0	—		4	3	2	5	0	0		
	合計 (127科目)	—	114	40	0	—		5	3	2	5	0	兼224		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(保健科学部理学療法学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（理学療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1 教養教育科目（計20単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修2単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計104単位以上） (1) 専門基礎科目（計38単位以上） 必修36単位、選択必修2単位 (2) 専門科目（計66単位以上） 必修63単位、選択必修3単位 以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上（専門基礎科目38単位以上、専門科目66単位以上）、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1 学年の学期区分				2学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				60分				

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部理学療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	心機人身能体の及び構造と	解剖学実習	1後	1						○		1			1		兼2	オムニバス・共同（一部）
		小計（1科目）	—	1	0	0	—				1	0	0	1	0	兼2		
	シヨハビ健康医療の理念	チーム医療 I（概論）	1前	2					○				1		1		兼7	オムニバス・共同（一部） ※演習
		小計（1科目）	—	2	0	0	—				0	1	0	1	0	兼7		
合計（2科目）			—	3	0	0	—				1	1	0	2	0	兼9		
学位又は称号		学士（理学療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）											
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
1 教養教育科目（計20単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修2単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位						1 学年の学期区分			2 学期									
2 専門教育科目（計104単位以上） (1) 専門基礎科目（計38単位以上） 必修36単位、選択必修2単位 (2) 専門科目（計66単位以上） 必修63単位、選択必修3単位						1 学期の授業期間			15週									
以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上（専門基礎科目38単位以上、専門科目66単位以上）、合計124単位以上						1 時限の授業時間			60分									
3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）																		

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部作業療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			2						兼8 オムニバス・共同（一部）
	福島県を知る	1前	1			○									兼10 オムニバス・共同（一部）
	ライフデザイン	1前	1			○									兼1
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼12
自然科学系科目	数学Ⅰ	1前		1		○									兼2 共同
	数学Ⅱ	1後		1		○									兼2 共同
	応用数学	2前		1		○									兼2 オムニバス・共同（一部）
	統計学	1前	1			○									兼1
	情報処理	1前	1			○									兼3 オムニバス・共同（一部）
	化学Ⅰ	1前		1		○									兼1
	化学Ⅱ	1後		1		○									兼1
	生物学Ⅰ	1前		1		○									兼1
	生物学Ⅱ	1後		1		○									兼1
	物理学Ⅰ	1前		1		○									兼2 オムニバス
	物理学Ⅱ	1後		1		○									兼2 オムニバス
	自然科学実験	1前	1					○							兼5 オムニバス・共同（一部）
小計（12科目）	—	3	9	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○									兼3 オムニバス・共同（一部）
	言語と社会	1前		1		○									兼1
	人間関係論	2後	1			○									兼1
	哲学	4後		1		○									兼1
	心理学	1後	1			○									兼4 オムニバス
	倫理学	1前	1			○									兼1
	文学	1前		1		○									兼1
	歴史と社会	1前		1		○									兼1
	死生観	2前		1		○									兼1
	福島県の医療環境	1後	1			○				1					兼10 オムニバス・共同（一部）
	社会福祉学	2前		1		○									兼1
	人間と教育	1後		1		○									兼1
	日本国憲法	4後		1		○									兼1
	国際関係論	3前		1		○									兼1
	ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○									兼1
小計（15科目）	—	5	10	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼22	
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○									兼3
	英語ⅠB	1後	1			○									兼3
	英語ⅡA	2前	1			○									兼3
	英語ⅡB	2後	1			○									兼3
	英語Ⅲ	4後		1		○									兼2
	ドイツ語	1後		1		○									兼1
	フランス語	1後		1		○									兼1
	中国語	1後		1		○									兼1
	スペイン語	1後		1		○									兼1
小計（9科目）	—	4	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	
及人体の構造と発達	解剖学概論	1前	1			○									兼11 オムニバス
	機能解剖学	1後	1			○									兼5 オムニバス・共同（一部）
	解剖学実習	1後	1					○							兼4 オムニバス・共同（一部）
	生理学Ⅰ	1前	1			○									兼5 オムニバス
	生理学実習	1後	1					○		1	1		1		兼9 オムニバス・共同（一部）
	病理学総論	2前	1			○									兼1
	生命倫理学	1後	1			○									兼1
	人間発達学	2前	1			○				1					兼1 オムニバス
	運動学	1後	2			○									兼3 オムニバス
	基礎生化学	1後	1			○									兼2 オムニバス

教育課程等の概要														
(保健科学部作業療法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	免疫学	2前	1			○								兼1
	運動学演習	2前		1			○							兼3
	小計(12科目)	—	12	1	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼19
専門基礎科目	及疾病回復過程の成り立ち	1前	1			○								兼1
	医学概論	2後		1		○								兼6
	放射線医学概論	3前	1			○								兼10
	画像医学	1後	1			○			1					兼3
	臨床心理学	2前	1			○			1					兼9
	リハビリテーション医学	2通	2			○								兼18
	整形外科学	2前	1			○								兼10
	内科学	2前	1			○			1					
	精神医学	2前	1			○			1					兼8
	脳・神経内科学	2後	1			○			1		1			兼7
	老年学	2前	1			○			1					兼11
	小児科学	2後	1			○								兼1
	リハビリテーション栄養学	3前	1			○								兼13
	がんリハビリテーション学	1前	1			○			1			2		兼15
	臨床技術基礎演習	2前	1			○								兼3
	薬理学	1後	1		1		○							兼7
	環境と放射線	1後	1		1		○							兼1
微生物学総論	—	15	3	0	—	—	—	1	0	1	2	0	兼75	
保健の理念	疫学・公衆衛生学	1後	1			○								兼8
	危機管理学	2前	1			○								兼9
	リハビリテーション概論	1前	1			○			4					兼3
	災害リハビリテーション論	3前	1			○								兼8
	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			1	1	1	2		兼23
	チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1				○		3		1			兼22
	医用工学	1後		2		○								兼2
	医用工学実験	2前		1				○						兼6
小計(8科目)	—	7	3	0	—	—	—	4	1	2	2	0	兼42	
関連科目	研究方法論	3前	1			○					1			兼6
	医療統計学	2後	1			○								兼1
	医療統計学演習	3前	1				○							兼1
小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	0	1	0	0	兼3	
基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	2			○			3		1			オムニバス
	作業科学と作業療法理論	3前	2			○					1			
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○		1		3		オムニバス・共同(一部)
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○		1		3		オムニバス・共同(一部)
	国際作業療法論	3後	1			○			2					兼5
	作業療法研究法演習	3後	1				○		1	2	2	1		オムニバス・共同(一部)
	卒業研究	4通	4					○	4	2	4	5		
	小計(7科目)	—	12	0	0	—	—	—	4	2	4	5	0	兼6
学管作業療法	作業療法管理学	3前	2			○			1					
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0
作業療法評価学	基礎作業療法評価学	1後	2			○				1	1			オムニバス
	身体障害作業療法評価学演習	2前	1				○			1	1	2		オムニバス・共同(一部)
	精神障害作業療法評価学演習	2前	1				○				1	1		オムニバス・共同(一部)
	発達障害作業療法評価学演習	2前	1				○			1		1		オムニバス・共同(一部)
	小計(4科目)	—	5	0	0	—	—	—	1	2	2	4	0	0

教育課程等の概要															
（保健科学部作業療法学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	作業療法治療学	基礎作業療法治療学	1前	1			○				1	1			兼4 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス 兼1 兼4 兼6
		身体障害作業療法学	2後	2			○			1	1	1			
		身体障害作業療法学演習Ⅰ	2後	1				○			1			1	
		身体障害作業療法学演習Ⅱ	3前	1				○			1	1		1	
		精神障害作業療法学	2後	1			○			1		1			
		精神障害作業療法学演習	3前	1				○				1		1	
		老年期障害作業療法学	2後	1			○			1					
		老年期障害作業療法学演習	3前	1				○		1		1			
		発達障害作業療法学	2後	1			○			1					
		発達障害作業療法学演習	3前	1				○		1			1		
		高次脳機能障害作業療法学	2後	1			○			1		1			
		高次脳機能障害作業療法学演習	3前	1				○		1		1			
		日常生活活動学	2前	1			○			1					
		日常生活活動学実習	2後	1					○		1	1	1		
		作業療法総合演習	4後	1					○	4		1			
		臨床技能実習Ⅰ	2通	1					○					4	
		臨床技能実習Ⅱ	3通	1					○	3	2	4	5		
		臨床技能実習Ⅲ	4前	1					○	3	2	4	5		
		認知症・介護予防作業療法論演習	3後		1				○	2		1			
	身体障害作業療法学特論	3後		1				○	1				1		
	作業療法発展領域論	4後		1				○	2		2				
小計（21科目）	—	—	19	3	0	—	—	—	4	2	4	5	0	兼13	
地域作業療法学	生活環境整備学演習	3後	1				○			1	1			兼1 兼4	
	地域生活・社会参加支援論	3後	1			○			2					兼4	
	地域作業療法学	3前	1			○			1					兼6 オムニバス・共同（一部）	
	地域作業療法学演習	3後	1				○		1		1				
	地域作業療法学実習	4後		1				○	1		1	3			
小計（5科目）	—	—	4	1	0	—	—	—	3	1	1	3	0	兼11	
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1後	2					○	3	2	4	5			
	臨床実習Ⅱ	2通	1					○	3	2	4	5			
	臨床実習Ⅲ	2後	3					○	3	2	4	5			
	臨床実習Ⅳ	3後	8					○	3	2	4	5			
	臨床実習Ⅴ	4前	8					○	3	2	4	5			
小計（5科目）	—	—	22	0	0	—	—	—	3	2	4	5	0	0	
合計（122科目）			—	116	35	0	—	—	4	2	4	5	0	兼227	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(保健科学部作業療法学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
1 教養教育科目（計20単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修3単位、選択必修3単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修1単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計104単位以上） (1) 専門基礎科目（計37単位） 必修37単位 (2) 専門科目（計67単位以上） 必修64単位、選択必修3単位 以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上（専門基礎科目37単位、専門科目67単位以上）、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1 学年の学期区分				2学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				60分				

教育課程等の概要															
(保健科学部作業療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			2					兼8	オムニバス・共同(一部)
	福島県を知る	1前	1			○								兼10	オムニバス・共同(一部)
	ライフデザイン	1前	1			○								兼1	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			2	0	0	0	0	兼12	
自然科学系科目	数学Ⅰ	1前		1		○								兼2	共同
	数学Ⅱ	1後		1		○								兼2	共同
	応用数学	2前		1		○								兼2	オムニバス・共同(一部)
	統計学	1前	1			○								兼1	
	情報処理	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
	化学Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	化学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	生物学Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	生物学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	物理学Ⅰ	1前		1		○								兼2	オムニバス
	物理学Ⅱ	1後		1		○								兼2	オムニバス
	自然科学実験	1前	1					○						兼5	オムニバス・共同(一部)
小計(12科目)	—	3	9	0	—			0	0	0	0	0	兼8		
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
	言語と社会	1前		1		○								兼1	
	人間関係論	2後	1			○								兼1	
	哲学	4後		1		○								兼1	
	心理学	1後	1			○								兼4	オムニバス
	倫理学	1前	1			○								兼1	
	文学	1前		1		○								兼1	
	歴史と社会	1前		1		○								兼1	
	死生観	2前		1		○								兼1	
	福島県の医療環境	1後	1			○				1				兼10	オムニバス・共同(一部)
	社会福祉学	2前		1		○								兼1	
	人間と教育	1後		1		○								兼1	
	日本国憲法	4後		1		○								兼1	
	国際関係論	3前		1		○								兼1	
ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○								兼1		
小計(15科目)	—	5	10	0	—			0	1	0	0	0	兼22		
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○								兼3	
	英語ⅠB	1後	1			○								兼3	
	英語ⅡA	2前	1			○								兼3	
	英語ⅡB	2後	1			○								兼3	
	英語Ⅲ	4後		1		○								兼2	
	ドイツ語	1後		1		○								兼1	
	フランス語	1後		1		○								兼1	
	中国語	1後		1		○								兼1	
	スペイン語	1後		1		○								兼1	
小計(9科目)	—	4	5	0	—			0	0	0	0	0	兼5		
人体の構造と機能及び心の発達	解剖学概論	1前	1			○								兼11	オムニバス
	機能解剖学	1後	1			○								兼5	オムニバス・共同(一部)
	解剖学実習	1後	1					○						兼1	オムニバス・共同(一部)
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼5	オムニバス
	生理学実習	1後	1					○	1	1		1		兼9	オムニバス・共同(一部)
	病理学総論	2前	1			○								兼1	
	生命倫理学	1後	1			○								兼1	
	人間発達学	2前	1			○			1					兼1	オムニバス

教育課程等の概要

(保健科学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	運動学	1後	2			○									兼3	オムニバス
	基礎生化学	1後	1			○									兼2	オムニバス
	免疫学	2前	1			○									兼1	
	運動学演習	2前		1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
	小計(12科目)	—	12	1	0	—	—	—	2	1	0	1	0	兼19		
	及び疾病と回復過程の成り立ちの促進	医学概論	1前	1			○								兼1	
	放射線医学概論	2後		1		○									兼6	オムニバス
	画像医学	3前	1			○									兼10	オムニバス
	臨床心理学	1後	1			○			1						兼3	オムニバス
	リハビリテーション医学	2前	1			○			1						兼9	オムニバス
	整形外科学	2通	2			○									兼18	オムニバス
	内科学	2前	1			○									兼10	オムニバス
	精神医学	2前	1			○			1							
	脳・神経内科学	2前	1			○			1						兼8	オムニバス
	老年学	2後	1			○			1		1				兼7	オムニバス
	小児科学	2前	1			○			1						兼11	オムニバス
	リハビリテーション栄養学	2後	1			○									兼1	
	がんリハビリテーション学	3前	1			○									兼13	オムニバス
	臨床技術基礎演習	1前	1				○		1			2			兼15	オムニバス・共同(一部)
薬理学	2前	1			○									兼3	オムニバス	
環境と放射線	1後		1		○									兼7	オムニバス	
微生物学総論	1後		1		○									兼1		
小計(17科目)	—	15	3	0	—	—	—	1	0	1	2	0	兼75			
保健医療福祉とリハビリテーション	疫学・公衆衛生学	1後	1			○								兼8	オムニバス	
	危機管理学	2前	1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)	
	リハビリテーション概論	1前	1			○			4					兼3	オムニバス	
	災害リハビリテーション論	3前	1			○								兼8	オムニバス	
	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			1	1	1	2		兼23	オムニバス・共同(一部) ※演習	
	チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1				○		3		1			兼22	オムニバス・共同(一部) ※集中	
	医用工学	1後		2		○								兼2	オムニバス	
	医用工学実験	2前		1				○						兼6	オムニバス・共同(一部)	
小計(8科目)	—	7	3	0	—	—	—	4	1	2	2	0	兼42			
関連科目	研究方法論	3前	1			○					1			兼6	オムニバス	
	医療統計学	2後	1			○								兼1		
	医療統計学演習	3前	1				○							兼1		
	小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	0	1	0	0	兼3		
専門教育科目	基礎作業療法学概論	1前	2			○			3		1					オムニバス
	作業科学と作業療法理論	3前	2			○					1					
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○		1		3				オムニバス・共同(一部)
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○		1		3				オムニバス・共同(一部)
	国際作業療法論	3後	1			○			2						兼5	オムニバス
	作業療法研究法演習	3後	1				○		1	2	2	1				オムニバス・共同(一部)
	卒業研究	4通	4					○	4	2	4	5				
小計(7科目)	—	12	0	0	—	—	—	4	2	4	5	0	兼6			
学療法管理療	作業療法管理学	3前	2			○			1							
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0		

教育課程等の概要																
(保健科学部作業療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	作業療法評価学	基礎作業療法評価学	1後	2			○			1	1				オムニバス	
		身体障害作業療法評価学演習	2前	1				○		1	1	2			オムニバス・共同(一部)	
		精神障害作業療法評価学演習	2前	1				○			1	1			オムニバス・共同(一部)	
		発達障害作業療法評価学演習	2前	1				○		1		1			オムニバス・共同(一部)	
		小計(4科目)	—	5	0	0	—	—	—	1	2	2	4	0	0	
	作業療法治療学	基礎作業療法治療学	1前	1			○				1	1				オムニバス
		身体障害作業療法学	2後	2			○			1	1	1				オムニバス
		身体障害作業療法学演習Ⅰ	2後	1				○		1	1				兼4	オムニバス
		身体障害作業療法学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1	1				オムニバス・共同(一部)
		精神障害作業療法学	2後	1			○			1	1					オムニバス
		精神障害作業療法学演習	3前	1				○			1	1	1			オムニバス・共同(一部)
		老年期障害作業療法学	2後	1			○			1						
		老年期障害作業療法学演習	3前	1				○		1	1					オムニバス・共同(一部)
		発達障害作業療法学	2後	1			○			1						
		発達障害作業療法学演習	3前	1				○		1			1			オムニバス・共同(一部)
		高次脳機能障害作業療法学	2後	1			○			1	1					オムニバス
		高次脳機能障害作業療法学演習	3前	1				○		1	1					
		日常生活活動学	2前	1			○			1						
		日常生活活動学実習	2後	1					○		1	1	1			オムニバス・共同(一部)
		作業療法総合演習	4後	1					○	4		1				オムニバス
		臨床技能実習Ⅰ	2通	1					○				4			オムニバス・共同(一部)
臨床技能実習Ⅱ	3通	1					○	3	2	4	5			オムニバス・共同(一部)		
臨床技能実習Ⅲ	4前	1					○	3	2	4	5			オムニバス・共同(一部)		
認知症・介護予防作業療法論演習	3後		1				○	2	1					兼1	オムニバス	
身体障害作業療法学特論	3後		1				○	1			1			兼4	オムニバス	
作業療法発展領域論	4後		1				○	2		2				兼6	オムニバス	
小計(21科目)	—	19	3	0	—	—	—	4	2	4	5	0	兼13			
地域作業療法学	生活環境整備学演習	3後	1				○			1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)
	地域生活・社会参加支援論	3後	1				○		2						兼4	オムニバス
	地域作業療法学	3前	1				○		1							
	地域作業療法学演習	3後	1					○	1	1					兼6	オムニバス・共同(一部)
	地域作業療法学実習	4後		1				○	1	1	3				共同	
小計(5科目)	—	4	1	0	—	—	—	3	1	1	3	0	兼11			
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1後	2					○	3	2	4	5				
	臨床実習Ⅱ	2通	1					○	3	2	4	5				
	臨床実習Ⅲ	2後	3					○	3	2	4	5				
	臨床実習Ⅳ	3後	8					○	3	2	4	5				
	臨床実習Ⅴ	4前	8					○	3	2	4	5				
小計(5科目)	—	22	0	0	—	—	—	3	2	4	5	0	0			
合計(122科目)			—	116	35	0	—	—	4	2	4	5	0	兼227		

教育課程等の概要														
(保健科学部作業療法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1 教養教育科目（計20単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修3単位、選択必修3単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修1単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計104単位以上） (1) 専門基礎科目（計37単位） 必修37単位 (2) 専門科目（計67単位以上） 必修64単位、選択必修3単位 以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上（専門基礎科目37単位、専門科目67単位以上）、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1 学年の学期区分				2学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				60分				

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部作業療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	心身の発達と人体の構造と機能の発達	解剖学実習	1後	1											兼4	オムニバス・共同（一部）
		小計（1科目）	—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼4	
	シニアの健康と福祉の理念	チーム医療Ⅰ（概論）	1前	2				○						2	兼7	オムニバス・共同（一部）※演習
		小計（1科目）	—	2	0	0	—		0	0	0	2	0	0	兼7	
合計（2科目）			—	3	0	0	—		0	0	0	2	0	0	兼12	
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
1 教養教育科目（計20単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修3単位、選択必修3単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位、選択必修1単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位						1 学年の学期区分			2 学期							
2 専門教育科目（計104単位以上） (1) 専門基礎科目（計37単位） 必修37単位 (2) 専門科目（計67単位以上） 必修64単位、選択必修3単位						1 学期の授業期間			15週							
以上、教養教育科目20単位以上、専門教育科目104単位以上（専門基礎科目37単位、専門科目67単位以上）、合計124単位以上						1 時限の授業時間			60分							
3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）																

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			1						兼9 オムニバス・共同 (一部)
	福島県を知る	1前	1			○									兼10 オムニバス・共同 (一部)
	ライフデザイン	1前	1			○									兼1
	小計 (3科目)	—	3	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼12
自然科学系科目	数学 I	1前	1			○									兼2 共同
	数学 II	1後	1			○									兼2 共同
	応用数学	2前	1			○									兼2 オムニバス・共同 (一部)
	統計学	1前	1			○									兼1
	化学 I	1前	1		1	○									兼1
	化学 II	1後		1		○									兼1
	生物学 I	1前	1			○									兼1
	生物学 II	1後		1		○									兼1
	物理学 I	1前	1			○				1					兼1 オムニバス
	物理学 II	1後	1			○									兼2 オムニバス
自然科学実験	1前	1					○		1					兼4 オムニバス・共同 (一部)	
小計 (11科目)	—	9	2	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼6	
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○									兼3 オムニバス・共同 (一部)
	言語と社会	1前		1		○									兼1
	人間関係論	2後		1		○									兼1
	哲学	3後		1		○									兼1
	心理学	3後		1		○									兼4 オムニバス
	倫理学	1前	1			○									兼1
	文学	1前		1		○									兼1
	歴史と社会	1前		1		○									兼1
	死生観	2前		1		○									兼1
	福島県の医療環境	1後	1			○				1					兼10 オムニバス・共同 (一部)
	社会福祉学	2前		1		○									兼1
	人間と教育	2後		1		○									兼1
	日本国憲法	3後		1		○									兼1
	国際関係論	3前		1		○									兼1
	ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○									兼1
危機管理学	2前	1			○					1				兼8 オムニバス・共同 (一部)	
生命倫理学	1後	1			○									兼1	
小計 (17科目)	—	5	12	0	—	—	—	0	1	1	0	0	0	兼29	
外国語科目	英語 I A	1前	1			○									兼1
	英語 I B	1後	1			○									兼1
	英語 II A	2前	1			○									兼1
	英語 II B	2後	1			○									兼1
	英語 III	4後		1		○									兼2
	ドイツ語	1後		1		○									兼1
	フランス語	1後		1		○									兼1
	中国語	1後		1		○									兼1
	スペイン語	1後		1		○									兼1
小計 (9科目)	—	4	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	
疾病の成り立ち	解剖学概論	1前	1			○									兼11 オムニバス
	生理学 I	1前	1			○									兼5 オムニバス
	医学概論	1前	1			○									兼1
	生理学実習	1後	1					○							兼12 オムニバス・共同 (一部)
	基礎生化学	1後	1			○									兼2 オムニバス
	疫学・公衆衛生学	1後	1			○									兼8 オムニバス
	解剖学実習	1後	1					○							兼4 オムニバス・共同 (一部)
	解剖学各論	1後	1			○									兼12 オムニバス
	病理学総論	2前	1			○									兼1
	薬理学	2前	1			○									兼3 オムニバス

教育課程等の概要																
(保健科学部診療放射線科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	臨床医学概論	2前	1			○				1						
	画像解剖学	2後	2			○				2				オムニバス		
	小計(12科目)	—	13	0	0	—			0	2	0	0	0	兼25		
	並びに医療福祉における理工学的基礎	医用工学	1後	2			○							兼2	オムニバス	
	情報処理	1前	1			○						1	1	兼2	オムニバス・共同(一部)	
	放射線基礎科学	1後	2			○			2	1	1	1		兼2	オムニバス	
	環境と放射線	1後	1			○				1				兼6	オムニバス	
	医用工学実験	2前	1					○	1				1	兼5	オムニバス・共同(一部)	
	放射線基礎科学実験	2前	1					○	1	1	1	1	1	兼2	オムニバス・共同(一部)	
	放射線計測学	2前	2			○				1						
	放射線治療計測学	2後	1			○			1	1					オムニバス	
	放射線計測学実験	3前	1					○	1	1	1	1	1	兼2	オムニバス・共同(一部)	
	小計(9科目)	—	12	0	0	—			3	1	1	2	1	兼14		
	関連科目	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			2	2				兼26	オムニバス・共同(一部) ※演習
	臨床心理学	1後		1			○								兼4	オムニバス
	免疫学	2前		1			○								兼1	
	微生物学総論	2後		1			○								兼1	
	医療統計学	2後	1				○				1				兼1	
	研究方法論	3前	1				○				1				兼6	オムニバス
医療統計学演習	3前	1					○							兼1		
チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1					○		1	2				兼23	集中・オムニバス・共同(一部)	
小計(8科目)	—	6	3	0	—			2	2	0	0	0	兼26			
専門教育科目	診療画像機器工学Ⅰ	1後	2			○			1	1	1	1			オムニバス	
	診療画像機器工学Ⅱ	2後	2			○										
	診療画像機器工学実験	2後	1					○	2	2	1	1			オムニバス	
	診療画像検査技術学Ⅰ	2後	3			○			1		1	1			オムニバス	
	診療画像検査技術学Ⅱ	2後	2			○			1			1			オムニバス	
	診療画像検査技術学実習Ⅰ	3前	1					○	1	1	1	1			オムニバス・共同(一部)	
	診療画像検査技術学Ⅲ	3前	3			○			1	1					兼8	オムニバス
	診療画像検査技術学実習Ⅱ	3後	1					○	1	1	1				兼2	オムニバス・共同(一部)
	先端診療画像検査技術学	4前	1			○			1							
	小計(9科目)	—	16	0	0	—			2	2	1	1	0	兼8		
	核医学機器工学	2後	2			○			1							オムニバス
	核医学検査技術学	3前	2			○			1			1				オムニバス
	核医学検査技術学実験	3前	1					○	3			1				オムニバス・共同(一部)
核医学薬剤学	3後	1			○			1								
核医学動態解析学	4前		1		○			2							オムニバス	
先端核医学検査技術学	4後		1		○			2							オムニバス	
小計(6科目)	—	6	2	0	—			3	0	0	1	0	0			
放射線治療技術学	放射線治療機器工学	2前	2			○			1			1			オムニバス	
	放射線治療技術学	3前	2			○			1	1		1			オムニバス	
	放射線治療機器工学実験	2後	1					○	1	1	1	1			オムニバス・共同(一部)	
	放射線治療計画演習	4前	1					○	1	1		1			オムニバス・共同(一部)	
	放射線腫瘍学	4前	1			○				1						
	先端放射線治療技術学	4後		1		○			1	1		1			オムニバス	
小計(6科目)	—	7	1	0	—			1	2	1	1	0	0			

教育課程等の概要															
(保健科学部診療放射線科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 科 目	医 用 画 像 情 報 学	医療情報学	3前	1			○			1		1			オムニバス・共同(一部)
		医療画像工学	2後	1			○			1					
		医療情報学演習	3後	1					○	1		1			オムニバス・共同(一部)
		医療画像工学演習	3前	1					○	1		1			共同
		画像解析学・演習	4前	1					○	2	1		1	1	オムニバス
		小計(5科目)	—	5	0	0			—	2	1	1	1	1	0
	安 全 放 射 線 管 理 学	放射線関係法規	2前	1				○		1		1			オムニバス
		放射線安全管理学	3前	1				○		1	1	2			オムニバス
		放射線管理学実験	3後	1					○	1	1		1		オムニバス
		放射線災害管理学	3前	1				○		1	2				オムニバス
		小計(4科目)	—	4	0	0			—	1	1	2	1	0	0
	管 理 学 安 全	医療安全管理学	3後	1				○		1	1				オムニバス
		臨床技術基礎演習	1前	1					○	3	2		1		兼12 オムニバス・共同(一部)
		小計(2科目)	—	2	0	0			—	3	3	0	1	0	兼12
	技 術 画 像 診 断 ・ 小 計	画像医学	3前	1				○			1				兼9 オムニバス
		実践臨床画像学	4前	1				○		1					
		実践臨床画像学演習	4前	1					○	1					
		小計(3科目)	—	3	0	0			—	1	1	0	0	0	兼9
	(複 射 線 総 合)	放射線医学概論	2後	1				○		3	2	1			オムニバス
		診療放射線科学概論	1前	1				○		1					
		診療放射線科学特別演習Ⅰ	3後	1					○	5	3	3	3	1	オムニバス・共同(一部)
		診療放射線科学特別演習Ⅱ	4後	1					○	5	3	3	3	1	オムニバス
		小計(4科目)	—	4	0	0			—	5	3	3	3	1	0
臨 床 実 習	診療放射線科学総合実習	1後	1					○	1		1			兼1 オムニバス・共同(一部)	
	臨床技能実習	3後	1					○	3		2	3		オムニバス・共同(一部)	
	診療画像検査技術学臨床実習	4前	6					○	4	2	3	1	1	オムニバス・共同(一部)	
	核医学検査技術学臨床実習	4前	2					○	4			1		オムニバス・共同(一部)	
	放射線治療技術学臨床実習	4前	2					○	3	1		1		オムニバス・共同(一部)	
	小計(5科目)	—	12	0	0			—	5	3	3	3	1	兼1	
卒 業 研 究	卒業研究	4通	4					○	5	3	3	3	1		
	小計(1科目)	—	4	0	0			—	5	3	3	3	1	0	
合計(114科目)			—	115	25	0			5	3	3	3	1	兼152	
学位又は称号		学士(診療放射線科学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1 教養教育科目(計21単位以上) (1)初年次科目 必修3単位 (2)自然科学系科目 必修9単位 (3)人文・社会科学系科目 必修5単位 (4)外国語科目 必修4単位 2 専門教育科目(計94単位以上) (1)専門基礎科目(計31単位以上) 必修31単位 (2)専門科目(計63単位以上) 必修63単位 以上、教養教育科目21単位以上、専門教育科目94単位以上(専門基礎科目31単位以上、専門科目63単位以上)、選択科目9単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位(半期24単位)								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			60分				

教育課程等の概要																
(保健科学部診療放射線科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			1					兼9	オムニバス・共同(一部)	
	福島県を知る	1前	1			○								兼10	オムニバス・共同(一部)	
	ライフデザイン	1前	1			○								兼1		
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			1	0	0	0	0	兼12		
	自然科学系科目	数学Ⅰ	1前	1			○								兼2	共同
		数学Ⅱ	1後	1			○								兼2	共同
		応用数学	2前	1			○								兼2	オムニバス・共同(一部)
		統計学	1前	1			○								兼1	
		化学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		化学Ⅱ	1後	1	1		○								兼1	
		生物学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		生物学Ⅱ	1後	1	1		○								兼1	
		物理学Ⅰ	1前	1			○			1					兼1	オムニバス
		物理学Ⅱ	1後	1			○								兼2	オムニバス
		自然科学実験	1前	1					○		1				兼4	オムニバス・共同(一部)
	小計(11科目)	—	9	2	0	—			0	1	0	0	0	兼6		
	人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同(一部)
		言語と社会	1前	1	1		○								兼1	
		人間関係論	2後	1			○								兼1	
		哲学	3後	1			○								兼1	
		心理学	3後	1			○								兼4	オムニバス
		倫理学	1前	1			○								兼1	
		文学	1前	1	1		○								兼1	
		歴史と社会	1前	1	1		○								兼1	
		死生観	2前	1	1		○								兼1	
		福島県の医療環境	1後	1			○			1					兼10	オムニバス・共同(一部)
		社会福祉学	2前	1			○								兼1	
		人間と教育	2後	1			○								兼1	
		日本国憲法	3後	1			○								兼1	
		国際関係論	3前	1			○								兼1	
	ジェンダー・セクシュアリティ論	3前	1			○								兼1		
	危機管理学	2前	1			○					1			兼8	オムニバス・共同(一部)	
	生命倫理学	1後	1			○								兼1		
小計(17科目)	—	5	12	0	—			0	1	1	0	0	兼29			
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○								兼1		
	英語ⅠB	1後	1			○								兼1		
	英語ⅡA	2前	1			○								兼1		
	英語ⅡB	2後	1			○								兼1		
	英語Ⅲ	4後	1	1		○								兼2		
	ドイツ語	1後	1			○								兼1		
	フランス語	1後	1			○								兼1		
	中国語	1後	1			○								兼1		
	スペイン語	1後	1			○								兼1		
小計(9科目)	—	4	5	0	—			0	0	0	0	0	兼5			
疾病の成り立ちと機能及び	解剖学概論	1前	1			○								兼11	オムニバス	
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼5	オムニバス	
	医学概論	1前	1			○								兼1		
	生理学実習	1後	1					○						兼12	オムニバス・共同(一部)	
	基礎生化学	1後	1			○								兼2	オムニバス	
	疫学・公衆衛生学	1後	1			○								兼8	オムニバス	
	解剖学実習	1後	1					○						兼1	オムニバス・共同(一部)	
解剖学各論	1後	1			○								兼12	オムニバス		

教育課程等の概要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	病理学総論	2前	1			○									兼1	オムニバス	
	薬理学	2前	1			○									兼3		
	臨床医学概論	2前	1			○				1							
	画像解剖学	2後	2			○				2							
	小計(12科目)	—	13	0	0	—			0	2	0	0	0	0	兼25		
	並びに医療福祉における理工学的基礎	医用工学	1後	2			○									兼2	オムニバス
		情報処理	1前	1			○							1	1	兼2	オムニバス・共同(一部)
		放射線基礎科学	1後	2			○			2	1	1	1			兼2	オムニバス
		環境と放射線	1後	1			○				1					兼6	オムニバス
		医用工学実験	2前	1					○	1					1	兼5	オムニバス・共同(一部)
		放射線基礎科学実験	2前	1					○	1	1	1	1	1		兼2	オムニバス・共同(一部)
		放射線計測学	2前	2			○				1						
		放射線治療計測学	2後	1			○			1	1						
		放射線計測学実験	3前	1					○	1	1	1					
		小計(9科目)	—	12	0	0	—			3	1	1	2	1	兼14		
	関連科目	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			2	2					兼26	オムニバス・共同(一部) ※演習
		臨床心理学	1後		1		○									兼4	オムニバス
		免疫学	2前		1		○									兼1	
		微生物学総論	2後		1		○									兼1	
		医療統計学	2後	1			○									兼1	
		研究方法論	3前	1			○				1					兼6	オムニバス
		医療統計学演習	3前	1					○							兼1	集中・オムニバス・共同(一部)
		チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1					○	1	2					兼23	
	小計(8科目)	—	6	3	0	—			2	2	0	0	0	兼26			
	専門教育科目	診療画像技術学	診療画像機器工学Ⅰ	1後	2			○				1	1	1			
診療画像機器工学Ⅱ			2前	2			○			1							
診療画像機器工学実験			2後	1					○	2	2	1	1				オムニバス
診療画像検査技術学Ⅰ			2後	3			○			1		1	1				オムニバス
診療画像検査技術学Ⅱ			2後	2			○			1			1				オムニバス
診療画像検査技術学実習Ⅰ			3前	1					○	1	1	1	1				オムニバス・共同(一部)
診療画像検査技術学Ⅲ			3前	3			○			1	1					兼8	オムニバス
診療画像検査技術学実習Ⅱ			3後	1					○	1	1	1				兼2	オムニバス・共同(一部)
先端診療画像検査技術学			4前	1			○			1							
小計(9科目)		—	16	0	0	—			2	2	1	1	0	兼8			
核医学検査技術学		核医学機器工学	2後	2			○			1							
		核医学検査技術学	3前	2			○			1			1				オムニバス
		核医学検査技術学実験	3前	1					○	3			1				オムニバス・共同(一部)
		核医学薬理学	3後	1			○			1							
		核医学動態解析学	4前		1		○			2							オムニバス
		先端核医学検査技術学	4後		1		○			2							オムニバス
小計(6科目)		—	6	2	0	—			3	0	0	1	0	0			
放射線治療技術学	放射線治療機器工学	2前	2			○			1			1				オムニバス	
	放射線治療技術学	3前	2			○			1	1		1				オムニバス	
	放射線治療機器工学実験	2後	1					○	1			1				オムニバス・共同(一部)	
	放射線治療計画演習	4前	1					○	1	1		1				オムニバス・共同(一部)	
	放射線腫瘍学	4前	1			○				1							
	先端放射線治療技術学	4後		1		○			1	1		1				オムニバス	
小計(6科目)	—	7	1	0	—			1	2	0	1	0	0				

教育課程等の概要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	医用画像情報学	医療情報学	3前	1			○			1		1				オムニバス・共同(一部)
		医療画像工学	2後	1			○			1						
		医療情報学演習	3後	1					○	1		1		1		オムニバス・共同(一部)
		医療画像工学演習	3前	1					○	1		1		1		共同
		画像解析学・演習	4前	1					○	2	1		1	1		オムニバス
		小計(5科目)	—	5	0	0			—	2	1	1	1	0	0	
	放射線安全管理学	放射線関係法規	2前	1			○			1		1				オムニバス
		放射線安全管理学	3前	1			○				1	2				オムニバス
		放射線管理学実験	3後	1					○	1	1		1			オムニバス
		放射線災害管理学	3前	1			○			1	2					オムニバス
		小計(4科目)	—	4	0	0			—	1	1	2	1	0	0	
	医療安全管理学	医療安全管理学	3後	1			○			1	1					オムニバス
		臨床技術基礎演習	1前	1					○	3	2		1			兼12 オムニバス・共同(一部)
		小計(2科目)	—	2	0	0			—	3	3	0	1	0		兼12
	画像診断・技術画像学	画像医学	3前	1			○			1	1					兼9 オムニバス
		実践臨床画像学	4前	1			○			1						
		実践臨床画像学演習	4前	1					○	1						
		小計(3科目)	—	3	0	0			—	1	1	0	0	0		兼9
	(放射線総合)	放射線医学概論	2後	1			○			3	2	1				オムニバス
		診療放射線科学概論	1前	1			○			1						
		診療放射線科学特別演習Ⅰ	3後	1					○	5	3	3	3	1		オムニバス・共同(一部)
		診療放射線科学特別演習Ⅱ	4後	1					○	5	3	3	3	1		オムニバス
		小計(4科目)	—	4	0	0			—	5	3	3	3	1	0	
臨床実習	診療放射線科学総合実習	1後	1					○	1		1				兼1 オムニバス・共同(一部)	
	臨床技能実習	3後	1					○	3		2	3			オムニバス・共同(一部)	
	診療画像検査技術学臨床実習	4前	6					○	4	2	3	1	1		オムニバス・共同(一部)	
	核医学検査技術学臨床実習	4前	2					○	4			1			オムニバス・共同(一部)	
	放射線治療技術学臨床実習	4前	2					○	3	1		1			オムニバス・共同(一部)	
	小計(5科目)	—	12	0	0			—	5	3	3	3	1		兼1	
卒業研究	卒業研究	4通	4					○	5	3	3	3	1			
	小計(1科目)	—	4	0	0			—	5	3	3	3	1	0		
合計(114科目)			—	115	25	0		—	5	3	3	3	1		兼152	

教育課程等の概要														
(保健科学部診療放射線科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（診療放射線科学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1 教養教育科目（計21単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修9単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修5単位 (4) 外国語科目 必修4単位 2 専門教育科目（計94単位以上） (1) 専門基礎科目（計31単位以上） 必修31単位 (2) 専門科目（計63単位以上） 必修63単位 以上、教養教育科目21単位以上、専門教育科目94単位以上（専門基礎科目31単位以上、専門科目63単位以上）、選択科目9単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1学年の学期区分				2学期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				60分				

教育課程等の概要															
(保健科学部診療放射線科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	成機人体の構造と疾病との関係及び治療の基礎	解剖学実習	1後	1											兼4 オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	-	1	0	0	-		0	0	0	0	0	0	兼4
	放射線の科学的基礎並びに保健医療福祉における応用技術	放射線計測学実験	3前	1						1			1		オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	-	1	0	0	-		1	0	0	1	0	0	兼0
	関連科目	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2						1	1				兼7 オムニバス・共同(一部)※演習
		小計(1科目)	-	2	0	0	-		1	1	0	0	0	0	兼7
	専門科目	核医学検査技術学	核医学検査技術学実験	3前	1					3			1		オムニバス・共同(一部)
			小計(1科目)	-	1	0	0	-		3	0	0	1	0	0
		放射線治療機器工学	放射線治療機器工学実験	2後	1					1	1	1	1		オムニバス・共同(一部)
			小計(1科目)	-	1	0	0	-		1	1	1	1	0	0
	合計(5科目)			-	6	0	0	-		4	2	1	2	0	兼11
	学位又は称号		学士(診療放射線科学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1 教養教育科目(計21単位以上) (1)初年次科目 必修3単位 (2)自然科学系科目 必修9単位 (3)人文・社会科学系科目 必修5単位 (4)外国語科目 必修4単位 2 専門教育科目(計94単位以上) (1)専門基礎科目(計31単位以上) 必修31単位 (2)専門科目(計63単位以上) 必修63単位 以上、教養教育科目21単位以上、専門教育科目94単位以上(専門基礎科目31単位以上、専門科目63単位以上)、選択科目9単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位(半期24単位)								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				60分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部臨床検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			3						兼7 オムニバス・共同（一部）	
	福島県を知る	1前	1			○									兼10 オムニバス	
	ライフデザイン	1前	1			○									兼1	
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	兼12	
	自然科学系科目	数学Ⅰ	1前	1			○									兼2 共同
		数学Ⅱ	1後		1		○									兼2 共同
		応用数学	2前		1		○									兼2 オムニバス・共同（一部）
		統計学	1前	1			○									兼1
		情報処理	1前	1			○									兼3 オムニバス・共同（一部）
		化学Ⅰ	1前	1			○									兼1
		化学Ⅱ	1後		1		○									兼1
		生物学Ⅰ	1前	1			○									兼1
		生物学Ⅱ	1後		1		○									兼1
		物理学Ⅰ	1前	1			○									兼2 オムニバス
		物理学Ⅱ	1後		1		○									兼2 オムニバス
自然科学実験		1前	1					○							兼5 オムニバス・共同（一部）	
小計（12科目）	—	7	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8		
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○									兼3 オムニバス・共同（一部）	
	言語と社会	1前		1		○									兼1	
	人間関係論	2後		1		○									兼1	
	哲学	3後		1		○									兼1	
	心理学	1後		1		○									兼4 オムニバス	
	倫理学	1前	1			○									兼1	
	文学	1前		1		○									兼1	
	歴史と社会	1前		1		○									兼1	
	死生観	2前		1		○									兼1	
	福島県の医療環境	1後	1			○						1			兼10 オムニバス・共同（一部）	
	社会福祉学	2前		1		○									兼1	
	人間と教育	2後		1		○									兼1	
	日本国憲法	3後		1		○									兼1	
	国際関係論	3前		1		○									兼1	
ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○									兼1		
小計（15科目）	—	3	12	0	—	—	—	0	0	0	1	0	0	兼22		
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○									兼3	
	英語ⅠB	1後		1		○									兼3	
	英語ⅡA	2前		1		○									兼3	
	英語ⅡB	2後		1		○									兼3	
	英語Ⅲ	4後		1		○									兼2	
	ドイツ語	1後		1		○									兼1	
	フランス語	1後		1		○									兼1	
	中国語	1後		1		○									兼1	
	スペイン語	1後		1		○									兼1	
小計（9科目）	—	4	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5		
人体の構造と機能	解剖学概論	1前	1			○			1						兼10 オムニバス	
	解剖学各論	1後	1			○			2						兼10 オムニバス	
	解剖学演習	1後	1				○								兼3 集中・オムニバス・共同（一部）	
	組織学	1後	1			○			2						兼1 オムニバス	
	組織学実習	1後	1					○	2						兼1 オムニバス	
	生理学Ⅰ	1前	1			○			3						兼2 オムニバス	
	生理学Ⅱ	1後	1			○			3						兼3 オムニバス	
	生理学実習	1後	1					○	1	1		2			兼8 オムニバス・共同（一部）	
基礎生化学	1後	1			○			1						兼1 オムニバス		

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部臨床検査学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	病態生化学	2前	1			○			1						兼4	オムニバス	
	生化学実習	2後	1					○	1		1					共同	
	小計（11科目）	—	11	0	0	—	—	—	4	1	1	2	0		兼20		
	その 医学 検査 の 基礎 と の 関 連	薬理学	2前	1			○									兼3	オムニバス
		医学概論	1前	1			○			1							
		病理学総論	2前	1			○			1							
		免疫学	2前	1			○				1						
		微生物学総論	1後	1			○			1							
		放射線医学概論	2後	1			○									兼6	オムニバス
		臨床技術基礎演習	1前	1				○		2		1	2			兼13	オムニバス、共同（一部）
		画像医学 環境と放射線	3前 1後	 1	 1		 ○									兼10 兼7	オムニバス オムニバス
	小計（9科目）	—	7	2	0	—	—	—	4	1	1	2	0		兼18		
	医学 検査 医療 福祉 と	生命倫理学	1後	1			○									兼1	
		疫学・公衆衛生学	1後	1			○									兼8	オムニバス
		衛生学演習	2前	1				○					3			兼2	オムニバス、共同（一部）
		危機管理学	2前	1			○			1						兼8	オムニバス、共同（一部）
		臨床心理学	1後	1			○									兼4	オムニバス
	小計（5科目）	—	4	1	0	—	—	—	1	0	0	3	0		兼20		
	情報 工学 お よ び	医用工学	1後	2			○									兼2	オムニバス
		医用工学実験	2前	1					○							兼6	オムニバス、共同（一部）
医療統計学		2後	1			○									兼1		
医療統計学演習		3前	1				○								兼1		
小計（4科目）	—	5	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼7			
医 療 チ ーム	チーム医療Ⅰ（概論）	1前	2			○			2	1		2			兼25	オムニバス、共同（一部） ※演習	
	チーム医療Ⅱ（演習）	4前	1				○		2	1	1				兼22	オムニバス、共同（一部） ※集中	
	小計（2科目）	—	3	0	0	—	—	—	3	2	1	2	0		兼25		
方 法 研 究 論	研究方法論	3前	1			○			2						兼5	オムニバス	
	小計（1科目）	—	1	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0		兼5		
専門 教育 科目	形態 検査 学	病理学総論実習	2前	1				○	1	1	1					共同	
		病理学各論	2後	1			○		1						兼1	オムニバス	
		病理検査学	3前	1			○		1	1	1					オムニバス	
		病理検査学実習	3前	1				○	1	1	1					共同	
		細胞検査学	3前	1			○		1	1	1					オムニバス	
		血液検査学Ⅰ	2前	2			○		1			1				オムニバス	
		血液検査学Ⅱ	2前	1			○		1				1				
	血液検査学実習	2後	1				○	1				2			オムニバス、共同（一部）		
小計（8科目）	—	9	0	0	—	—	—	2	1	1	2	0		兼1			
生 物 化 学 分 析 検 査 学	臨床検査総論Ⅰ	2前	2			○			1	2					兼2	オムニバス、共同（一部）	
	臨床検査総論実習	2通	2					○	1	1		5			兼2	オムニバス、共同（一部）	
	分子生物学Ⅰ	2後	2			○			1		1				兼6	オムニバス	
	分子生物学Ⅱ	3後	1			○			1		1				兼3	オムニバス	
	分子生物学実習	3前	1				○		1		1				共同		
	臨床化学検査学	2後	2			○				1							
	臨床化学検査学実習	3前	2				○			1		1					
小計（7科目）	—	12	0	0	—	—	—	2	1	1	2	0		兼11			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部臨床検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	学病 因・生 体防 御検 査	微生物検査学	2前	2			○			1				1		兼1	オムニバス
		微生物検査学実習	2後	2					○	1				1		兼3	オムニバス・共同（一部）
		医動物学	2前	1				○		1						兼1	オムニバス・共同（一部）
		免疫・輸血検査学	3前	3				○			1			1		兼1	オムニバス
		免疫・輸血検査学実習	3後	2					○		1			1		兼1	オムニバス 共同
		小計（5科目）	—	10	0	0	—	—	—	1	1	0	2	0	兼5		
	検 査 生 理 機 能 学	臨床生理検査学Ⅰ	2後	2			○			1				1		兼7	オムニバス
		臨床生理検査学Ⅱ	3前	1			○							1		兼3	オムニバス
		臨床生理検査学Ⅲ	3前	3			○			1				1		兼8	オムニバス
		臨床生理検査学実習	3後	2					○	1				3		兼3	オムニバス・共同（一部）
		小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	1	0	0	3	0	兼19		
	管 理 学 総 合	臨床検査総論Ⅱ	3後	2			○				1	1		4			オムニバス
		放射性同位元素検査技術学	2後	1			○									兼1	
		小計（2科目）	—	3	0	0	—	—	—	0	1	1	4	0	兼1		
	管 理 学 安 全	医療安全管理学	3前	1			○			1	1	1		2		兼5	オムニバス
		医療安全管理学演習	3後	1					○	1				2		兼4	オムニバス・共同（一部）
		小計（2科目）	—	2	0	0	—	—	—	1	1	1	3	0	兼8		
	臨 床 病 態 学	臨床病態学Ⅰ	3前	1			○			1						兼8	オムニバス
		臨床病態学Ⅱ	3前	1			○			2						兼8	オムニバス
		臨床病態学Ⅲ	3前	1			○			1						兼8	オムニバス
		臨床病態学演習	3後	1					○	3							オムニバス
		小計（4科目）	—	4	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	兼24		
	演 習 合	総合演習	4後	4					○	4	3	1		5		兼1	オムニバス・共同（一部）
		小計（1科目）	—	4	0	0	—	—	—	4	3	1	5	0	兼1		
	実 習 床	臨床実習	4前	12					○	4	3	1		5			
		小計（1科目）	—	12	0	0	—	—	—	4	3	1	5	0	0		
	研 究 業	卒業研究	4通	5					○	5	3	2		5			
		小計（1科目）	—	5	0	0	—	—	—	5	3	2	5	0	0		
	（ 選 択 ） 其 他	健康食品学	3後		2		○				1			1			オムニバス
		食品衛生学	3後		1		○				1						
		生殖補助医療技術学	3後		1		○									兼3	オムニバス・共同（一部）
		小計（3科目）	—	0	4	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼3		
	細 胞 検 査 士 コ ー ス （ 選 択 ）	基礎細胞診断学	2通		2		○			1	1	1					オムニバス
基礎細胞診断学実習		2通		3				○		1	1					オムニバス	
応用細胞診断学		3前		1		○			1	1	1					オムニバス	
応用細胞診断学実習		3前		2				○		1	1					オムニバス	
実践細胞診断学		3後		1		○				1	1					オムニバス	
実践細胞診断学実習		3後		2				○		1	1					オムニバス	
臨床細胞診断学		4通		9		○			2	1	1				兼24	オムニバス	
臨床細胞診断学実習		4通		8				○		1	1				兼16	オムニバス	
	小計（8科目）	—	0	28	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼38			
合計（117科目）			—	117	57	0	—	—	5	3	2	5	0	兼248			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(保健科学部臨床検査学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（臨床検査学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
1 教養教育科目(計22単位以上) (1)初年次科目 必修3単位 (2)自然科学系科目 必修7単位、選択必修2単位 (3)人文・社会科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (4)外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計100単位以上） (1)専門基礎科目（計31単位以上） 必修31単位 (2)専門科目（計69単位以上） 必修69単位 以上、教養教育科目22単位、専門教育科目は100単位以上(専門基礎科目31単位以上、専門科目69単位以上)、選択2単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1 学年の学期区分				2学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				60分				

教育課程等の概要															
(保健科学部臨床検査学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次科目	修学基礎セミナー	1前	1			○			3					兼7	オムニバス・共同 (一部)
	福島県を知る	1前	1			○								兼10	オムニバス
	ライフデザイン	1前	1			○								兼1	
	小計 (3科目)	—	3	0	0	—			3	0	0	0	0	兼12	
自然科学系科目	数学Ⅰ	1前	1			○								兼2	共同
	数学Ⅱ	1後		1		○								兼2	共同
	応用数学	2前		1		○								兼2	オムニバス・共同 (一部)
	統計学	1前	1			○								兼1	
	情報処理	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同 (一部)
	化学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	化学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	生物学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	生物学Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	物理学Ⅰ	1前	1			○								兼2	オムニバス
物理学Ⅱ	1後		1		○								兼2	オムニバス	
自然科学実験	1前	1					○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
小計 (12科目)	—	7	5	0	—			0	0	0	0	0	兼8		
人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	1前	1			○								兼3	オムニバス・共同 (一部)
	言語と社会	1前		1		○								兼1	
	人間関係論	2後		1		○								兼1	
	哲学	3後		1		○								兼1	
	心理学	1後		1		○								兼4	オムニバス
	倫理学	1前	1			○								兼1	
	文学	1前		1		○								兼1	
	歴史と社会	1前		1		○								兼1	
	死生観	2前		1		○								兼1	
	福島県の医療環境	1後	1			○						1		兼10	オムニバス・共同 (一部)
	社会福祉学	2前		1		○								兼1	
	人間と教育	2後		1		○								兼1	
	日本国憲法	3後		1		○								兼1	
	国際関係論	3前		1		○								兼1	
ジェンダー・セクシュアリティ論	3前		1		○								兼1		
小計 (15科目)	—	3	12	0	—			0	0	0	1	0	兼22		
外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○								兼3	
	英語ⅠB	1後	1			○								兼3	
	英語ⅡA	2前	1			○								兼3	
	英語ⅡB	2後	1			○								兼3	
	英語Ⅲ	4後		1		○								兼2	
	ドイツ語	1後		1		○								兼1	
	フランス語	1後		1		○								兼1	
	中国語	1後		1		○								兼1	
	スペイン語	1後		1		○								兼1	
小計 (9科目)	—	4	5	0	—			0	0	0	0	0	兼5		
人体の構造と機能	解剖学概論	1前	1			○			1					兼10	オムニバス
	解剖学各論	1後	1			○			2					兼10	オムニバス
	解剖学演習	1後	1				○							兼3	集中・オムニバス・共同 (一部)
	組織学	1後	1			○			2					兼1	オムニバス
	組織学実習	1後	1				○		2					兼1	オムニバス
	生理学Ⅰ	1前	1			○			3					兼2	オムニバス
	生理学Ⅱ	1後	1			○			3					兼3	オムニバス
生理学実習	1後	1				○		1	1		2		兼8	オムニバス・共同 (一部)	

教育課程等の概要																
(保健科学部臨床検査学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	基礎生化学	1後	1			○			1					兼1	オムニバス	
	病態生化学	2前	1			○			1					兼4	オムニバス	
	生化学実習	2後	1					○	1		1				共同	
	小計 (11科目)	—	11	0	0	—	—	—	4	1	1	2	0	兼20		
	その医学検査との基礎と関連	薬理学	2前	1			○								兼3	オムニバス
		医学概論	1前	1			○			1						
		病理学総論	2前	1			○			1						
		免疫学	2前	1			○				1					
		微生物学総論	1後	1			○			1						
		放射線医学概論	2後	1			○								兼6	オムニバス
		臨床技術基礎演習	1前	1				○		2		1	2		兼13	オムニバス、共同(一部)
		画像医学	3前		1		○								兼10	オムニバス
		環境と放射線	1後		1		○								兼7	オムニバス
	小計 (9科目)	—	7	2	0	—	—	—	4	1	1	2	0	兼18		
	医学検査	生命倫理学	1後	1			○								兼1	
		疫学・公衆衛生学	1後	1			○								兼8	オムニバス
		衛生学演習	2前	1				○					3		兼2	オムニバス、共同(一部)
		危機管理学	2前	1			○			1					兼8	オムニバス、共同(一部)
		臨床心理学	1後		1		○								兼4	オムニバス
	小計 (5科目)	—	4	1	0	—	—	—	1	0	0	3	0	兼20		
情報科学および	医用工学	1後	2			○								兼2	オムニバス	
	医用工学実験	2前	1					○						兼6	オムニバス、共同(一部)	
	医療統計学	2後	1			○								兼1		
	医療統計学演習	3前	1				○							兼1		
小計 (4科目)	—	5	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7			
チーム医療	チーム医療Ⅰ(概論)	1前	2			○			2	1		2		兼25	オムニバス、共同(一部) ※演習	
	チーム医療Ⅱ(演習)	4前	1				○		2	1	1			兼22	集中オムニバス、共同(一部)	
	小計 (2科目)	—	3	0	0	—	—	—	3	2	1	2	0	兼25		
方研究論	研究方法論	3前	1			○			2					兼5	オムニバス	
	小計 (1科目)	—	1	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼5		
専門教育科目	形態検査学	病理学総論実習	2前	1					1	1	1				兼1	共同
		病理学各論	2後	1			○			1					兼1	オムニバス
		病理検査学	3前	1			○			1	1	1				オムニバス
		病理検査学実習	3前	1					○	1	1	1				共同
		細胞検査学	3前	1			○			1	1	1				オムニバス
		血液検査学Ⅰ	2前	2			○			1			1			オムニバス
		血液検査学Ⅱ	2前	1			○			1						
		血液検査学実習	2後	1					○	1			2			オムニバス・共同(一部)
	小計 (8科目)	—	9	0	0	—	—	—	2	1	1	2	0	兼1		
	生物化学分析検査学	臨床検査総論Ⅰ	2前	2			○			1	2				兼2	オムニバス・共同(一部)
臨床検査総論実習		2通	2					○	1	1		5		兼2	オムニバス・共同(一部)	
分子生物学Ⅰ		2後	2			○			1		1			兼6	オムニバス	
分子生物学Ⅱ		3後	1			○			1		1			兼3	オムニバス	
分子生物学実習		3前	1					○	1		1				共同	
臨床化学検査学		2後	2			○				1						
臨床化学検査学実習		3前	2					○		1		1				
小計 (7科目)	—	12	0	0	—	—	—	2	1	1	2	0	兼11			

教育課程等の概要

(保健科学部臨床検査学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	生体防御・検査学	微生物検査学	2前	2			○			1				1		兼1	オムニバス
		微生物検査学実習	2後	2					○	1				1		兼3	オムニバス・共同(一部)
		医動物学	2前	1			○			1						兼1	オムニバス・共同(一部)
		免疫・輸血検査学	3前	3			○				1			1		兼1	オムニバス
		免疫・輸血検査学実習	3後	2					○		1			1			共同
		小計(5科目)	—	10	0	0	—	—	—	1	1	0	2	0	兼5		
	検査生理学機能	臨床生理検査学Ⅰ	2後	2			○			1				1		兼7	オムニバス
		臨床生理検査学Ⅱ	3前	1			○							1		兼3	オムニバス
		臨床生理検査学Ⅲ	3前	3			○			1				1		兼8	オムニバス
		臨床生理検査学実習	3後	2					○	1				3		兼3	オムニバス・共同(一部)
	小計(4科目)	—	8	0	0	—	—	—	1	0	0	3	0	兼19			
	管理検査学総合	臨床検査総論Ⅱ	3後	2			○				1	1		4			オムニバス
		放射性同位元素検査技術学	2後	1			○									兼1	
		小計(2科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	1	1	4	0	兼1		
	管理医療安全	医療安全管理学	3前	1			○			1	1	1		2		兼5	オムニバス
		医療安全管理学演習	3後	1					○	1				2		兼4	オムニバス・共同(一部)
		小計(2科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	1	1	3	0	兼8		
	臨床病態学	臨床病態学Ⅰ	3前	1			○			1						兼8	オムニバス
		臨床病態学Ⅱ	3前	1			○			2						兼8	オムニバス
		臨床病態学Ⅲ	3前	1			○			1						兼8	オムニバス
		臨床病態学演習	3後	1					○	3							オムニバス
		小計(4科目)	—	4	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	兼24		
	演習総合	総合演習	4後	4					○	4	3	1		5		兼1	オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	4	3	1	5	0	兼1		
	実臨床	臨床実習	4前	12					○	4	3	1		5			
		小計(1科目)	—	12	0	0	—	—	—	4	3	1	5	0	0		
	研究業	卒業研究	4通	5					○	5	3	2		5			
		小計(1科目)	—	5	0	0	—	—	—	5	3	2	5	0	0		
(選択)	健康食品学	3後		2		○				1			1			オムニバス	
	食品衛生学	3後		1		○				1							
	生殖補助医療技術学	3後		1		○									兼1	オムニバス・共同(一部)	
	小計(3科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼1			
細胞検査士コース(選択)	基礎細胞診断学	2通		2		○			1	1	1					オムニバス	
	基礎細胞診断学実習	2通		3				○		1	1					オムニバス	
	応用細胞診断学	3前		1		○			1	1	1					オムニバス	
	応用細胞診断学実習	3前		2				○		1	1					オムニバス	
	実践細胞診断学	3後		1		○				1	1					オムニバス	
	実践細胞診断学実習	3後		2				○		1	1					オムニバス	
	臨床細胞診断学	4通		9		○			2	1	1				兼24	オムニバス	
	臨床細胞診断学実習	4通		8				○		1	1				兼16	オムニバス	
小計(8科目)	—	0	28	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼38				
合計(117科目)			—	117	57	0	—	—	5	3	2	5	0	兼246			

教育課程等の概要													
（保健科学部臨床検査学科）													
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	
学位又は称号		学士（臨床検査学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）						
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
1 教養教育科目（計22単位以上） (1)初年次科目 必修3単位 (2)自然科学系科目 必修7単位、選択必修2単位 (3)人文・社会科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (4)外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計100単位以上） (1)専門基礎科目（計31単位以上） 必修31単位 (2)専門科目（計69単位以上） 必修69単位 以上、教養教育科目22単位、専門教育科目は100単位以上（専門基礎科目31単位以上、専門科目69単位以上）、選択2単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）						1学年の学期区分			2学期				
						1学期の授業期間			15週				
						1時限の授業時間			60分				

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健科学部臨床検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	機人体の構造と	解剖学演習	1後	1				○							兼3	オムニバス・共同（一部）
		小計（1科目）	—	1	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
	チーム医療	チーム医療Ⅰ（概論）	1前	2				○			0	1		2	兼6	オムニバス・共同（一部）※演習
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	1	0	2	0	兼6	
	（その他）	生殖補助医療技術学	3後		1			○							兼2	オムニバス・共同（一部）
		小計（3科目）	—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
合計（117科目）			—	3	1	0	—			0	1	0	2	0	兼11	
学位又は称号		学士（臨床検査学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
1 教養教育科目（計22単位以上） (1) 初年次科目 必修3単位 (2) 自然科学系科目 必修7単位、選択必修2単位 (3) 人文・社会科学系科目 必修3単位、選択必修2単位 (4) 外国語科目 必修4単位、選択必修1単位 2 専門教育科目（計100単位以上） (1) 専門基礎科目（計31単位以上） 必修31単位 (2) 専門科目（計69単位以上） 必修69単位 以上、教養教育科目22単位、専門教育科目は100単位以上（専門基礎科目31単位以上、専門科目69単位以上）、選択2単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 1年間48単位（半期24単位）							1 学年の学期区分		2学期							
							1 学期の授業期間		15週							
							1 時限の授業時間		60分							

授 業 科 目 の 概 要			
（保健科学部理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>大学入学直後に、正しく学修に取り組み、その成果を実社会で活かす能力を身につけるための基盤をつくとともに、医療を学ぶ上で必要となる心構えを養う。専門医療技術者になるために必要となる修学内容について把握し、医療を通じた社会貢献について学修する。大学生として学修する上で必要な知識やスキルについて学ぶ。最後に、ともに学ぶ学生間でのプレゼンテーション、学生同士や教員とのディスカッションを行い、コミュニケーションの重要性を学ぶとともに4年間の学びのビジョンを明確にする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>① 矢吹省司/1回 「大人の学び」基礎講座（我々は何を学び何をを目指すのか）</p> <p>③ 高橋仁美/1回 社会人になるまでに学ぶこと</p> <p>② 小川一英/1回 医療人として働くために学ぶこと</p> <p>⑱ 五百川和明/1回 コミュニケーションによって医療人は何をどう活かすのか</p> <p>⑩ 亀岡弥生/1回 チームによる課題解決を学ぶ</p> <p>⑲ 豊川真弘/1回 自ら学ぶことの意義</p> <p>⑳ 林博史/1回 医療・医学</p> <p>㉔ 北爪しのぶ/2回 研究・論文、男女共同参画</p> <p>㉑ 久保均/1回 インターネット・リテラシー</p> <p>⑰ 本多創史/1回 生命倫理</p> <p>① 矢吹省司、③ 高橋仁美、② 小川一英、⑱ 五百川和明、⑲ 豊川真弘、⑳ 林博史、㉔ 北爪しのぶ、㉑ 久保均/4回（共同） 修学基礎セミナー学修に関するグループワーク</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	修学基礎セミナー		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>東日本大震災と福島第一原発事故後の福島の現状を学ぶ。福島の歴史、特に日本史上で、福島県が主要な舞台となった出来事（戊辰戦争、奥羽仕置、奥州合戦など）について学ぶ。また、福島県を構成する浜通り・中通り・会津という3つの地域の自然環境や暮らしの特徴について学ぶ。福島県立博物館で実際に歴史や文化に触れる。さらに福島の芸術や食文化について学ぶ。福島の歴史や文化、そして現状を理解し、今後福島県はどのように進んで行く必要があるかを学ぶ時間とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 矢吹省司・134 開沼博/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(134 開沼博/5回) 福島県の現状、3.11までの福島、福島の今後の展望</p> <p>(135 阿部綾子/1回) 福島県の歴史</p> <p>(136 内山大介/1回) はま・なか・あいづの地域性</p> <p>(137 高橋充/2回) 福島県の歴史と文化</p> <p>(138 堀宜雄/1回) 福島県の近代美術概観</p> <p>(139 増淵鏡子/1回) 福島出身の作家や美術</p> <p>(140 橋本恵里/1回) 福島出身作家や美術コレクション</p> <p>(141 平出美穂子/1回) 福島の食文化</p> <p>(142 鈴木賢二/1回) 福島の食文化</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	福島県を知る		
	ライフデザイン	自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の理念である「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する。」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生を充実させるためにできること、手立てをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法をグループで学びあい、集団討議させることで、より確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。	
自然 科学 系 科目	数学 I	現代の科学はすべて数学を基礎として成り立っている。数学は、生物学、経済学、医学、医用工学などへの応用に非常に有力である。大学1年生で学ぶ「微分積分学」と「線形代数学」は数学の概念の中でも最も重要な基礎である。また、これから多くの数学以外の専門科目を学ぶうえで必要となってくる。この授業では、「微分積分学」の中の「1変数の微分」と「線形代数」の中の「行列と1次変換」の概念を理解し、基礎的な計算力を身に付ける。	共同
	数学 II	多くの自然現象を記述する方程式として、微分方程式がある。微分方程式を解くことによって物体の運動の実態などを明らかにすることができる。現象を見てそれを支配する法則を微分方程式モデルに表現することは、それを解くことと同じく重要である。微分積分学は、自然現象や社会の仕組み、工業技術に関することがらを解明するときには必要不可欠である。この授業では「微分積分学」の中の「1変数の積分」と「微分方程式」の中の「常微分方程式」の概念を理解し、簡単なモデルの解法を学習する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	自然 科学 系 科目	応用数学	<p>複数の要因によって生起する自然現象を理解するには「多変数の微積分学」の概念が必要となる。複数の要因の変化が動的に現象に影響を及ぼしているモデルを記述する道具が「偏微分方程式」であり、「偏微分方程式を解析するためのツールが「フーリエ変換」と「ラプラス変換」の理論である。「フーリエ変換」はMRI、X線コンピュータトモグラフィ(CT)、陽電子放射型コンピュータトモグラフィ(PET)などの医用イメージングの理論や医用画像処理など様々な分野で非常に重要な役割を果たしている。この授業では、多変数の微積分学、フーリエ変換、ラプラス変換の基本的な考え方を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊹ 安達隆/5回) (共同) 偏導関数、連鎖律、合成関数の偏導関数の計算、重積分の定義、重積分を用いて立体の体積計算、偏微分の応用、重積分の応用</p> <p>(㊹ 安達隆/10回) ラプラス変換、フーリエ変換</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	統計学	<p>医療における統計学の意義は、大きくわけて3つある。1つは、現状を把握することである。例えば、胃がん死亡数は減ってきているか、この病気はどのようなサブタイプに分かれるか等は、記述統計を使って把握することができる。2つめは、予測することである。例えば、検査が陽性のときの発症確率、薬が効く確率等は、推測統計を使って予測することができる。3つめは、因果関係を示すことである。例えば、たばこを吸うと肺癌になりやすくなる、この薬を使ったら病気が治る確率が高くなる等である。とくに因果関係を示すことは難しく、バイアスを除いて正しくデータを観測し、交絡を除いて原因と結果の関係を正しく評価する必要がある。統計を使って、研究と診療におけるデータの特徴を導き出し、分析する能力を身に付けることが必要である。この授業では、記述統計、推測統計(推定・検定)の基本的な考え方を身に付ける。</p>		
	情報処理	<p>大学で学び、社会に出て行くためにコンピュータやネットワークの理解と活用法の習得は必須である。本科目ではコンピュータとネットワークによる基本的な情報処理の仕組みと活用法を理解するとともに、コンピュータ・リテラシーを高める。また、ソフトウェアの機能、役割、構成などを理解してその活用法を実践的に学ぶとともに、データの扱い方や情報セキュリティの基本、情報倫理・関連法制度を知ること、医療技術者として必要な情報処理に関する基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊹ 安達隆/5回) (共同) コンピューター・ネットワークに関して、情報セキュリティ、情報倫理</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊹ 安達隆、129 田代雅実/10回) (共同) ソフトウェアのインストール、データベースの活用、オフィススイートの活用、科学計算ソフトウェアの活用</p>	オムニバス・共同 (一部)	
	化学 I	<p>専門科目を学ぶ上で必要となる化学全般(主に無機化学、有機化学)の基礎的な知識を身につける。化学は、物質を基本とした学問なので、まず物質を構成する原子の構造、原子間の結合、物質の量的取り扱いについての基本的な事項を学習する。その後、個々の元素(非金属元素、金属元素)の性質について学び、無機化合物に関する理解を深める。また、酸と塩基、酸化と還元の本質について理解する。そして、生体を理解する上で重要な有機化学については、官能基の特徴に基づいて個々の化合物の性質を学ぶと共に、それらの反応を理解する上で基盤となる知識を身につける。</p>		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	自然 科学 系 科目	化学Ⅱ	化学Ⅰで学んだ知識を基盤として、専門科目を学ぶ上で必要となる物理化学、分析化学の基礎的な知識を身につける。まず、反応速度と化学平衡の概念を理解し、溶液の性質について学ぶ。その後、化合物を分析する上で重要となるデータ処理の手法について学んだ上で、基礎的な検出、定量法について、滴定を中心に学習する。そして、分子分光分析法、原子分光分析法、質量分析法、核磁気共鳴分光法について、その原理を理解する。また、混合物の分離分析に利用されるクロマトグラフィーおよび電気泳動の原理について学ぶ。
	生物学Ⅰ	医療を志す者にとって、基本的な生物学の知識は最も重要な素養の一つである。本講義では、生物学の発展に寄与した重要な発見の歴史に触れることで先人たちの努力によって蓄えられてきた知識の重みを感じながら、すべての生物に共通な特徴（細胞、組織、エネルギー代謝、呼吸、情報伝達、遺伝）について系統的に学習し、生物の有する普遍性と特殊性について理解する。最後に生物の多様性と進化をもたらさしめる生物の可塑性を考察することで、生物のダイナミズムに触れる。	
	生物学Ⅱ	本講義では、個体を構成している細胞の構造と機能について、細胞生物学・分子遺伝学・分子生物学の面から基本的原理を学ぶことで、生物の持つシステムティックな機構について理解する。また、最新の生物学的知見や技術を紹介し医療との関連についても学ぶことで、生物学の基礎的な発見がどのように医療へと応用されていくのかを学ぶ。最後に、分子レベル、細胞レベルにおける人体の防御機構（放射線に対する防御機構も含む）を学ぶことで、生物がどのように外部からのストレスに応答し、守っているのかを理解する。	
	物理学Ⅰ	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、物質が関与する現象は物理学の原理にしたがっていることが考えられる。また、医療の現場では多くの医療機器に満ちており、これらの医療機器は物理学の原理にしたがって作動している。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では力と運動、電磁気、原子と原子核に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、力と運動では、力のつり合い、質点の運動、質点系と剛体の力学、相対性理論について学ぶ。電磁気では、静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導と交流、電磁波について学ぶ。最後に、原子と原子核では、電子、原子、原子核、放射線について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(84 反町篤行/10回) 物理学の基本的な考え方、力と運動、原子と原子核</p> <p>(88 五月女康作/5回) 電磁気</p>	オムニバス方式
	物理学Ⅱ	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に関して物質が関与する現象、医療の現場では使用されている医療機器は物理学の原理にしたがっている。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では物理学Ⅰで習得した物理学の知識を基盤として、弾性体と流体、振動と波動、温度と熱に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、弾性体と流体では、固体の変形、静止している流体、運動している流体について学ぶ。振動と波動では、振動、波動、音波、光学、について学ぶ。最後に、温度と熱では、熱現象、熱力学、分子運動論、熱力学の応用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(84 反町篤行/8回) 弾性体と流体、温度と熱</p> <p>(114 大森康孝/7回) 振動と波動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	自然科学 系 科目	<p>自然科学（物理学、化学、生物学）に関する実験を通して、各科目への理解を深めることを目的とする。各分野においていくつかのテーマに関連した実験を行い、得られたデータの解析・分析の仕方、実験レポートの書き方などを身につける。</p> <p>物理学実験では、単振り子、プランク定数、放射線計測に関する実験を行い、基本的な実験機器の扱い方を身につけるとともに、物理学の基本法則や考え方を確認、理解する。</p> <p>化学実験では、中和滴定、メチルオレンジの合成、アスピリンの合成を行い、基本的な薬品および実験器具の扱い方を身につけるとともに、化学反応に対する知識を深める。</p> <p>生物学実験では、タンパク質の呈色反応、染色体標本の作成と観察、マウスの解剖と観察を行い、基本的な生物実験の実験器具の扱い方、顕微鏡を用いたサンプルの観察方法、解剖手法の基本を身につけ、生物資料の性質、形態、構造などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(84 反町篤行、49 佐々木道子、83 有吉健太郎/3回) (共同) ガイダンス、実験の説明、レポートの作成方法の指導</p> <p>(84 反町篤行/3回) 物理学実験(単振り子)</p> <p>(114 大森康孝/3回) 物理学実験(放射線計測)</p> <p>(88 五月女康作/3回) 物理学実験(プランク定数)</p> <p>(49 佐々木道子/9回) 化学実験</p> <p>(83 有吉健太郎/9回) 生物学実験</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	人文・ 社会 科学 系 科目	<p>将来の医療専門職としての活動を見据え、相手の立場を理解し、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルを学ぶ。具体的には、心理学、行動科学的エビデンスに基づいて、1) 情報の受け取り方の個人差への理解を深め、2) コミュニケーションの土台となる非言語的スキルや傾聴・共感のためのスキル、3) 情報を他者に適切に伝えるスキル、4) 患者主体の意思決定を支えるスキル、5) 他者の行動変容を支えるスキルを学び、患者の行動選択における医療従事者の役割を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(115 竹林由武/2回) コミュニケーションスキル、人間の情報処理過程とバイアス、リスク認知</p> <p>(115 竹林由武、125 青木俊太郎、229 松本貴智/8回) (共同) 非言語コミュニケーション、傾聴・共感のスキル、</p> <p>(125 青木俊太郎、115 竹林由武/5回) (共同) 医学情報を伝えるスキル、共同的意思決定、行動変容を支えるコミュニケーションスキル</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	言語と社会	<p>この授業は社会言語学の入門クラスで、言語と社会の関わりについて様々なテーマを扱う。言語が個人間、コミュニティー、社会での情報発信にどのような役割を果たしているのかを世代別、性別、異文化交流、マンガアニメの言語などを通じて学ぶ。また、各回で扱う言語のテーマが私たちがどう関わっているのかを知ること、将来医療現場や実生活で円滑なコミュニケーションを図り、他者をより理解するための言語スキルと知識を身につける。さらに、言語にまつわる体験談や疑問も共有し、クラス全体で共に考えていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	人間関係論	
	人間関係論	主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究する。 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相關的に考察できるようになることを目指し、1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。以上の力を培っていただけるように、講義やワークショップを展開する。	
	哲学	人間は人間であるかぎり、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことである。この授業では、そうした「とことん考え抜く」営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになる端緒を提供する。「知らないということを知っていること（無知の知）こそ最上の知である」とするソクラテスの洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついていると思うからである。西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指す。	
	心理学	心理学は、「こころ」やそれに関連する非常に幅広い事象について考えてきた学問である。例えば、知覚、記憶、認知、学習、感情、性格、動機づけ、発達（新生児期～老年期まで）、対人行動、集団（集団内、集団間）、組織、文化、健康、心理的支援など、非常に幅広い領域が心理学の研究対象となっている。この授業では、心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」とそれに関連する事象の特徴や仕組みについて、心理学の視点からどのように理解するかについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (47 三澤文紀/5回) 知覚、性格・知能、動機づけ、ストレスの心理、ストレスと臨床心理 (123 井口善生/3回) 脳と心 (143 藤岡理恵子/2回) 発達 (199 小林智之/5回) 社会心理	オムニバス方式
倫理学	本講義では、倫理的な判断を下す際に、合理的に思考するとはどのようなことなのかを学ぶ。はじめに、基礎的な概念や方法について学び、その後、複数の事例を学生とともに検討することを通じて合理的に考える実践的なトレーニングをおこなう。具体的には、まず、カントの義務論とミルやベンサムなどの功利主義との違いについて学び、それらと対比する形で徳倫理学についても学ぶ。さらに権利論について紹介する。これらによって基礎概念を身につけたあと、法と道徳との関係、正の理論と善の理論との関係について具体的な事例を基に学ぶ。また近年のリベラリズムの思潮について紹介する。最後に、医療資源配分の問題についてグループワークをおこない、学生が主体的に考え発表する機会を設ける。		
文学	日本の近代（明治、大正時代）から現代（昭和時代）にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を読むことによって、歴史的・文化的な背景をも学び、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力を養う。また、講義のなかでは、何回かは文学と命、病気、介護の在り方、公害の問題など、医療との接点の問題も扱う。		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	歴史と社会	
	歴史と社会	<p>この講義は、思想史の観点から維新前後の歴史を学び、概説からほうがい知ることのできない歴史像を提供する。医療系の学部学生向けであるから、知識の習得よりも、当時の人々の思索の跡を辿って先人とともに考えることを優先し、学生の自ら考える力を育成する。</p> <p>維新前後の人口数と現代のGDPの比較から、過去も現在も、他国から日本は大国に見えていた／いる事実を確認し、維新前後の問題を考えることは今の問題を考えることにつながると示唆する。徳川社会と朱子学との間にあった懸隔を知り、当時の人々が何に苦悩したのかを想像し、他者の身になってモノを考える力を養成する。伊藤仁斎とT. Hobbesの思想を比較し、その相違を説明できる力を育成する。荻生徂徠や本居宣長の思想を取り上げ、「御武威」から「皇威」へと権威が移動していく様を跡づける。最後に福沢諭吉や中江兆民の思想、アジア主義などを取り上げ、他国との関係構築について思索を深める。</p>	
	死生観	<p>死生観とは、生と死に関する考察である。この授業では、古今東西の宗教（仏教・儒教・神道・キリスト教・イスラム教など）が人間の生や死にどのように向き合ってきたかをふりかえり、そのさまざまな考察について、現代に生きる私たちの参考となるような形で提示する。</p> <p>死と生についていろいろな資料を読み、受講者同士も意見を交わしながら多角的視点でこの問題について考える。そして、自分なりに積極的に死生観について考える姿勢を養うことにより、生と死に向き合う医療職の営みにも参考になる授業を目指す。</p>	
	福島県の医療環境	<p>福島県は総面積が広く、7地域（相双・いわき・県北・県中・県南・会津・南会津）に分かれており、地域別の特色がある。南会津地域は高齢化が顕著であり、相双地域は東日本大震災に伴う原発事故後に避難指示区域の状況が長期間続いたことにより、医療インフラが不十分である。この科目では、東日本大震災とはどのような震災だったのかとその影響について学ぶ。さらに各地域での医療環境の特徴について理解する。これらをもとに福島県で専門医療技術者が今後、どのようなことを担っていかれるのかをグループワークによって議論し、発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(35 葛西龍樹/1回) 総論及び地域医療・へき地医療</p> <p>(38 長谷川有史/1回) 災害時・後の医療への影響</p> <p>(20 大平哲也/1回) 福島県の疾病罹患動向</p> <p>(152 佐竹秀一/1回) 南会津過疎医療の現状</p> <p>(153 小野田修一/1回) 災害後の医療の現状</p> <p>(① 矢吹省司、15 佐藤聡見、85 澄川幸志、87 佐藤久志、131 三浦里織/10回) (共同) 災害関連機関への見学実習、見学実習に関するグループワーク (※ 12 岡崎可奈子は令和4年度まで担当する) (※ 15 佐藤聡見は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
社会福祉学	社会福祉学	<p>社会福祉を学ぶためには、人間や社会への深い認識や、広い視野を有すると同時に、社会福祉についての体系的・総合的な学びが求められる。さらには理論的な学びとともに、できるだけ人々の生活の現実や実態に触れることが大切である。</p> <p>本講義では、社会福祉実践は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題にあることから、社会福祉の基本である、国民の生活と健康を保障するための支援についての原理・原則・体制などの原論と様々な福祉制度・システムと医療連携について、特に近年メインストリームとなっている地域福祉的視点からの総理解をめざす。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	人間と教育	医療現場において患者および家族教育や支援は治療上重要な事項である。また職場における新人や臨床実習学生への教育など、教育学に関する知識は医療専門職にとって必須である。本科目では、医療専門職に必要な教育学の原理について教授する。 内容としては、教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向などにも触れる。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。
	日本国憲法	当該授業では、日本国憲法の基礎知識及び判例につき講義していく。前半では基本的人権に関し、享有主体性及各人権の内容を理解し、具体的事案や判例を検討する。後半では、日本の統治機構に関し、条文を引用しながら講義を行う。日本国憲法の基礎知識を身につけるだけでなく、事例や判例の検討を通じて、未知の法律問題に直面した場合に合理的な結論を導き出せる法的思考力を養うことも目標とする。授業形態は講義形式であるが、学生同士での議論の機会も設け、学生が自ら考え、結論を導き出すプロセスも重視していく。	
	国際関係論	本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視点と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル（global+local）」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダークツーリズム」などのテーマを取り上げる。	
	ジェンダー・セクシュアリティ論	ジェンダー／セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄（性別、性差、性欲、性行為など）について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー／セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー／セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。	
外国 語科 目	英語ⅠA	英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、個々の場面において英語で効果的なコミュニケーションを図るための基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills(speaking & writing)の向上を図る。また、話し相手や状況にふさわしいボイトネスと英語表現を選択し、円滑なコミュニケーションをとれる力を養う。	
	英語ⅠB	英語ⅠAに引き続き、英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、ディスカッションスキルやジャンルを考慮したライティングスキルの基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills(speaking and writing)の向上を図る。また、グループワークでは、参考資料を正しく選択し、著作権等を遵守することを学ぶ。	
	英語ⅡA	医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking & writing)の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	外国 語 科 目	英語ⅡB	英語ⅡAに引き続き、医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、円滑なコミュニケーションに使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。
	英語Ⅲ	医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体(箇条書き等)を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。	
	ドイツ語	グローバル化している世界の中で、私たちがまずしなければならないことは世界がどのように動いているかを知ることである。この授業では、この視点に立って、明治時代以降、医学、哲学、法学、教育等多方面で日本と関係を持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語を公用語とする国々について学習する。 なお授業の基本となるドイツ語の学習においては、ドイツ語でコミュニケーションを行うのに必要な「聞き、話し、読み、書く」能力の習得をめざすが、限られた授業時間数も考慮し、得意基本的なことがらをゆっくりといねいに学習する。	
	フランス語	この授業は会話中心である。フランス語はどのような言葉か、フランスやカナダがどのような国かを学習することが第一目標である。単語の勉強が多いですが、文法は軽い。その他、フランス人の食文化やバカンスの取り方と楽しみ方などのトピックディスカッションもある。初めてフランス語を学習するために、直ぐに使えるフランス語を覚える上で「楽しい」、「面白い」という授業をする。	
	中国語	中国語の発音、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを活用して、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を培う。具体的な学習目標として、以下の5点の修得をめざす。(1) ピンイン(拼音：中国語で音節を音素文字に分け、ラテン文字化して表記する発音表記体系)を付した語彙や短文の正確な発音、(2) 基礎的な語彙や短文を正確に聞き取り簡体字とピンインで書き取ること、(3) 平易な日常会話、(4) 平易な作文、(5) 中国の文化、社会に対する初歩的な理解及び、中国への知的関心を持つとするとする態度を身につけること。	
	スペイン語	この授業では、ビデオ教材、ゲーム、音楽、映画、美術を使用した様々な教室活動を通してスペイン語の基礎を学ぶ。自己紹介の仕方、人と知り合う表現(名前、出身地、年齢、家族、大学、趣味等を聞いたり話したりする)、文法項目としては主語とser動詞、場所を表すestar動詞、「持つ」tener動詞を中心に学ぶ。学生達の興味と生活に密着したビデオ教材を使用し、文法、聞き取りとコミュニケーションの練習を行う。更に、スペイン語圏の国々の文化について内容を紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	解剖学概論	<p>解剖学概論は専門医療技術者の基盤となる正常な人体の基本的な構造を学び、疾病を理解するための基礎を修得する。具体的には発生、骨格、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、平衡機能系、脳、細胞についての構造や働き、その関係性を理解する。また、さまざまな疾病になることで起こる身体の変化や病態についても解剖的視点から学び、理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 八木沼洋行/3回) 疾病を理解するための基礎的な人体の構造、発生、脳の解剖</p> <p>(15 和栗聡/2回) 疾病を理解するための基礎的な組織の構造と機能</p> <p>(32 山田仁/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨盤、四肢の骨と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(70 二階堂琢也/1回) 疾病を理解するための基礎的な頭部・顔面骨、脊柱、胸郭と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(45 大谷晃司/1回) 疾病を理解するための基礎的な筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(22 風間順一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨の構造と成長、骨のリモデリング</p> <p>(177 西山慶治/2回) 疾病を理解するための基礎的な視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器、内分泌系の解剖</p> <p>(29 鈴木弘行/1回) 疾病を理解するための基礎的な呼吸器の解剖</p> <p>(64 義久精臣/1回) 疾病を理解するための基礎的な心臓、脈管系の解剖</p> <p>(28 丸橋繁/1回) 疾病を理解するための基礎的な消化器系の解剖</p> <p>(44 太田昌一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な泌尿器系、生殖器系の解剖</p>	オムニバス方式
			機能解剖学	<p>理学療法士に特に必要性の高い四肢や体幹の筋骨格、関節、神経について集中的に理解を深める。また、全身の骨格筋、関節、臓器が有する機能も同様に理解を深める。さらに、体表解剖において筋や関節の触診技術を向上することで、専門科目における評価学や治療学の基盤を構築していく。断層解剖において人の身体の構造を3次元的に理解し、考えることができるように知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 風間順一郎/1回) 理学療法士に特に必要性の高い、骨学や関節</p> <p>(13 小俣純一/2回) 理学療法士に特に必要性の高い、骨学や関節</p> <p>(3 高橋仁美/3回) 理学療法士に特に必要性の高い四肢や体幹の筋骨格</p> <p>(7 阿部浩明/3回) 理学療法士に特に必要性の高い神経</p> <p>(1 矢吹省司、3 高橋仁美、13 小俣純一/6回) (共同) 理学療法士に特に必要性の高い体表解剖や断層解剖</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	解剖学実習	<p>解剖学実習は解剖学概論および機能解剖学において修得した基礎を、御遺体の肉眼解剖実習をすることにより、筋骨格、臓器に関する知識の理解をより深める。特に筋骨格、関節、神経、臓器、脳の肉眼的構造を集中的に行う。また、解剖実習を通して、人の身体の構造等を理解するだけではなく、献体という志の高い偉業について考えて、御遺体に対する礼儀や感謝を含めて人としての涵養を高める。授業は、小グループに分かれて肉眼解剖の実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(13 小俣純一/10回) 解剖実習を円滑で効率よく実施するために必要な基礎的な知識、方法</p> <p>(14 八木沼洋行、13 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管・臓器・脳</p> <p>(14 八木沼洋行、1 矢吹省司、13 小俣純一/1回) (共同) 臓器・脳</p> <p>(14 八木沼洋行、15 和栗聡、13 小俣純一/3回) (共同) お別れ式、清浄、片付け</p> <p>(14 八木沼洋行、15 和栗聡、1 矢吹省司、13 小俣純一/3回) (共同) 執刀式、筋・関節・神経・脈管</p> <p>(1 矢吹省司、13 小俣純一/4回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p> <p>(15 和栗聡、1 矢吹省司、13 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			生理学 I	<p>生理学は身体とそれを構成している細胞や組織、器官や臓器についての正常な機能に関して学ぶものであり、医療技術者にとって必修の学問である。生命維持に欠かせない呼吸と循環、消化と排泄、そしてそれらを調節する自律神経や内分泌機能について学ぶ。また、細胞機能の基礎、活動電位やイオンチャネル、骨格筋の収縮、自律神経と運動神経、中枢神経、感覚、血液、代謝、生殖、恒常性のメカニズムについて学ぶ。生命現象がどのように営まれているのか、生体の働きについてのメカニズムを理解し医療技術者として必要な基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(64 義久精臣/9回) 細胞の構造と機能、循環器系の構成、心臓、呼吸器系、肺、消化と吸収、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節</p> <p>(22 小川一英/1回) 血液の組成と機能</p> <p>(61 宇月美和/1回) 免疫</p> <p>(14 八木沼洋行/1回) 生殖</p> <p>(18 永福智志/3回) 神経、感覚、運動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構造 と 機能 及 び 心身 の 発達	生理学実習	<p>生理学 I により修得した人体生理学についての知識を基盤としさらに実習として体験型に発展させたものである。生理学は生体の複雑な統合機能を解明する学問である。中でも身近に感じることができる生体に生じる現象を体験し、また観察した結果をもとに、そのメカニズムについて自ら考察し、生理学の理解を深めることを目的とする。人体を対象とした筋の収縮や運動の仕組み、循環器や呼吸器などの生体の機能について観察できる実習を行う。また同時に、実験器具や装置の正しい使用方法や安全管理についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(64 義久精臣/3回) 生理学実習概要の説明、レポート作成方法の指導、生理機能について実習の統括</p> <p>(131 三浦里織、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 血球観察</p> <p>(90 鈴木英明、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 腎機能測定</p> <p>(㊹ 林博史、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 正しい血圧測定</p> <p>(64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 心臓の観察</p> <p>(㊸ 横塚美恵子、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 呼吸機能</p> <p>(12 岡崎可奈子、㊺ 小俣純一、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 骨格筋と腱の観察</p> <p>(㊻ 柴喜崇、㊼ 楠本泰士、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 末梢神経伝導速度</p> <p>(85 澄川幸志、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 視覚と皮膚感覚</p> <p>(128 木村夏実、64 義久精臣、130 堀越裕子/3回) (共同) 記憶と認知機能</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			病理学総論	<p>病理学は疾病の原因・本質を解明する学問であり、疾病を理解する上で基礎となる科目である。疾病に関する医療用語の意味と定義、疾病を起こす原因、疾病に伴う人体の機能のおよび形態的变化を科学的に理解し、説明できるレベルの知識を身につける。また疾病による組織の形態的变化を理解するとともに、各種疾病の本態を理解するには解剖、生理、生化、細菌等の基礎的知識が必要であり、これらの内容を総合的に組み合わせることによって疾病の背景を理解することができる。</p>	
			基礎生化学	<p>生化学は医学分野における様々な専門科目の基礎的な土台となり、生命現象を理解するためには必須の学問である。ここでは生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどの分子構造や化学的性質について学ぶと共に、これらの分子が体内でどのように生合成され、代謝されていくのか、そして遺伝情報物質として機能するための分子基盤について学ぶ。そして、細胞および生体レベルで恒常的機能を維持するために、これらの分子がどのような役割を果たしているのか理解した上で、その破綻がさまざまな疾患の発症と進行に果たす役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊽ 北爪しのぶ/14回) タンパク質、酵素、生体高分子、生体膜、複合糖質の構造、生合成と機能的役割、遺伝子発現の制御、情報伝達の生化学</p> <p>(160 山口芳樹/1回) 構造の生化学</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	生命倫理学	この講義では、身体と生命に関する倫理的な諸問題について学ぶ。20世紀後半以降、生命技術は著しく進展した。その歴史を知ると同時に、技術の進展が人間と社会にどのような問題を投げかけて来たのかを知る。さらに、技術と人間・社会との間に生じる倫理的諸問題について、どのように考えることが合理的であるのか、あるいはそうではないのか、を学ぶ。これらのことを通じて、生命技術と向き合うための基本的な姿勢を身につける。具体的には、まず、医療倫理の歴史や患者の自己決定権について学ぶ。また人工妊娠中絶・出生前診断とその倫理的問題、重症心身障害児の生命の質という問題を考える。さらに、移植医療の実際とその倫理的問題、高齢者の看取りとそこに関わる問題について学ぶ。最後に、検査結果が個人情報そのものと言えるのはなぜか、その保護が要求されるのはなぜかを学ぶ。	
			人間発達学	人は生涯にわたり発達する。人にはライフステージに応じた発達学的課題がある。人の健康を支援する医療専門職において、人間発達を学ぶことは対象者を理解する上で不可欠である。発達とは、体の成長などの生物学的な側面だけでなく、社会性やパーソナリティなど様々な視点で理解する必要がある。本科目では、各発達段階における発達の特徴について、姿勢反射や反応、感覚・知覚・認知及び社会性の視点から学び、発達と遊びとの関係についても理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (53 倉澤茂樹/11回) 人間発達とは、発達理論、上肢機能の発達、感覚の発達、認知の発達、社会性の発達、日常生活動作の発達、発達と遊び、人間発達と発達障害(脳性麻痺、注意欠陥多動性障害、学習障害、発達性協調運動障害、自閉症スペクトラム症) (8 楠本泰士/4回) 原始反射、姿勢反射・反応とは、発達(0ヶ月～8ヶ月まで、9ヶ月～6歳まで)、運動発達(寝返りから歩行まで)	オムニバス方式
			運動学	運動学は解剖学、生理学を基礎として人間の身体動作のメカニズムを探究する学問であり、理学療法学の基礎科学として重要である。具体的には人体の各関節の構造と機能、および筋の構造と機能、神経支配などを理解する。また、姿勢分析や動作分析を行うために必要な、専門用語を用いた表現方法や生体力学の基礎を学ぶ。健常者の歩行の運動学的特徴を理解するとともに、基本的な動作観察・分析の方法を理解する。 (オムニバス方式/全30回) (2 神先秀人/12回) 総論および歩行、動作分析 (10 遠藤康裕/10回) 上肢、体幹の運動学 (9 中野渡達哉/8回) 下肢の運動学	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	<p>運動学で学んだ知識を利用して姿勢や動作の具体的な観察・分析方法、および機器を用いた定量的な運動機能や動作の評価方法を学ぶ。臨床で理学療法の対象となる疾患を想定した課題をグループで演習する。具体的には、観察や種々の機器を用いた形態・関節運動、姿勢、筋力、バランス機能の評価、歩行の速度因子の測定、ビデオを用いた動作分析の評価、筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な評価などを行い、結果を考察することで理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(② 神先秀人/4回) 授業概要・実習課題の説明、下肢の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(⑨ 中野渡達哉/3回) 上肢の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/3回) 体幹の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(② 神先秀人、⑨ 中野渡達哉、⑩ 遠藤康裕/20回) (共同) 重心・姿勢評価・静止バランス、筋力、筋活動、歩行速度、ビデオを用いた分析、動作解析装置を用いた分析</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)	
			免疫学	<p>臨床で活躍する医療人として必要な生体防御機構について学習する。生体は常に細菌やウイルスなどの外敵から身を守る必要がある。この外敵から身を守るために、白血球を中心とする様々な細胞は相互に助成し合いコミュニケーションを取りながらチームプレイで作業している。この生命維持に重要な生体防御反応のメカニズムに関与する胸腺などの免疫を担当する免疫器官、白血球を中心とした免疫担当細胞、体液内の免疫を担う蛋白成分である抗体や補体、それらを活性化あるいは制御する際に分泌されるサイトカインについて、その特徴や機能について学ぶ。</p>	
			微生物学総論	<p>感染症はすべての医療従事者に関連する重要な疾患である。感染症を根絶することは不可能であるが、早期治療による症状軽減や流行を拡大させないよう予防することは可能である。そのためには「病原体」を知り、「病原体と宿主との関係」を理解することが不可欠である。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の種類と特徴およびこれら微生物に対する宿主の感染防御機構について学ぶとともに、各臓器に特徴的な感染症、免疫低下患者に見られる日和見感染症、院内感染症、薬剤耐性菌感染症、人畜共通感染症などについて学ぶ。さらに、感染症診断に必要な微生物検査の種類と利用法、ならびに院内感染対策上重要な感染症を中心にそれぞれの感染対策法についても学ぶ。</p>	
			医用工学	<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本講義では、そのために必要な電気・電子工学に関する基礎知識を習得する。具体的には、電界と磁界などに関する電磁気学の基礎、オームの法則、直交流回路や共振回路、過渡現象などに関する電気工学の基礎、半導体と増幅回路などに関する電子工学の基礎、電気電子計測の基礎を学習する。また、センサ・トランスデューサなどの生体情報の収集、医用機器の安全対策を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑳ 西山篤/14回) 医用工学概要、電界、磁界、直流・交流回路、変圧・整流</p> <p>(㉑ 田中明/16回) 半導体、アナログ・デジタル回路、AD・DA変換、生体情報の収集、電気安全対策</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	医用工学実験	<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本実験では、医用工学の講義で学んだ電気・電子工学に関する基礎知識を、実験を行うことで体得する。具体的には、電子回路基礎実験、アナログ回路実験、半導体回路実験、デジタル技術実験、パルス回路実験、AD/DA変換実験を行う。また、センサー付き二足歩行ロボットの製作とプログラミングを行うことで、センサーの働きを体感すると共にその応用法を実践する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(22 山口克彦／3回) 電子回路基礎実験</p> <p>(29 西山篤／3回) アナログ回路実験</p> <p>(30 田中明／3回) 半導体回路実験</p> <p>(31 山田昭博／3回) デジタル技術実験</p> <p>(33 鈴木健司／3回) パルス回路実験</p> <p>(21 久保均／3回) AD/DA変換実験</p> <p>(21 久保均、22 山口克彦、29 西山篤、30 田中明、31 山田昭博、33 鈴木健司／12回) (共同) ロボット組み立て、コントロール法の習得</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			環境と放射線	<p>我々が自然界あるいは現代社会で生活していく際に、様々な種類の「放射線」に遭遇する。生活環境中にある放射線を環境放射線といい、自然界にもともと存在している放射線である自然放射線と、人間が作り出した核実験や原子力事故などで放出された放射性物質による人工放射線に分類される。それらのほとんどは、我々にとって利益にもなり有害にもなり得る。そこで、本科目では放射線に関する基本的な内容を理解したうえで、自然界や現代社会での放射線の存在やその動態について学ぶと共に、それらが人体や人類に与える影響について学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(89 福田篤志／5回) 環境放射線に関する基礎知識、測定方法、評価方法</p> <p>(84 反町篤行／2回) 自然放射線、事故後の環境放射線モニタリングとその線量</p> <p>(146 塚田祥文／3回) 原子炉における放射性物質、土壌-用水-作物系における放射性物質、飲食物摂取による基準値の考え方</p> <p>(148 脇山義史／1回) 河川を通じた放射性物質の移動</p> <p>(147 和田敏裕／1回) 魚類を中心とした水生生態系における放射性物質</p> <p>(195 高田兵衛／1回) 海洋における放射性物質の動態</p> <p>(21 石川徹夫／2回) 環境放射線が人体に与える影響、東日本大震災による県民の外部・内部被ばく線量評価</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	医学概論	まず医学の定義と医学の使命について学び、今日の医学がどのように発展してきたのか、また現代医学がどのように成り立っているのかを医学の歴史から学修する。さらに人体の構造と機能についての概要を学んだのち、病気の原因、病態と症状との関連について総論的に考える。また病気を診断するための様々な方法と治療の種類、さらには予防医学の考え方や健康を守っていくための医療制度と医療保障についての概要についても学ぶ。最後に生命倫理、医の倫理についても考え、専門領域に進む前のメディカルコモンセンスを身に着ける。	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	画像医学	現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (87 佐藤久志／2回) 画像医学総論、放射線治療領域の画像医学 (34 伊藤浩／2回) 中枢神経系の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断 (76 石井士朗／1回) 腫瘍・骨・炎症・内分泌の疾患について、核医学を中心とした画像診断 (233 黒岩大地／1回) 救急領域の画像診断 (232 長谷川靖／2回) 腹部領域（泌尿器系、婦人科系）の画像診断 (230 関野啓史／2回) 循環器領域の画像診断、血管を中心としたIVR (231 藤巻秀樹／2回) 腹部領域（肝臓、胆嚢、膵臓）の画像診断 (193 森谷浩史／1回) 胸部領域の疾患について、主にCTを中心とした画像診断 (220 歌野健一／1回) 腹部領域（消化管）の画像診断 (235 箱崎元晴／1回) 筋肉・骨・関節の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	薬理学	<p>薬理学は、薬物と生体の相互作用を探求する学問である。薬の作用を理解するためには、細胞内外の情報伝達の仕組みや、病気が発症することで情報伝達がどのような破綻をきたすのかを知る必要がある。そして薬物の理解とは、病気の原因となる異常に対し薬物がどのように作用するのかを理解する学問である。本講義では、薬物の作用機序を理解するために、その基礎的事項を学び、さらに細胞内外情報伝達物質と薬物との相互作用を理解し、薬物の臨床展開と治療効果について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18) 下村健寿／2回) 薬理学の基礎、内分泌・代謝作用薬</p> <p>(27) 尾形浩／10回) 薬理学各論 (副交感神経に作用する薬物、交感神経に作用する薬物、麻酔薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液・造血器系作用薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗菌薬、抗腫瘍薬)</p> <p>(28) 西嶋剣一／3回) 薬理学総論 (薬理作用、薬物動態学、薬物開発等)</p>	オムニバス方式
			臨床心理学	<p>臨床心理学は、日常的な困難、心の不調、人間関係のトラブルを抱える人々への心理的支援に関する心理学の一分野である。そこには、心理的支援の具体的方法のみならず、「どのように支援(治療)するのが良いか」といった支援(治療)に対する考え方(理論)、更には「そもそも人とはどのようなものか」といった人間観が、含まれている。そうした具体的方法・考え方(理論)・人間観が1つだけでなく、いくつもある。この授業では、そうした考え方(理論)・人間観を解説しながら、心理的支援の方法について紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(47) 三澤文紀／5回) 臨床心理学とは何か、クライアント中心療法、家族療法</p> <p>(20) 林博史／1回) 精神疾患</p> <p>(229) 松本貴智／4回) 心理的アセスメント、患者の心理、精神分析</p> <p>(115) 竹林由武／5回) 認知行動療法、集団療法</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	<p>リハビリテーション医学の全体像や医学・医療における位置づけを理解し、リハビリテーション医学の理念、診断および治療の基礎知識の習得を目指す。内容としては、医学的リハビリテーションの対象となる運動障害や感覚障害、循環機能障害、呼吸機能障害、摂食嚥下障害、排尿障害、高次脳機能障害について、また、小児疾患や精神疾患の症候や病態生理等を学習し、各種障害のリハビリテーション治療の基礎知識を習得する。さらに、リハビリテーション工学や地域リハビリテーションについて学び、リハビリテーション医学の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(39 大井直往／4回) リハビリテーション医学総論・病気別のリハビリテーション、リハビリテーション診断・評価、神経障害のリハビリテーション、社会参加・QOL向上のリハビリテーション</p> <p>(① 矢吹省司／2回) 廃用症候群のリハビリテーション、運動機能障害のリハビリテーション</p> <p>(64 義久精臣／1回) 循環機能障害のリハビリテーション</p> <p>(③ 高橋仁美／1回) 呼吸機能障害のリハビリテーション</p> <p>(⑩ 林博史／2回) 高次脳機能障害のリハビリテーション、精神疾患のリハビリテーション</p> <p>(236 小川洋／1回) 摂食嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>(159 吉田美香子／1回) 排尿障害のリハビリテーション</p> <p>(169 松尾洋平／1回) 小児疾患のリハビリテーション</p> <p>(170 安永好宏／1回) リハビリテーション工学、治療機器、ロボット</p> <p>(35 葛西龍樹／1回) 地域包括ケアシステム・地域リハビリテーション・介護予防</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	<p>理学療法士に必要な骨関節疾患、脊髄と末梢神経の疾患や外傷に関する基礎知識を理解する。具体的には股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節・脊椎の主たる疾患について学ぶ。整形外科疾患は患者数が多く、実際の現場に出た場合、すぐに経験する症例である。それぞれの疾患の病態を理解し、一般的な治療法を理解しておくことは、リハビリテーション治療を行う際に必須の知識である。実際の症例を提示しながら理解しやすい内容とする。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(① 矢吹省司/5回) 整形外科疾患とQOL、関節・脊椎の構造と機能、四肢と脊椎の診察、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア</p> <p>(70 二階堂琢也/1回) 脊椎・脊髄損傷</p> <p>(98 川上亮一/1回) 骨・関節の外傷(上肢)</p> <p>(119 吉田勝浩/2回) 骨・関節の外傷(下肢)、膝関節疾患</p> <p>(71 箱崎道之/2回) 骨・軟部腫瘍</p> <p>(72 渡邊和之/1回) 脊椎・脊髄疾患</p> <p>(99 小林洋/1回) 脊椎・脊髄疾患</p> <p>(31 沼崎広法/1回) 感染性骨関節疾患</p> <p>(171 佐藤弘一郎/1回) 関節リウマチ</p> <p>(32 山田仁/1回) 骨粗鬆症・代謝性疾患</p> <p>(204 竹中信之/1回) 骨粗鬆症・代謝性疾患</p> <p>(73 大内一夫/2回) 足・足関節疾患</p> <p>(225 山岸栄紀/2回) 股関節疾患</p> <p>(226 小平俊介/1回) 膝関節疾患</p> <p>(120 猪狩貴弘/2回) 肩関節疾患、肘関節疾患</p> <p>(118 佐々木信幸/2回) 手・手関節疾患</p> <p>(205 加賀孝弘/2回) スポーツ傷害</p> <p>(169 松尾洋平/2回) 小児整形外科</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	内科学	<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な内科疾患の症候や診断、及び治療に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、内科学と内科的診断・治療、症候学、循環器疾患や呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、血液・造血管疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、免疫系疾患、アレルギー疾患、そして感染症などに関する成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、内科疾患に関する医療について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(㊟ 小川一英／4回) 内科学とは・内科的診断と治療、症候学、血液・造血管疾患</p> <p>(64 義久精臣／2回) 循環器疾患</p> <p>(㊟ 豊川真弘／1回) 感染症</p> <p>(26 柴田陽光／2回) 呼吸器疾患</p> <p>(116 鬼澤道夫／1回) 消化管疾患</p> <p>(68 高木忠之／1回) 肝胆膵疾患</p> <p>(23 島袋充生／1回) 代謝性疾患</p> <p>(94 待井典剛／1回) 内分泌疾患</p> <p>(22 風間順一郎／1回) 腎疾患</p> <p>(117 浅野智之／1回) 免疫系疾患、アレルギー性疾患</p>	オムニバス方式
			精神医学	<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な精神疾患と医療、リハビリテーション及び精神障害者福祉に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、統合失調症やうつ病、不安障害、人格障害、アルコール性関連精神障害、発達障害、認知症などの各種疾患の成因と症状、診断等に関して学び、精神障害に対する薬物治療やリハビリテーション、心理療法、さらには精神保健福祉や精神障害者の社会復帰を含めた精神医学・医療について理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	脳・神経内科学	<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な脳・神経疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、神経症候学の概要、脳血管障害や脳外傷、アルツハイマー病をはじめとした認知症、髄膜炎、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性硬化症、てんかん等の各神経系疾患の成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、脳・神経内科疾患に関する医療について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 林博史／2回) Alzheimer病・Pick病・脳血管性認知症、てんかん、頭痛、めまい</p> <p>(24 金井教明／6回) 運動障害、感覚障害、Parkinson病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、遺伝性脊髄小脳萎縮症、意識障害・高次脳機能障害・脳神経障害の診かた、画像診断、電気生理学的検査、先天性・後天性代謝異常</p> <p>(96 佐藤拓／1回) 脳血管の解剖と生理、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血</p> <p>(97 岩楯兼尚／1回) 脳外傷、脳腫瘍</p> <p>(224 井口正寛／1回) 髄膜炎、脳炎の症候、髄液所見、プリオン病、後天性免疫不全症候群</p> <p>(95 松田希／1回) Guillain-Barre症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、遺伝性ニューロパチー</p> <p>(201 伊藤英一／1回) 重症筋無力症、Lambert-Eaton筋無力症候群</p> <p>(200 田中恵子／1回) 筋炎、筋ジストロフィー、代謝性ミオパチー</p> <p>(25 藤原一男／1回) 多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎、白質ジストロフィー</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病 と 障害 の 成り 立ち 及び 回復 過程 の 促進	老年学	<p>理学療法士に必要な知識である加齢や老化現象について、医学、生物学、心理学、社会学など広い視点から理解する。内容として、生涯発達の一部としての老化を捉え、それに伴う生理機能、運動機能、精神機能について学修する。特徴的な老年期の疾病や障害として、嚥下障害、誤嚥性肺炎、循環障害、フレイル、サルコペニア、骨粗しょう症、骨折、認知症、うつ、せん妄などの老年期症候群についても教授する。高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の心理についても学び、老年期にある対象者の理解を深められるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(㊟ 林博史／4回) 老年学とは(疫学、老年学の課題、老化、老人問題)、老化に伴う変化、老年期の疾病と疾患(認知症、うつ、せん妄)</p> <p>(㊦ 横塚美恵子／2回) 老化に伴う変化(運動機能)、老年期のリハビリテーション、終末期医療</p> <p>(108 川又寛徳／1回) 高齢者の機能、活動面の評価</p> <p>(64 義久精臣／1回) 老年期の疾病と障害(循環器疾患)</p> <p>(㊠ 矢吹省司／1回) 老年期の疾病と障害(フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、骨粗しょう症、骨折)</p> <p>(66 岩佐一／3回) 老化と生涯発達、パーソナリティと適応、老化の社会学と理論、幸福感、生きがい、サクセスフルエイジング</p> <p>(209 菅野和広／1回) 老年期の疾病と障害(嚥下障害、誤嚥性肺炎)</p> <p>(218 石井重亮／1回) 高齢者の薬物療法(ポリファーマシーなどの問題含む)</p> <p>(222 齋藤圭太／1回) 家族・社会関係(ソーシャルサポート、ネットワーク)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	<p>本科目は、理学療法士の臨床実践に必要な小児疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、小児の発達と保健、新生児医療、各小児疾患（先天異常、脳性麻痺、てんかん、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、内分泌・泌尿器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患、免疫疾患、アレルギー疾患、自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害等）の成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、小児疾患に関する医療と子どもの療育について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 林博史／2回) てんかん、熱性けいれん、自閉症、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害</p> <p>(33 細矢光亮／2回) 小児の成長発育と発達、小児の保健、小児に特有な一般的身体所見と症候</p> <p>(227 鈴木雄一／1回) 小児に特有な神経症候、神経学的検査法</p> <p>(216 佐藤真紀／1回) 新生児の評価、未熟児の神経学的所見、周産期の異常症状</p> <p>(217 郷勇人／1回) 先天異常、染色体異常、遺伝性疾患</p> <p>(169 松尾洋平／1回) 脳性麻痺の成因と徴候による分類、治療、療育</p> <p>(215 桃井伸緒／1回) 循環器疾患</p> <p>(74 橋本浩一／2回) 呼吸器疾患、免疫、アレルギー疾患</p> <p>(100 佐藤昌論／1回) 感染症</p> <p>(101 陶山和秀／1回) 内分泌・泌尿器疾患</p> <p>(103 望月一弘／1回) 血液疾患、腫瘍性疾患</p> <p>(121 渡部真裕／1回) 集中治療</p>	オムニバス方式
			リハビリテーション栄養学	<p>リハビリテーションにおける運動機能の回復には、その基礎となる良好な栄養状態が重要である。本科目では理学療法や作業療法に必要な栄養学の基礎知識、リハビリテーション医療における栄養の重要性、栄養の評価方法および栄養療法、栄養サポートチームの役割などについて教授する。さらに、脳血管障害、呼吸不全や心不全、がん、褥瘡、フレイルとサルコペニア、嚥下障害などリハビリテーションにおける主要な対象疾患・障害に対する栄養管理について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	がんリハビリテーション学	<p>本科目は、がんの病態と医学的治療、がんリハビリテーション、及びチーム医療の実践に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、がんリハビリテーションの概要、乳がん、脳腫瘍、頭頸部がん、骨・軟部腫瘍等の周術期のリハビリテーション、化学療法や放射線医療、造血器腫瘍とリハビリテーション、がんによる各種障害、緩和ケア、がん患者の心のケア等について学び、がんの病期、特性等を踏まえたリハビリテーションについて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 矢吹省司/3回) がんリハビリテーションの概要、チーム医療の役割、周術期リハビリテーション (骨・軟部腫瘍・脊髄腫瘍)、骨転移とリハビリテーション</p> <p>(27 河野浩二/1回) 周術期リハビリテーション (開胸・開腹術)</p> <p>(30 大竹徹/1回) 周術期リハビリテーション (乳がん)</p> <p>(69 藤井正純/1回) 周術期リハビリテーション (脳腫瘍)</p> <p>(228 川瀬友貴/1回) 周術期リハビリテーション (頭頸部がん)</p> <p>(37 佐治重衡/1回) 化学療法とリハビリテーション</p> <p>(⑤ 森下慎一郎/1回) 造血器腫瘍、造血幹細胞移植とリハビリテーション</p> <p>(211 高橋勝/1回) がんによるADL・IADL障害とリハビリテーション</p> <p>(209 菅野和広/1回) がんによる摂食嚥下障害・コミュニケーション障害とリハビリテーション</p> <p>(210 二村美也子/1回) がんによる高次脳機能障害とリハビリテーション</p> <p>(173 山本優一/1回) リンパ浮腫とリハビリテーション</p> <p>(102 佐藤薫/1回) 緩和ケアとリハビリテーション</p> <p>(75 三浦至/1回) がん患者の心のケアとリハビリテーション</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	臨床技術基礎演習	<p>医療従事者として必要とされる医療安全や感染制御などの基礎医科学技術や患者接遇に必要な知識の習得を行う。これらの知識は将来の専門性に囚われることなく、普遍的な知識として本学部の全学生が習得すべきものと位置づけ、将来様々な場面で活用できる知識を習得する。医療安全の視点の下に医療職としての役割、医療における課題等を演習から理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(64 義久精臣、161 見田洋子/3回) (共同) オリエンテーション、医療接遇</p> <p>(128 木村夏実、126 三橋佑平/2回) (共同) 高齢者・障害者・妊婦の特性</p> <p>(㊸ 林博史/1回) バイタルサイン</p> <p>(12 岡崎可奈子/2回) 患者移動</p> <p>(① 矢吹省司、⑬ 小俣純一/1回) (共同) 清潔・不潔の概念とルール</p> <p>(㊹ 豊川真弘、131 三浦里織、130 堀越裕子/1回) (共同) 感染制御</p> <p>(64 義久精臣、112 高橋一人、130 堀越裕子、131 三浦里織/2回) (共同) 心電図の見方</p> <p>(129 田代雅実、㊺ 久保均/1回) (共同) 応急手当</p> <p>(129 田代雅実、㊺ 久保均、87 佐藤久志、56 高橋規之、57 加藤貴弘、89 福田篤志/2回) (共同) 基本的心肺蘇生法、AEDの使用法</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			放射線医学概論	<p>医療における放射線の役割はますます重要となっており、診断・治療においてなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では放射線の医療利用の実際を学び、診療において活用できる基礎知識を学習する。具体的には、放射線医学の誕生から、放射線診断学、放射線治療学、核医学を概説し、放射線医学を学んでいく。主として放射線診断学について講義する。放射線等で作られる画像の意味するところを、画像解剖学をもとにして講義していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(87 佐藤久志/7回) 画像診断について、放射線治療の基礎、放射線治療の種類と装置・方法、温熱療法</p> <p>(89 福田篤志/1回) 放射線生物学の基礎、放射線計測の基礎</p> <p>(110 大葉隆/1回) 放射線障害、医療被ばく、法的規制</p> <p>(㊺ 久保均/3回) 画像診断装置、医療情報システムとその安全管理</p> <p>(59 三輪建太/2回) PETによる画像診断、核医学内用療法</p> <p>(57 加藤貴弘/1回) 中枢神経、頭頸部、胸部の放射線治療</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	疫学・公衆衛生学	<p>専門医療技術者に必要な地域・集団の心身の健康維持を図るための科学と技術について学習する。具体的には公衆衛生学領域における疫学の考え方、母子・学校・精神保健、感染症の成立要因とそれに基づく予防対策、公害や地域から地球規模の環境衛生について学ぶ。また近年の健康維持に対する最大の阻害要因である生活習慣病について予防対策も含めて学習する。保健統計については人口動態統計を中心に学び、さらに栄養と食品衛生、産業保健や保健医療制度などについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 安村誠司/5回) 総論、感染症、保健医療制度</p> <p>(20 大平哲也/1回) 疫学の考え方</p> <p>(67 坪井聡/1回) 人口動態</p> <p>(66 岩佐一/2回) 母子保健、成人保健</p> <p>(92 森山信彰/2回) 学校保健、精神保健</p> <p>(113 中山千尋/1回) 地域と福祉</p> <p>(65 各務竹康/2回) 地域における環境、産業保健学概論</p> <p>(93 江口依里/1回) 保健統計</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョン の理 念	危機管理学	<p>前半は、身の回りにおける様々な危機の種類、組織ガバナンスや医療安全を例にしてリスクマネジメントについての基本的な考え方を学習する。また患者と医療者との意見の食い違いから生じる紛争に対する解決法としての医療メディエーションの役割についても学ぶ。後半は、福島の地で起きた大規模複合災害を始め世界で起きた様々な災害について知り、必要な医療、福祉、保健などに対する医療者の役割と各種連携の実際について学習する。また災害が人々に与えるメンタルヘルスや、社会、地域住民とのリスクコミュニケーション、さらに日本、海外における災害時の危機管理体制や医療の役割について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>② 小川一英、162 三村邦裕/1回) (共同) オリエンテーション、危機管理学総論</p> <p>(162 三村邦裕/1回) 危機管理とリスクマネジメント</p> <p>(163 木村栄宏/3回) 組織における危機管理・内部統制、ケーススタディによるリスクへの対応、メディエーション、医療ADR、リスクガバナンス</p> <p>(165 種田憲一郎/2回) 医療安全と危機管理 (ヒューマンエラーとリスクマネジメント)</p> <p>(164 藤本一雄/3回) 自然災害の発生メカニズム、自然災害のハザード・リスク評価、自然災害対策について</p> <p>(110 大葉隆/1回) 東日本大震災と福島第一原発事故における危機管理</p> <p>(36 前田正治/1回) 災害と危機介入</p> <p>(38 長谷川有史/1回) 放射線災害における医療者の役割</p> <p>(166 佐藤千歳/2回) 災害医療とトリアージ、自然災害に対する国際協力</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョ ン の 理 念	リハビリテーション概論	<p>本科目は、リハビリテーションを包括的に理解することを目指す。内容としては、リハビリテーションの概念と歴史の変遷、病気と障害、リハビリテーションとノーマライゼーション、障害受容、リハビリテーションの各側面（医学的・社会的・職業的、教育的リハビリテーションなど）、リハビリテーション専門職と関連職種、関連法規や制度等について学び、対象者の「全人的復権」を実現するリハビリテーションの意義と役割について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 矢吹省司/1回) リハビリテーションとは、医学的リハビリテーション</p> <p>(専任補充/2回) リハビリテーションの歴史、病気と障害、ICIDH、ICF</p> <p>(⑩ 林博史/2回) リハビリテーションとノーマライゼーション、リハビリテーションと心理、障害受容</p> <p>(53 倉澤茂樹/3回) 人間活動と発達、教育的リハビリテーション、リハビリテーションの主な対象疾患と障害（精神障害、知的障害、発達障害）</p> <p>(⑪ 五百川和明/3回) 職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、リハビリテーションの過程、チームアプローチと専門職、リハビリテーションの主な対象疾患と障害（身体障害）</p> <p>(54 曾根稔雅/3回) リハビリテーションの手段、地域包括ケアシステム、リハビリテーションに関連する社会保障制度</p> <p>(42 坂本祐子/1回) リハビリテーション看護</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	災害リハビリテーション論	<p>本科目は、災害時の医療とリハビリテーション専門職に求められる活動に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、災害時の各フェーズ（被災混乱期・応急修復期・復旧期・復興期）とリハビリテーションアプローチ、災害支援チームの在り方、支援活動と倫理、被災者の心の支援、平時の体制と準備、災害ボランティアの役割と活動、及び国際協力と災害リハビリテーション等について学び、災害支援の在り方について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 矢吹省司／1回) 各フェーズにおける災害リハビリテーション</p> <p>(129 田代雅実／2回) 平時の体制、準備対応、災害ボランティアの役割と活動</p> <p>(39 大井直往／1回) 災害リハビリテーション総論、大規模災害とは</p> <p>(40 島田二郎／2回) 災害フェーズ分類と対応、各フェーズにおける災害医療</p> <p>(174 島野光正／3回) 災害支援チームの在り方、災害リハビリテーション活動における倫理・留意点、被災者の心の支援</p> <p>(153 小野田修一／2回) 災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ（被災混乱期、応急修復期、復旧期）</p> <p>(175 椎野良隆／2回) 災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ（復興期：地域生活支援、街づくり）</p> <p>(176 星真琴／2回) 行政における災害リハビリテーション、国際協力と災害リハビリテーション</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョ ン の 理 念	チーム医療 I (概論)	<p>チーム医療とは何かを学ぶ。まず、医療がどのように成り立っているのかを理解する。職業倫理を理解し、医療人としての基本的な態度を培う。チーム医療を構成する様々な専門医療技術者の業務内容について詳しく学び、果たすべき役割や責任を理解する。その後実施の現場を見学し、それぞれの専門医療技術者がどのような業務を行っているかを知る。チーム医療Iでは、まずチームで行うカンファランスの意義を理解する。開講年次が1年生のため、病気に対する検討ではなく、倫理的な問題など人としてどう考えるかの課題を与えて、チームでその課題について議論し、まとめて発表する。医療とは異なる職場で行われているチームでの活動の実際とその意義・有用性を理解する。最後に、再度グループで症例検討を行い、まとめて発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑳ 小川一英/1回 医療の中で医師が果たす役割</p> <p>(41 高橋香子/1回) 医療の中で看護師、保健師が果たす役割</p> <p>㉑ 神先秀人/1回 医療の中で理学療法士が果たす役割</p> <p>(19 五百川和明/1回) 医療の中で作業療法士が果たす役割</p> <p>(56 高橋規之/1回) 医療の中で診療放射線技師が果たす役割</p> <p>(91 菅野光俊/1回) 医療の中で臨床検査技師が果たす役割</p> <p>(218 石井重亮、209 菅野和広/1回) (共同) 医療の中で薬剤師、言語聴覚士が果たす役割</p> <p>(125 青木俊太郎、167 阿部真典/1回) (共同) 医療の中で公認心理師、義肢装具士が果たす役割</p> <p>(213 福原之博、221 門馬成郎、223 佐藤亜希美/1回) (共同) 医療の中で臨床工学技士、ソーシャルワーカー、医療事務が果たす役割</p> <p>(⑦ 阿部浩明、⑪ 星真行、127 田中善信、128 木村夏実、57 加藤貴弘、87 佐藤久志、91 菅野光俊、130 堀越裕子、131 三浦里織/3回) (共同) 附属病院での見学</p> <p>(① 矢吹省司/2回) チーム医療とは何か、まとめ</p> <p>(17 本多創史/1回) 医療と倫理 (症例1の供覧と問題点の検討)</p> <p>(① 矢吹省司、17 本多創史/1回) (共同) 医療と倫理 (症例2の供覧と問題点の検討)</p> <p>(168 鈴木優/2回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(73 大内一夫/1回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(① 矢吹省司、② 神先秀人、⑤ 森下慎一郎、⑦ 阿部浩明、⑪ 星真行、⑱ 五百川和明、86 藤田貴昭、107 石川陽子、127 田中善信、128 木村夏実、56 高橋規之、57 加藤貴弘、87 佐藤久志、89 福田篤志、㉒ 小川一英、64 義久精臣、91 菅野光俊、130 堀越裕子、131 三浦里織/11回) (共同) チームカンファランスに関するグループワーク</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 19時間 演習 11時間

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョン の理 念	チーム医療Ⅱ (演習)	<p>チーム医療Ⅱでは、チーム医療の実践について学ぶ。そのため、はじめにTeam Stepsでチームの重要性を学ぶ。その後提示された症例を元に、自分の職種は何か出来るか、何をすべきかについてグループ内で討論する。さらに医学部と看護学部の学生と共に小グループに分かれて、討論する機会を設ける。提示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある症例とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(165 種田憲一郎、① 矢吹省司、⑤ 森下慎一郎、⑦ 阿部浩明、⑪ 星真行、15 佐藤聡見、⑨ 五百川和明、53 倉澤茂樹、⑫ 林博史、108 川又寛徳、56 高橋規之、89 福田篤志、87 佐藤久志、⑭ 小川一英、⑯ 豊川真弘、90 鈴木英明、112 高橋一人、43 和田久美子、79 菅野久美、80 大川貴子、104 片桐和子、105 古溝陽子、124 吾妻陽子/3回) (共同)</p> <p>Team STEPPS</p> <p>(① 矢吹省司、⑤ 森下慎一郎、⑦ 阿部浩明、⑪ 星真行、15 佐藤聡見、⑨ 五百川和明、53 倉澤茂樹、⑫ 林博史、108 川又寛徳、56 高橋規之、89 福田篤志、87 佐藤久志、⑭ 小川一英、⑯ 豊川真弘、90 鈴木英明、112 高橋一人、43 和田久美子、79 菅野久美、80 大川貴子、104 片桐和子、105 古溝陽子、124 吾妻陽子/6回) (共同)</p> <p>症例供覧、グループワーク</p> <p>(① 矢吹省司、⑤ 森下慎一郎、⑦ 阿部浩明、⑪ 星真行、15 佐藤聡見、⑨ 五百川和明、53 倉澤茂樹、⑫ 林博史、108 川又寛徳、56 高橋規之、89 福田篤志、87 佐藤久志、⑭ 小川一英、⑯ 豊川真弘、90 鈴木英明、112 高橋一人、43 和田久美子、79 菅野久美、80 大川貴子、104 片桐和子、105 古溝陽子、124 吾妻陽子、45 大谷晃司、⑰ 亀岡弥生、234 安田恵/6回) (共同)</p> <p>症例供覧、グループワーク、カンファランス見学</p>	集中・オムニバス方式・共同 (一部)
		関連 科目	研究方法論	<p>研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究目的からの研究立案について、介入研究、観察研究、事例研究、質的研究等、各研究デザインに関する実際の研究をもとに、学生に考え、議論してもらおう。研究の倫理的な問題について理解する。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑭ 北爪しのぶ/6回)</p> <p>研究のステップ、研究倫理、論文の基本構成、読み方、基礎研究、文献検索</p> <p>(108 川又寛徳/4回)</p> <p>オリエンテーション、疑問のモデル化、測定デザイン、症例・事例研究</p> <p>(89 福田篤志/1回)</p> <p>測定機器 (適応と限界)</p> <p>(64 義久精臣/1回)</p> <p>介入研究 (バイアス、交絡、治験、RCT)</p> <p>(③ 高橋仁美/1回)</p> <p>観察研究 (縦断研究、横断研究)</p> <p>(104 片桐和子/1回)</p> <p>質的研究</p> <p>(219 家村俊一郎/1回)</p> <p>産学連携研究</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	関 連 科 目	医療統計学	人を対象として、病気に対する治療効果を評価し、病気の原因を解明することを目的として行われる研究が臨床研究である。臨床研究は、観察研究と介入研究の2つのタイプに分けられる。臨床研究で用いられる統計的な考え方や解析方法を理解し、結果を過大評価することなく正確な判断ができるようになる必要がある。この授業では、講義「統計学」の内容を踏まえて、臨床研究のデザインと結果をどう解釈するか、基本的な考え方を身に付ける。	
			医療統計学演習	講義「統計学」「医療統計学」で学んだ内容を踏まえて、演習を通して、実際にデータの解析を行うことができるようになる。授業は小グループに分かれて演習を行う。解析ソフトとしてSPSSの使い方を習得する。先行研究を読み、関心のあるテーマの決定、研究デザイン、エンドポイント、サンプルサイズ計算、統計解析手法の決定、データクリーニング、報告書作成、報告用スライドの作成と発表を行う。	
	専門 科目	基 礎 理 学 療 法 学	理学療法学概論	<p>本科目は理学療法の歴史や法的根拠、学問体系および業務内容、社会的役割などを認識し、理学療法士となる決意を明確にすることを目的とし、一学年前期に開講する。内容としては、理学療法の定義と歴史、理学療法とリハビリテーション、理学療法評価と障害のとらえ方、理学療法の治療手段、理学療法の活動の場、医療チームと理学療法士、理学療法と職業倫理、医療専門職と接遇、理学療法技術体験、専門職としての理学療法士・専門職団体、理学療法と研究、世界の理学療法などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(② 神先秀人/4回) 理学療法の定義と歴史、理学療法とリハビリテーション、障害のとらえ方、治療手段</p> <p>(③ 高橋仁美/4回) 理学療法の活動の場、医療チームと理学療法士、職業倫理、接遇</p> <p>(④ 柴喜崇/3回) 理学療法技術体験、専門職団体</p> <p>(⑤ 森下慎一郎/2回) 理学療法と研究、世界の理学療法</p> <p>(② 神先秀人、③ 高橋仁美、④ 柴喜崇、⑤ 森下慎一郎/2回) (共同) 私が考える理学療法－課題発表</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			理学療法研究法演習	理学療法学における研究の概要と研究過程について理解し、卒業研究に必要な研究課題設定までの過程を実施する。具体的には学生の希望テーマによって担当教員を決定し、ゼミ形式で実施する。内容としては文献検索と論文精読、研究課題の設定、研究方法確認のための予備研究の実施、4年生の研究計画発表会への参加などにより学修する。研究テーマと担当教員の決定に当たっては、各教員の研究領域の紹介を行い、学生の希望を調査して決定する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	基礎 理学 療法 学	生体運動計測学	<p>身体の動きを科学的に捉える知識と技術を修得し、卒業研究へつなげるとともに将来の研究活動の基礎とすることを目的とする。内容としては、筋電図、磁気刺激、誘発筋電図、三次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、筋トルク測定機器、超音波測定装置等を用いた評価方法とその意義について学ぶ。また、グループワークを通して、テーマの選択から実際の計測、データ解析、プレゼンテーション方法までを学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(② 神先秀人/4回) 3次元動作解析装置と床反力計を用いた動作解析の基礎</p> <p>(⑨ 中野渡達哉/4回) 超音波画像診断装置を用いた評価の基礎と応用</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/4回) 表面筋電図を用いた骨格筋の量的・質的評価、誘発筋電図の基礎</p> <p>(② 神先秀人、⑨ 中野渡達哉、⑩ 遠藤康裕/18回) (共同) 種々の定量的検査およびパフォーマンステストの実施、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討、課題の選択、測定の実施、データ解析、考察、発表、レポートの作成</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
			国際理学療法論	<p>世界の理学療法を知ることで福島および日本の理学療法水準を向上させる意思を持つこと、および国際感覚を養い、将来海外での活動に関わるための基礎知識を教授する。具体的な内容としては、欧米をはじめ世界の理学療法について学び、世界の中での日本の理学療法の位置づけを理解する。また、海外の理学療法教育の卒前および卒後教育を知り、理学療法を学ぶ道について理解する。さらに国際支援における理学療法士の役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 森下慎一郎/5回) 欧米の理学療法、世界理学療法連盟、海外研修(欧州)および国際学会参加について</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/2回) アジア・オセアニアの理学療法、国際支援について(モンゴル教育支援)</p> <p>(178 清水ミシェル・アイズマン/2回) 海外から見た日本の理学療法について</p> <p>(専任補充/1回) 大学の国際交流</p> <p>(180 須賀康平/2回) 海外留学について</p> <p>(179 齋藤崇志/2回) 国際支援について(青年海外協力隊・パプアニューギニア)</p> <p>(⑫ 高橋恵里/1回) 国際支援について(青年海外協力隊・ヨルダン)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	基礎理学療法学	卒業研究	研究の一連の過程を経験し、科学的な思考能力を習得し、将来の臨床研究の基礎を造ることを目的とする。内容としては、研究計画を立案し、予備実験を経て研究計画書を作成し、研究計画発表会で発表する。必要な場合は倫理審査を受け、対象者のインフォームドコンセントを得て実施する。データ収集を実施し、データ解析と考察を行い、卒業研究発表会で発表する。最終的に卒業論文を作成する。希望する研究テーマに基づいて担当指導教員を決定し、その指導下で実施する。	
		理学療法管理学	理学療法管理学	<p>理学療法部門を管理運営する上で必要な知識を理解するとともに、管理運営に必要なスキルを身に付けるために、理学療法業務に関連する法律、診療報酬体系、組織運営、リスクマネジメント、接遇と社会人マナー、多職種連携とチーム医療、理学療法と医療経済、職場内教育と人材育成、組織と人事考課、労務管理、コンプライアンスと職場倫理、理学療法に関する教育制度、指定規則、大学院教育などについて学ぶ。授業は講義、グループワークと発表・討論等により学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑦ 阿部浩明/12回) 理学療法業務に関連する法律、診療報酬体系、組織運営、リスクマネジメント、職場倫理とハラスメント対策、インシデントレポートの書き方、臨床研究</p> <p>(⑩ 星真行/12回) 個人情報管理、組織運営と人事、労務管理、職場教育、学生教育(実習生の受入れ計画)、理学療法部門開設</p> <p>(182 風岡都/2回) 介護老人保健施設での業務管理とリスクマネジメント</p> <p>(④ 柴喜崇/4回) 理学療法教育について、指定規則、大学教育、大学院教育</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	理学療法評価学	<p>理学療法を実施する上で評価は不可欠であり重要なプロセスである。本科目では理学療法における評価の位置づけと役割、理学療法の対象疾患・障害に共通的に必要な基本的検査・測定である形態計測（四肢長、周径測定等）、関節可動域測定、筋長検査、関節安定性検査、柔軟性検査などの原理を学ぶとともに、これらの基本的技術を修得し、さらに上記の検査・測定の正常値と異常値の意味を学ぶ。基本的検査・測定技術の修得に、講義と演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(④ 柴喜崇/4回) 理学療法の評価の位置づけと役割、体表解剖学、骨指標の触診</p> <p>(④ 柴喜崇、⑪ 星真行、⑫ 高橋恵里/26回) (共同) 身体計測、関節可動域測定、筋長検査、関節動揺性検査、柔軟性検査、習熟度確認 (※ ⑫ 高橋恵里は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)	
			理学療法評価学Ⅰ	<p>理学療法を実施する上で評価は不可欠であり重要なプロセスである。本科目では理学療法の対象疾患・障害に共通的に必要な基本的検査・測定である徒手筋力検査および神経学的検査の原理を学ぶ。神経学的検査の内容としては感覚検査、腱反射、病的反射、協調性検査、片麻痺回復段階検査、バランス検査などを学び、これらの基本的技術を修得する。さらに上記の検査・測定の正常値と異常値の意味を学ぶ。基本的検査・測定技術の修得に、講義と演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(④ 柴喜崇/10回) 徒手筋力検査総論、神経学的検査総論、感覚検査、腱反射、病的反射、協調性検査、片麻痺回復段階検査、バランス検査</p> <p>(④ 柴喜崇、⑦ 阿部浩明/20回) (共同) 徒手筋力検査、復習と習熟度確認</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
			理学療法評価学Ⅱ	<p>理学療法評価学ⅠおよびⅡの学修をもとに、理学療法評価課程と臨床推論について学び、これらを実践的に活用できる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、筋骨格系障害、脳血管障害、脊髄障害などの模擬症例（ペーパーペイシェント）を通して、情報収集し評価計画を立て、統合的に検査・測定を実施し（実技練習）、結果を解釈し問題点を把握する力を修得するための演習をグループ学習や発表も含めて行う。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(④ 柴喜崇/6回) 理学療法評価課程と臨床推論（情報収集、評価計画、問題点と統合解釈）</p> <p>(④ 柴喜崇、⑦ 阿部浩明/8回) (共同) 脳血管障害の模擬症例</p> <p>(④ 柴喜崇、⑫ 高橋恵里/8回) (共同) 筋骨格系模擬症例 (※ ⑪ 星真行は令和4年度まで担当する) (※ ⑫ 高橋恵里は令和5年度から担当する)</p> <p>(④ 柴喜崇、15 佐藤聡見/8回) (共同) 脊髄障害模擬症例 (※ ⑤ 森下慎一郎は令和4年度まで担当する) (※ 15 佐藤聡見は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治 療 学	運動療法学	運動療法学は理学療法の中の中心的治療手段であり、筋骨格系疾患をはじめ多くの疾患・障害に適応されており、理学療法的重要な分野となっている。本科目では運動療法の基本的治療手段について教授する。内容としては運動療法の基本概念の他、理学療法の対象となる疾患・障害に共通的に適応できる基本的手段である関節可動域運動、ストレッチング、関節モビライゼーション、筋力強化運動、バランストレーニング、姿勢と支持性、協調性トレーニングなどを学ぶ。	
			運動療法学演習	運動療法学は筋骨格系疾患をはじめ多くの疾患・障害に適応されている理学療法の中の中心的な治療手段である。運動療法学の学修に基づき、基本的運動療法手技を実施できるようになることを目的とする。内容としては、関節可動域運動、ストレッチング、関節モビライゼーション、筋力強化運動、バランストレーニングなどの実技練習を中心に実施する。教員のデモンストレーションに基づき学生同士での実技練習を行い、複数の教員が実技指導に当たる。	共同
			物理療法学	物理療法学は運動療法学と並ぶ理学療法の中の中心的治療手段であり、種々の物理療法の原理、生理的反応、適応と禁忌等リスク管理について理解することを目的とする。内容としては、温熱療法、寒冷療法、光線療法、水治療法、電気刺激療法（経皮的電気、神経筋電気、機能的電気刺激）、バイオフィードバック療法、超音波療法、牽引療法などを学修する。さらにエビデンスとガイドラインについても学修する。授業は講義と討論によって行う。 (オムニバス方式/15回) (専任補充/7回) 総論、痛みの基礎、エネルギー変換熱、光線療法、牽引療法、持続的他動運動、エビデンスとガイドライン (専任補充/4回) 温熱の基礎、伝導熱、水治療法、寒冷療法 (⑥ 横塚美恵子/4回) 電気刺激の基礎、経皮的電気刺激、神経筋電気刺激、機能的電気刺激、バイオフィードバック	オムニバス方式
			物理療法学演習	物理療法学での学修に基づき、各種物理療法を実施できるようになることを目的とする。内容としては、温熱療法、寒冷療法、光線療法、水治療法、電気刺激療法、超音波療法、牽引療法についてグループごとに課題を設定して実施する。また、各物理療法が生体に与える影響を科学的に把握するため、表面および深部温計測、筋硬度計測、超音波計測装置による筋エラストグラフィ計測、血流速度計測、筋電図、心電図などのバイタルサイン計測などを行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治療 学	義肢装具学	<p>義肢および装具の基本構造、適応等について理解し、理学療法士の役割と医師や義肢装具士との協働について理解することを目的とする。内容としては、装具（上肢、下肢、体幹）の基本構造と適応、装具と理学療法、義肢（義手、義足）の基本構造と適応、切断患者のリハビリテーションと理学療法等について学修する。さらに義肢および装具の支給制度についても学修する。授業は講義、グループワークと討論などで行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑨ 楠本泰士/8回) 義肢装具の歴史と分類、および各種装具</p> <p>(167 阿部真典/7回) 義足および義手、義肢および装具の支給制度</p>	オムニバス方式
			義肢装具学演習	<p>義肢装具学での学修に基づき、具体的な実践方法について学ぶ。内容としては、装具（上肢、下肢、体幹）のチェックアウトと調整、プラスチック製短下肢装具の作成実習、仮義足の採型とベンチアライメント、脳性麻痺やの卒中片麻痺の装具、義足歩行の分析とアライメント調整、切断患者の理学療法（断端管理、関節可動域、筋力など）、義足装着練習と歩行練習などについて、デモンストレーションと実技練習などにより学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑦ 阿部浩明、167 阿部真典/2回) (共同) オリエンテーション、SHB作成手順</p> <p>⑦ 阿部浩明/2回) 脳卒中片麻痺患者の装具と理学療法</p> <p>⑧ 楠本泰士/2回) 脳性麻痺の装具療法</p> <p>(167 阿部真典/16回) プラスチック製短下肢装具の作成演習</p> <p>(202 佐藤房郎/8回) 切断患者のリハビリテーション</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治療 学	運動器障害理学療法学	<p>筋骨格系疾患に起因する運動障害は理学療法の対象の中で最も重要な分野の一つであり、これに対する理学療法について理解することを目的とする。内容としては、変形性関節症と外傷（骨折、脱臼等）、靭帯損傷と再建術、腰痛・頸部痛および脊椎疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷、小児整形外科疾患、骨腫瘍（転移性骨腫瘍を含む）などについて学修する。授業は講義、グループワークと討論により実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 神先秀人/4回) 変形性関節症、関節リウマチ</p> <p>(⑨ 中野渡達哉/4回) 骨折脱臼、膝・足部の靭帯損傷の病態と理学療法</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/4回) 肩関節疾患および上肢のスポーツ損傷・外傷の病態と理学療法</p> <p>(⑬ 小俣純一/3回) 脊椎疾患および腰痛症の病態と理学療法</p>	オムニバス方式
			運動器障害理学療法学演習	<p>運動器学理学療法学での学修に基づき代表的疾患の理学療法の実施方法を習得することを目的とする。内容としては、運動器学理学療法学で取り上げた代表的疾患である変形性関節症、外傷、靭帯損傷と再建術、腰痛・頸部痛および脊椎疾患、関節リウマチ、末梢神経損傷、小児整形外科疾患、骨腫瘍等の評価方法、標準的介入方法等についてデモンストレーションと実技練習を行う。またペーパー・ペイシェントを用いた臨床推論とプログラム立案についてグループワークによる演習と発表・討論を行う</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(② 神先秀人/8回) 変形性関節症、関節リウマチ、骨折、末梢神経損傷に対する理学療法の実技、ペーパーペイシェントによる検討</p> <p>(⑨ 中野渡達哉/8回) 骨折・脱臼、膝半月板損傷、靭帯損傷および足部の靭帯損傷などに対する理学療法実技、ペーパーペイシェントによる検討</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/8回) 肩関節疾患および上肢のスポーツ損傷・外傷に対する理学療法の実技、ペーパーペイシェントによる検討</p> <p>(⑬ 小俣純一/6回) 脊椎疾患および腰痛症に対する理学療法実技、ペーパーペイシェントによる検討</p>	オムニバス方式
			運動器障害理学療法学特論	<p>運動器障害理学療法学特論では、運動器障害理学療法学および演習で学んだ種々の運動器疾患に関連した最新の知見について学修する。内容としては変形性関節症、人工関節、肩関節疾患、脊椎疾患と腰痛等に対する最新の治療（手術療法、薬物療法など）の最新の動向と、これに対する理学療法のトピックスについて学修する。さらに運動器障害理学療法学および演習で取り扱わなかった「熱傷」に対する最新治療と理学療法のトピックスについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 神先秀人/5回) 変形性関節症に対する理学療法のトピック</p> <p>(⑨ 中野渡達哉/4回) 人工関節に対する理学療法のトピックス</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/2回) 肩関節疾患に対する理学療法のトピックス</p> <p>(⑬ 小俣純一/2回) 脊椎疾患および腰痛症の理学療法のトピックス</p> <p>(196 矢口春木/2回) 熱傷の理学療法</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治療 学	神経障害理学療法学	<p>神経系の疾患に起因する種々の機能障害は理学療法の対象の中で最も重要な分野の一つである。神経障害理学療法の対象疾患の主要な部分を占める中枢神経疾患および神経筋疾患などの理学療法について理解することを目的とする。内容としては脳血管障害、頭部外傷、パーキンソン病、運動失調症（小脳性と多系統萎縮）、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、脊髄損傷など病態特性を学修し、疾病に対する最新の理学療法治療法などを講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 柴喜崇/8回) パーキンソン病、神経筋疾患（ALS他）、末梢神経・筋疾患</p> <p>(⑦ 阿部浩明/7回) 脳血管障害（急性期・回復期・維持期）、頭部外傷、脊髄損傷、高次脳機能障害</p>	オムニバス方式
			神経障害理学療法学演習	<p>神経障害理学療法学で学修した知識を基に、代表的疾患である脳血管障害、パーキンソン病、運動失調症（小脳性と多系統）、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、脊髄損傷の理学療法の実施方法を学習する。内容としては、中枢神経疾患の脳損傷局在と身体・運動機能の関係を教授し、理学療法介入による機能改善の評価と治療プロセス、およびプログラム変更など、急性期、回復期、維持期（生活期）ごとに学習し、神経障害理学療法の全般的流れを把握する。また、脳血管障害の回復期以降で運動機能に影響する高次脳機能評価と対応方法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④ 柴喜崇/8回) パーキンソン病、神経難病</p> <p>(⑦ 阿部浩明/17回) 脳血管障害、高次脳機能障害、運動失調、脊髄損傷</p> <p>(④ 柴喜崇、⑦ 阿部浩明/5回) (共同) グループ討議、まとめ</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
			神経障害理学療法学特論	<p>神経障害理学療法学のリハビリテーションが変化し、運動制御と運動学習を中心とした治療方法が展開されてきた。機能低下した四肢を積極的に運動学習させて正常な運動制御回路を構築するCI療法や、電気制御により運動機能を制御し脳の可塑性を高めるBrain Machine Interface、早期歩行回復を目的とした介助装具やHALやWellwalkなどの歩行訓練ロボットなどが行われつつある。今後、iPS細胞や幹細胞による神経再生後のリハビリテーションなどを考える理学療法の新しい知識を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(専任補充/6回) 運動制御と運動学習、Brain Machine Interface、iPS細胞や幹細胞とリハビリテーション</p> <p>(⑦ 阿部浩明/9回) 脳画像と運動機能、中枢神経の可塑性、補装具、電気刺激、歩行介助機器</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治療 学	内部障害理学療法学	<p>呼吸・循環・代謝などの内部障害を呈する患者が増加しており、理学療法の重要な分野となっている。また、理学療法の対象者の高齢化にともない運動器障害や神経系障害の対象者が呼吸・循環・代謝障害を合併していることも多く、そのリスク管理の観点からも重要となっている。本科目では呼吸障害、心循環障害（末梢循環障害含む）、代謝障害に対する理学療法に必要な基礎知識、評価方法および治療手段について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>③ 高橋仁美、/7回) 内部障害の内、呼吸障害に対する理学療法の基礎知識、評価方法および治療手段</p> <p>⑤ 森下慎一郎/6回) 内部障害の内、心循環や代謝障害に対する理学療法の基礎知識、評価方法および治療手段</p> <p>(15 佐藤聡見/2回) 内部障害の内、心循環障害に対する理学療法の基礎知識、評価方法および治療手段</p>	オムニバス方式
			内部障害理学療法学演習	<p>呼吸・循環・代謝などの内部障害を呈する患者が増加しており、理学療法の重要な分野となっている。本科目では内部障害理学療法に必要な基本的評価方法および治療手段が実施できるように実技練習を通じて学修する。呼吸障害については、呼吸に関連するフィジカルアセスメント（呼吸パターン、肺音聴診など）、肺機能計測、運動耐容能測定、呼吸練習、徒手的治疗手技、吸引などを学修する。心循環障害については心電図の診方、心肺負荷試験、全身調整運動などを学修する。さらに代謝障害に必要な評価と治療手段についても実技練習し学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>③ 高橋仁美/14回) 内部障害の内、呼吸障害に対する理学療法の基本的評価方法および治療手段</p> <p>⑤ 森下慎一郎/8回) 内部障害の内、心循環や代謝障害に対する理学療法の基本的評価方法および治療手段</p> <p>(15 佐藤聡見/8回) 内部障害の内、心循環障害に対する理学療法の基本的評価方法および治療手段</p>	オムニバス方式
			内部障害理学療法学特論	<p>本科目では内部障害理学療法学および内部障害理学療法学演習の学修を基に、さらに内部障害に対する理学療法の具体的な課題や最新の動向を一部実技練習も交えて教授する。呼吸障害では慢性呼吸障害、集中治療における理学療法を含む急性呼吸障害、脳損傷や脊髄損傷に対する呼吸理学療法、および人工呼吸器などの呼吸管理機器についても教授する。心循環障害では、心筋梗塞、急性・慢性心不全、肺高血圧症などに対する最新のガイドラインや理学療法について教授する。代謝障害では患者教育やフットケアなどについても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>③ 高橋仁美/6回) 慢性呼吸障害、集中治療における理学療法を含む急性呼吸障害、脳損傷や脊髄損傷に対する呼吸理学療法の評価方法および治療手段</p> <p>(212 出羽仁/1回) 臨床工学技士の立場から急性呼吸障害で用いられる人工呼吸器などの治療機器</p> <p>⑤ 森下慎一郎/3回) 代謝障害に対する理学療法について合併症への対応や患者教育</p> <p>(15 佐藤聡見/5回) 心筋梗塞、急性・慢性心不全、肺高血圧症などに対する理学療法</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学療法治療学	発達障害理学療法学 正常発達を理解し、脳性麻痺をはじめ発達障害を呈する代表的な小児疾患の障害像を学び、療育について考える。本科目では、発達障害児に対する理学療法の考え方、および療育における理学療法の役割を理解できるよう教授する。内容としては、正常運動発達や小児における理学療法評価、脳性麻痺のタイプ別分類と理学療法、各種痙性治療と装具の役割、各種疾患として筋ジストロフィー症や先天性神経筋疾患、染色体異常、整形外科疾患、低出生体重児、発達障害児の特徴などを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (206 小野洋子/1回) 低出生体重児、小児集中治療における理学療法 (⑧ 楠本泰士/8回) 発達障害理学療法総論、脳性麻痺の理学療法、重症心身障害児・者の理学療法、筋ジストロフィーの理学療法、発達障害児の理学療法 (⑧ 楠本泰士、⑩ 高橋恵里/6回) (共同) 正常運動発達、小児の理学療法評価、脳性麻痺のタイプ別特徴	オムニバス方式・共同 (一部)
			発達障害理学療法学演習 本科目では、発達障害理学療法学を基に、発達障害理学療法に必要な基本的評価方法および治療手段が実施できるよう教授し、演習する。内容としては、正常運動発達と原始反射の知識を基に、発達の遅れたお子さんの問題点を抽出できるように演習を行う。また、小児における理学療法評価を実践し、脳性麻痺のタイプ別、粗大運動レベル別の治療戦略の立案や、各種痙性治療後の理学療法、各種疾患として筋ジストロフィー症や先天性神経筋疾患、染色体異常、整形外科疾患、低出生体重児、発達障害児に対する評価と治療を学ぶ。	共同
			老年期理学療法学 75歳以上高齢者の増大にともない、理学療法の対象者は、疾病に加えて老年期の特性を抱えていることが多い。加齢にともなう生理、運動、精神心理の変化と高齢者の身体的特徴、認知・精神的な特徴を理解する。特に老年症候群(サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、低栄養、摂食・嚥下、尿失禁、認知症、うつ、睡眠障害、せん妄、転倒など)の基礎知識とそれに対する理学療法を教授する。また、高齢者の生活機能を全般的に評価する方法についても学修する。	
			老年期理学療法学演習 老年期理学療法学で学修した知識に基づき、加齢にともなうサルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドロームなどの運動機能の評価を実習し、それぞれに対する理学療法を考える。また、加齢によって生じやすい多種多様な障害を体験できる高齢期疑似体験システムを装着し、関節拘縮、片麻痺、聴覚障害、視覚障害における起居移動動作、日常生活動作、手段的日常生活動作などを体験し、それぞれの生活機能障害の特性、それに対する対応策、理学療法士が配慮すべき安全管理を理解する。	共同
			日常生活動作分析援助学 種々の障害によって低下した日常生活動作能力の視点から分析して援助する方法を理解することを目的とする。内容としては、ADLの概念、ADLとICF、ADLとQOL、理学療法経過の時期別ADL評価の意義、ADLの基本動作分析の位置づけ、ADLの評価尺度、各種ADL評価、移動補助具(杖、松葉杖、歩行器、歩行車)の種類と適応、車椅子の種類と構造、車椅子操作、シーティング、福祉用具の種類と機能。移動、就寝に関する福祉用具、排泄、入浴に関する福祉用具などを学修する。	
			日常生活動作分析援助学演習 日常生活動作分析援助学での学修に基づき、種々の障害に対する具体的な援助方法を習得することを目的とする。日常生活活動において必要な動作全般を分析し指導できるように実技練習を通して学修する。内容としては、運動器疾患のADL(人工関節全置換術後のADL、切断のADL、関節リウマチのADLなど)、中枢神経疾患のADL(片麻痺のADL、神経難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症)のADLなど)、脊髄損傷のADLについて適宜障害増を設定して実技練習を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治療 学	痛みに対する理学療法学	<p>痛みは老若男女、疾患を問わず共通した訴えであり、医科学の広範領域に関連することから、世界的にも「疼痛医学」として一学問領域が確立されてきている。我が国においても医学、理学療法学、他各種医療専門分野においてカリキュラム化されつつある。痛みに対する理学療法学では、まず痛みが発生するメカニズムを理解し、さまざまな病態にあわせたアセスメントとマネジメントについて学ぶ。運動療法は、痛み、特に慢性疼痛に対する有用な治療法であることが判明しており、exercise-induced hypoalgesia (EIH) と行った鎮痛メカニズムが報告されている。治療についてもメカニズムに基づいて行う必要があることを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>① 矢吹省司／12回 痛みの概念、急性痛のメカニズム、慢性痛のメカニズム、痛みのアセスメント、痛みのマネジメント</p> <p>⑬ 小俣純一／1回 痛みのアセスメント</p> <p>(214 小幡英章／1回) 痛みのメカニズム</p> <p>(181 松原貴子／1回) 痛みのマネジメント</p>	オムニバス方式
			痛みに対する理学療法学演習	<p>痛みは老若男女、疾患を問わず共通した訴えであり、医科学の広範領域に関連することから、世界的にも「疼痛医学」として一学問領域が確立されており、我が国においても医学、理学療法学、他各種医療専門分野でもカリキュラム化されつつある。しかし、痛みの実際の評価や治療としての運動療法の意義や効果に関する演習は行われていない。本演習では、痛みが発生するメカニズムの理解を深め、さまざまな病態にあわせた評価と治療としての運動療法のメカニズムと実際の運動療法の方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>① 矢吹省司／2回 急性痛と慢性痛、内因性鎮痛機構</p> <p>① 矢吹省司、⑬ 小俣純一／10回) (共同) 痛みの計測、中枢性感作、痛みのアセスメントの実際、Exercise induced hypoalgesia</p> <p>(214 小幡英章、122 中野裕子／2回) (共同) 下行性抑制の機序、下行性抑制の評価</p> <p>(181 松原貴子／1回) まとめ：痛み診療における理学療法士の役割</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目 理学療法治療学	予防理学療法学	<p>理学療法の目的を予防・治療・参加の3つに大別したときに、参加を阻害する疾病や障害の予防を学習する。高齢者に対する介護予防を目的とした転倒、廃用症候群、認知症の予防理学療法について学ぶ。また、生活習慣病、糖尿病、脳血管障害、心疾患、呼吸器疾患、整形外科疾患などの疾病の発症および再発予防の理学療法を学ぶ。さらに、スポーツや労働災害による傷害予防、メンズヘルス・ウィメンズヘルスの基礎を学び、予防理学療法の役割を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑥ 横塚美恵子/4回) 予防理学療法の定義、転倒、廃用症候群、認知症の予防理学療法</p> <p>(12 岡崎可奈子/3回) 生活習慣病の予防理学療法、糖尿病の再発、住民主体の予防</p> <p>⑬ 小俣純一/1回) 労働災害(腰痛)の予防理学療法</p> <p>(⑦ 阿部浩明/1回) 脳卒中の予防理学療法</p> <p>(15 佐藤聡見/1回) 心疾患の予防理学療法</p> <p>(⑤ 森下慎一郎/1回) 呼吸器疾患の予防理学療法</p> <p>(② 神先秀人/1回) 整形外科疾患の予防理学療法</p> <p>(⑩ 遠藤康裕/1回) スポーツ傷害の予防理学療法</p> <p>(184 山本綾子/2回) メンズヘルス・ウィメンズヘルスの予防理学療法</p>	オムニバス方式
		予防理学療法学演習	<p>予防理学療法学での学修を基に、疾病の再発予防、傷害予防、介護予防における教育啓発活動に主眼を置いた理学療法について、実践例をとおして企画、立案、運営の一連の過程を学ぶ。また、グループワークの演習を実施し、疾病の再発予防、傷害予防、介護予防のそれぞれの対象者の目的に応じた理学療法の教育啓発活動を、安全管理に配慮しながら実施できるように企画立案する。立案した活動のプログラムを模擬的に実施し、実践能力を養う。</p>	共同
		がん理学療法学	<p>がんは死亡原因の1位であり、治療の進歩とともにがんサバイバーは500万人を超えている。 ”がんと共存する時代” に対応したリハビリテーションと理学療法について理解することを目的に、がんと障害、がんの治療過程での障害、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植と理学療法、周術期の理学療法、緩和ケアと理学療法などについて、多職種連携も含めて教授する。授業は講義とグループワーク、発表と討論などで行う。</p>	
		がん理学療法学演習	<p>がん理学療法学での学修を基に、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植などの治療下で(クリーンルームを含む)理学療法を実施する方法を演習する。また、周術期のICUでの理学療法などの理学療法について演習する。さらに術後リンパ浮腫に対する理学療法や緩和ケア病棟での理学療法や在宅での理学療法実践についても学ぶ。また、肺がんや白血病のペーパー・ペイシェントを用いた臨床推論とプログラム立案についてグループワークによる演習と発表・討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 森下慎一郎/13回) がん理学療法の実践応用、疾患別がん理学療法、クリーンルームでの理学療法の実践、緩和ケアと理学療法の実践、がんサバイバーの体験談と理学療法</p> <p>(173 山本優一/2回) リンパ浮腫に対する理学療法の実践</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	理学 療法 治 療 学	スポーツ理学療法学	<p>スポーツ外傷・障害の病態を理解し、主要な疾患に対する理学療法を理解すること、また障害者スポーツに対する理学療法を理解することを目的とする。内容としては、スポーツ外傷・障害の病態、スポーツ外傷の応急処置、スポーツ障害の予防、地域での中高生へのスポーツ支援、スポーツの特性に応じた運動療法、競技復帰への支援、プロスポーツチームでの理学療法、障害者スポーツの支援、他のスポーツ関連職種との協働と連携、海外でのスポーツ理学療法などについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑩ 遠藤康裕/9回) スポーツ理学療法の概要、スポーツ外傷・障害の理学療法、海外におけるスポーツ理学療法</p> <p>(183 服部和彦/2回) プロスポーツチームにおける理学療法</p> <p>(169 松尾洋平/2回) 障害者スポーツの支援</p> <p>(207 嶋原智彦/1回) 地域における中高生スポーツ支援</p> <p>(208 野村潤/1回) 障害者スポーツ支援における理学療法</p>	オムニバス方式
			理学療法発展領域論	<p>理学療法および関連分野において、比較的新しくかつ急速に発展が認められる領域に焦点を当て、先端の知識や治療技術を学ぶことを目的に教授する。内容としては、ロボティクスと理学療法、産業保健理学療法、精神神経領域の理学療法、特別支援教育と理学療法、動物への理学療法、基礎研究における理学療法士の可能性、行政機関における理学療法士の可能性、福祉工学と理学療法などについて教授する。最後に理学療法の発展領域に関する学生の思いを発表しディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(170 安永好宏、189 鈴木一恵/2回) (共同) ロボティクスと理学療法</p> <p>(185 佐藤友則/2回) 産業保健と理学療法</p> <p>(186 仙波浩幸/2回) 精神・心理領域の理学療法</p> <p>(188 竹田智之/2回) 特別支援教育と理学療法</p> <p>(187 野口裕美/2回) 動物に対する理学療法</p> <p>(190 坂本美喜/2回) 基礎研究における理学療法士の可能性</p> <p>(197 田上未来/2回) 行政機関における理学療法士の可能性 福祉工学と理学療法</p> <p>③ 高橋仁美/1回) 理学療法発展領域に関するディスカッション</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	地域 理学 療法 学	地域理学療法学	<p>地域リハビリテーションの概念とその一翼を担う理学療法の役割について学ぶ。そのために、地域リハビリテーションの歴史と定義、ノーマライゼーションについて学び、各病期における理学療法士に求められる役割を考える。また、障害者や高齢者に関する関連法規を学び、理学療法を提供している介護老人保健施設、訪問リハビリテーションにおける一連の理学療法を教授する。さらに、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを支援する視点を広げて、地域包括ケアシステム、災害、国際支援における理学療法士の役割についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(◎ 横塚美恵子/26回) 地域リハビリテーション、関連法規、介護老人保健施設および訪問リハビリテーションにおける理学療法、地域ケアシステム</p> <p>(191 斉藤秀之/2回) 災害時の理学療法</p> <p>(192 桂理江子/2回) 国際支援における理学療法</p>	オムニバス方式
			地域理学療法学演習	<p>地域理学療法学で学修した知識に基づき、地域での理学療法を実践する能力を修得することが目的である。生活期に視点を置き、各障害（廃用症候群、脳血管障害、骨関節疾患、神経障害、呼吸・循環障害）の生活機能障害に対する理学療法を考える。また、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションにおける理学療法の取り組み、その効果、今後の課題について、演習をとおして考える。また、生活環境整備の知識を深めるために、障害に応じた福祉機器や住環境整備を考える。</p>	共同
		臨床 実習	基本的臨床技能演習	<p>本科目は臨床実習Ⅲ～Ⅴに必要な基本的臨床技能について演習を行い、学生が必要な評価・治療技術を習得しているか判定することが目的である。内容としては、情報収集、医療面接、標準予防策、バイタルサイン計測、基本的検査測定技術（身体計測、徒手筋力検査など）、臨床観察による動作分析、移乗動作、起居動作などについて総合的な演習を行い、最後にこれらを統合した基本的客観的臨床能力試験（Basic Objective Structured Clinical Examination）を実施する。</p>	共同
			応用的臨床技能演習	<p>本科目は臨床実習Ⅲ～Ⅴ終了後に、臨床技能が理学療法士養成教育終了時に獲得しているべき水準に到達しているか判定することを目的とする。内容としては、臨床実習の症例発表、医療面接、バイタルサイン計測とリスク管理、基本的検査測定技術、移乗動作、起居動作、歩行練習、診療記録記載などについて総合的な演習を行い、最後に応用的客観的臨床能力試験（Advanced Objective Structured Clinical Examination）を実施する。</p>	共同
			臨床実習Ⅰ	<p>臨床実習Ⅰでは、病院等における理学療法の実際を見学・体験することで医療における理学療法の役割を理解する1週間の見学実習である。また、対象者や家族への基本的な関わり方や実習学生としての適切な態度を学ぶ。実習施設等の規則を遵守することや、個人情報の適切な管理、臨床実習指導者や他のスタッフとの信頼関係を築くために態度や行動についても学ぶ。主な実習内容は、実習施設の各部門の見学、理学療法場面の見学、さらに診療参加型実習として医療面接や評価の一部の経験などである。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部理学療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	臨床 実習	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅱでは、理学療法の対象疾患の症状や障害の理解と基本的評価手技の体験を目的とし、主に専任教員の指導で実施する。内容としては、患者接遇の経験、医療面接の一部（病歴や主訴の聴取など）の経験、バイタルサイン測定、基本的評価手技の一部（身体計測、ROM、MMTなど）の経験などを実施する。2年次通年で、隔週で3時間、計15回の臨床実習を附属病院や近隣の臨床実習病院で、専任教員および附属病院等の実習指導者のもとで診療参加型実習として行う。	
			臨床実習Ⅲ	臨床実習Ⅲは理学療法の対象者の評価を実施する能力を習得することを目的とする評価実習である。内容としては、理学療法の代表的な対象疾患で典型的な症状や障害を呈する症例に対して、臨床実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、必要な検査測定を選択して実施し、問題点を把握する。また、評価結果の適切な記録方法や報告についても学ぶ。4週間の臨床実習施設での実習とし、専任教員は実習期間中に適宜訪問し、学生指導と実習指導者との調整に当たる。	
			臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅳは理学療法の対象者の評価を行い、治療計画を立案し、治療を実施する能力を取得することを目的とする7週間の総合実習である。臨床実習施設において、実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、代表的な疾患に対して評価および治療を経験する。この過程で治療プログラム立案も経験し、臨床的思考過程を学ぶ。また、対象者のリスクを把握し、指導者の助言を仰ぎながらリスクへの配慮や管理についても学ぶ。専任教員は実習期間中に適宜訪問し、学生指導と実習指導者との調整に当たる。	
			臨床実習Ⅴ	臨床実習Ⅴは臨床実習Ⅳに引き続き行われる、対象者の評価を行い、治療計画を立案し、治療を実施する能力を取得することを目的とする7週間の総合実習である。実習指導者の指導のもとで診療参加型実習として、代表的な疾患に対して評価および治療を経験する。この過程で治療プログラムの立案も経験し、臨床的思考過程を学ぶ。さらに症状、治療結果や経過に合わせて適切にプログラムを変更することも経験する。専任教員は実習期間中に適宜訪問し、学生指導と実習指導者との調整に当たる。	
			地域理学療法実習	地域に在住している理学療法の対象者に、活動や参加に視点を置いた生活機能の評価を実施し、それらに影響を及ぼしている因子を整理して、改善の可能性の有無を判断する。生活機能の改善を促すために、理学療法士としての知識や技術の提供を行う一連の過程を理解する。訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションの見学および理学療法の体験をとおし、実習指導者の助言と指導のもと、対象者の生活機能に対する理学療法の過程を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>大学入学直後に、正しく学修に取り組み、その成果を実社会で活かす能力を身につけるための基盤をつくるとともに、医療を学ぶ上で必要となる心構えを養う。専門医療技術者になるために必要となる修学内容について把握し、医療を通じた社会貢献について学修する。大学生として学修する上で必要な知識やスキルについて学ぶ。最後に、ともに学ぶ学生間でのプレゼンテーション、学生同士や教員とのディスカッションを行い、コミュニケーションの重要性を学ぶとともに4年間の学びのビジョンを明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑳ 矢吹省司/1回 「大人の学び」基礎講座（我々は何を学び何をを目指すのか）</p> <p>㉑ 高橋仁美/1回 社会人になるまでに学ぶこと</p> <p>㉒ 小川一英/1回 医療人として働くために学ぶこと</p> <p>① 五百川和明/1回 コミュニケーションによって医療人は何をどう活かすのか</p> <p>㉓ 亀岡弥生/1回 チームによる課題解決を学ぶ</p> <p>㉔ 豊川真弘/1回 自ら学ぶことの意義</p> <p>② 林博史/1回 医療・医学</p> <p>㉕ 北爪しのぶ/2回 研究・論文、男女共同参画</p> <p>㉖ 久保均/1回 インターネット・リテラシー</p> <p>⑨ 本多創史/1回 生命倫理</p> <p>⑳ 矢吹省司、㉑ 高橋仁美、㉒ 小川一英、① 五百川和明、㉔ 豊川真弘、② 林博史、㉕ 北爪しのぶ、㉖ 久保均/4回（共同） 修学基礎セミナー学修に関するグループワーク</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	修学基礎セミナー		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	初年次科目	<p>東日本大震災と福島第一原発事故後の福島の現状を学ぶ。福島の歴史、特に日本史上で、福島県が主要な舞台となった出来事（戊辰戦争、奥羽仕置、奥州合戦など）について学ぶ。また、福島県を構成する浜通り・中通り・会津という3つの地域の自然環境や暮らしの特徴について学ぶ。福島県立博物館で実際に歴史や文化に触れる。さらに福島県の芸術や食文化について学ぶ。福島の歴史や文化、そして現状を理解し、今後福島県はどのように進んで行く必要があるかを学ぶ時間とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>② 矢吹省司・136 開沼博/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(136 開沼博/5回) 福島県の現状、3.11までの福島、福島の今後の展望</p> <p>(137 阿部綾子/1回) 福島県の歴史</p> <p>(138 内山大介/1回) はま・なか・あいつの地域性</p> <p>(139 高橋充/2回) 福島県の歴史と文化</p> <p>(140 堀宜雄/1回) 福島県の近代美術概観</p> <p>(141 増渕鏡子/1回) 福島出身の作家や美術</p> <p>(142 橋本恵里/1回) 福島出身作家や美術コレクション</p> <p>(143 平出美穂子/1回) 福島の食文化</p> <p>(144 鈴木賢二/1回) 福島の食文化</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	福島県を知る		
	ライフデザイン		自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の理念である「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する。」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生を充実させるためにできること、手立てをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法をグループで学びあい、集団討議させることで、より確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。
自然科学系科目	数学 I	現代の科学はすべて数学を基礎として成り立っている。数学は、生物学、経済学、医学、医用工学などへの応用に非常に有力である。大学1年生で学ぶ「微分積分学」と「線形代数学」は数学の概念の中でも最も重要な基礎である。また、これから多くの数学以外の専門科目を学ぶうえで必要となってくる。この授業では、「微分積分学」の中の「1変数の微分」と「線形代数」の中の「行列と1次変換」の概念を理解し、基礎的な計算力を身に付ける。	共同
	数学 II	多くの自然現象を記述する方程式として、微分方程式がある。微分方程式を解くことによって物体の運動の実態などを明らかにすることができる。現象を見てそれを支配する法則を微分方程式モデルに表現することは、それを解くことと同じく重要である。微分積分学は、自然現象や社会の仕組み、工業技術に関することがらを解明するときには必要不可欠である。この授業では「微分積分学」の中の「1変数の積分」と「微分方程式」の中の「常微分方程式」の概念を理解し、簡単なモデルの解法を学習する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	自然科学系 科目	応用数学	<p>複数の要因によって生起する自然現象を理解するには「多変数の微積分学」の概念が必要となる。複数の要因の変化が動的に現象に影響を及ぼしているモデルを記述する道具が「偏微分方程式」であり、偏微分方程式を解析するためのツールが「フーリエ変換」と「ラプラス変換」の理論である。「フーリエ変換」はMRI、X線コンピュータトモグラフィ(CT)、陽電子放射型コンピュータトモグラフィ(PET)などの医用イメージングの理論や医用画像処理など様々な分野で非常に重要な役割を果たしている。</p> <p>この授業では、多変数の微積分学、フーリエ変換、ラプラス変換の基本的な考え方を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊸ 安達隆/5回) (共同) 偏導関数、連鎖律、合成関数の偏導関数の計算、重積分の定義、重積分を用いて立体の体積計算、偏微分の応用、重積分の応用</p> <p>(㊸ 安達隆/10回) ラプラス変換、フーリエ変換</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		統計学	<p>医療における統計学の意義は、大きくわけて3つある。1つは、現状を把握することである。例えば、胃がん死亡数は減ってきているか、この病気はどのようなサブタイプに分かれるか等は、記述統計を使って把握することができる。2つめは、予測することである。例えば、検査が陽性のときの発症確率、薬が効く確率等は、推測統計を使って予測することができる。3つめは、因果関係を示すことである。例えば、たばこを吸うと肺癌になりやすくなる、この薬を使ったら病気が治る確率が高くなる等である。とくに因果関係を示すことは難しく、バイアスを除いて正しくデータを観測し、交絡を除いて原因と結果の関係を正しく評価する必要がある。統計を使って、研究と診療におけるデータの特徴を導き出し、分析する能力を身に付けることが必要である。この授業では、記述統計、推測統計(推定・検定)の基本的な考え方を身に付ける。</p>	
		情報処理	<p>大学で学び、社会に出て行くためにコンピュータやネットワークの理解と活用法の習得は必須である。本科目ではコンピュータとネットワークによる基本的な情報処理の仕組みと活用法を理解するとともに、コンピュータ・リテラシーを高める。また、ソフトウェアの機能、役割、構成などを理解してその活用法を実践的に学ぶとともに、データの扱い方や情報セキュリティの基本、情報倫理・関連法制度を知ることで、医療技術者として必要な情報処理に関する基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊸ 安達隆/5回) (共同) コンピューター・ネットワークに関して、情報セキュリティ、情報倫理</p> <p>(㊸ 柴田恭子、㊸ 安達隆、田代雅実/10回) (共同) ソフトウェアのインストール、データベースの活用、オフィススイートの活用、科学計算ソフトウェアの活用</p>	オムニバス・共同 (一部)
		化学 I	<p>専門科目を学ぶ上で必要となる化学全般(主に無機化学、有機化学)の基礎的な知識を身につける。化学は、物質を基本とした学問なので、まず物質を構成する原子の構造、原子間の結合、物質の量的取り扱いについての基本的な事項を学習する。その後、個々の元素(非金属元素、金属元素)の性質について学び、無機化合物に関する理解を深める。また、酸と塩基、酸化と還元の本質について理解する。そして、生体を理解する上で重要な有機化学については、官能基の特徴に基づいて個々の化合物の性質を学ぶと共に、それらの反応を理解する上で基盤となる知識を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	自然 科学 系 科目	化学Ⅱ	化学Ⅰで学んだ知識を基盤として、専門科目を学ぶ上で必要となる物理化学、分析化学の基礎的な知識を身につける。まず、反応速度と化学平衡の概念を理解し、溶液の性質について学ぶ。その後、化合物を分析する上で重要となるデータ処理の手法について学んだ上で、基礎的な検出、定量法について、滴定を中心に学習する。そして、分子分光分析法、原子分光分析法、質量分析法、核磁気共鳴分光法について、その原理を理解する。また、混合物の分離分析に利用されるクロマトグラフィーおよび電気泳動の原理について学ぶ。	
		生物学Ⅰ	医療を志す者にとって、基本的な生物学の知識は最も重要な素養の一つである。本講義では、生物学の発展に寄与した重要な発見の歴史に触れることで先人たちの努力によって蓄えられてきた知識の重みを感じながら、すべての生物に共通な特徴（細胞、組織、エネルギー代謝、呼吸、情報伝達、遺伝）について系統的に学習し、生物の有する普遍性と特殊性について理解する。最後に生物の多様性と進化をもたらしている生物の可塑性を考察することで、生物のダイナミズムに触れる。	
		生物学Ⅱ	本講義では、個体を構成している細胞の構造と機能について、細胞生物学・分子遺伝学・分子生物学の面から基本的原理を学ぶことで、生物の持つシステムティックな機構について理解する。また、最新の生物学的知見や技術を紹介し医療との関連についても学ぶことで、生物学の基礎的な発見がどのように医療へと応用されていくのかを学ぶ。最後に、分子レベル、細胞レベルにおける人体の防御機構（放射線に対する防御機構も含む）を学ぶことで、生物がどのように外部からのストレスに応答し、守っているのかを理解する。	
		物理学Ⅰ	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、物質が関与する現象は物理学の原理にしたがっていることが考えられる。また、医療の現場では多くの医療機器に満ちており、これらの医療機器は物理学の原理にしたがって作動している。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では力と運動、電磁気、原子と原子核に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、力と運動では、力のつり合い、質点の運動、質点系と剛体の力学、相対性理論について学ぶ。電磁気では、静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導と交流、電磁波について学ぶ。最後に、原子と原子核では、電子、原子、原子核、放射線について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(85 反町篤行/10回) 物理学の基本的な考え方、力と運動、原子と原子核</p> <p>(90 五月女康作/5回) 電磁気</p>	オムニバス方式
		物理学Ⅱ	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に関して物質が関与する現象、医療の現場では使用されている医療機器は物理学の原理にしたがっている。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では物理学Ⅰで習得した物理学の知識を基盤として、弾性体と流体、振動と波動、温度と熱に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、弾性体と流体では、固体の変形、静止している流体、運動している流体について学ぶ。振動と波動では、振動、波動、音波、光学、について学ぶ。最後に、温度と熱では、熱現象、熱力学、分子運動論、熱力学の応用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(85 反町篤行/8回) 弾性体と流体、温度と熱</p> <p>(117 大森康孝/7回) 振動と波動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	自然科学系科目	<p>自然科学（物理学、化学、生物学）に関する実験を通して、各科目への理解を深めることを目的とする。各分野においていくつかのテーマに関連した実験を行い、得られたデータの解析・分析の仕方、実験レポートの書き方などを身につける。</p> <p>物理学実験では、単振り子、プランク定数、放射線計測に関する実験を行い、基本的な実験機器の扱い方を身につけるとともに、物理学の基本法則や考え方などを確認、理解する。</p> <p>化学実験では、中和滴定、メチルオレンジの合成、アスピリンの合成を行い、基本的な薬品および実験器具の扱い方を身につけるとともに、化学反応に対する知識を深める。</p> <p>生物学実験では、タンパク質の呈色反応、染色体標本の作成と観察、マウスの解剖と観察を行い、基本的な生物実験の実験器具の扱い方、顕微鏡を用いたサンプルの観察方法、解剖手法の基本を身につけ、生物資料の性質、形態、構造などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(85 反町篤行、49 佐々木道子、84 有吉健太郎/3回) (共同) ガイダンス、実験の説明、レポートの作成方法の指導</p> <p>(85 反町篤行/3回) 物理学実験(単振り子)</p> <p>(117 大森康孝/3回) 物理学実験(放射線計測)</p> <p>(90 五月女康作/3回) 物理学実験(プランク定数)</p> <p>(49 佐々木道子/9回) 化学実験</p> <p>(84 有吉健太郎/9回) 生物学実験</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)	
	人文・ 社会科学系科目	コミュニケーション論	<p>将来の医療専門職としての活動を見据え、相手の立場を理解し、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルを学ぶ。具体的には、心理学、行動科学的エビデンスに基づいて、1) 情報の受け取り方の個人差への理解を深め、2) コミュニケーションの土台となる非言語的なスキルや傾聴・共感のためのスキル、3) 情報を他者に適切に伝えるスキル、4) 患者主体の意思決定を支えるスキル、5) 他者の行動変容を支えるスキルを学び、患者の行動選択における医療従事者の役割を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(118 竹林由武/2回) コミュニケーションスキル、人間の情報処理過程とバイアス、リスク認知</p> <p>(118 竹林由武、127 青木俊太郎、232 松本貴智/8回) (共同) 非言語コミュニケーション、傾聴・共感のスキル、</p> <p>(127 青木俊太郎、118 竹林由武/5回) (共同) 医学情報を伝えるスキル、共同的意思決定、行動変容を支えるコミュニケーションスキル</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		言語と社会	<p>この授業は社会言語学の入門クラスで、言語と社会の関わりについて様々なテーマを扱う。言語が個人間、コミュニティ、社会での情報発信にどのような役割を果たしているのかを世代別、性別、異文化交流、マンガアニメの言語などを通じて学ぶ。また、各回で扱う言語のテーマが私たちとどう関わっているのかを知ること、将来医療現場や実生活で円滑なコミュニケーションを図り、他者をより理解するための言語スキルと知識を身につける。さらに、言語にまつわる体験談や疑問も共有し、クラス全体で共に考えていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	人文・ 社会 科学 系 科目	人間関係論	主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究する。 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになることを目指し、1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。以上の力を培っていただけるように、講義やワークショップを展開する。	
		哲学	人間は人間であるかぎり、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことである。この授業では、そうした「とことん考え抜く」営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになる端緒を提供する。「知らないということを知っていること（無知の知）こそ最上の知である」とするソクラテスの洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついていると思うからである。西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指す。	
		心理学	心理学は、「こころ」やそれに関連する非常に幅広い事象について考えてきた学問である。例えば、知覚、記憶、認知、学習、感情、性格、動機づけ、発達（新生児期～老年期まで）、対人行動、集団（集団内、集団間）、組織、文化、健康、心理的支援など、非常に幅広い領域が心理学の研究対象となっている。この授業では、心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」とそれに関連する事象の特徴や仕組みについて、心理学の視点からどのように理解するかについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (47 三澤文紀/5回) 知覚、性格・知能、動機づけ、ストレスの心理、ストレスと臨床心理 (125 井口善生/3回) 脳と心 (145 藤岡理恵子/2回) 発達 (207 小林智之/5回) 社会心理	オムニバス方式
		倫理学	本講義では、倫理的な判断を下す際に、合理的に思考するとはどのようなことなのかを学ぶ。はじめに、基礎的な概念や方法について学び、その後、複数の事例を学生とともに検討することを通じて合理的に考える実践的なトレーニングをおこなう。具体的には、まず、カントの義務論とミルやベンサムなどの功利主義との違いについて学び、それらと対比する形で徳倫理学についても学ぶ。さらに権利論について紹介する。これらによって基礎概念を身につけたあと、法と道徳との関係、正の理論と善の理論との関係について具体的な事例を基に学ぶ。また近年のリベラリズムの思潮について紹介する。最後に、医療資源配分の問題についてグループワークをおこない、学生が主体的に考え発表する機会を設ける。	
		文学	日本の近代（明治、大正時代）から現代（昭和時代）にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を読むことによって、歴史的・文化的な背景をも学び、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力を養う。また、講義のなかでは、何回かは文学と命、病気、介護の在り方、公害の問題など、医療との接点の問題も扱う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文・社会科学系科目	歴史と社会	この講義は、思想史の観点から維新前後の歴史を学び、概説から はうかがい知ることのできない歴史像を提供する。医療系の学部学 生向けであるから、知識の習得よりも、当時の人々の思索の跡を 辿って先人とともに考えることを優先し、学生の自ら考える力を育 成する。 維新前後の人口数と現代のGDPの比較から、過去も現在も、他国か ら日本は大国に見えていた／いる事実を確認し、維新前後の問題を 考えることは今の問題を考えることにつながると示唆する。徳川社 会と朱子学との間にあった懸隔を知り、当時の人々が何に苦悩した のかを想像し、他者の身になってモノを考える力を養成する。伊藤 仁斎とT. Hobbesの思想を比較し、その相違を説明できる力を育成す る。荻生徂徠や本居宣長の思想を取り上げ、「御武威」から「皇 威」へと権威が移動していく様を跡づける。最後に福沢諭吉や中江 兆民の思想、アジア主義などを取り上げ、他国との関係構築につ いて思索を深める。	
	死生観	死生観とは、生と死に関する考察である。この授業では、古今東 西の宗教（仏教・儒教・神道・キリスト教・イスラム教など）が人 間の生や死にどのように向き合ってきたかをふりかえり、そのさま ざまな考察について、現代に生きる私たちの参考となるような形で 提示する。 死と生についていろいろな資料を読み、受講者同士も意見を交わ しながら多角的視点でこの問題について考える。そして、自分な りに積極的に死生観について考える姿勢を養うことにより、生と死 に向き合う医療職の営みにも参考になる授業を目指す。	
	福島県の医療環境	福島県は総面積が広く、7地域（相双・いわき・県北・県中・県南・ 会津・南会津）に分かれており、地域別の特色がある。南会津地域 は高齢化が顕著であり、相双地域は東日本大震災に伴う原発事故後 に避難指示区域の状況が長期間続いたことにより、医療インフラが 不十分である。この科目では、東日本大震災とはどのような震災 だったのかとその影響について学ぶ。さらに各地域での医療環境の 特徴について理解する。これらをもとに福島県で専門医療技術者が 今後、どのようなことを担っていけるのかをグループワークによ って議論し、発表する。 (オムニバス方式/全15回) (35 葛西龍樹/1回) 総論及び地域医療・へき地医療 (38 長谷川有史/1回) 災害時・後の医療への影響 (20 大平哲也/1回) 福島県の疾病罹患動向 (154 佐竹秀一/1回) 南会津過疎医療の現状 (155 小野田修一/1回) 災害後の医療の現状 (㊦ 矢吹省司、130 佐藤聡見、㊥ 澄川幸志、89 佐藤久志、133 三 浦里織/10回) (共同) 災害関連機関への見学実習、見学実習に関するグループワーク (※ 128 岡崎可奈子は令和4年度まで担当する) (※ 130 佐藤聡見は令和5年度から担当する)	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	社会福祉学	社会福祉を学ぶためには、人間や社会への深い認識や、広い視野 を有すると同時に、社会福祉についての体系的・総合的な学びが 求められる。さらには理論的な学びとともに、できるだけ人々の生 活の現実や実態に触れることが大切である。 本講義では、社会福祉実践は、国民一人一人が抱える具体的な生 活課題にあることから、社会福祉の基本である、国民の生活と健康 を保障するための支援についての原理・原則・体制などの原論と 様々な福祉制度・システムと医療連携について、特に近年メイン ストリームとなっている地域福祉の視点からの総理解をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文・社会科学系科目	人間と教育	医療現場において患者および家族教育や支援は治療上重要な事項である。また職場における新人や臨床実習学生への教育など、教育学に関する知識は医療専門職にとって必須である。本科目では、医療専門職に必要な教育学の原理について教授する。 内容としては、教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向などにも触れる。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。	
		日本国憲法	当該授業では、日本国憲法の基礎知識及び判例につき講義していく。前半では基本的人権に関し、享有主体性や各人権の内容を理解し、具体的事案や判例を検討する。後半では、日本の統治機構に関し、条文を引用しながら講義を行う。日本国憲法の基礎知識を身につけるだけでなく、事例や判例の検討を通じて、未知の法律問題に直面した場合に合理的な結論を導き出せる法的思考力を養うことも目標とする。授業形態は講義形式であるが、学生同士での議論の機会も設け、学生が自ら考え、結論を導き出すプロセスも重視していく。	
		国際関係論	本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視点と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル(global+local)」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダークツーリズム」などのテーマを取り上げる。	
		ジェンダー・セクシュアリティ論	ジェンダー／セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄（性別、性差、性欲、性行為など）について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー／セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー／セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。	
外国語科目	英語 I A	英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、個々の場面において英語で効果的なコミュニケーションを図るための基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills(speaking & writing) の向上を図る。また、話し相手や状況にふさわしいポライトネスと英語表現を選択し、円滑なコミュニケーションをとれる力を養う。		
	英語 I B	英語 I Aに引き続き、英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、ディスカッションスキルやジャンルを考慮したライティングスキルの基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills (speaking and writing) の向上を図る。また、グループワークでは、参考資料を正しく選択し、著作権等を遵守することを学ぶ。		
	英語 II A	医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	外国 語 科 目	英語ⅡB	英語ⅡAに引き続き、医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、円滑なコミュニケーションに使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。
	英語Ⅲ	医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体（箇条書き等）を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。	
	ドイツ語	グローバル化している世界の中で、私たちがまずしなければならないことは世界がどのように動いているかを知ることである。この授業では、この視点に立って、明治時代以降、医学、哲学、法学、教育等多方面で日本と関係を持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語を公用語とする国々について学習する。 なお授業の基本となるドイツ語の学習においては、ドイツ語でコミュニケーションを行うのに必要な「聞き、話し、読み、書く」能力の習得をめざすが、限られた授業時間数も考慮し、得意基本的なことがらをゆっくりとていねいに学習する。	
	フランス語	この授業は会話中心である。フランス語はどのような言葉か、フランスやカナダがどのような国かを学習することが第一目標である。単語の勉強が多いですが、文法は軽い。その他、フランス人の食文化やバカンスの取り方と楽しみ方などのトピックディスカッションもある。初めてフランス語を学習するために、直ぐに使えるフランス語を覚える上で「楽しい」、「面白い」という授業をする。	
	中国語	中国語の発音、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを活用して、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を培う。具体的な学習目標として、以下の5点の修得をめざす。(1) ピンイン（拼音：中国語で音節を音素文字に分け、ラテン文字化して表記する発音表記体系）を付した語彙や短文の正確な発音、(2) 基礎的な語彙や短文を正確に聞き取り簡体字とピンインで書き取ること、(3) 平易な日常会話、(4) 平易な作文、(5) 中国の文化、社会に対する初歩的な理解及び、中国への知的関心を持つととする態度を身につけること。	
	スペイン語	この授業では、ビデオ教材、ゲーム、音楽、映画、美術を使用した様々な教室活動を通してスペイン語の基礎を学ぶ。自己紹介の仕方、人と知り合う表現（名前、出身地、年齢、家族、大学、趣味等を聞いたり話したりする）、文法項目としては主語とser動詞、場所を表すestar動詞、「持つ」tener動詞を中心に学ぶ。学生達の興味と生活に密着したビデオ教材を使用し、文法、聞き取りとコミュニケーションの練習を行う。更に、スペイン語圏の国々の文化について内容を紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	<p>解剖学概論は専門医療技術者の基盤となる正常な人体の基本的な構造を学び、疾病を理解するための基礎を修得する。具体的には発生、骨格、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、平衡機能系、脳、細胞についての構造や働き、その関係性を理解する。また、さまざまな疾病になることで起こる身体の変化や病態についても解剖的視点から学び、理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 八木沼洋行/3回) 疾病を理解するための基礎的な人体の構造、発生、脳の解剖</p> <p>(17 和栗聡/2回) 疾病を理解するための基礎的な組織の構造と機能</p> <p>(32 山田仁/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨盤、四肢の骨と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(71 二階堂琢也/1回) 疾病を理解するための基礎的な頭部・顔面骨、脊柱、胸郭と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(45 大谷晃司/1回) 疾病を理解するための基礎的な筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(22 風間順一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨の構造と成長、骨のリモデリング</p> <p>(182 西山慶治/2回) 疾病を理解するための基礎的な視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器、内分泌系の解剖</p> <p>(29 鈴木弘行/1回) 疾病を理解するための基礎的な呼吸器の解剖</p> <p>(65 義久精臣/1回) 疾病を理解するための基礎的な心臓、脈管系の解剖</p> <p>(28 丸橋繁/1回) 疾病を理解するための基礎的な消化器系の解剖</p> <p>(44 太田昌一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な泌尿器系、生殖器系の解剖</p>	オムニバス方式
	機能解剖学	<p>作業療法士に特に必要性の高い四肢や体幹の筋骨格、関節、神経について集中的に理解を深める。また、全身の骨格筋、関節、臓器が有する機能も同様に理解を深める。さらに、体表解剖において筋や関節の触診技術を向上することで、専門科目における評価学や治療学の基盤を構築していく。断層解剖において人の身体の構造を3次元的に理解し、考えることができるように知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 風間順一郎/1回) 作業療法士に特に必要性の高い、骨学や関節</p> <p>(32 小俣純一/2回) 作業療法士に特に必要性の高い、骨学や関節</p> <p>(22 高橋仁美/3回) 作業療法士に特に必要性の高い四肢や体幹の筋骨格</p> <p>(87 阿部浩明/3回) 作業療法士に特に必要性の高い神経</p> <p>(21 矢吹省司、22 高橋仁美、32 小俣純一/6回) (共同) 作業療法士に特に必要性の高い体表解剖や断層解剖</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	<p>解剖学実習は解剖学概論および機能解剖学において修得した基礎を、御遺体の肉眼解剖実習をすることにより、筋骨格、臓器に関する知識の理解をより深める。特に筋骨格、関節、神経、臓器、脳の肉眼的構造を集中的に行う。また、解剖実習を通して、人の身体の構造等を理解するだけではなく、献体という志の高い偉業について考えて、御遺体に対する礼儀や感謝を含めて人としての涵養を高める。授業は、小グループに分かれて肉眼解剖の実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(㉓ 小俣純一/10回) 解剖実習を円滑で効率よく実施するために必要な基礎的な知識、方法</p> <p>(16 八木沼洋行、㉓ 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p> <p>(16 八木沼洋行、㉑ 矢吹省司、㉓ 小俣純一/1回) (共同) 臓器・脳</p> <p>(16 八木沼洋行、17 和栗聡、㉓ 小俣純一/3回) (共同) お別れ式、清浄、片付け</p> <p>(16 八木沼洋行、17 和栗聡、㉑ 矢吹省司、㉓ 小俣純一/3回) (共同) 執刀式、筋・関節・神経・脈管</p> <p>(㉑ 矢吹省司、㉓ 小俣純一/4回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p> <p>(17 和栗聡、㉑ 矢吹省司、㉓ 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	解剖学実習		
	生理学 I	<p>生理学は身体とそれを構成している細胞や組織、器官や臓器についての正常な機能に関して学ぶものであり、医療技術者にとって必修の学問である。生命維持に欠かせない呼吸と循環、消化と排泄、そしてそれらを調節する自律神経や内分泌機能について学ぶ。また、細胞機能の基礎、活動電位やイオンチャネル、骨格筋の収縮、自律神経と運動神経、中枢神経、感覚、血液、代謝、生殖、恒常性のメカニズムについて学ぶ。生命現象がどのように営まれているのか、生体の働きについてのメカニズムを理解し医療技術者として必要な基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(65 義久精臣/9回) 細胞の構造と機能、循環器系の構成、心臓、呼吸器系、肺、消化と吸収、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節</p> <p>(25 小川一英/1回) 血液の組成と機能</p> <p>(62 宇月美和/1回) 免疫</p> <p>(16 八木沼洋行/1回) 生殖</p> <p>(18 永福智志/3回) 神経、感覚、運動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の 構造 と機 能及 び心 身の 発達	
	生理学実習	<p>生理学Ⅰにより修得した人体生理学についての知識を基盤としさらに実習として体験型に発展させたものである。生理学は生体の複雑な統合機能を解明する学問である。中でも身近に感じることができる生体に生じる現象を体験し、また観察した結果をもとに、そのメカニズムについて自ら考察し、生理学の理解を深めることを目的とする。人体を対象とした筋の収縮や運動の仕組み、循環器や呼吸器などの生体の機能について観察できる実習を行う。また同時に、実験器具や装置の正しい使用方法や安全管理についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(65 義久精臣/3回) 生理学実習概要の説明、レポート作成方法の指導、生理機能について実習の統括</p> <p>(133 三浦里織、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 血球観察</p> <p>(92 鈴木英明、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 腎機能測定</p> <p>(② 林博史、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 正しい血圧測定</p> <p>(65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 心臓の観察</p> <p>(86 横塚美恵子、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 呼吸機能</p> <p>(128 岡崎可奈子、③② 小俣純一、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 骨格筋と腱の観察</p> <p>(②③ 柴喜高、88 楠本泰士、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 末梢神経伝導速度</p> <p>(⑤ 澄川幸志、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 視覚と皮膚感覚</p> <p>(⑬ 木村夏実、65 義久精臣、132 堀越裕子/3回) (共同) 記憶と認知機能</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	病理学総論	<p>病理学は疾病の原因・本質を解明する学問であり、疾病を理解する上で基礎となる科目である。疾病に関する医療用語の意味と定義、疾病を起こす原因、疾病に伴う人体の機能的および形態的变化を科学的に理解し、説明できるレベルの知識を身につける。また疾病による組織の形態的变化を理解するとともに、各種疾病の本態を理解するには解剖、生理、生化、細菌等の基礎的知識が必要であり、これらの内容を総合的に組み合わせることによって疾病の背景を理解することができる。</p>	
	生命倫理学	<p>この講義では、身体と生命に関する倫理的な諸問題について学ぶ。20世紀後半以降、生命技術は著しく進展した。その歴史を知ると同時に、技術の進展が人間と社会にどのような問題を投げかけて来たのかを知る。さらに、技術と人間・社会との間に生じる倫理的諸問題について、どのように考えることが合理的であるのか、あるいはそうではないのか、を学ぶ。これらのことを通じて、生命技術と向き合うための基本的な姿勢を身につける。具体的には、まず、医療倫理の歴史や患者の自己決定権について学ぶ。また人工妊娠中絶・出生前診断とその倫理的問題、重症心身障害児の生命の質という問題を考える。さらに、移植医療の実際とその倫理的問題、高齢者の看取りとそこに関わる問題について学ぶ。最後に、検査結果が個人情報そのものと言えるのはなぜか、その保護が要求されるのはなぜかを学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	<p>人間発達学</p> <p>人は生涯にわたり発達する。人にはライフステージに応じた発達学的課題がある。人の健康を支援する医療専門職において、人間発達を学ぶことは対象者を理解する上で不可欠である。発達は、体の成長などの生物学的側面だけでなく、社会性やパーソナリティなど様々な視点で理解する必要がある。本科目では、各発達段階における発達の特徴について、姿勢反射や反応、感覚・知覚・認知及び社会性の視点から学び、発達と遊びとの関係についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3) 倉澤茂樹/11回</p> <p>人間発達とは、発達理論、上肢機能の発達、感覚の発達、認知の発達、社会性の発達、日常生活動作の発達、発達と遊び、人間発達と発達障害(脳性麻痺、注意欠陥多動性障害、学習障害、発達性協調運動障害、自閉症スペクトラム症)</p> <p>(88 楠本泰士/4回)</p> <p>原始反射、姿勢反射・反応とは、発達(0ヶ月~8ヶ月まで、9ヶ月~6歳まで)、運動発達(寝返りから歩行まで)</p>	オムニバス方式
			<p>運動学</p> <p>運動学は解剖学、生理学を基礎として人間の身体動作のメカニズムを探究する学問であり、作業療法の基礎科学として重要である。具体的には人体の各関節の構造と機能、および筋の構造と機能、神経支配などを理解する。また、姿勢分析や動作分析を行うために必要な、専門用語を用いた表現方法や生体力学の基礎を学ぶ。健常者の歩行の運動学的特徴を理解するとともに、基本的な動作観察・分析の方法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(53 神先秀人/12回)</p> <p>総論および歩行、動作分析</p> <p>(111 遠藤康裕/10回)</p> <p>上肢、体幹の運動学</p> <p>(110 中野渡達哉/8回)</p> <p>下肢の運動学</p>	オムニバス方式
			<p>基礎生化学</p> <p>生化学は医学分野における様々な専門科目の基礎的な土台となり、生命現象を理解するためには必須の学問である。ここでは生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどの分子構造や化学的性質について学ぶと共に、これらの分子が体内でどのように生合成され、代謝されていくのか、そして遺伝情報物質として機能するための分子基盤について学ぶ。そして、細胞および生体レベルで恒常的機能を維持するために、これらの分子がどのような役割を果たしているのか理解した上で、その破綻がさまざまな疾患の発症と進行に果たす役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 北爪しのぶ/14回)</p> <p>タンパク質、酵素、生体高分子、生体膜、複合糖質の構造、生合成と機能的役割、遺伝子発現の制御、情報伝達の生化学</p> <p>(162 山口芳樹/1回)</p> <p>構造の生化学</p>	オムニバス方式
			<p>免疫学</p> <p>臨床で活躍する医療人として必要な生体防御機構について学習する。生体は常に細菌やウイルスなどの外敵から身を守る必要がある。この外敵から身を守るために、白血球を中心とする様々な細胞は相互に助成し合いコミュニケーションを取りながらチームプレイで作業している。この生命維持に重要な生体防御反応のメカニズムに関与する胸腺などの免疫を担当する免疫器官、白血球を中心とした免疫担当細胞、体液内の免疫を担う蛋白成分である抗体や補体、それらを活性化あるいは制御する際に分泌されるサイトカインについて、その特徴や機能について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	<p>運動学で学んだ知識を利用して姿勢や動作の具体的な観察・分析方法、および機器を用いた定量的な運動機能や動作の評価方法を学ぶ。臨床で作業療法の対象となる疾患を想定した課題をグループで演習する。具体的には、観察や種々の機器を用いた形態・関節運動、姿勢、筋力、バランス機能の評価、歩行の速度因子の測定、ビデオを用いた動作分析の評価、筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な評価などを行い、結果を考察することで理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(53 神先秀人/5回) 授業概要・実習課題の説明、下肢の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(110 中野渡達哉/3回) 上肢の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(111 遠藤康裕/3回) 体幹の形態と関節運動の観察と評価</p> <p>(53 神先秀人、110 中野渡達哉、111 遠藤康裕/19回) (共同) 重心・姿勢評価・静止バランス、筋力、筋活動、歩行速度、ビデオを用いた分析、動作解析装置を用いた分析</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	及び病回と復過害程の成り立ち	医学概論	<p>まず医学の定義と医学の使命について学び、今日の医学がどのように発展してきたのか、また現代医学がどのように成り立っているのかを医学の歴史から学修する。さらに人体の構造と機能についての概要を学んだのち、病気の原因、病態と症状との関連について総論的に考える。また病気を診断するための様々な方法と治療の種類、さらには予防医学の考え方や健康を守っていくための医療制度と医療保障についての概要についても学ぶ。最後に生命倫理、医の倫理についても考え、専門領域に進む前のメディカルコミュニケーションを身に着ける。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>医療における放射線の役割はますます重要となっており、診断・治療においてなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では放射線の医療利用の実際を学び、診療において活用できる基礎知識を学習する。具体的には、放射線医学の誕生から、放射線診断学、放射線治療学、核医学を概説し、放射線医学を学んでいく。主として放射線診断学について講義する。放射線等で作られる画像の意味するところを、画像解剖学をもとにして講義していく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(89 佐藤久志／7回) 画像診断について、放射線治療の基礎、放射線治療の種類と装置・方法、温熱療法</p> <p>(91 福田篤志／1回) 放射線生物学の基礎、放射線計測の基礎</p> <p>(113 大葉隆／1回) 放射線障害、医療被ばく、法的規制</p> <p>(24 久保均／3回) 画像診断装置、医療情報システムとその安全管理</p> <p>(60 三輪建太／2回) PETによる画像診断、核医学内用療法</p> <p>(58 加藤貴弘／1回) 中枢神経、頭頸部、胸部の放射線治療</p>	オムニバス方式
			放射線医学概論	<p>現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(89 佐藤久志／2回) 画像医学総論、放射線治療領域の画像医学</p> <p>(34 伊藤浩／2回) 中枢神経系の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p> <p>(77 石井士朗／1回) 腫瘍・骨・炎症・内分泌の疾患について、核医学を中心とした画像診断</p> <p>(236 黒岩大地／1回) 救急領域の画像診断</p> <p>(235 長谷川靖／2回) 腹部領域（泌尿器系、婦人科系）の画像診断</p> <p>(233 関野啓史／2回) 循環器領域の画像診断、血管を中心としたIVR</p> <p>(234 藤巻秀樹／2回) 腹部領域（肝臓、胆嚢、膵臓）の画像診断</p> <p>(203 森谷浩史／1回) 胸部領域の疾患について、主にCTを中心とした画像診断</p> <p>(223 歌野健一／1回) 腹部領域（消化管）の画像診断</p> <p>(238 箱崎元晴／1回) 筋肉・骨・関節の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p>
		画像医学		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学は、日常的な困難、心の不調、人間関係のトラブルを抱える人々への心理的支援に関する心理学の一分野である。そこには、心理的支援の具体的方法のみならず、「どのように支援（治療）するのが良いか」といった支援（治療）に対する考え方（理論）、更には「そもそも人とはどのようなものか」といった人間観が、含まれている。そうした具体的方法・考え方（理論）・人間観が1つだけではなく、いくつもある。この授業では、そうした考え方（理論）・人間観を解説しながら、心理的支援の方法について紹介する。
			臨床心理学
			リハビリテーション医学の全体像や医学・医療における位置づけを理解し、リハビリテーション医学の理念、診断および治療の基礎知識の習得を目指す。内容としては、医学的リハビリテーションの対象となる運動障害や感覚障害、循環機能障害、呼吸機能障害、摂食嚥下障害、排尿障害、高次脳機能障害について、また、小児疾患や精神疾患の症候や病態生理等を学習し、各種障害のリハビリテーション治療の基礎知識を習得する。さらに、リハビリテーション工学や地域リハビリテーションについて学び、リハビリテーション医学の理解を深める。
			リハビリテーション医学
			オムニバス方式 (オムニバス方式／全15回) (39 大井直往／4回) リハビリテーション医学総論・病気別のリハビリテーション、リハビリテーション診断・評価、神経障害のリハビリテーション、社会参加・QOL向上のリハビリテーション (21 矢吹省司／2回) 廃用症候群のリハビリテーション、運動機能障害のリハビリテーション (65 義久精臣／1回) 循環機能障害のリハビリテーション (22 高橋仁美／1回) 呼吸機能障害のリハビリテーション (2 林博史／2回) 高次脳機能障害のリハビリテーション、精神疾患のリハビリテーション (239 小川洋／1回) 摂食嚥下障害のリハビリテーション (161 吉田美香子／1回) 排尿障害のリハビリテーション (171 松尾洋平／1回) 小児疾患のリハビリテーション (172 安永好宏／1回) リハビリテーション工学、治療機器、ロボット (35 葛西龍樹／1回) 地域包括ケアシステム・地域リハビリテーション・介護予防

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	オムニバス方式
	整形外科学	作業療法士に必要な骨関節疾患、脊髄と末梢神経の疾患や外傷に関する基礎知識を理解する。具体的には股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節・脊椎の主たる疾患について学ぶ。整形外科疾患は患者数が多く、実際の現場に出た場合、すぐに経験する症例である。それぞれの疾患の病態を理解し、一般的な治療法を理解しておくことは、リハビリテーション治療を行う際に必須の知識である。実際の症例を提示しながら理解しやすい内容とする。 (オムニバス方式／全30回) (2) 矢吹省司／5回) 整形外科疾患とQOL、関節・脊椎の構造と機能、四肢と脊椎の診察、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア (71 二階堂琢也／1回) 脊椎・脊髄損傷 (100 川上亮一／1回) 骨・関節の外傷(上肢) (122 吉田勝浩／2回) 骨・関節の外傷(下肢)、膝関節疾患 (72 箱崎道之／2回) 骨・軟部腫瘍 (73 渡邊和之／1回) 脊椎・脊髄疾患 (101 小林洋／1回) 脊椎・脊髄疾患 (31 沼崎広法／1回) 感染性骨関節疾患 (173 佐藤弘一郎／1回) 関節リウマチ (32 山田仁／1回) 骨粗鬆症・代謝性疾患 (211 竹中信之／1回) 骨粗鬆症・代謝性疾患 (74 大内一夫／2回) 足・足関節疾患 (228 山岸栄紀／2回) 股関節疾患 (229 小平俊介／1回) 膝関節疾患 (123 猪狩貴弘／2回) 肩関節疾患、肘関節疾患 (121 佐々木信幸／2回) 手・手関節疾患 (212 加賀孝弘／2回) スポーツ障害 (171 松尾洋平／2回) 小児整形外科	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 専 門 基 礎 科 目 疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	内科学	本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要となる内科疾患の症候や診断、及び治療に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、内科学と内科的診断・治療、症候学、循環器疾患や呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、免疫系疾患、アレルギー疾患、そして感染症などに関する成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、内科疾患に関する医療について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (25 小川一英／4回) 内科学とは・内科的診断と治療、症候学、血液・造血器疾患 (65 義久精臣／2回) 循環器疾患 (26 豊川真弘／1回) 感染症 (26 柴田陽光／2回) 呼吸器疾患 (119 鬼澤道夫／1回) 消化管疾患 (69 高木忠之／1回) 肝胆膵疾患 (23 島袋充生／1回) 代謝性疾患 (96 待井典剛／1回) 内分泌疾患 (22 風間順一郎／1回) 腎疾患 (120 浅野智之／1回) 免疫系疾患, アレルギー性疾患	オムニバス方式
	精神医学	本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要となる精神疾患と医療、リハビリテーション及び精神障害者福祉に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、統合失調症やうつ病、不安障害、人格障害、アルコール性関連精神障害、発達障害、認知症などの各種疾患の成因と症状、診断等に関して学び、精神障害に対する薬物治療やリハビリテーション、心理療法、さらには精神保健福祉や精神障害者の社会復帰を含めた精神医学・医療について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 脳・神経内科学	<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な脳・神経疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、神経症候学の概要、脳血管障害や脳外傷、アルツハイマー病をはじめとした認知症、髄膜炎、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性硬化症、てんかん等の各神経系疾患の成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、脳・神経内科疾患に関する医療について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(② 林博史／2回) Alzheimer病・Pick病・脳血管性認知症、てんかん、頭痛、めまい</p> <p>(24 金井数明／6回) 運動障害、感覚障害、Parkinson病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、遺伝性脊髄小脳萎縮症、意識障害・高次脳機能障害・脳神経障害の診かた、画像診断、電気生理学的検査、先天性・後天性代謝異常</p> <p>(98 佐藤拓／1回) 脳血管の解剖と生理、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血</p> <p>(99 岩楯兼尚／1回) 脳外傷、脳腫瘍</p> <p>(227 井口正寛／1回) 髄膜炎、脳炎の症候、髄液所見、プリオン病、後天性免疫不全症候群</p> <p>(97 松田希／1回) Guillain-Barre症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、遺伝性ニューロパチー</p> <p>(209 伊藤英一／1回) 重症筋無力症、Lambert-Eaton筋無力症候群</p> <p>(208 田中恵子／1回) 筋炎、筋ジストロフィー、代謝性ミオパチー</p> <p>(25 藤原一男／1回) 多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎、白質ジストロフィー</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	老年学	<p>作業療法士に必要な知識である加齢や老化現象について、医学、生物学、心理学、社会学など広い視点から理解する。内容として、生涯発達の一部としての老化を捉え、それに伴う生理機能、運動機能、精神機能について学修する。特徴的な老年期の疾病や障害として、嚥下障害、誤嚥性肺炎、循環障害、フレイル、サルコペニア、骨粗しょう症、骨折、認知症、うつ、せん妄などの老年期症候群についても教授する。高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の心理についても学び、老年期にある対象者の理解を深められるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(② 林博史／4回) 老年学とは(疫学、老年学の課題、老化、老人問題)、老化に伴う変化、老年期の疾病と疾患(認知症、うつ、せん妄)</p> <p>(86 横塚美恵子／2回) 老化に伴う変化(運動機能)、老年期のリハビリテーション、終末期医療</p> <p>(⑧ 川又寛徳／1回) 高齢者の機能、活動面の評価</p> <p>(65 義久精臣／1回) 老年期の疾病と障害(循環器疾患)</p> <p>(⑫ 矢吹省司／1回) 老年期の疾病と障害(フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、骨粗しょう症、骨折)</p> <p>(67 岩佐一／3回) 老化と生涯発達、パーソナリティと適応、老化の社会学と理論、幸福感、生きがい、サクセスフルエイジング</p> <p>(213 菅野和広／1回) 老年期の疾病と障害(嚥下障害、誤嚥性肺炎)</p> <p>(221 石井重亮／1回) 高齢者の薬物療法(ポリファーマシーなどの問題含む)</p> <p>(225 齋藤圭太／1回) 家族・社会関係(ソーシャルサポート、ネットワーク)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>本科目は、作業療法士の臨床実践に必要な小児疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、小児の発達と保健、新生児医療、各小児疾患（先天異常、脳性麻痺、てんかん、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、内分泌・泌尿器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患、免疫疾患、アレルギー疾患、自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害等）の成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、小児疾患に関する医療と子どもの療育について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2) 林博史/2回 てんかん、熱性けいれん、自閉症、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害</p> <p>(33 細矢光亮/2回) 小児の成長発育と発達、小児の保健、小児に特有な一般的身体所見と症候</p> <p>(230 鈴木雄一/1回) 小児に特有な神経症候、神経学的検査法</p> <p>(219 佐藤真紀/1回) 新生児の評価、未熟児の神経学的所見、周産期の異常症状</p> <p>(220 郷勇人/1回) 先天異常、染色体異常、遺伝性疾患</p> <p>(171 松尾洋平/1回) 脳性麻痺の成因と徴候による分類、治療、療育</p> <p>(218 桃井伸緒/1回) 循環器疾患</p> <p>(75 橋本浩一/2回) 呼吸器疾患、免疫、アレルギー疾患</p> <p>(102 佐藤昌論/1回) 感染症</p> <p>(103 陶山和秀/1回) 内分泌・泌尿器疾患</p> <p>(105 望月一弘/1回) 血液疾患、腫瘍性疾患</p> <p>(124 渡部真裕/1回) 集中治療</p>	オムニバス方式
	小児科学	リハビリテーション栄養学	<p>リハビリテーションにおける運動機能の回復には、その基礎となる良好な栄養状態が重要である。本科目では理学療法や作業療法に必要な栄養学の基礎知識、リハビリテーション医療における栄養の重要性、栄養の評価方法および栄養療法、栄養サポートチームの役割などについて教授する。さらに、脳血管障害、呼吸不全や心不全、がん、褥瘡、フレイルとサルコペニア、嚥下障害などリハビリテーションにおける主要な対象疾患・障害に対する栄養管理について教授する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 がんリハビリテーション学	オムニバス方式 本科目は、がんの病態と医学的治療、がんリハビリテーション、及びチーム医療の実践に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、がんリハビリテーションの概要、乳がん、脳腫瘍、頭頸部がん、骨・軟部腫瘍等の周術期のリハビリテーション、化学療法や放射線医療、造血器腫瘍とリハビリテーション、がんによる各種障害、緩和ケア、がん患者の心のケア等について学び、がんの病期、特性等を踏まえたリハビリテーションについて理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (26 矢吹省司/3回) がんリハビリテーションの概要、チーム医療の役割、周術期リハビリテーション(骨・軟部腫瘍・脊髄腫瘍)、骨転移とリハビリテーション (27 河野浩二/1回) 周術期リハビリテーション(開胸・開腹術) (30 大竹徹/1回) 周術期リハビリテーション(乳がん) (70 藤井正純/1回) 周術期リハビリテーション(脳腫瘍) (231 川瀬友貴/1回) 周術期リハビリテーション(頭頸部がん) (37 佐治重衡/1回) 化学療法とリハビリテーション (55 森下慎一郎/1回) 造血器腫瘍、造血幹細胞移植とリハビリテーション (27 高橋勝/1回) がんによるADL・IADL障害とリハビリテーション (213 菅野和広/1回) がんによる摂食嚥下障害・コミュニケーション障害とリハビリテーション (214 二村美也子/1回) がんによる高次脳機能障害とリハビリテーション (175 山本優一/1回) リンパ浮腫とリハビリテーション (104 佐藤薫/1回) 緩和ケアとリハビリテーション (76 三浦至/1回) がん患者の心のケアとリハビリテーション

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
	臨床技術基礎演習	<p>医療従事者として必要とされる医療安全や感染制御などの基礎医科学技術や患者接遇に必要な知識の習得を行う。これらの知識は将来の専門性に囚われることなく、普遍的な知識として本学部の全学生が習得すべきものと位置づけ、将来様々な場面で実用できる知識を習得する。医療安全の視点の下に医療職としての役割、医療における課題等を演習から理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(65 義久精臣、163 見田洋子／3回) (共同) オリエンテーション、医療接遇</p> <p>(13 木村夏実、11 三橋佑平／2回) (共同) 高齢者・障害者・妊婦の特性 (2 林博史／1回) バイタルサイン</p> <p>(128 岡崎可奈子／2回) 患者移動</p> <p>(21 矢吹省司、32 小俣純一／1回) (共同) 清潔・不潔の概念とルール</p> <p>(26 豊川真弘、133 三浦里織、132 堀越裕子／1回) (共同) 感染制御</p> <p>(65 義久精臣、115 高橋一人、132 堀越裕子、133 三浦里織／2回) (共同) 心電図の見方</p> <p>(131 田代雅実、24 久保均／1回) (共同) 応急手当</p> <p>(131 田代雅実、24 久保均、89 佐藤久志、57 高橋規之、58 加藤貴弘、91 福田篤志／2回) (共同) 基本的心肺蘇生法、AEDの使用法</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	薬理学	<p>薬理学は、薬物と生体の相互作用を探究する学問である。薬の作用を理解するためには、細胞内外の情報伝達の仕組みや、病気が発症することで情報伝達がどのような破綻をきたすのかを知る必要がある。そして薬物の理解とは、病気の原因となる異常に対し薬物がどのように作用するのかを理解する学問である。本講義では、薬物の作用機序を理解するために、その基礎的事項を学び、さらに細胞内外情報伝達物質と薬物との相互作用を理解し、薬物の臨床展開と治療効果について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 下村健寿／2回) 薬理学の基礎、内分泌・代謝作用薬</p> <p>(30 尾形浩／10回) 薬理学各論 (副交感神経に作用する薬物、交感神経に作用する薬物、麻酔薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液・造血器系作用薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗菌薬、抗腫瘍薬)</p> <p>(39 西嶋剣一／3回) 薬理学総論 (薬理作用、薬物動態学、薬物開発等)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	環境と放射線 我々が自然界あるいは現代社会で生活していく際に、様々な種類の「放射線」に遭遇する。生活環境中にある放射線を環境放射線といい、自然界にもともと存在している放射線である自然放射線と、人間が作り出した核実験や原子力事故などで放出された放射性物質による人工放射線に分類される。それらのほとんどは、我々にとって利益にもなり有害にもなり得る。そこで、本科目では放射線に関する基本的な内容を理解したうえで、自然界や現代社会での放射線の存在やその動態について学ぶと共に、それらが人体や人類に与える影響について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (91 福田篤志／5回) 環境放射線に関する基礎知識、測定方法、評価方法 (85 反町篤行／2回) 自然放射線、事故後の環境放射線モニタリングとその線量 (148 塚田祥文／3回) 原子炉における放射性物質、土壌-用水-作物系における放射性物質、飲食物摂取による基準値の考え方 (150 脇山義史／1回) 河川を通じた放射性物質の移動 (149 和田敏裕／1回) 魚類を中心とした水系生態系における放射性物質 (205 高田兵衛／1回) 海洋における放射性物質の動態 (21 石川徹夫／2回) 環境放射線が人体に与える影響、東日本大震災による県民の外部・内部被ばく線量評価	オムニバス方式
		微生物学総論 感染症はすべての医療従事者に関連する重要な疾患である。感染症を根絶することは不可能であるが、早期治療による症状軽減や流行を拡大させないよう予防することは可能である。そのためには「病原体」を知り、「病原体と宿主との関係」を理解することが不可欠である。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の種類と特徴およびこれら微生物に対する宿主の感染防御機構について学ぶとともに、各臓器に特徴的な感染症、免疫低下患者に見られる日和見感染症、院内感染症、薬剤耐性菌感染症、人畜共通感染症などについて学ぶ。さらに、感染症診断に必要な微生物検査の種類と利用法、ならびに院内感染対策上重要な感染症を中心にそれぞれの感染対策法についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疫学・公衆衛生学	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョ ン の 理 念
		<p>専門医療技術者に必要な地域・集団の心身の健康維持を図るための科学と技術について学習する。具体的には公衆衛生学領域における疫学の考え方、母子・学校・精神保健、感染症の成立要因とそれに基づく予防対策、公害や地域から地球規模の環境衛生について学ぶ。また近年の健康維持に対する最大の阻害要因である生活習慣病について予防対策も含めて学習する。保健統計については人口動態統計を中心に学び、さらに栄養と食品衛生、産業保健や保健医療制度などについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 安村誠司/5回) 総論、感染症、保健医療制度</p> <p>(20 大平哲也/1回) 疫学の考え方</p> <p>(68 坪井聡/1回) 人口動態</p> <p>(67 岩佐一/2回) 母子保健、成人保健</p> <p>(94 森山信彰/2回) 学校保健、精神保健</p> <p>(116 中山千尋/1回) 地域と福祉</p> <p>(66 各務竹康/2回) 地域における環境、産業保健学概論</p> <p>(43 江口依里/1回) 保健統計</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョン の理 念 危機管理学	<p>前半は、身の回りにおける様々な危機の種類、組織ガバナンスや医療安全を例にしてリスクマネジメントについての基本的な考え方を学習する。また患者と医療者の間で意見の食い違いから生じる紛争に対する解決法としての医療メディエーションの役割についても学ぶ。後半は、福島の地で起きた大規模複合災害を始め世界で起きた様々な災害について知り、必要な医療、福祉、保健などに対する医療者の役割と各種連携の実際について学習する。また災害が人々に与えるメンタルヘルスや、社会、地域住民とのリスクコミュニケーション、さらに日本、海外における災害時の危機管理体制や医療の役割について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 小川一英、164 三村邦裕/1回) (共同) オリエンテーション、危機管理学総論</p> <p>(164 三村邦裕/1回) 危機管理とリスクマネジメント</p> <p>(165 木村栄宏/3回) 組織における危機管理・内部統制、ケーススタディによるリスクへの対応、メディエーション、医療ADR、リスクガバナンス</p> <p>(167 種田憲一郎/2回) 医療安全と危機管理 (ヒューマンエラーとリスクマネジメント)</p> <p>(166 藤本一雄/3回) 自然災害の発生メカニズム、自然災害のハザード・リスク評価、自然災害対策について</p> <p>(113 大葉隆/1回) 東日本大震災と福島第一原発事故における危機管理</p> <p>(36 前田正治/1回) 災害と危機介入</p> <p>(38 長谷川有史/1回) 放射線災害における医療者の役割</p> <p>(168 佐藤千歳/2回) 災害医療とトリアージ、自然災害に対する国際協力</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョン の理 念	リハビリテーション概論
		<p>本科目は、リハビリテーションを包括的に理解することを目指す。内容としては、リハビリテーションの概念と歴史の変遷、病気と障害、ハビリテーションとノーマライゼーション、障害受容、リハビリテーションの各側面（医学的・社会的・職業的、教育的リハビリテーションなど）、リハビリテーション専門職と関連職種、関連法規や制度等について学び、対象者の「全人間的復権」を実現するリハビリテーションの意義と役割について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 矢吹省司／1回) リハビリテーションとは、医学的リハビリテーション</p> <p>(22 柴喜崇／2回) リハビリテーションの歴史、病気と障害、ICIDH、ICF</p> <p>(23 林博史／2回) リハビリテーションとノーマライゼーション、リハビリテーションと心理、障害受容</p> <p>(24 倉澤茂樹／3回) 人間活動と発達、教育的リハビリテーション、リハビリテーションの主な対象疾患と障害（精神障害、知的障害、発達障害）</p> <p>(25 五百川和明／3回) 職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、リハビリテーションの過程、チームアプローチと専門職、リハビリテーションの主な対象疾患と障害（身体障害）</p> <p>(26 曾根稔雅／3回) リハビリテーションの手段、地域包括ケアシステム、リハビリテーションに関連する社会保障制度</p> <p>(42 坂本祐子／1回) リハビリテーション看護</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョ ン の 理 念	オムニバス方式
	災害リハビリテーション論	本科目は、災害時の医療とリハビリテーション専門職に求められる活動に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、災害時の各フェーズ（被災混乱期・応急修復期・復旧期・復興期）とリハビリテーションアプローチ、災害支援チームの在り方、支援活動と倫理、被災者の心の支援、平時の体制と準備、災害ボランティアの役割と活動、及び国際協力と災害リハビリテーション等について学び、災害支援の在り方について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (2) 矢吹省司／1回 各フェーズにおける災害リハビリテーション (131 田代雅実／2回) 平時の体制、準備対応、災害ボランティアの役割と活動 (39 大井直往／1回) 災害リハビリテーション総論、大規模災害とは (40 島田二郎／2回) 災害フェーズ分類と対応、各フェーズにおける災害医療 (176 島野光正／3回) 災害支援チームの在り方、災害リハビリテーション活動における倫理・留意点、被災者の心の支援 (155 小野田修一／2回) 災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ（被災混乱期、応急修復期、復旧期） (177 椎野良隆／2回) 災害フェーズ別具体的リハビリテーションアプローチ（復興期：地域生活支援、街づくり） (181 星真琴／2回) 行政における災害リハビリテーション、国際協力と災害リハビリテーション	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョ ン の 理 念	
	チーム医療 I (概論)	<p>チーム医療とは何かを学ぶ。まず、医療がどのように成り立っているのかを理解する。職業倫理を理解し、医療人としての基本的な態度を培う。チーム医療を構成する様々な専門医療技術者の業務内容について詳しく学び、果たすべき役割や責任を理解する。その後実施の現場を見学し、それぞれの専門医療技術者がどのような業務を行っているかを知る。チーム医療Iでは、まずチームで行うカンファランスの意義を理解する。開講年次が1年生のため、病気に対する検討ではなく、倫理的な問題など人としてどう考えるかの課題を与えて、チームでその課題について議論し、まとめて発表する。医療とは異なる職場で行われているチームでの活動の実際とその意義・有用性を理解する。最後に、再度グループで症例検討を行い、まとめて発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(25 小川一英/1回) 医療の中で医師が果たす役割</p> <p>(41 高橋香子/1回) 医療の中で看護師、保健師が果たす役割</p> <p>(53 神先秀人/1回) 医療の中で理学療法士が果たす役割</p> <p>(1 五百川和明/1回) 医療の中で作業療法士が果たす役割</p> <p>(57 高橋規之/1回) 医療の中で診療放射線技師が果たす役割</p> <p>(93 菅野光俊/1回) 医療の中で臨床検査技師が果たす役割</p> <p>(221 石井重亮、213 菅野和広/1回) (共同) 医療の中で薬剤師、言語聴覚士が果たす役割</p> <p>(127 青木俊太郎、33 阿部真典/1回) (共同) 医療の中で公認心理師、義肢装具士が果たす役割</p> <p>(217 福原之博、224 門馬成郎、226 佐藤亜希美/1回) (共同) 医療の中で臨床工学技士、ソーシャルワーカー、医療事務が果たす役割</p> <p>(87 阿部浩明、31 星真行、12 田中善信、13 木村夏実、58 加藤貴弘、89 佐藤久志、93 菅野光俊、132 堀越裕子、133 三浦里織/3回) (共同) 附属病院での見学</p> <p>(21 矢吹省司/2回) チーム医療とは何か、まとめ</p> <p>(19 本多創史/1回) 医療と倫理 (症例1の供覧と問題点の検討)</p> <p>(21 矢吹省司、19 本多創史/1回) (共同) 医療と倫理 (症例2の供覧と問題点の検討)</p> <p>(170 鈴木優/2回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(74 大内一夫/1回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(21 矢吹省司、53 神先秀人、55 森下慎一郎、87 阿部浩明、31 星真行、1 五百川和明、6 藤田貴昭、7 石川陽子、12 田中善信、13 木村夏実、57 高橋規之、58 加藤貴弘、89 佐藤久志、91 福田篤志、25 小川一英、65 義久精臣、93 菅野光俊、132 堀越裕子、133 三浦里織/11回) (共同) チームカンファランスに関するグループワーク</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p> <p>講義 19時間 演習 11時間</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 とリ ハビ リテ ーシ ョン の理 念	
	チーム医療Ⅱ (演習)	<p>チーム医療Ⅱでは、チーム医療の実践について学ぶ。そのため、はじめにTeam Stepsでチームの重要性を学ぶ。その後呈示された症例を元に、自分の職種は何が出来るか、何をすべきかについてグループ内で討論する。さらに医学部と看護学部の学生と共に小グループに分かれて、討論する機会を設ける。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある症例とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(167 種田憲一郎、② 矢吹省司、55 森下慎一郎、87 阿部浩明、③ 星真行、130 佐藤聡見、① 五百川和明、③ 倉澤茂樹、② 林博史、⑧ 川又寛徳、57 高橋規之、91 福田篤志、89 佐藤久志、⑤ 小川一英、⑥ 豊川真弘、92 鈴木英明、115 高橋一人、43 和田久美子、80 菅野久美、81 大川貴子、106 片桐和子、107 古溝陽子、126 吾妻陽子/3回) (共同) Team STEPPS</p> <p>(② 矢吹省司、55 森下慎一郎、87 阿部浩明、③ 星真行、130 佐藤聡見、① 五百川和明、③ 倉澤茂樹、② 林博史、⑧ 川又寛徳、57 高橋規之、91 福田篤志、89 佐藤久志、⑤ 小川一英、⑥ 豊川真弘、92 鈴木英明、115 高橋一人、43 和田久美子、80 菅野久美、81 大川貴子、106 片桐和子、107 古溝陽子、126 吾妻陽子/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク</p> <p>(② 矢吹省司、55 森下慎一郎、87 阿部浩明、③ 星真行、130 佐藤聡見、① 五百川和明、③ 倉澤茂樹、② 林博史、⑧ 川又寛徳、57 高橋規之、91 福田篤志、89 佐藤久志、⑤ 小川一英、⑥ 豊川真弘、92 鈴木英明、115 高橋一人、43 和田久美子、80 菅野久美、81 大川貴子、106 片桐和子、107 古溝陽子、126 吾妻陽子、45 大谷晃司、⑩ 亀岡弥生、237 安田恵/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク、カンファランス見学</p>	集中・オムニバス方式・共同 (一部)
	医用工学	<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本講義では、そのために必要な電気・電子工学に関する基礎知識を習得する。具体的には、電界と磁界などに関する電磁気学の基礎、オームの法則、直交流回路や共振回路、過渡現象などに関する電気工学の基礎、半導体と増幅回路などに関する電子工学の基礎、電気電子計測の基礎を学習する。また、センサ・トランスデューサなどの生体情報の収集、医用機器の安全対策を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑩ 西山篤/14回) 医用工学概要、電界、磁界、直流・交流回路、変圧・整流</p> <p>(④ 田中明/16回) 半導体、アナログ・デジタル回路、AD・DA変換、生体情報の収集、電気安全対策</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本実験では、医用工学の講義で学んだ電気・電子工学に関する基礎知識を、実験を行うことで体得する。具体的には、電子回路基礎実験、アナログ回路実験、半導体回路実験、デジタル技術実験、パルス回路実験、AD/DA変換実験を行う。また、センサー付き二足歩行ロボットの製作とプログラミングを行うことで、センサーの働きを体感すると共にその応用法を実践する。 (オムニバス方式/全30回) (43 山口克彦/3回) 電子回路基礎実験 (40 西山篤/3回) アナログ回路実験 (41 田中明/3回) 半導体回路実験 (42 山田昭博/3回) デジタル技術実験 (44 鈴木健司/3回) パルス回路実験 (24 久保均/3回) AD/DA変換実験 (24 久保均、43 山口克彦、40 西山篤、41 田中明、42 山田昭博、44 鈴木健司/12回) (共同) ロボット組み立て、コントロール法の習得	オムニバス方式・共同 (一部)
	関連科目	研究方法論	研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究目的からの研究立案について、介入研究、観察研究、事例研究、質的研究等、各研究デザインに関する実際の研究をもとに、学生に考え、議論してもらい、研究の倫理的な問題について理解する。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。 (オムニバス方式/全15回) (27 北爪しのぶ/6回) 研究のステップ、研究倫理、論文の基本構成、読み方、基礎研究、文献検索 (8 川又寛徳/4回) オリエンテーション、疑問のモデル化、測定デザイン、症例・事例研究 (91 福田篤志/1回) 測定機器 (適応と限界) (65 義久精臣/1回) 介入研究 (バイアス、交絡、治験、RCT) (22 高橋仁美/1回) 観察研究 (縦断研究、横断研究) (106 片桐和子/1回) 質的研究 (222 家村俊一郎/1回) 産学連携研究
	医療統計学	人を対象として、病気に対する治療効果を評価し、病気の原因を解明することを目的として行われる研究が臨床研究である。臨床研究は、観察研究と介入研究の2つのタイプに分けられる。臨床研究で用いられる統計的な考え方や解析方法を理解し、結果を過大評価することなく正確な判断ができるようになる必要がある。この授業では、講義「統計学」の内容を踏まえて、臨床研究のデザインと結果をどう解釈するか、基本的な考え方を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	医療統計学演習	講義「統計学」「医療統計学」で学んだ内容を踏まえて、演習を通して、実際にデータの解析を行うことができるようになる。授業は小グループに分かれて演習を行う。解析ソフトとしてSPSSの使い方を習得する。先行研究を読み、関心のあるテーマの決定、研究デザイン、エンドポイント、サンプルサイズ計算、統計解析手法の決定、データクリーニング、報告書作成、報告用スライドの作成と発表を行う。	
	基礎作業療法学	作業療法学概論	本科目は作業療法学の出発点としての科目である。作業療法の意義と作業療法士の役割や専門性について学び、作業療法の基礎的知識の習得を目指す。内容としては、作業療法の定義、世界及び日本における作業療法の歴史的経緯、医療・福祉・保健の分野での作業療法の現状、身体障害や精神障害等、各障害領域における作業療法士の役割と実践過程、各病期（急性期、回復期、維持期）や予防期及び終末期における作業療法士の役割、そして作業療法士の職業倫理等を学び、作業療法の全体像を理解する。 (オムニバス方式／全30回) ① 五百川和明／24回 作業療法の原理、作業療法の歴史、作業療法の基礎理論・実践理論、作業療法の分野・領域における役割、医療倫理、職業倫理、作業療法士に求められる資質・適正、作業療法の教育体系、作業療法の実践過程 ③ 倉澤茂樹／2回 領域別作業療法（発達障害領域の疾患、障害、作業療法実践） ④ 曾根稔雅／2回 領域別作業療法（老年期障害領域の疾患、障害、作業療法実践） ⑦ 石川陽子／2回 領域別作業療法（精神障害領域の疾患、障害、作業療法実践）	オムニバス方式
		作業科学と作業療法理論	人と作業、環境との相互関連性を学び、人の健康や生活・人生において、作業がどのような意味・意義を持つのかを理解することを目指す。作業の定義や種類、作業の意味、人-作業-環境との関連、活動と参加における作業、作業科学の概要と実践、及び作業療法の理論やモデル、その応用について学び、人々が様々な作業を通して社会に参加し他者と交流すること、日々の生活における作業が心身の機能や健康維持に関係していることを理解する。	
		基礎作業学実習 I	作業療法で用いられる作業活動として、人との共同作業及び交流活動の実践を通して、作業の行程や手順、作業に関与する身体および精神機能、及び道具の管理や作業環境整備を学び、対象作業の特性について理解することを目指す。内容としては、調理、軽作業、レクリエーション等の活動について、その基本技術の習得や道具の管理、集団活動の効果的な活用法などを学習する。さらに、作業分析の基礎や作業を治療的に用いる視点・意義についても学ぶ。 (オムニバス方式／全45回) ⑤ 澄川幸志／13回 オリエンテーション、作業活動講義（調理、園芸、絵画、籐細工、マクラメ、七宝焼き、裁縫、織工、タイルモザイク、革細工、籐細工、集団レクリエーション） ⑤ 澄川幸志、⑬ 木村夏実、⑪ 三橋佑平、⑮ 小笠原牧／32回 (共同) 作業活動演習・実習（調理、園芸、絵画、籐細工、マクラメ、七宝焼き、裁縫、織工、タイルモザイク、革細工、籐細工、集団レクリエーション） (※ ⑮ 小笠原牧は令和5年度から担当する)	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基礎 作業 療法 学	<p>作業療法で用いられる作業活動として、創作系の作業活動の実践を通して、作業の工程や手順、作業に関与する身体および精神機能、道具の管理や作業環境整備を学び、対象作業の特性について理解することを目指す。内容としては、陶芸、木工の創作作業について、その基本技術の習得や道具の管理、作業を通して得られる心身の変化やリスク等を学習する。さらに、作業分析の基礎や作業を治療的に用いる視点や意義についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑤ 澄川幸志/4回) オリエンテーション、作業活動講義(木工、陶芸)</p> <p>(⑤ 澄川幸志、⑬ 木村夏実、⑪ 三橋佑平、⑮ 小笠原牧/26回) (共同) 作業活動実習(木工、陶芸)、作業活動演習(作業による効果の検討、作業分析) (※ ⑮ 小笠原牧は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
	国際 作業 療法 論	<p>100カ国超で提供される作業療法は、医療と生活の懸け橋となる専門領域であり、作業療法士は世界共通の視点を有する一方で、各地域の歴史や文化などに彩られた特性を把握し、その地域に適したサービスを提供している。つまり、作業療法士は地域の医療と生活ならびにその阻害因子に対処する視点を有する。本講義は、作業療法の国際性の視点から「地球規模で考え、足元から行動せよ(Think globally, act locally.)」の考え方と方策を具体例から教授する。内容としては、諸外国の作業療法及び作業療法士の現状、世界作業療法士連盟の活動や青年海外協力隊による作業療法支援などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 五百川和明/5回) 国際作業療法論総論(作業療法の国際性)、作業療法の成り立ちとその世界共通性、世界作業療法士連盟と日本作業療法士協会、作業療法教育の世界基準作業療法の視点からThink globally, act locally. とは何か</p> <p>(④ 曾根稔雅/2回) 国際作業療法の実践(国際学会発表経験の立場から、日本作業療法士協会国際部の立場から)</p> <p>(186 高橋香代子/2回) 日本と米国の作業療法の類似点と相違点、日本と欧州の作業療法の類似点と相違点</p> <p>(189 大槻美佳/2回) 日本と発展途上国の作業療法の類似点と相違点、国際作業療法の実践(国際ネットワークづくりの立場から)</p> <p>(188 佐藤善久/2回) 人権・作業剥奪、国際作業療法の実践(海外留学経験の立場から)</p> <p>(187 佐藤寿晃/1回) CBR(Community-based Rehabilitation)、PHC(Primary Health Care)</p> <p>(181 星真琴/1回) 国際作業療法の実践(青年海外協力隊経験の立場から)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎作業療法学	<p>研究方法論で学んだことに基づき、作業療法の代表的な研究を題材として、作業療法研究の一連の過程を問題解決型学習形式で学習する。また、卒業研究に向けて、学生が研究計画の一部を立案することを目指す。内容としては、作業療法の代表的な研究を題材に、福原の「研究の7つのステップ」に準じて、研究疑問の着想から発表までのプロセスを模擬体験し、著者の考えや研究のプロセスにおいて重要なポイントを学生間で議論し、整理する。検討した内容をわかりやすくまとめて資料を作成し、発表する。さらに、卒業研究に向けて、学生が自身の研究疑問から研究課題を設定し、研究計画の一部を立案することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>③ 倉澤茂樹/9回) 作業療法研究概論、研究のプロセス、研究の7つのステップ(研究疑問の構造化、文献レビュー、疑問のモデル化、測定をデザインする、研究の型を選ぶ、比較の質を高める、倫理的配慮)</p> <p>③ 倉澤茂樹、⑤ 澄川幸志、⑥ 藤田貴昭、⑨ 浅尾章彦、⑦ 石川陽子、⑫ 田中善信/21回) (共同) 課題論文を用いた問題解決型学習(研究疑問抽出、研究疑問背景の整理、PICO・PECO、FIRMNESSチェック、研究疑問モデル化、交絡とバイアス、サンプルサイズ、解析方法、グループワーク発表)、研究計画立案</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	作業療法研究法演習	<p>作業療法研究法演習で学んだ研究のステップに基づき、担当教員の指導の下で研究計画を立案、実行し、その結果をまとめ、結果から得られた知見を整理し、報告するまでの一連の研究技能を習得することを目指す。内容としては、担当教員の指導の下で、研究計画に基づいた実験や計測、介入等を行い、計測データの収集、データの統計的解析及び研究仮説の検証を行う。さらに、研究成果を卒業研究発表会で発表し、最終的には卒業論文を作成する。この一連の研究過程の実践を通して、科学的思考や生涯にわたって研究、学習する姿勢を身に付ける。</p>	
	作業療法管理学	<p>作業療法の実践における管理・運営の基礎知識の習得を目指す。内容としては、我が国の保健・医療・福祉制度や診療報酬、介護報酬、リハビリテーション医療における経済学的視点、作業療法実践における職場管理、組織運営のマネジメントに関する知識を習得する。さらに、人権擁護や社会的公正の視点、安全管理、リスクマネジメント、さらには作業療法士の職業倫理や作業療法士教育に関する学習を通して、職場内に留まらず広く地域社会に貢献する専門職としての基礎知識を身に付ける。</p>	
	作業療法評価学	<p>作業療法を実施するためには、対象者の評価ができることが前提となる。本授業では、作業療法評価の基本的な知識と技術の習得を目指す。内容としては、作業療法における評価の意義、疾患・障害を問わずに実施する基礎的な作業療法評価である情報収集、面接、観察、画像評価等について学ぶと共に、人の作業活動の評価として、作業分析、動作分析、運動分析、姿勢分析について学ぶ。さらに、対象者の生活に焦点をあてた評価として、個人的特性や生活背景、活動と参加における作業療法評価についても学び、各障害分野の作業療法評価学演習の基礎となる知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑤ 澄川幸志/24回) 作業療法と評価、作業療法評価項目、評価手順・手段、評価の解釈と妥当性、記録と情報共有、心身機能・身体構造の評価、活動・参加の評価、背景因子・環境因子の評価、作業療法評価のまとめと治療計画立案</p> <p>⑨ 浅尾章彦/6回) 作業分析、動作分析、姿勢分析 (※ ⑤ 澄川幸志は令和3年度まで担当する) (※ ⑨ 浅尾章彦は令和4年度から担当する)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	作業療法評価学	<p>身体障害領域の作業療法評価で用いる、主に身体機能に関する検査の実施方法を理解し、その技術を習得することを目指す。内容としては、身体機能評価として形態計測、関節可動域検査、筋力検査、知覚検査、反射検査、姿勢反射検査、筋緊張検査、協調性検査、脳神経検査、摂食嚥下機能検査、及び上肢機能検査等の各検査法の目的と対象、実施方法を学び、検査技術や対象者へ適応する際の基本的な留意点について、学生間の演習や実習を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑥ 藤田貴昭/1回) 身体障害作業療法評価総論</p> <p>⑥ 藤田貴昭、⑨ 浅尾章彦、⑬ 木村夏実、⑪ 三橋佑平/29回) (共同) 関節可動域検査測定、徒手筋力検査測定、握力・ピンチ力測定、知覚検査、反射検査、姿勢反射検査、筋緊張検査、協調性検査、呼吸機能検査、循環機能検査、脳神経検査、摂食嚥下機能検査、上肢機能検査</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	身体障害作業療法評価学演習	<p>精神障害領域の作業療法評価の視点と実施方法を理解し、その技術を習得することを目指す。内容としては、面接法、行動観察、各精神疾患・障害に応じた精神・心理機能検査や作業評価等の検査測定法について、目的と評価対象、手順、実施方法を学び、対象者へ適応する際の基本的な留意点について、学生間の演習や実習を通して実践的に学ぶ。さらに、評価によって得た結果や情報を統合する過程を経験し、対象者の症状理解へと結びつける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑦ 石川陽子/18回) 評価の目的と順序、情報収集の対象と手順、面接の対象と方法、観察の対象と方法、統合失調症の評価、気分(感情)障害、神経症性障害、摂食障害・パーソナリティ障害、てんかん・物質依存</p> <p>⑦ 石川陽子・⑮ 小笠原牧/12回) (共同) 面接演習、観察演習、検査・測定の対象と方法、検査・測定演習、症例理解(統合失調症、気分障害) (※ ⑮ 小笠原牧は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	精神障害作業療法評価学演習	<p>小児疾患や発達過程の障害に対する作業療法評価・検査の実施方法を理解し、その技術を習得することを目指す。内容としては、発達検査や運動機能評価、感覚統合機能の評価、視知覚・視覚認知の評価、及び行動評価について、その目的と対象、実施方法等を学び、検査技術や対象者へ適応する際の基本的な留意点やライフステージに応じた作業療法評価の解釈の方法について、演習や実習を通じて学ぶ。さらに、対象児家族への面接法についても学び、対象児の家族を含めた作業療法評価の視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>③ 倉澤茂樹/10回) 発達過程の作療法プロセス、正常発達の知識と臨床への応用(反射・反応の発達、目と手の発達、ADLの発達、認知機能・社会性の発達)、発達検査(目的と留意点)</p> <p>③ 倉澤茂樹、⑫ 田中善信/20回) (共同) 発達検査(発達全般を評価する検査、運動機能の評価、感覚統合機能の評価、視知覚・視覚認知の評価、知能・認知機能の評価、行動の評価、作業遂行・身辺処理の評価)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	作業療法治療学	<p>作業療法で用いられる作業の治療的効果や目的に応じた活用、適応方法の基礎について理解することを目指す。内容としては、作業療法の一連の過程や治療として用いる作業の特性を踏まえ、作業遂行によって得られる治療効果を身体機能や精神・心理機能、生活・活動面、社会参加等の側面から学ぶ。さらに、治療として用いる作業種目の選択や作業負荷量、適切な作業環境の設定、及び作業の段階付けを科学的に説明できる基礎的知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>⑤ 澄川幸志／7回 作業療法の一連の過程、作業の特性と分類、作業を遂行するための理解、作業の治療的効果(身体機能的側面、精神・心理的側面、発達の側面、活動面、社会参加)</p> <p>⑨ 浅尾章彦／8回 作業の治療的活用(作業種目の選択、作業負荷量、作業環境の設定、作業の段階付け)</p> <p>(※ ⑤ 澄川幸志は令和3年度まで担当する)</p>	オムニバス方式
	基礎作業療法治療学	<p>身体障害領域における作業療法の目的、治療および援助法について、作業療法のエビデンスや臨床実践で活用されている理論や介入方法を学び、身体障害作業療法の科学的知見や実践応用に関する知識の習得を目指す。内容としては、身体障害作業療法の治療原理、実践過程、病期に応じた介入、各疾患・障害別(脳血管障害、脳外傷、脊髄損傷、神経変性疾患、末梢神経損傷、神経・筋疾患、呼吸機能障害、循環機能障害等)の作業療法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>① 五百川和明／4回 身体障害作業療法の治療目的、治療法、身体障害作業療法の枠組み、治療理論、脳血管障害・脳外傷の作業療法(治療法とエビデンス)</p> <p>⑥ 藤田貴昭／20回 ボディメカニクス、運動制御理論と運動学習、身体障害作業療法の基礎、物理療法の基礎、身体障害作業療法各論(脳血管障害、脊髄・頸髄損傷、末梢神経損傷、呼吸機能障害、循環機能障害)</p> <p>⑩ 川崎伊織／6回 神経筋疾患の作業療法(多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症)</p>	オムニバス方式
	身体障害作業療法学	<p>身体障害領域における骨・関節疾患や腱損傷、切断の作業療法と義肢・装具の活用法について、その基本的知識と技術の習得を目指す。内容としては、骨関節疾患(上腕骨折、前腕骨折、下肢骨折、脊椎骨折、変形性関節症)、関節リウマチ、腱損傷、切断等に対する作業療法介入と義肢の適合・チェックアウト、手外科疾患に対するハンドセラピーについて学ぶ。さらに上肢装具(スプリント)の作成実習を通して、装具の使用目的や疾患への適用の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>⑥ 藤田貴昭／12回 骨関節疾患の作業療法、関節リウマチの作業療法、腱損傷の作業療法、熱傷の作業療法、切断の作業療法</p> <p>⑬ 阿部真典／6回 義手・義足の種類、使用目的・方法、義手の適合・チェックアウト、使用訓練、上肢装具の種類、使用目的・方法、下肢・体幹障害における装具の適用、義肢装具の導入と公的支給制度</p> <p>⑯ 大山峰生／6回 手外科疾患のリハビリテーション、ハンドセラピー(拘縮、腱損傷)</p> <p>⑰ 高橋勝／3回 装具作成実習(カックアップスプリント)</p> <p>⑳ 嶋原和昭／3回 装具作成実習(短対立スプリント)</p>	オムニバス方式
	身体障害作業療法学演習 I		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 作業療法治療学	身体障害作業療法学演習Ⅱ	<p>身体障害作業療法学で学んだ知識をもとに、作業療法介入および援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、身体障害作業療法に関する基本的介入・援助方法について、リスク管理法、関節可動域訓練、筋力増強訓練、協調性訓練、知覚再教育、上肢機能訓練、姿勢保持訓練、作業を活用した治療、自助具の利用、環境整備、及び喀痰吸引等のリスク管理技術を演習や実習を通して学ぶ。さらに、脳血管障害や脊髄損傷の事例をもとに、基本動作訓練や上肢機能訓練、自助具活用等の環境整備の基本的技術についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑥ 藤田貴昭/2回) 身体障害に対する作業療法介入の基礎、リスク管理法、バイタルサイン測定</p> <p>(⑥ 藤田貴昭、⑩ 川崎伊織、⑭ 松本大典/28回) (共同) 関節可動域訓練、筋力増強訓練、知覚再教育訓練、筋緊張異常への介入、協調運動障害への介入、姿勢保持訓練、脳血管障害への介入、脊髄・頸髄損傷への介入、作業を活用した治療、喀痰吸引、物理療法、事例検討</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	精神障害作業療法学	<p>精神障害領域における作業療法の目的、治療および援助法について、作業療法の歴史やエビデンス、臨床実践で活用されている理論や概念、介入方法を学び、精神障害作業療法の科学的知見や実践応用に関する知識の習得を目指す。内容としては、精神障害作業療法の歴史、理論、実践の過程、病期に応じた介入、精神科作業療法にて対象となることの多い各疾患・障害別(統合失調症、気分障害、神経症性障害、パーソナリティ障害、児童・思春期の精神、てんかん・物質依存)の作業療法の実践を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 林博史/1回) 精神科医療と作業療法</p> <p>(⑦ 石川陽子/14回) 精神障害作業療法の歴史・構造・実践形態、疾患別作業療法(統合失調症、気分・感情障害、神経症性障害、摂食障害、パーソナリティ障害、児童・思春期の障害、てんかん、物質依存)、実践理論</p>	オムニバス方式
	精神障害作業療法学演習	<p>精神障害作業療法学で学んだ作業療法介入方法や理論の知識をもとに、具体的事例に対する作業療法介入の立案と介入の基本的技術の習得を目指す。内容としては、各疾患・障害(統合失調症、気分障害、神経症、摂食障害、パーソナリティ障害、思春期障害、てんかん、物質依存)の特性を考慮した作業療法介入方法の選択やプログラムの立案と実施方法について、事例を活用した問題解決型学習を通して学ぶ。さらに、作業療法を行う上での自己の治療的応用についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑦ 石川陽子/4回) 作業療法実践のプロセス、自己の治療的応用、自己分析</p> <p>(⑦ 石川陽子、⑮ 小笠原牧/26回) (共同) Problem Based Learning、グループワーク、演習発表(統合失調症、気分・感情障害、神経症、摂食障害、パーソナリティ障害、思春期障害、てんかん、物質依存)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	老年期障害作業療法学	<p>老年期障害領域における作業療法の目的、治療及び援助法について、作業療法のエビデンスや臨床実践で活用されている理論や概念、介入方法を学び、老年期障害作業療法の科学的知見や実践応用に関する知識の習得を目指す。さらに、高齢者の生活機能障害の予防と支援に関する作業療法についても理解を深める。内容としては、老年期障害作業療法の歴史的変遷、老年期の生理的变化と生じやすい障害(身体及び精神的特徴)、認知症に対する介入、介護予防、健康増進、看取りや終末期の取り組み等について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	作 業 療 法 治 療 学	<p>老年期障害作業療法学で学んだ知識をもとに、老年期障害及び認知症の作業療法介入及び援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、老年期障害作業療法の戦略を学び、老年期で生じやすい寝たきりや閉じこもり、整形疾患、認知症、終末期医療など、老年期の特性を考慮した作業療法介入法の選択や作業療法プログラムの立案と実施方法について、事例を活用した問題解決型学習を通して学習する。さらに、介護保険制度における効果的なケアプラン、生活行為向上マネジメントについても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>④ 曾根稔雅/18回</p> <p>老年期作業療法の実践プロセス、介護保険制度におけるケアプランと生活行為向上マネジメント、老年期障害作業療法の戦略、老年期障害作業療法の実践</p> <p>④ 曾根稔雅、⑧ 川又寛徳/12回 (共同)</p> <p>事例検討(寝たきり、閉じこもり、整形疾患、認知症、終末期)、グループワーク(事例読み込み、課題の抽出と整理、資料収集、作業療法プログラムの立案、資料作成、発表、討議)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)	
		発達障害作業療法学	<p>発達障害領域における作業療法の目的、治療および援助法について、作業療法のエビデンスや臨床実践で活用されている理論や概念、介入方法を学び、発達障害作業療法の科学的知見や実践応用に関する知識の習得を目指す。内容としては、発達過程の作業療法における作業療法士の役割と意義、各疾患・障害別(脳性麻痺、重度心身障害児、知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害等)に応じた作業療法について学習する。</p>	
		発達障害作業療法学演習	<p>発達障害作業療法学で学んだ知識をもとに、発達障害の作業療法介入および援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、神経発達学的治療法、装具療法・座位保持装置、感覚統合療法、応用行動分析、TEACCHプログラム、ペアレントトレーニングについて、理論やエビデンスを学ぶとともに、事例を活用した演習や実習を通して理解を深める。さらに、発達障害の特性やライフステージを考慮した学校コンサルテーションや地域療育への関わりについても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>③ 倉澤茂樹/16回</p> <p>神経発達学的治療法、装具療法・座位保持装置、感覚統合療法、応用行動分析、TEACCHプログラム、ペアレントトレーニング、学校コンサルテーション、地域療育への関わり</p> <p>③ 倉澤茂樹、⑫ 田中善信/14回 (共同)</p> <p>事例検討・演習(神経発達学的治療法、装具療法・座位保持装置、感覚統合療法、応用行動分析、TEACCHプログラム、ペアレントトレーニング、学校コンサルテーション、地域療育への関わり)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		高次脳機能障害作業療法学	<p>高次脳機能障害における作業療法評価・検査法、及び作業療法介入に関する基本的知識の習得を目指す。内容としては、頭部外傷や脳血管障害等の脳の器質性疾患を伴って生ずる注意障害、記憶障害、失行症、失認症、失語症、遂行機能障害の作業行動上の課題と作業療法評価法、及び作業療法介入の概要について学ぶ。また、高次脳機能障害者の社会参加、就業支援の現状を踏まえ、高次脳機能障害者に対する作業療法の介入について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>② 林博史/2回</p> <p>認知症による作業行動上の課題、高次脳機能障害の作業療法概説、認知リハビリテーション</p> <p>⑩ 川崎伊織/13回</p> <p>高次脳機能障害とは、高次脳機能障害者の社会生活、作業行動上の課題と作業療法評価(注意障害、記憶障害、失語症、失行症、失認症、遂行機能障害)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目 作業 療法 治療 学	高次脳機能障害作業療法学 演習	高次脳機能障害作業療法学で学んだ知識をもとに、高次脳機能障害の作業療法介入及び指導・援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、注意障害、記憶障害、失行症、失認症、失語症、遂行機能障害の各障害における作業行動上の課題に対する作業療法の具体的介入法及び指導・援助法、高次脳機能障害者の社会参加や復職、就労に向けた作業療法や環境整備（人的面、物的面、制度面）に関して、事例を活用した演習を通して理解を深める。	
		日常生活活動学	日常生活活動の評価と介入の視点を学ぶとともに、疾患や障害による日常生活活動の障害に関する基本的知識の習得を目指す。内容としては、基本的日常生活活動（起居・移乗・移動、更衣、整容、食事、排泄、入浴、コミュニケーション）や手段的日常生活活動（掃除、調理、余暇・遊び）の障害と問題点を学び、作業療法評価と介入・指導方法について学ぶ。さらに、日常生活における家族介護者の支援や環境整備等の生活支援の多様な視点についても理解を深める。	
		日常生活活動学実習	日常生活活動学で学んだ知識をもとに、主に身体障害に起因する基本的日常生活活動（ADL）および手段的日常生活活動（IADL）の障害に対する作業療法介入及び指導・援助法の基本的技術の習得を目指す。内容としては、障害別（運動器障害、神経系障害）にADLおよびIADLの各動作の特徴と援助方法を理解し、対象者が必要とする日常生活活動や社会活動を支援するための介入方法、指導方法、環境調整等について、学生間の演習や実習を通して理解を深める。 (オムニバス方式／全45回) ⑥ 藤田貴昭／18回 日常生活活動の評価と介入、ADL評価実習（Barthel Index、Functional Independence Measure）、IADL評価実習、実践的介入（運動器疾患・神経系疾患事例実習：更衣、整容、入浴、コミュニケーション） ⑨ 浅尾章彦／12回 実践的介入（運動器疾患・神経系疾患事例実習：食事、排泄、移動、外出、掃除） ⑫ 田中善信／12回 AMPS（OTIPM、COPM、技能項目と課題、実施手順、課題契約と環境設定、ADL・IADL場面の観察実習）、実践的介入（運動器疾患事例・神経系疾患事例実習：調理、余暇、遊び） ⑥ 藤田貴昭、⑨ 浅尾章彦、⑫ 田中善信／3回（共同） 事例検討（運動器疾患事例、神経系疾患事例）	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	作業 療法 治療 学	<p>これまで学習してきた作業療法の実践に必要な専門基礎科目や専門科目の知識を統合し、作業療法の高度な臨床実践への応用につながる知識を得ることや、卒業後の生涯に渡って専門職として質の高い作業療法を提供するための主体的な学習を継続する能力の習得を目指す。内容としては、作業療法の臨床事例の検討を通して、病態と障害の理解、チーム医療における各職種との理解と役割、リハビリテーション目標、必要とされる作業療法評価、予後予測と目標設定、エビデンスに基づいた作業療法プログラム等について、グループ学習を通して作業療法実践のための理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(① 五百川和明/6回) 臨床事例検討(身体障害:運動器系疾患、神経系疾患、内科系疾患)</p> <p>(② 林博史/4回) 臨床事例検討(重複障害:脳性麻痺と内科系疾患、精神疾患と認知症)</p> <p>(③ 倉澤茂樹/6回) 臨床事例検討(発達障害:脳性麻痺、重度心身障害、知的発達障害、自閉スペクトラム症)</p> <p>(④ 曾根稔雅/8回) 臨床事例検討(老年期障害:フレイル・サルコペニア、認知症・うつ、摂食嚥下障害・低栄養)、臨床事例検討(地域在住者支援:閉じこもり)</p> <p>(⑦ 石川陽子/6回) 臨床事例検討(精神障害:統合失調症、気分・感情障害、神経症性障害)</p>	オムニバス方式
		作業療法総合演習	<p>臨床実習Ⅱ、Ⅲで求められる、主に作業療法評価に関する知識や技術及び態度に関する統合的理解と技術の習得を目指す。内容としては、1年次で学修してきた知識や技術を再確認・整理しながら、臨床事例を基に「作業療法評価の視点及び作業療法評価方法と結果の解釈」に関して学び、模擬事例に対する作業療法評価に関する実習を通して、作業療法評価に必要な技術、態度を学ぶ。授業はグループを構成し、作業療法評価に関する演習及び実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(⑬ 木村夏実/2回) 臨床実習とは、臨床実習の目的、臨床実習Ⅱ、Ⅲの学習目標、学生に求められる知識・技術・態度</p> <p>(⑬ 木村夏実、⑮ 小笠原牧、⑪ 三橋佑平、⑭ 松本大典/43回) (共同) 臨床実習Ⅱでの実践経験の共有(情報収集、面接、作業療法評価計画、対象者への説明、評価の実践、作業療法目標設定と治療計画)、作業療法評価の基本的技術(観察、模擬面接、検査)、臨床実習Ⅲの振り返り (※ ⑮ 小笠原牧は令和5年度から担当する)</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
		臨床技能実習Ⅰ		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目 作業 療法 治療 学	臨床実習Ⅳで求められる、作業療法評価及び治療介入に関する知識、技術及び態度に関する統合的理解と技術の習得を目指す。内容としては、2年次までに学修してきた知識や技術を再確認・整理しながら、臨床事例を基に作業療法評価及び介入の視点、作業療法評価・介入に必要な技術、態度を学ぶ。さらに、その学習状況の確認として客観的臨床能力試験（OSCE）を行い、臨床実習Ⅳに向けた準備を行う。臨床実習Ⅳの後は実習経験の振り返りを行い、作業療法介入の意義と実践で求められる知識、技術、態度についての理解を深める。授業は演習グループを構成し、作業療法評価及び介入に関する演習および実習を行う。 (オムニバス方式／全45回) (⑨ 浅尾章彦／2回) 臨床実習Ⅳの学習目標、学生に求められる知識・技術・態度、クリニカルクラークシップ、臨床実習で許容される臨床技能水準 (⑨ 浅尾章彦、⑩ 川崎伊織、⑦ 石川陽子、⑧ 川又寛徳、⑫ 田中善信／37回) (共同) 事例演習・実習（疾患と症状の理解、対象者ニーズの把握、作業療法評価、作業療法評価の解釈、全体像の把握、作業療法目標・治療プログラムの立案と実施）、臨床実習Ⅳの振り返り (① 五百川和明、③ 倉澤茂樹、④ 曾根稔雅、⑤ 澄川幸志、⑥ 藤田貴昭、⑦ 石川陽子、⑧ 川又寛徳、⑨ 浅尾章彦、⑩ 川崎伊織、⑪ 三橋佑平、⑫ 田中善信、⑬ 木村夏実、⑭ 松本大典、⑮ 小笠原牧／6回) (共同) 客観的臨床能力試験（基本的臨床技能：面接、作業療法評価・介入、態度）	オムニバス方式・共同（一部）
		臨床実習Ⅴで求められる、一連の作業療法介入プロセスに関する知識、技術及び態度に関する統合的理解と技術の習得を目指す。内容としては、3年次までに学修してきた知識や技術を再確認・整理しながら、臨床事例を基に作業療法評価及び介入の視点、作業療法プロセス、臨床推論、作業の治療的意味、作業療法介入に必要な技術、態度を学ぶ。臨床実習Ⅴの後は実習経験の振り返りを行う。さらに、臨床実習Ⅳ・Ⅴの学習状況を客観的臨床能力試験（OSCE）で確認する。授業はグループを構成し、作業療法評価及び介入に関する演習および実習を行う。 (オムニバス方式／全30回) (⑩ 川崎伊織／2回) 臨床実習Ⅴの学習目標、学生に求められる知識・技術・態度 (⑩ 川崎伊織、⑬ 木村夏実、⑭ 松本大典、⑮ 小笠原牧／22回) (共同) 臨床実習Ⅴでの達成目標立案、事例演習・実習（対象者のニーズ・生活歴の聞き取り、作業療法評価・介入の視点、作業療法プロセス、臨床推論、作業の治療的意味）、臨床実習Ⅴの振り返り、事例報告書作成 (① 五百川和明、③ 倉澤茂樹、④ 曾根稔雅、⑤ 澄川幸志、⑥ 藤田貴昭、⑦ 石川陽子、⑧ 川又寛徳、⑨ 浅尾章彦、⑩ 川崎伊織、⑪ 三橋佑平、⑫ 田中善信、⑬ 木村夏実、⑭ 松本大典、⑮ 小笠原牧／6回) (共同) 客観的臨床能力試験（実践的臨床技能：作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 作業療法治療学	認知症・介護予防作業療法論演習	<p>高齢化の進展と相まって社会問題化している認知症対策及び介護予防に関して、作業療法の実践と効果を学び、新たな作業療法戦略を検討する力を身に付けることを目指す。内容としては、予防・ヘルスプロモーションの概念、国内外の動向、最新の予防作業療法のエビデンスと実践例の紹介、地域包括ケアシステムの概観と作業療法士の役割、福島県での認知症及び介護予防事業の現状等を学び、更により有効な予防作業療法および戦略について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(② 林博史／6回) 認知症の症候と関連因子、認知症に対する薬物治療、認知症に対するリハビリテーション（認知的介入、運動介入、栄養介入、音楽療法、アロマセラピー）</p> <p>(④ 曾根稔雅／10回) 根拠に基づく認知症・介護予防作業療法の概要、予防・ヘルスプロモーション、健康行動理論、地域包括ケアシステム</p> <p>(⑧ 川又寛徳／12回) 予防作業療法のエビデンス、予防作業療法のプログラム開発、予防作業療法の実践例、認知症に対する作業療法、軽度認知症と予防、認知症初期集中支援</p> <p>(⑭ 小林法一／2回) 予防作業療法の実践例（ハイリスク・アプローチ）</p>	オムニバス方式
	身体障害作業療法学特論	<p>内部障害とがんの作業療法について、臨床上必要な知識・技術の習得を目指す。内容としては、呼吸器機能障害、循環機能障害、重複障害および廃用症候群に対する作業療法の実践、さらに内部障害者の日常生活活動と余暇に対する作業療法について学ぶ。さらに、がん（乳がん、肺がん、消化器系がん、骨・軟部腫瘍、造血器腫瘍、脳腫瘍、小児がん等）の作業療法実践とリスク管理や福島県作業療法士会が参画しているがんのチャリティー事業を通して、がん患者の社会参加について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 五百川和明／2回) 内部障害の定義と種類、がん患者の社会参加（福島県作業療法士会の活動）</p> <p>(⑪ 三橋佑平／2回) 内部障害者の日常生活面での課題、廃用症候群と作業療法士の役割</p> <p>(⑳ 高橋勝／2回) がん作業療法の実践（脳腫瘍、骨・軟部腫瘍）</p> <p>(190 鈴木真弓／3回) 内部障害作業療法の実践（呼吸器機能障害、循環機能障害、重複障害）</p> <p>(180 佐藤瑞枝／3回) 内部障害作業療法の実践（廃用症候群、日常生活活動と余暇）、がん作業療法の実践（作業療法士の役割）</p> <p>(191 華井明子／3回) がん作業療法の実践（乳がん、婦人科系がん、肺がん、消化器系がん、造血器腫瘍）</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	作業療法治療学	<p>これからの作業療法の新たな発展領域として期待されている、認知症リハビリテーション、リハビリテーション工学分野、特別支援教育分野、司法分野、行政機関、脳科学系やがんの研究分野、さらに起業など、幅広い分野で活躍している医師や作業療法士から、各分野・領域での作業療法の役割と有用性、今後の将来展望について学ぶ。さらに、医療・保健・福祉の枠を超えた新たな分野の作業療法の取り組みや作業療法の更なる可能性について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 林博史/2回) 作業療法の可能性、発展領域、新たな認知症リハビリテーション</p> <p>(③ 倉澤茂樹/1回) 特別支援教育分野における作業療法の役割</p> <p>(⑩ 川崎伊織/1回) 脳科学系研究分野の作業療法</p> <p>(⑨ 浅尾章彦/1回) リハビリテーション工学系分野における作業療法の役割</p> <p>(193 鶴見隆彦/1回) 司法分野の作業療法士の役割</p> <p>(184 石橋裕/1回) 行政機関における作業療法</p> <p>(195 林園子/2回) 生活用具における作業療法の視点、遊具やゲームにおける作業療法の視点</p> <p>(192 岡本宏二/2回) アニマルセラピーにおける作業療法士の視点、保育と作業療法</p> <p>(191 華井明子/2回) がん研究最前線で働く作業療法士</p> <p>(194 中村美緒/2回) リハビリテーション研究機関で働く作業療法士(ロボット、福祉用具機器評価)</p>	オムニバス方式
	地域作業療法学	生活環境整備学演習	<p>福祉機器や住環境整備について、対象者の地域社会への「参加」をテーマに、社会資源や制度、作業療法の具体的な方法について基本的な知識の習得を目指す。内容としては、福祉機器や住環境整備の概念や歴史、社会資源・各種制度、高齢者や各種障害・疾患の特性に応じた福祉機器の導入及び住環境整備の視点・考え方とその具体的方法、更にはユニバーサルデザインによる福祉のまちづくりの視点について学び、グループワークによる事例検討を通して理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑤ 澄川幸志/17回) 福祉機器や住環境整備の概念、ICFの環境因子、住環境整備、福祉機器と住環境整備に関わる職種や制度、福祉機器適合と住環境整備の流れ、福祉機器のリスクマネジメント、福祉機器適合、住環境整備</p> <p>(⑤ 橋本美芽/3回) 福祉のまちづくり(概念、基本計画と手法、事例)</p> <p>(⑤ 澄川幸志、⑧ 川又寛徳/10回)(共同) 建築の基礎知識、住宅の機能、日本の住宅の特徴、図面の書き方、疾患別の福祉機器適合、住環境整備(グループワーク、発表)</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部作業療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	地域 作 業 療 法 学	<p>仕事や遊び、スポーツ、芸術活動など、対象者の地域生活や社会参加の様々な形態に対する支援や環境調整について、その基本的知識の習得を目指す。内容としては、職業生活、障害者スポーツ、地域包括ケアシステムにおける活動、芸術活動などの社会参加を支援する際に必要な基本知識について学ぶ。さらに、地域で実践している専門職や当事者から支援の実際について学び、対象者のQOLを高めるための社会参加を促進する作業療法について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(④ 曾根稔雅／5回) 地域生活・社会参加とは、職業リハビリテーション、職業生活援助の理論、制度・関連法規、職業生活援助の評価・計画・実施のプロセス、障害者のQOL</p> <p>(① 五百川和明／2回) 子どもキャンプについて(重度障害をもつ子供の参加)、障害と芸術</p> <p>(199 渡邊忠義／3回) 職業生活援助の実際、就労・生産活動の支援、交流・地域生活支援</p> <p>(196 大角浩平／1回) 障害者とスポーツ：ソーシャルフットボール(精神障害者のスポーツへの参加)</p> <p>(198 田中栄一／2回) 障害がある方のゲームアクセシビリティ、障害者とスポーツ(eスポーツ、重度障害者のスポーツへの参加)</p> <p>(197 猪狩僚／2回) 地域包括ケアの実際：いわき市の取り組み(概要、経緯、つどいの場、シルバーリハビリ体操、いごくフェス、コミュニティ食堂などの取り組みとOTへの期待)</p>	オムニバス方式
		地域生活・社会参加支援論	<p>地域リハビリテーションの理念をもとに、地域作業療法の視点、役割、作業療法の実践、在宅生活支援のための制度やシステムに関する知識の習得を目指す。内容としては、地域医療、地域リハビリテーションの理念、地域作業療法の役割、更には地域包括ケアシステムや介護保険制度等の社会制度、地域における社会資源、対象者本人や家族、多職種との協業・連携等について、地域リハビリテーション・作業療法の具体的な取り組みを含め学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 地域作業療法学	地域作業療法学	<p>地域作業療法学で学んだ知識をもとに、地域、特に福島県がかかえる健康課題に応じた作業療法を実践するために必要な知識と技術の習得を目指す。内容としては、福島県作業療法士会の歴史や取り組み、福島県で実践されている地域作業療法について、様々な実施場面で活躍する作業療法士の講義を通して、当該地域での作業療法士の役割や地域固有の課題等について理解を深める。また、福島県における様々な健康課題について問題解決型学習を通して理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④ 曾根稔雅/3回) 福島県における地域医療、健康面の課題、福島県における地域包括ケアシステムの現状、福島県における地域リハビリテーション体制の現状</p> <p>(⑧ 川又寛徳/2回) 福島県における地域作業療法の実際 (入所・通所・訪問の一体的なサービス)</p> <p>(200 長谷部真奈美/3回) 福島県における地域作業療法の実際 (僻地)</p> <p>(178 榎森智絵/2回) 福島県における地域作業療法の実際 (地域包括支援センター)</p> <p>(201 木田佳和/2回) 福島県における地域作業療法の実際 (認知症初期集中支援チーム)</p> <p>(199 渡邊忠義/3回) 福島県における地域作業療法の実際 (精神障害領域)</p> <p>(192 岡本宏二/2回) 福島県における地域作業療法の実際 (発達障害領域)</p> <p>(179 長谷川敬一/3回) 福島県における地域作業療法の実際 (福島県作業療法士会の歴史、活動の概要、震災等の支援活動)</p> <p>(④ 曾根稔雅、⑧ 川又寛徳/10回) (共同) 福島県における健康課題に関する問題解決型学習 (課題の提示、解決策の検討、資料収集、支援計画の立案、発表資料の作成、成果報告、総括)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	地域作業療法学実習	<p>地域作業療法学、地域作業療法学実習で学んだ知識・技術をもとに、様々な健康課題を抱えて地域で生活する対象者への作業療法プロセスの経験を通して、実際の地域住民活動の支援ができることを目指す。内容としては、週1回1日6時間、計5回の実習を行い、実習内容の報告を行う。実習にあたり、担当教員は各事業所との調整及び学生指導を行うが、学生が主体的に保健師やケースワーカー等に関わり、指導者の指導・監督の下、学生の習熟度や対象者の安全面を考慮した上で、地域の健康課題を解決するために作業療法評価、計画、支援を実施する。</p>	共同
	臨床実習 臨床実習 I	<p>早期臨床見学体験実習として、臨床実習施設での作業療法とその関連部門の見学を通して、当該施設の役割や機能、対象者の生活を支援する作業療法の役割や意義について学ぶ。また、臨床実習指導者の指導・監督の下で作業療法場面の見学や体験を通し、対象者への基本的な関わり方や接遇、言葉遣い、さらに作業療法実習生としての適切な態度、行動を学ぶ。本実習は、1年次後期2週間の臨床実習であり、主に老年期障害領域の実習施設で行う。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	臨 床 実 習	臨床実習Ⅱ	作業療法の対象疾患と基本的作業療法評価について、専任教員による実際の作業療法評価場面の見学を通して、対象者への基本的な関わり方、対象患者の疾患や症状、作業療法評価に必要な知識や技術、態度を学ぶ。本実習は、2年次通年で隔週1回（半日）、担当専任教員の指導・監督のもとで行う。前期の実習では、臨床実習Ⅲ（2年次後期）に向けた実習を目的とし、後期は臨床実習Ⅲで習得した技能を深める実習と位置付ける。本学附属病院の他、近隣の身体障害、精神障害領域の病院において実習を行う。
		臨床実習Ⅲ	臨床実習施設での作業療法評価の一部の経験を通して、作業療法評価に必要な基本的な知識、技術および態度の習得を目指す。内容としては臨床実習指導者の指導・監督の下で、対象者の情報収集、面接、作業療法評価計画の立案を行い、学生が実施できると臨床実習指導者が認めた評価法を実施し、結果をまとめる。この実習を通して、評価に必要な準備や対象者への配慮、作業療法評価の適切な実施方法を学び、得られた結果から対象者の能力や生活上の困難さを理解する。本実習は、2年次後期始めの3週間の実習であり、2年次通年の臨床実習Ⅱとの継続的学修を考慮し、主に身体障害、精神障害領域の施設で行う。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。
		臨床実習Ⅳ	本実習は対象者への一連の作業療法評価の実施、及び作業療法治療の一部を実施できることを目指す。内容としては、臨床実習指導者が立案した対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、必要な作業療法評価を立案し実施する。評価結果から対象者の課題をまとめ、対象者の作業療法目標および治療プログラムを立案する。作業療法治療介入は臨床実習指導者の指導・監督の下、学生の習熟度や対象者の安全面を考慮した上で、指導者が行う治療の補助を基本として実施する。本実習は、3年次後期の8週間の臨床実習であり、各障害領域の施設で実施する。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。
		臨床実習Ⅴ	本実習は対象者への一連の作業療法プロセスの経験を通して、作業療法士としての基本的臨床技術、臨床推論、態度の習得を目指す。内容としては、対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、作業療法評価から作業療法治療介入の一連の実践過程を経験する。学生は臨床実習指導者の指導・監督の下で、指導者が行う治療の補助を通し、作業療法評価や治療の過程における基本的臨床技術や臨床的思考過程・推論等を学ぶ。本実習は、4年次前期の8週間の臨床実習であり、各障害領域の施設で実施する。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>大学入学直後に、正しく学修に取り組み、その成果を実社会で活かす能力を身につけるための基盤をつくるとともに、医療を学ぶ上で必要となる心構えを養う。専門医療技術者になるために必要となる修学内容について把握し、医療を通じた社会貢献について学修する。大学生として学修する上で必要な知識やスキルについて学ぶ。最後に、ともに学ぶ学生間でのプレゼンテーション、学生同士や教員とのディスカッションを行い、コミュニケーションの重要性を学ぶとともに4年間の学びのビジョンを明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 矢吹省司/1回) 「大人の学び」基礎講座（我々は何を学び何をを目指すのか）</p> <p>(⑧ 高橋仁美/1回) 社会人になるまでに学ぶこと</p> <p>(⑫ 小川一英/1回) 医療人として働くために学ぶこと</p> <p>(⑩ 五百川和明/1回) コミュニケーションによって医療人は何をどう活かすのか</p> <p>(④ 亀岡弥生/1回) チームによる課題解決を学ぶ</p> <p>(⑬ 豊川真弘/1回) 自ら学ぶことの意義</p> <p>(⑪ 林博史/1回) 医療・医学</p> <p>(⑭ 北爪しのぶ/2回) 研究・論文、男女共同参画</p> <p>(① 久保均/1回) インターネット・リテラシー</p> <p>(⑤ 本多創史/1回) 生命倫理</p> <p>(⑦ 矢吹省司、⑧ 高橋仁美、⑫ 小川一英、⑩ 五百川和明、⑬ 豊川真弘、⑪ 林博史、⑭ 北爪しのぶ、① 久保均/4回) (共同) 修学基礎セミナー学修に関するグループワーク</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	修学基礎セミナー		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>東日本大震災と福島第一原発事故後の福島の現状を学ぶ。福島の歴史、特に日本史上で、福島県が主要な舞台となった出来事（戊辰戦争、奥羽仕置、奥州合戦など）について学ぶ。また、福島県を構成する浜通り・中通り・会津という3つの地域の自然環境や暮らしの特徴について学ぶ。福島県立博物館で実際に歴史や文化に触れる。さらに福島県の芸術や食文化について学ぶ。福島の歴史や文化、そして現状を理解し、今後福島県はどのように進んで行く必要があるかを学ぶ時間とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 矢吹省司・103 開沼博/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(103 開沼博/5回) 福島の現状、3.11までの福島、福島の今後の展望</p> <p>(104 阿部綾子/1回) 福島の歴史</p> <p>(105 内山大介/1回) はま・なか・あいつの地域性</p> <p>(106 高橋充/2回) 福島の歴史と文化</p> <p>(107 堀宜雄/1回) 福島の近代美術概観</p> <p>(108 増渕鏡子/1回) 福島出身の作家や美術</p> <p>(109 橋本恵里/1回) 福島出身作家や美術コレクション</p> <p>(110 平出美穂子/1回) 福島の食文化</p> <p>(111 鈴木賢二/1回) 福島の食文化</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	福島県を知る		
	ライフデザイン	自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の理念である「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する。」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生を充実させるためにできること、手立てをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法をグループで学びあい、集団討議させることで、より確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。	
自然 科学 系 科目	数学 I	現代の科学はすべて数学を基礎として成り立っている。数学は、生物学、経済学、医学、医用工学などへの応用に非常に有力である。大学1年生で学ぶ「微分積分学」と「線形代数学」は数学の概念の中でも最も重要な基礎である。また、これから多くの数学以外の専門科目を学ぶうえで必要となってくる。この授業では、「微分積分学」の中の「1変数の微分」と「線形代数」の中の「行列と1次元変換」の概念を理解し、基礎的な計算力を身に付ける。	共同
	数学 II	多くの自然現象を記述する方程式として、微分方程式がある。微分方程式を解くことによって物体の運動の実態などを明らかにすることができる。現象を見てそれを支配する法則を微分方程式モデルに表現することは、それを解くことと同じく重要である。微分積分学は、自然現象や社会の仕組み、工業技術に関することがらを解明するときには必要不可欠である。この授業では「微分積分学」の中の「1変数の積分」と「微分方程式」の中の「常微分方程式」の概念を理解し、簡単なモデルの解法を学習する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系科目	応用数学	<p>複数の要因によって生起する自然現象を理解するには「多変数の微積分学」の概念が必要となる。複数の要因の変化が動的に現象に影響を及ぼしているモデルを記述する道具が「偏微分方程式」であり、偏微分方程式を解析するためのツールが「フーリエ変換」と「ラプラス変換」の理論である。「フーリエ変換」はMRI、X線コンピュータトモグラフィ(CT)、陽電子放射型コンピュータトモグラフィ(PET)などの医用イメージングの理論や医用画像処理など様々な分野で非常に重要な役割を果たしている。</p> <p>この授業では、多変数の微積分学、フーリエ変換、ラプラス変換の基本的な考え方を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆/5回) (共同) 偏導関数、連鎖律、合成関数の偏導関数の計算、重積分の定義、重積分を用いて立体の体積計算、偏微分の応用、重積分の応用</p> <p>(⑮ 安達隆/10回) ラプラス変換、フーリエ変換</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	統計学	<p>医療における統計学の意義は、大きくわけて3つある。1つは、現状を把握することである。例えば、がん死亡数は減ってきているか、この病気はどのようなサブタイプに分かれるか等は、記述統計を使って把握することができる。2つめは、予測することである。例えば、検査が陽性のときの発症確率、薬が効く確率等は、推測統計を使って予測することができる。3つめは、因果関係を示すことである。例えば、たばこを吸うと肺癌になりやすくなる、この薬を使ったら病気が治る確率が高くなる等である。とくに因果関係を示すことは難しく、バイアスを除いて正しくデータを観測し、交絡を除いて原因と結果の関係を正しく評価する必要がある。統計を使って、研究と診療におけるデータの特徴を導き出し、分析する能力を身に付けることが必要である。この授業では、記述統計、推測統計(推定・検定)の基本的な考え方を身に付ける。</p>	
	化学 I	<p>専門科目を学ぶ上で必要となる化学全般(主に無機化学、有機化学)の基礎的な知識を身につける。化学は、物質を基本とした学問なので、まず物質を構成する原子の構造、原子間の結合、物質の量的取り扱いについての基本的な事項を学習する。その後、個々の元素(非金属元素、金属元素)の性質について学び、無機化合物に関する理解を深める。また、酸と塩基、酸化と還元の本質について理解する。そして、生体を理解する上で重要な有機化学については、官能基の特徴に基づいて個々の化合物の性質を学ぶと共に、それらの反応を理解する上で基盤となる知識を身につける。</p>	
	化学 II	<p>化学Iで学んだ知識を基盤として、専門科目を学ぶ上で必要となる物理化学、分析化学の基礎的な知識を身につける。まず、反応速度と化学平衡の概念を理解し、溶液の性質について学ぶ。その後、化合物を分析する上で重要となるデータ処理の手法について学んだ上で、基礎的な検出、定量法について、滴定を中心に学習する。そして、分子分光分析法、原子分光分析法、質量分析法、核磁気共鳴分光法について、その原理を理解する。また、混合物の分離分析に利用されるクロマトグラフィーおよび電気泳動の原理について学ぶ。</p>	
	生物学 I	<p>医療を志す者にとって、基本的な生物学の知識は最も重要な素養の一つである。本講義では、生物学の発展に寄与した重要な発見の歴史に触れることで先人たちの努力によって蓄えられてきた知識の重みを感じながら、すべての生物に共通な特徴(細胞、組織、エネルギー代謝、呼吸、情報伝達、遺伝)について系統的に学習し、生物の有する普遍性と特殊性について理解する。最後に生物の多様性と進化をもたらさる生物の可塑性を考察することで、生物のダイナミズムに触れる。</p>	
	生物学 II	<p>本講義では、個体を構成している細胞の構造と機能について、細胞生物学・分子遺伝学・分子生物学の面から基本的原理を学ぶことで、生物の持つシステムティックな機構について理解する。また、最新の生物学的知見や技術を紹介し医療との関連についても学ぶことで、生物学の基礎的な発見がどのように医療へと応用されていくのかを学ぶ。最後に、分子レベル、細胞レベルにおける人体の防御機構(放射線に対する防御機構も含む)を学ぶことで、生物がどのように外部からのストレスに応答し、守っているのかを理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系科目	物理学 I	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、物質が関与する現象は物理学の原理にしたがっていることが考えられる。また、医療の現場では多くの医療機器に満ちており、これらの医療機器は物理学の原理にしたがって作動している。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では力と運動、電磁気、原子と原子核に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、力と運動では、力のつり合い、質点の運動、質点系と剛体の力学、相対性理論について学ぶ。電磁気では、静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導と交流、電磁波について学ぶ。最後に、原子と原子核では、電子、原子、原子核、放射線について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(65 反町篤行/10回) 物理学の基本的な考え方、力と運動、原子と原子核</p> <p>(7 五月女康作/5回) 電磁気</p>	オムニバス方式
	物理学 II	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に関して物質が関与する現象、医療の現場では使用されている医療機器は物理学の原理にしたがっている。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では物理学Iで習得した物理学の知識を基盤として、弾性体と流体、振動と波動、温度と熱に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、弾性体と流体では、固体の変形、静止している流体、運動している流体について学ぶ。振動と波動では、振動、波動、音波、光学、について学ぶ。最後に、温度と熱では、熱現象、熱力学、分子運動論、熱力学の応用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(65 反町篤行/8回) 弾性体と流体、温度と熱</p> <p>(88 大森康孝/7回) 振動と波動</p>	オムニバス方式
	自然科学実験	<p>自然科学（物理学、化学、生物学）に関する実験を通して、各科目への理解を深めることを目的とする。各分野においていくつかのテーマに関連した実験を行い、得られたデータの解析・分析の仕方、実験レポートの書き方などを身につける。</p> <p>物理学実験では、単振り子、プランク定数、放射線計測に関する実験を行い、基本的な実験機器の扱い方を身につけるとともに、物理学の基本法則や考え方などを確認、理解する。</p> <p>化学実験では、中和滴定、メチルオレンジの合成、アスピリンの合成を行い、基本的な薬品および実験器具の扱い方を身につけるとともに、化学反応に対する知識を深める。</p> <p>生物学実験では、タンパク質の呈色反応、染色体標本の作成と観察、マウスの解剖と観察を行い、基本的な生物実験の実験器具の扱い方、顕微鏡を用いたサンプルの観察方法、解剖手法の基本を身につけ、生物資料の性質、形態、構造などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(65 反町篤行、37 佐々木道子、64 有吉健太郎/3回) (共同) ガイダンス、実験の説明、レポートの作成方法の指導</p> <p>(65 反町篤行/3回) 物理学実験(単振り子)</p> <p>(88 大森康孝/3回) 物理学実験(放射線計測)</p> <p>(7 五月女康作/3回) 物理学実験(プランク定数)</p> <p>(37 佐々木道子/9回) 化学実験</p> <p>(64 有吉健太郎/9回) 生物学実験</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	コミュニケーション論 (オムニバス方式/全15回) (89 竹林由武/2回) コミュニケーションスキル、人間の情報処理過程とバイアス、リスク認知 (89 竹林由武、92 青木俊太郎、154 松本貴智/8回) (共同) 非言語コミュニケーション、傾聴・共感のスキル、 (92 青木俊太郎、89 竹林由武/5回) (共同) 医学情報を伝えるスキル、共同的意思決定、行動変容を支えるコミュニケーションスキル	オムニバス方式・ 共同 (一部)	
		言語と社会	この授業は社会言語学の入門クラスで、言語と社会の関わりについて様々なテーマを扱う。言語が個人間、コミュニティ、社会での情報発信にどのような役割を果たしているのかを世代別、性別、異文化交流、マンガアニメの言語などを通じて学ぶ。また、各回で扱う言語のテーマが私たちとどう関わっているのかを知ることで、将来医療現場や実生活で円滑なコミュニケーションを図り、他者をより理解するための言語スキルと知識を身につける。さらに、言語にまつわる体験談や疑問も共有し、クラス全体で共に考えていく。	
		人間関係論	主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に抛りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究する。 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになることを目指し、1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。以上の力を培っていただけるように、講義やワークショップを展開する。	
		哲学	人間は人間であるかぎり、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことである。この授業では、そうした「とことん考え抜く」営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになる端緒を提供する。「知らないということを知っていること(無知の知)こそ最上の知である」とするソクラテスの洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついていると思うからである。西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指す。	
		心理学	心理学は、「こころ」やそれに関連する非常に幅広い事象について考えてきた学問である。例えば、知覚、記憶、認知、学習、感情、性格、動機づけ、発達(新生児期～老年期まで)、対人行動、集団(集団内、集団間)、組織、文化、健康、心理的支援など、非常に幅広い領域が心理学の研究対象となっている。この授業では、心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」とそれに関連する事象の特徴や仕組みについて、心理学の視点からどのように理解するかについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (35 三澤文紀/5回) 知覚、性格・知能、動機づけ、ストレスの心理、ストレスと臨床心理 (90 井口善生/3回) 脳と心 (112 藤岡理恵子/2回) 発達 (142 小林智之/5回) 社会心理	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	人文・ 社会 科学 系 科目	倫理学	本講義では、倫理的な判断を下す際に、合理的に思考するとはどのようなことなのかを学ぶ。はじめに、基礎的な概念や方法について学び、その後、複数の事例を学生とともに検討することを通じて合理的に考える実践的なトレーニングをおこなう。具体的には、まず、カントの義務論とミルやベンサムなどの功利主義との違いについて学び、それらと対比する形で徳倫理学についても学ぶ。さらに権利論について紹介する。これらによって基礎概念を身につけたあと、法と道徳との関係、正の理論と善の理論との関係について具体的な事例を基に学ぶ。また近年のリベラリズムの思潮について紹介する。最後に、医療資源配分の問題についてグループワークをおこない、学生が主体的に考え発表する機会を設ける。
	文学	日本の近代（明治、大正時代）から現代（昭和時代）にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を読むことによって、歴史的・文化的な背景をも学び、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力を養う。また、講義のなかでは、何回かは文学と命、病気、介護の在り方、公害の問題など、医療との接点の問題も扱う。	
	歴史と社会	この講義は、思想史の観点から維新前後の歴史を学び、概説からはうかがい知ることのできない歴史像を提供する。医療系の学部学生向けであるから、知識の習得よりも、当時の人々の思索の跡を辿って先人とともに考えることを優先し、学生の自ら考える力を育成する。 維新前後の人口数と現代のGDPの比較から、過去も現在も、他国から日本は大国に見えていた／いる事実を確認し、維新前後の問題を考えることは今の問題を考えることにつながると示唆する。徳川社会と朱子学との間にあった懸隔を知り、当時の人々が何に苦悩したのかを想像し、他者の身になってモノを考える力を養成する。伊藤仁斎とT. Hobbesの思想を比較し、その相違を説明できる力を育成する。荻生徂徠や本居宣長の思想を取り上げ、「御武威」から「皇威」へと権威が移動していく様子を跡づける。最後に福沢諭吉や中江兆民の思想、アジア主義などを取り上げ、他国との関係構築について思索を深める。	
	死生観	死生観とは、生と死に関する考察である。この授業では、古今東西の宗教（仏教・儒教・神道・キリスト教・イスラム教など）が人間の生や死にどのように向き合ってきたかをふりかえり、そのさまざまな考察について、現代に生きる私たちの参考となるような形で提示する。 死と生についていろいろな資料を読み、受講者同士も意見を交わしながら多角的視点でこの問題について考える。そして、自分なりに積極的に死生観について考える姿勢を養うことにより、生と死に向き合う医療職の営みにも参考になる授業を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	福島県は総面積が広く、7地域（相双・いわき・県北・県中・県南・会津・南会津）に分かれており、地域別の特色がある。南会津地域は高齢化が顕著であり、相双地域は東日本大震災に伴う原発事故後に避難指示区域の状況が長期間続いたことにより、医療インフラが不十分である。この科目では、東日本大震災とはどのような震災だったのかとその影響について学ぶ。さらに各地域での医療環境の特徴について理解する。これらをもとに福島県で専門医療技術者が今後、どのようなことを担っているのかをグループワークによって議論し、発表する。 (オムニバス方式/全15回) (27 葛西龍樹/1回) 総論及び地域医療・へき地医療 (29 長谷川有史/1回) 災害時・後の医療への影響 (19 大平哲也/1回) 福島県の疾病罹患動向 (121 佐竹秀一/1回) 南会津過疎医療の現状 (122 小野田修一/1回) 災害後の医療の現状 (⑦ 矢吹省司、95 佐藤聡見、69 澄川幸志、6 佐藤久志、100 三浦里織/10回) (共同) 災害関連機関への見学実習、見学実習に関するグループワーク (※ 93 岡崎可奈子は令和4年度まで担当する) (※ 95 佐藤聡見は令和5年度から担当する)	オムニバス方式・ 共同 (一部)	
		社会福祉学	社会福祉を学ぶためには、人間や社会への深い認識や、広い視野を有すると同時に、社会福祉についての体系的・総合的な学びが求められる。さらには理論的な学びとともに、できるだけ人々の生活の現実や実態に触れることが大切である。 本講義では、社会福祉実践は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題にあることから、社会福祉の基本である、国民の生活と健康を保障するための支援についての原理・原則・体制などの原論と様々な福祉制度・システムと医療連携について、特に近年メインストリームとなっている地域福祉の視点からの総理解をめざす。	
		人間と教育	医療現場において患者および家族教育や支援は治療上重要な事項である。また職場における新人や臨床実習学生への教育など、教育学に関する知識は医療専門職にとって必須である。本科目では、医療専門職に必要な教育学の原理について教授する。 内容としては、教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向などにも触れる。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。	
		日本国憲法	当該授業では、日本国憲法の基礎知識及び判例につき講義していく。前半では基本的人権に関し、享有主体性や各人権の内容を理解し、具体的事案や判例を検討する。後半では、日本の統治機構に関し、条文を引用しながら講義を行う。日本国憲法の基礎知識を身につけるだけでなく、事例や判例の検討を通じて、未知の法律問題に直面した場合に合理的な結論を導き出せる法的思考力を養うことも目標とする。授業形態は講義形式であるが、学生同士での議論の機会も設け、学生が自ら考え、結論を導き出すプロセスも重視していく。	
		国際関係論	本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視点と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル(global+local)」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダークツーリズム」などのテーマを取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	人文・ 社会 科学 系科 目	ジェンダー・セクシュアリティ論	ジェンダー／セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄（性別、性差、性欲、性行為など）について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー／セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー／セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。	
		危機管理学	前半は、身の回りにある様々な危機の種類、組織ガバナンスや医療安全を例にしてリスクマネジメントについての基本的な考え方を学習する。また患者と医療者の間で意見の食い違いから生じる紛争に対する解決法としての医療メディエーションの役割についても学ぶ。後半は、福島の地で起きた大規模複合災害を始め世界で起きた様々な災害について知り、必要な医療、福祉、保健などに対する医療者の役割と各種連携の実践について学習する。また災害が人々に与えるメンタルヘルスや、社会、地域住民とのリスクコミュニケーション、さらに日本、海外における災害時の危機管理体制や医療の役割について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (⑩ 小川一英、130 三村邦裕/1回) (共同) オリエンテーション、危機管理学総論 (130 三村邦裕/1回) 危機管理とリスクマネジメント (131 木村栄宏/3回) 組織における危機管理・内部統制、ケーススタディによるリスクへの対応、メディエーション、医療ADR、リスクガバナンス (133 種田憲一郎/2回) 医療安全と危機管理（ヒューマンエラーとリスクマネジメント） (132 藤本一雄/3回) 自然災害の発生メカニズム、自然災害のハザード・リスク評価、自然災害対策について (10 大葉隆/1回) 東日本大震災と福島第一原発事故における危機管理 (28 前田正治/1回) 災害と危機介入 (29 長谷川有史/1回) 放射線災害における医療者の役割 (134 佐藤千歳/2回) 災害医療とトリアージ、自然災害に対する国際協力	オムニバス方式・ 共同（一部）
		生命倫理学	この講義では、身体と生命に関する倫理的な諸問題について学ぶ。20世紀後半以降、生命技術は著しく進展した。その歴史を知ると同時に、技術の進展が人間と社会にどのような問題を投げかけて来たのかを知る。さらに、技術と人間・社会との間に生じる倫理的諸問題について、どのように考えることが合理的であるのか、あるいはそうではないのか、を学ぶ。これらのことを通じて、生命技術と向き合うための基本的な姿勢を身につける。具体的には、まず、医療倫理の歴史や患者の自己決定権について学ぶ。また人工妊娠中絶・出生前診断とその倫理的問題、重症心身障害児の生命の質という問題を考える。さらに、移植医療の実践とその倫理的問題、高齢者の看取りとそこに伴う問題について学ぶ。最後に、検査結果が個人情報そのものと言えぬのはなぜか、その保護が要求されるのはなぜかを学ぶ。	
	外国 語科 目	英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、個々の場面において英語で効果的なコミュニケーションを図るための基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills(speaking & writing) の向上を図る。また、話し相手や状況にふさわしいボライトネスと英語表現を選択し、円滑なコミュニケーションをとれる力を養う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	外国 語 科 目	英語 I B	英語 I Aに引き続き、英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、ディスカッションスキルやジャンルを考慮したライティングスキルの基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills (speaking and writing) の向上を図る。また、グループワークでは、参考資料を正しく選択し、著作権等を遵守することを学ぶ。
	英語 II A	医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。	
	英語 II B	英語 II Aに引き続き、医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、円滑なコミュニケーションに使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。	
	英語 III	医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体(箇条書き等)を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。	
	ドイツ語	グローバル化している世界の中で、私たちがまずしなければならないことは世界がどのように動いているかを知ることである。この授業では、この視点に立って、明治時代以降、医学、哲学、法学、教育等多方面で日本と関係を持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語を公用語とする国々について学習する。 なお授業の基本となるドイツ語の学習においては、ドイツ語でコミュニケーションを行うのに必要な「聞き、話し、読み、書く」能力の習得をめざすが、限られた授業時間数も考慮し、得意基本的なことがらをゆっくりに学習する。	
	フランス語	この授業は会話中心である。フランス語はどのような言葉か、フランスやカナダがどのような国かを学習することが第一目標である。単語の勉強が多いですが、文法は軽い。その他、フランス人の食文化やバカンスの取り方と楽しみ方などのトピックディスカッションもある。初めてフランス語を学習するために、直ぐに使えるフランス語を覚える上で「楽しい」、「面白い」という授業をする。	
	中国語	中国語の発音、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを活用して、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を培う。具体的な学習目標として、以下の5点の修得をめざす。(1) ピンイン(拼音：中国語で音節を音素文字に分け、ラテン文字化して表記する発音表記体系)を付した語彙や短文の正確な発音、(2) 基礎的な語彙や短文を正確に聞き取り簡体字とピンインで書き取ること、(3) 平易な日常会話、(4) 平易な作文、(5) 中国の文化、社会に対する初歩的な理解及び、中国への知的関心を持つととする態度を身につけること。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	外国 語 科 目 スペイン語	この授業では、ビデオ教材、ゲーム、音楽、映画、美術を使用した様々な教室活動を通してスペイン語の基礎を学ぶ。自己紹介の仕方、人と知り合う表現（名前、出身地、年齢、家族、大学、趣味等を聞いたり話したりする）、文法項目としては主語とser動詞、場所を表すestar動詞、「持つ」tener動詞を中心に学ぶ。学生達の興味と生活に密着したビデオ教材を使用し、文法、聞き取りとコミュニケーションの練習を行う。更に、スペイン語圏の国々の文化について内容を紹介する。	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目 人体の 構造 と機 能及 び疾 病の 成り 立ち 解剖学概論	解剖学概論は専門医療技術者の基盤となる正常な人体の基本的な構造を学び、疾病を理解するための基礎を修得する。具体的には発生、骨格、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、平衡機能系、脳、細胞についての構造や働き、その関係性を理解する。また、さまざまな疾病になることで起こる身体の変化や病態についても解剖的視点から学び、理解する。 (オムニバス方式/全15回) (2) 八木沼洋行/3回 疾病を理解するための基礎的な人体の構造、発生、脳の解剖 (3) 和栗聡/2回 疾病を理解するための基礎的な組織の構造と機能 (25) 山田仁/1回 疾病を理解するための基礎的な骨盤、四肢の骨と筋、神経、感覚系の解剖 (55) 二階堂琢也/1回 疾病を理解するための基礎的な頭部・顔面骨、脊柱、胸郭と筋、神経、感覚系の解剖 (33) 大谷晃司/1回 疾病を理解するための基礎的な筋、神経、感覚系の解剖 (21) 風間順一郎/1回 疾病を理解するための基礎的な骨の構造と成長、骨のリモデリング (137) 西山慶治/2回 疾病を理解するための基礎的な視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器、内分泌系の解剖 (24) 鈴木弘行/1回 疾病を理解するための基礎的な呼吸器の解剖 (51) 義久精臣/1回 疾病を理解するための基礎的な心臓、脈管系の解剖 (23) 丸橋繁/1回 疾病を理解するための基礎的な消化器系の解剖 (32) 太田昌一郎/1回 疾病を理解するための基礎的な泌尿器系、生殖器系の解剖	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	<p>生理学は身体とそれを構成している細胞や組織、器官や臓器についての正常な機能に関して学ぶものであり、医療技術者にとって必修の学問である。生命維持に欠かせない呼吸と循環、消化と排泄、そしてそれらを調節する自律神経や内分泌機能について学ぶ。また、細胞機能の基礎、活動電位やイオンチャネル、骨格筋の収縮、自律神経と運動神経、中枢神経、感覚、血液、代謝、生殖、恒常性のメカニズムについて学ぶ。生命現象がどのように営まれているのか、生体の働きについてのメカニズムを理解し医療技術者として必要な基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 義久精臣/9回) 細胞の構造と機能、循環器系の構成、心臓、呼吸器系、肺、消化と吸収、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節</p> <p>(12 小川一英/1回) 血液の組成と機能</p> <p>(48 字月美和/1回) 免疫</p> <p>(2 八木沼洋行/1回) 生殖</p> <p>(17 永福智志/3回) 神経、感覚、運動</p>	オムニバス方式
			<p>医学概論</p> <p>まず医学の定義と医学の使命について学び、今日の医学がどのように発展してきたのか、また現代医学がどのように成り立っているのかを医学の歴史から学修する。さらに人体の構造と機能についての概要を学んだのち、病気の原因、病態と症状との関連について総論的に考える。また病気を診断するための様々な方法と治療の種類、さらには予防医学の考え方や健康を守っていくための医療制度と医療保障についての概要についても学ぶ。最後に生命倫理、医の倫理についても考え、専門領域に進む前のメディカルコモンセンスを身に着ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の 構造 と 機能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	生理学 I により修得した人体生理学についての知識を基盤としさらに実習として体験型に発展させたものである。生理学は生体の複雑な統合機能を解明する学問である。中でも身近に感じることができる生体に生じる現象を体験し、また観察した結果をもとに、そのメカニズムについて自ら考察し、生理学の理解を深めることを目的とする。人体を対象とした筋の収縮や運動の仕組み、循環器や呼吸器などの生体の機能について観察できる実習を行う。また同時に、実験器具や装置の正しい使用方法や安全管理についても学ぶ。
	生理学実習	<p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(51 義久精臣/3回) 生理学実習概要の説明、レポート作成方法の指導、生理機能について実習の統括</p> <p>(100 三浦里織、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 血球観察</p> <p>(71 鈴木英明、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 腎機能測定</p> <p>(⑪ 林博史、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 正しい血圧測定</p> <p>(51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 心臓の観察</p> <p>(66 横塚美恵子、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 呼吸機能</p> <p>(93 岡崎可奈子、⑩ 小俣純一、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 骨格筋と腱の観察</p> <p>(⑨ 柴喜崇、68 楠本泰士、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 末梢神経伝導速度</p> <p>(69 澄川幸志、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 視覚と皮膚感覚</p> <p>(98 木村夏実、51 義久精臣、99 堀越裕子/3回) (共同) 記憶と認知機能</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	基礎生化学	<p>生化学は医学分野における様々な専門科目の基礎的な土台となり、生命現象を理解するためには必須の学問である。ここでは生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどの分子構造や化学的性質について学ぶと共に、これらの分子が体内でどのように生合成され、代謝されていくのか、そして遺伝情報物質として機能するための分子基盤について学ぶ。そして、細胞および生体レベルで恒常的機能を維持するために、これらの分子がどのような役割を果たしているのか理解した上で、その破綻がさまざまな疾患の発症と進行に果たす役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑭ 北爪しのぶ/14回) タンパク質、酵素、生体高分子、生体膜、複合糖質の構造、生合成と機能的役割、遺伝子発現の制御、情報伝達の生化学</p> <p>(128 山口芳樹/1回) 構造の生化学</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の 構造 と機 能及 び疾 病の 成り 立ち	<p>専門医療技術者に必要な地域・集団の心身の健康維持を図るための科学と技術について学習する。具体的には公衆衛生学領域における疫学の考え方、母子・学校・精神保健、感染症の成立要因とそれに基づく予防対策、公害や地域から地球規模の環境衛生について学ぶ。また近年の健康維持に対する最大の阻害要因である生活習慣病について予防対策も含めて学習する。保健統計については人口動態統計を中心に学び、さらに栄養と食品衛生、産業保健や保健医療制度などについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 安村誠司/5回) 総論、感染症、保健医療制度</p> <p>(19 大平哲也/1回) 疫学の考え方</p> <p>(54 坪井聡/1回) 人口動態</p> <p>(53 岩佐一/2回) 母子保健、成人保健</p> <p>(73 森山信彰/2回) 学校保健、精神保健</p> <p>(87 中山千尋/1回) 地域と福祉</p> <p>(52 各務竹康/2回) 地域における環境、産業保健学概論</p> <p>(74 江口依里/1回) 保健統計</p>	オムニバス方式
			疫学・公衆衛生学	<p>解剖学実習は解剖学概論および解剖学各論において修得した基礎を、御遺体の肉眼解剖実習をすることにより、筋骨格、臓器に関する知識の理解をより深める。特に筋骨格、関節、神経、臓器、脳の肉眼的構造を集中的に行う。また、解剖実習を通して、人の身体の構造等を理解するだけでなく、献体という志の高い偉業について考えて、御遺体に対する礼儀や感謝を含めて人としての涵養を高める。授業は、小グループに分かれて肉眼解剖の実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(19 小俣純一/10回) 解剖実習を円滑で効率よく実施するために必要な基礎的な知識、方法</p> <p>(2) 八木沼洋行、(19) 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p> <p>(2) 八木沼洋行、(7) 矢吹省司、(19) 小俣純一/1回) (共同) 臓器・脳</p> <p>(2) 八木沼洋行、(3) 和栗聡、(19) 小俣純一/3回) (共同) お別れ式、清浄、片付け</p> <p>(2) 八木沼洋行、(3) 和栗聡、(7) 矢吹省司、(19) 小俣純一/3回) (共同) 執刀式、筋・関節・神経・脈管</p> <p>(7) 矢吹省司、(19) 小俣純一/4回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p> <p>(3) 和栗聡、(7) 矢吹省司、(19) 小俣純一/12回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳</p>
		解剖学実習		

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 解剖学各論 病理学総論 薬理学 臨床医学概論	診療放射線技師に特に必要性の高い発生・呼吸・循環・神経・内分泌・脳・生殖器・感覚および筋骨格について集中的に理解を深める。今後、専門科目で重要となる画像検査に関わる知識やさまざまな検査に必要な知識を十分に活用するための基盤を作る。さらに発生を含めて、それぞれの臓器の機能や作用について理解して、それぞれの関係性にも着目して身体に関する理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (⑦ 矢吹省司/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い骨、筋、関節の解剖 (137 西山慶治/2回) 診療放射線技師に特に必要性の高い感覚器系、内分泌系の解剖 (② 八木沼洋行/2回) 診療放射線技師に特に必要性の高い神経系の解剖、発生 (51 義久精臣/2回) 診療放射線技師に特に必要性の高い心臓、脈管系の解剖 (⑫ 小川一英/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い血液の解剖 (22 河野浩二/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い消化管の解剖 (23 丸橋繁/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い肝臓、胆嚢、膵臓、排泄の解剖 (24 鈴木弘行/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い呼吸器系の解剖 (143 胡口智之/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い泌尿器系 (77 片岡政雄/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い男性生殖器の解剖 (75 添田周/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い女性生殖器の解剖 (⑪ 林博史/1回) 診療放射線技師に特に必要性の高い脳・脳神経の解剖 病理学は疾病の原因・本質を解明する学問であり、疾病を理解する上で基礎となる科目である。疾病に関する医療用語の意味と定義、疾病を起こす原因、疾病に伴う人体の機能的および形態的变化を科学的に理解し、説明できるレベルの知識を身につける。また疾病による組織の形態的变化を理解するとともに、各種疾病の本態を理解するには解剖、生理、生化、細菌等の基礎的知識が必要であり、これらの内容を総合的に組み合わせることによって疾病の背景を理解することができる。 薬理学は、薬物と生体の相互作用を探求する学問である。薬の作用を理解するためには、細胞内外の情報伝達の仕組みや、病気が発症することで情報伝達がどのような破綻をきたすのかを知る必要がある。そして薬物の理解とは、病気の原因となる異常に対し薬物がどのように作用するのかを理解する学問である。本講義では、薬物の作用機序を理解するために、その基礎的事項を学び、さらに細胞内外情報伝達物質と薬物との相互作用を理解し、薬物の臨床展開と治療効果について学ぶ。 診療放射線技師が医療現場でチームの一員として活動できるためには、基礎的な臨床医学を学ぶことは重要である。そこで疾病概念、症候各論、疾病各論に分けて講義する。具体的には、病気の原因、病気による生体の変化、病気の診断、検査所見、治療方針等臨床医学の全体像、そして先天性疾患と損傷、中毒、その他の外因の生体への影響について学ぶ。特に、多職種協働の医療現場で活動する際に知っておかなければならない、臨床医学の全体像を講義する。
			オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	
	画像解剖学	放射線診断学において、脳神経、胸部、腹部、循環器、骨格系に関する単純X線写真、CT、MRなどの画像における正常解剖を学習する。実際の人体の解剖と対比しながら画像上の解剖を学習する。病気の所見を有する画像についても実際の単純X線写真、CT画像、MRI画像などの臨床画像を用いて解説を加え、さらに正常解剖の理解を深めるようにする。最終的には、各臓器の正常解剖・画像を理解し、画像診断学の基礎知識を習得する。 (オムニバス方式/全30回) (6 佐藤久志/18回) 単純X線写真、CT、MR、核医学等から得られた頭部・腹部・骨盤部・血管・心血管における正常解剖 (7 五月女康作/12回) 単純X線写真、CT、MR、核医学等から得られた頭部・四肢・脊椎・骨塩定量・眼底における正常解剖	オムニバス方式
	医用工学	現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本講義では、そのために必要な電気・電子工学に関する基礎知識を習得する。具体的には、電界と磁界などに関する電磁気学の基礎、オームの法則、直交流回路や共振回路、過渡現象などに関する電気工学の基礎、半導体と増幅回路などに関する電子工学の基礎、電気電子計測の基礎を学習する。また、センサ・トランスデューサなどの生体情報の収集、医用機器の安全対策を学習する。	
保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	情報処理	大学で学び、社会に出て行くためにコンピュータやネットワークの理解と活用法の習得は必須である。本科目ではコンピュータとネットワークによる基本的な情報処理の仕組みと活用法を理解するとともに、コンピュータ・リテラシーを高める。また、ソフトウェアの機能、役割、構成などを理解してその活用法を実践的に学ぶとともに、データの扱い方や情報セキュリティの基本、情報倫理・関連法制度を知ること、医療技術者として必要な情報処理に関する基礎知識と技術を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆/5回) (共同) コンピューター・ネットワークに関して、情報セキュリティ、情報倫理 (⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆、12 田代雅実/10回) (共同) ソフトウェアのインストール、データベースの活用、オフィススイートの活用、科学計算ソフトウェアの活用	オムニバス・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 にお ける 理工 学的 基礎 並び に放 射線 の科 学及 び技 術	
	放射線基礎科学	<p>診療放射線技師として、診療業務を行う上で身に付けておく必要がある放射線の基礎について、放射線物理学、放射化学、放射線生物学の3段階に分けて講義する。初めに、放射線物理学として、放射線の基礎、原子物理、原子核物理、放射線と物質との相互作用、次に、放射化学として、原子核反応と放射性核種の製造・分離・標識、最後に、放射線生物学として、放射線の細胞に対する作用、放射線の人体への影響、放射線の生物学的効果について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(4 長谷川功紀／10回) 原子核反応と放射性核種の製造・分離・標識</p> <p>(8 福田篤志／3回) 特殊相対性理論、電子の相互作用</p> <p>(10 大葉隆／3回) 電磁放射線、粒子線、中性子線の相互作用 (令和3年度までは、8 福田篤志が担当する)</p> <p>(14 原田崇臣／5回) 正常組織と腫瘍の放射線感受性 (令和3年度までは、3 加藤貴弘が担当する)</p> <p>(65 反町篤行／4回) 放射線の基礎、原子、原子核の構造、放射線の発生</p> <p>(64 有吉健太郎／5回) 放射線の細胞・組織に対する作用、人体への影響</p>	オムニバス方式
	環境と放射線	<p>我々が自然界あるいは現代社会で生活していく際に、様々な種類の「放射線」に遭遇する。生活環境中にある放射線を環境放射線といい、自然界にもともと存在している放射線である自然放射線と、人間が作り出した核実験や原子力事故などで放出された放射性物質による人工放射線に分類される。それらのほとんどは、我々にとって利益にもなり有害にもなり得る。そこで、本科目では放射線に関する基本的な内容を理解したうえで、自然界や現代社会での放射線の存在やその動態について学ぶと共に、それらが人体や人類に与える影響について学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 福田篤志／5回) 環境放射線に関する基礎知識、測定方法、評価方法</p> <p>(65 反町篤行／2回) 自然放射線、事故後の環境放射線モニタリングとその線量</p> <p>(115 塚田祥文／3回) 原子炉における放射性物質、土壌-用水-作物系における放射性物質、飲食物摂取による基準値の考え方</p> <p>(117 脇山義史／1回) 河川を通じた放射性物質の移動</p> <p>(116 和田敏裕／1回) 魚類を中心とした水生生態系における放射性物質</p> <p>(140 高田兵衛／1回) 海洋における放射性物質の動態</p> <p>(20 石川徹夫／2回) 環境放射線が人体に与える影響、東日本大震災による県民の外部・内部被ばく線量評価</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(保健科学部診療放射線科学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 にお ける 理工 学的 基礎 並び に放 射線 の科 学及 び技 術	<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本実験では、医用工学の講義で学んだ電気・電子工学に関する基礎知識を、実験を行うことで体得する。具体的には、電子回路基礎実験、アナログ回路実験、半導体回路実験、デジタル技術実験、パルス回路実験、AD/DA変換実験を行う。また、センサー付き二足歩行ロボットの製作とプログラミングを行うことで、センサーの働きを体感すると共にその応用法を実践する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(24 山口克彦/3回) 電子回路基礎実験</p> <p>(21 西山篤/3回) アナログ回路実験</p> <p>(22 田中明/3回) 半導体回路実験</p> <p>(23 山田昭博/3回) デジタル技術実験</p> <p>(25 鈴木健司/3回) パルス回路実験</p> <p>(1 久保均/3回) AD/DA変換実験</p> <p>(1 久保均、24 山口克彦、21 西山篤、22 田中明、23 山田昭博、25 鈴木健司/12回) (共同) ロボット組み立て、コントロール法の習得</p>	オムニバス方式・共同 (一部)	
			放射線基礎科学実験	<p>放射線基礎科学について、放射線物理学領域、放射化学領域、放射線生物学領域において理解に重要となる基礎的実験を行う。放射線物理学領域では霧箱を用いた放射線飛跡、放射線(α線、β線、γ線)による透過力について理解を深める。放射化学領域では共沈法による放射性物質の分離、クロマトグラフィ法について理解を深める。放射線生物学領域では、放射線照射後の染色体異常の解析、放射線照射後の細胞生存率、放射線照射後のコロニー形成細胞を解析することで、線量効果、標的論、LQモデルを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(4 長谷川功紀/10回) 放射化学実験、共沈法による分離とGM測定装置による解析、薄層クロマトグラフィによる化合物の分離、高速液体クロマトグラフィを用いた精製と品質検定</p> <p>(8 福田篤志/2回) 放射線物理学実験、放射線物理学実験に関する理論的解説</p> <p>(14 原田崇臣、64 有吉健太郎/10回) (共同) 放射線生物学実験、放射線照射後の染色体異常の解析、放射線照射後の細胞生存率、放射線照射後コロニー形成法による生存曲線の作成、放射線生物学実験に関する理論的解説</p> <p>(8 福田篤志、10 大葉隆/8回) (共同) 拡散霧箱を用いた放射線飛跡の観察 放射線(α線、β線、γ線)による透過力の観察</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
			放射線計測学	<p>医療放射線計測学の基礎を次の段階に分けて教授する。放射線計測の目的と対象、放射線に関する量と単位を放射線計測学の基礎として学んだ後、放射線検出の基本原則、吸収線量、測定値の処理に関する基本理論を整理する。その後、電離箱、比例計数管、GM計数管、シンチレーション検出器、半導体検出器、熱蛍光線量計、蛍光ガラス線量計、OSL線量計、写真フィルム、個体飛跡検出器、電子式線量計、化学線量計等の計測装置について理解し、医療現場で用いられている線量、放射能、放射線エネルギーの測定技術について理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 にお ける 理工 学的 基礎 並び に放 射線 の科 学及 び技 術	放射線治療において基盤となる高エネルギー光子線・電子線の線量計測体系の基本を踏まえたうえで、絶対線量計測法・相対線量計測法について理解し、利用する線量計の種類とそれぞれの特徴について理解する。また、放射線治療装置の内部構造、エネルギーと照射野に依存する出力と深部線量の関係を理解する。外部放射線治療において線量処方の基本となるモニタ単位数（モニターユニット値：MU値）を導出する過程を理論的に理解し、特に高エネルギー光子線の標準的な照射条件におけるMU値を算出できることを到達目標とする。そのほか密封小線源治療、陽子線、炭素線治療における線量計測法の特徴についても理解する。 (オムニバス方式／全15回) (8 福田篤志／13回) 水吸収線量測定・標準計測法 高エネルギー光子線・電子線計測法 深部量百分率・組織空中線量比・組織最大線量比 (3 加藤貴弘／2回) 陽子線・炭素線水吸収線量計測法	オムニバス方式
			放射線計測学実験	放射線計測学、放射線治療計測学にて学んだ知識をもとに、GM計数管の電圧特性評価を通して、放射線計測器の諸特性を習得する。次に診断X線撮影装置と電離箱式線量計を用いて、アルミニウムを利用した半価層測定法を実施し、患者の入射皮膚面における線量評価方法を習得する。また、CT装置では回転しながら照射を行う諸特性を理解し、電離箱式線量計を使用して、CT装置における出力測定（CTDI測定）法を学ぶ。最後に、直線加速器による高エネルギーX線を用いた深部量百分率の測定法、照射野係数測定法を習得する。 (オムニバス方式／全30回) (8 福田篤志／10回) X線装置の半価層測定 CTDIの測定評価 (10 大葉隆／10回) GM計数管によるβ線の最大エネルギー測定 GM計数管のプラトーの実験 (3 加藤貴弘／2回) 高エネルギー棟（光が丘）にて実施する実験方法の解説 (3 加藤貴弘、14 原田崇臣／8回)（共同） 直線加速器を深部量百分率の測定 直線加速器を用いた出力係数の測定

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	関連 科目	<p>チーム医療とは何かを学ぶ。まず、医療がどのように成り立っているのかを理解する。職業倫理を理解し、医療人としての基本的な態度を培う。チーム医療を構成する様々な専門医療技術者の業務内容について詳しく学び、果たすべき役割や責任を理解する。その後実施の現場を見学し、それぞれの専門医療技術者がどのような業務を行っているかを知る。チーム医療Iでは、まずチームで行うカンファランスの意義を理解する。開講年次が1年生のため、病気に対する検討ではなく、倫理的な問題など人としてどう考えるかの課題を与えて、チームでその課題について議論し、まとめて発表する。医療とは異なる職場で行われているチームでの活動の実際とその意義・有用性を理解する。最後に、再度グループで症例検討を行い、まとめて発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(12 小川一英/1回) 医療の中で医師が果たす役割</p> <p>(30 高橋香子/1回) 医療の中で看護師、保健師が果たす役割</p> <p>(41 神先秀人/1回) 医療の中で理学療法士が果たす役割</p> <p>(10 五百川和明/1回) 医療の中で作業療法士が果たす役割</p> <p>(2 高橋規之/1回) 医療の中で診療放射線技師が果たす役割</p> <p>(72 菅野光俊/1回) 医療の中で臨床検査技師が果たす役割</p> <p>(149 石井重亮、146 菅野和広/1回) (共同) 医療の中で薬剤師、言語聴覚士が果たす役割</p> <p>(92 青木俊太郎、135 阿部真典/1回) (共同) 医療の中で公認心理師、義肢装具士が果たす役割</p> <p>(147 福原之博、152 門馬成郎、153 佐藤亜希美/1回) (共同) 医療の中で臨床工学技士、ソーシャルワーカー、医療事務が果たす役割</p> <p>(67 阿部浩明、18 星真行、97 田中善信、98 木村夏実、3 加藤貴弘、6 佐藤久志、72 菅野光俊、99 堀越裕子、100 三浦里織/3回) (共同) 附属病院での見学</p> <p>(7 矢吹省司/2回) チーム医療とは何か、まとめ</p> <p>(5 本多創史/1回) 医療と倫理 (症例1の供覧と問題点の検討)</p> <p>(7 矢吹省司、5 本多創史/1回) (共同) 医療と倫理 (症例2の供覧と問題点の検討)</p> <p>(136 鈴木優/2回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(56 大内一夫/1回) 現場でのチームカンファランス</p> <p>(7 矢吹省司、41 神先秀人、43 森下慎一郎、67 阿部浩明、18 星真行、10 五百川和明、70 藤田貴昭、84 石川陽子、97 田中善信、98 木村夏実、2 高橋規之、3 加藤貴弘、6 佐藤久志、8 福田篤志、12 小川一英、51 義久精臣、72 菅野光俊、99 堀越裕子、100 三浦里織/11回) (共同) チームカンファランスに関するグループワーク</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p> <p>講義 19時間 演習 11時間</p>
		チーム医療 I (概論)		

授 業 科 目 の 概 要					
(保健科学部診療放射線科学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	関連 科目	臨床心理学は、日常的な困難、心の不調、人間関係のトラブルを抱える人々への心理的支援に関する心理学の一分野である。そこには、心理的支援の具体的方法のみならず、「どのように支援（治療）するのが良いか」といった支援（治療）に対する考え方（理論）、更には「そもそも人とはどのようなものか」といった人間観が、含まれている。そうした具体的方法・考え方（理論）・人間観が1つだけではなく、いくつもある。この授業では、そうした考え方（理論）・人間観を解説しながら、心理的支援の方法について紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (35 三澤文紀/5回) 臨床心理学とは何か、クライアント中心療法、家族療法 (① 林博史/1回) 精神疾患 (154 松本貴智/4回) 心理的アセスメント、患者の心理、精神分析 (89 竹林由武/5回) 認知行動療法、集団療法	オムニバス方式	
			免疫学	臨床で活躍する医療人として必要な生体防御機構について学習する。生体は常に細菌やウイルスなどの外敵から身を守る必要がある。この外敵から身を守るために、白血球を中心とする様々な細胞は相互に助け合いコミュニケーションを取りながらチームプレイで作業している。この生命維持に重要な生体防御反応のメカニズムに関与する胸腺などの免疫を担当する免疫器官、白血球を中心とした免疫担当細胞、体液内の免疫を担う蛋白成分である抗体や補体、それらを活性化あるいは制御する際に分泌されるサイトカインについて、その特徴や機能について学ぶ。	
			微生物学総論	感染症はすべての医療従事者に関連する重要な疾患である。感染症を根絶することは不可能であるが、早期治療による症状軽減や流行を拡大させないよう予防することは可能である。そのためには「病原体」を知り、「病原体と宿主との関係」を理解することが不可欠である。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の種類と特徴およびこれら微生物に対する宿主の感染防御機構について学ぶとともに、各臓器に特徴的な感染症、免疫低下患者に見られる日和見感染症、院内感染症、薬剤耐性菌感染症、人畜共通感染症などについて学ぶ。さらに、感染症診断に必要な微生物検査の種類と利用法、ならびに院内感染対策上重要な感染症を中心にそれぞれの感染対策法についても学ぶ。	
			医療統計学	人を対象として、病気に対する治療効果を評価し、病気の原因を解明することを目的として行われる研究が臨床研究である。臨床研究は、観察研究と介入研究の2つのタイプに分けられる。臨床研究で用いられる統計的な考え方や解析方法を理解し、結果を過大評価することなく正確な判断ができるようになる必要がある。この授業では、講義「統計学」の内容を踏まえて、臨床研究のデザインと結果をどう解釈するか、基本的な考え方を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 関連科目	研究方法論	<p>研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究目的からの研究立案について、介入研究、観察研究、事例研究、質的研究等、各研究デザインに関する実際の研究をもとに、学生に考え、議論してもらい、研究の倫理的な問題について理解する。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑭ 北爪しのぶ/6回 研究のステップ、研究倫理、論文の基本構成、読み方、基礎研究、文献検索</p> <p>(85 川又寛徳/4回) オリエンテーション、疑問のモデル化、測定デザイン、症例・事例研究</p> <p>(8 福田篤志/1回) 測定機器 (適応と限界)</p> <p>(51 義久精臣/1回) 介入研究 (バイアス、交絡、治験、RCT)</p> <p>(⑧ 高橋仁美/1回) 観察研究 (縦断研究、横断研究)</p> <p>(80 片桐和子/1回) 質的研究</p> <p>(150 家村俊一郎/1回) 産学連携研究</p>	オムニバス方式
	医療統計学演習	<p>講義「統計学」「医療統計学」で学んだ内容を踏まえて、演習を通して、実際にデータの解析を行うことができるようになる。授業は小グループに分かれて演習を行う。解析ソフトとしてSPSSの使い方を習得する。先行研究を読み、関心のあるテーマの決定、研究デザイン、エンドポイント、サンプルサイズ計算、統計解析手法の決定、データクリーニング、報告書作成、報告用スライドの作成と発表を行う。</p>	
	チーム医療Ⅱ (演習)	<p>チーム医療Ⅱでは、チーム医療の実践について学ぶ。そのため、はじめにTeam Stepsでチームの重要性を学ぶ。その後呈示された症例を元に、自分の職種は何か出来るか、何をすべきかについてグループ内で討論する。さらに医学部と看護学部の学生と共に小グループに分かれて、討論する機会を設ける。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある症例とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(133 種田憲一郎、⑦ 矢吹省司、43 森下慎一郎、67 阿部浩明、⑱ 星真行、95 佐藤聡見、⑩ 五百川和明、46 倉澤茂樹、⑪ 林博史、85 川又寛徳、2 高橋規之、8 福田篤志、6 佐藤久志、⑫ 小川一英、⑬ 豊川真弘、71 鈴木英明、86 高橋一人、31 和田久美子、60 菅野久美、61 大川貴子、80 片桐和子、81 古溝陽子、91 吾妻陽子/3回) (共同) Team STEPPS</p> <p>(⑦ 矢吹省司、43 森下慎一郎、67 阿部浩明、⑱ 星真行、95 佐藤聡見、⑩ 五百川和明、46 倉澤茂樹、⑪ 林博史、85 川又寛徳、2 高橋規之、8 福田篤志、6 佐藤久志、⑫ 小川一英、⑬ 豊川真弘、71 鈴木英明、86 高橋一人、31 和田久美子、60 菅野久美、61 大川貴子、80 片桐和子、81 古溝陽子、91 吾妻陽子/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク</p> <p>(⑦ 矢吹省司、43 森下慎一郎、67 阿部浩明、⑱ 星真行、95 佐藤聡見、⑩ 五百川和明、46 倉澤茂樹、⑪ 林博史、85 川又寛徳、2 高橋規之、8 福田篤志、6 佐藤久志、⑫ 小川一英、⑬ 豊川真弘、71 鈴木英明、86 高橋一人、31 和田久美子、60 菅野久美、61 大川貴子、80 片桐和子、81 古溝陽子、91 吾妻陽子、33 大谷晃司、④ 亀岡弥生、159 安田恵/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク、カンファランス見学</p>	集中・オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目 診療 画像 技術 学	診療画像機器工学Ⅰ	<p>画像診断検査を適切かつ安全に行うためには、使用する診療画像機器の原理、構造、特性を知る必要がある。X線を使用した診療画像機器として、一般撮影装置、透視装置、循環器(血管)撮影装置、乳房撮影や断層撮影などの特殊撮影装置、CT装置等がある。本講義では、これら装置を構成しているX線管装置、X線高電圧装置、X線制御装置、画像センサと画像表示装置等の原理と構造を学習し、X線診療画像機器を取り扱うための基礎知識を習得する。そのうえで個々のX線診療画像機器について、原理、装置の構成と特性、機器管理等を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(7 五月女康作/17回) 画像診断の概要、X線撮影装置、機器管理、安全性</p> <p>(12 田代雅実/7回) 一般X線撮影装置、消化管透視撮影装置、CT装置</p> <p>(11 山品博子/6回) 乳房X線撮影装置、トモシンセシス</p>	オムニバス方式
		診療画像機器工学Ⅱ	<p>画像診断検査を行うためには、使用する装置の原理や構造、その特徴などを知る必要がある。本講義では、非電離放射線を用いた画像診断技術である磁気共鳴検査、超音波検査、および無散瞳眼底検査法で用いる装置についての原理や構造、特徴等について学ぶと共に、その精度管理手法や安全性についても修得する。具体的には、磁気共鳴検査装置については磁気共鳴現象、画像化手法、装置の構成、パルスシーケンス、先行パルス、脂肪抑制法、アーチファクト、特殊な撮像法、およびMR装置の安全性を行い、超音波検査装置では超音波の性質、画像の生成、プローブ、アーチファクト、性能評価を、眼底カメラ検査装置では眼底検査の基礎、眼底カメラ装置の構造、保守について講義する。</p>	
		診療画像機器工学実験	<p>画像診断検査を適切かつ安全に行うためには、使用する装置の原理や構造、その特徴を知る必要がある。本実験では、診療画像機器工学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ診療画像機器の構成や機器管理について、撮影装置を実際に使用しながら理解する。一般撮影装置、マンモグラフィ装置、X線透視装置、X線CT装置、MR装置、超音波装置、眼底カメラの各装置の構造、動作特性、保守管理について実験を行いその特性を理解する。また日常点検や機器管理の方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(7 五月女康作/6回) MRI装置</p> <p>(2 高橋規之/6回) 一般撮影装置、骨密度装置</p> <p>(1 久保均/6回) 超音波装置、眼底カメラ</p> <p>(11 山品博子/4回) マンモグラフィ装置</p> <p>(8 福田篤志/4回) X線透視装置</p> <p>(12 田代雅実/4回) X線CT装置</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 診療画像技術学	診療画像検査技術学Ⅰ	<p>X線撮影、デジタルX線テレビ装置や血管撮影装置を用いた検査は診療放射線技師の業務の中で大きいウェイトを占めており、診療放射線技師が最も役割を果たすことができる領域の一つである。診断に用いるX線写真の良し悪しは、診療放射線技師の撮影技術が大きく影響する。本講義前半では、胸部・腹部・骨部などの単純X線撮影法について学習する。具体的には、X線撮影に必要となる、患者接遇と臨床基礎知識、X線撮影装置と補助具、X線撮影条件、人体撮影基準線、対象部位の構造と機能等を学び、目的部位および臓器に応じたX線撮影技術を習得する。本講義後半では、透視撮影検査、透視造影検査、血管撮影検査、IVRなどについて、それぞれの目的や特徴を理解すると共に、目的毎の検査手法、検査に必要な解剖、生理、病態、治療法などについて修得する。また、各検査時の診療放射線技師に求められる役割を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／45回)</p> <p>(2 高橋規之／5回) 患者接遇、X線画像形成、X線撮影装置、撮影条件、撮影補助具</p> <p>(11 山品博子／20回) X線撮影に関する対象部位の構造と機能、撮影方法、X線写真の評価方法、特殊撮影(乳房撮影、歯科撮影)</p> <p>(12 田代雅実／20回) 透視撮影検査、透視造影検査、血管撮影検査、IVRの検査手法、検査に必要な解剖、生理、病態、治療法</p>	オムニバス方式
	診療画像検査技術学Ⅱ	<p>X線CTは1970年代に開発された技術である。現在もその技術性能は進歩し続け、診療画像検査における中心的なモダリティとなり、病気の診断に必要な不可欠な検査になっている。X線CT検査では、目的臓器、疾患に応じた多種ある検査方法を深く理解し適切な検査方法により検査を遂行することが求められている。また、検査方法だけではなくCT画像の成り立ち、画像特性、画像処理などの技術も熟知しておく必要がある。本講義では、X線CTの特性と基礎技術を理解するとともに、さまざまなX線CT検査方法を学習する。加えて、CT画像処理技術の基礎知識も習得する。さらに、画像診断に必要な解剖学的知識とその画像の読影法について習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(2 高橋規之／14回) CT装置の原理と構造、画像表示、画像再構成、CTスキャン方法、画像アーチファクト、CT画像処理、三次元CT画像表示法</p> <p>(12 田代雅実／16回) CTの性能評価、線量評価、安全管理、造影検査、各種CT検査法(脳、胸部、腹部、心臓・血管、脊髄、関節、四肢)、救急撮影、Autopsy imaging</p>	オムニバス方式
	診療画像検査技術学実習Ⅰ	<p>診療画像検査技術学Ⅰで学んだ単純X線撮影法やX線撮影条件は、実習を通してさらに深く理解することができる。ここでは、実際の撮影室の中で撮影装置と補助具を使用し、ファントムや人体を用いて患者ポジショニングの実習を行う。また、患者接遇に関しても様々な場面を想定して実践する。さらに、ファントムにX線を照射しながら最適なX線撮影条件の設定方法を学ぶ。本実習は、診療放射線科学総合実習で行われる臨床実習をより円滑に実践するための手助けとなる。</p> <p>(オムニバス方式・共同／全30回)</p> <p>(11 山品博子／10回) X線撮影(四肢の骨・関節)</p> <p>(2 高橋規之／8回) X線CT撮影</p> <p>(7 五月女康作／4回) X線撮影(胸腹部・脊椎)</p> <p>(12 田代雅実／4回) 多目的X線透視撮影(胃透視・血管造影(DSA))</p> <p>(11 山品博子、7 五月女康作／4回) (共同) 骨密度 マンモグラフィ、ポータブル撮影</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 診療画像技術学	診療画像検査技術学Ⅲ	<p>非電離放射線を用いた画像診断技術である磁気共鳴検査、超音波検査、および無散瞳眼底検査法について、その検査技術や安全性について学ぶ。磁気共鳴検査では、画像形成の原理、生体計測としての映像法の臨床的意義と撮影技術について学習する。超音波検査では、物理的特性、断層画像の成り立ち、ドップラ効果について学習する。超音波診断装置やドップラ血流計測の基本原則、表示画像の臨床的解釈法、アーチファクト等について理解する。無散瞳眼底検査法では、その原理、カメラの構造、検査の特徴を学ぶとともに撮影技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(① 久保均/14回) MRの原理や装置の概要、撮像パラメーター、性能評価などMRに関する基礎知識や技術、マルチモーダルな画像の融合画像に関する知識や技術</p> <p>(7 五月女康作/9回) 臨床で使用する様々な部位におけるMR検査手法</p> <p>(51 義久精臣/12回) 超音波検査の基礎原理、安全管理、心臓、腹部の基本画像と疾患</p> <p>(75 添田周/1回) 超音波検査・腹部(婦人科)として基本画像と疾患</p> <p>(148 大前憲史/1回) 超音波検査・腹部(泌尿器)として基本画像と疾患</p> <p>(99 堀越裕子/4回) 頸動脈、下肢動脈、下肢静脈の超音波検査について基本画像と疾患</p> <p>(78 鈴木聡/1回) 超音波検査・体表として甲状腺・乳腺に関する検査技術、および疾患画像</p> <p>(79 岩館学/1回) 福島県甲状腺検査の実際</p> <p>(76 森隆史/1回) 眼科領域における解剖と病態、眼底検査画像の読影</p> <p>(145 関向秀樹/1回) 眼底検査装置、眼底検査手法とアーチファクト</p>	オムニバス方式
	診療画像検査技術学実習Ⅱ	<p>本科目では、非電離放射線を用いる画像診断検査である磁気共鳴検査、超音波検査および眼底カメラ検査に関する実習を行う。何れのモダリティについても、臨床現場で検査を実施するために必要な検査装置の原理と使用法、ファントムやボランティアを用いた実際の検査を模した実習、検査で得られた画像の評価に関する実習、そして様々な検査技術に関する実習などを行う。また、検査を行うに必要な医療接遇や医療倫理なども取り入れた検査技術に関する総合的な実習を行うことで、卒後に臨床現場で活躍できる人材を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(7 五月女康作、① 久保均、11 山品博子、51 義久精臣、99 堀越裕子/6回)(共同) ガイダンス、各モダリティ毎の注意事項 磁気共鳴装置の安全性、まとめ</p> <p>(7 五月女康作、① 久保均/12回)(共同) MRI頭部・腹部検査法および性能評価方法</p> <p>(51 義久精臣、99 堀越裕子/8回)(共同) 超音波検査法(腹部、体表、心臓、性能評価)</p> <p>(11 山品博子/4回) 眼底検査法</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	診療画像技術学	先端診療画像検査技術学 画像診断技術の発展はすさまじく、現在においても日進月歩で進んでいる。これらの技術は次々と臨床現場に取り入れられ、日常臨床に供される。そこで、時代の最先端をいく最先端画像検査技術について学び、先進的画像検査技術の現状、問題点、今後の展望などについて理解する。具体的には、画像診断技術開発の歴史的な流れや現在の状況などについて概説した後、X線撮影・透視検査、X線CT検査、血管造影検査、磁気共鳴検査、超音波検査において近年開発され実用化されつつある技術とその応用を紹介し、全ての検査技術で研究が進められている定量評価技術の詳細について解説し、最後にそれぞれのモダリティの将来展望について学生の意見を聞きながらその方向性、および今後どのように関わっていくべきかについて、アクティブラーニングの手法を取り入れながら学生の意見の構築を促す。	
	核医学検査技術学	核医学機器工学 核医学検査を実施するにあたり必要な核医学装置の歴史的背景、放射線測定器、試料計測装置について基礎的な項目を整理したのち、体外測定装置、ガンマカメラの構造およびコリメータの種類と役割について学ぶ。近年の装置ではガンマカメラを回転させて撮像を行うSPECT装置および消滅放射線を利用したポジトロンエミッションCT装置が使用されていることから、これらの撮像原理、画像処理方法、解析方法、性能評価法について学ぶ。放射性医薬品を製造するために使用されているサイクロトロンについてもこの講義にて理解を目指す。	
	核医学検査技術学	核医学検査の臨床に基礎的な知識を学ぶ。これらの目的、適応疾患、使用薬剤の特徴、検査方法、画像解析について重点的に学習する。また、核医学検査の解剖学的・生理学的特徴を踏まえた各論を整理する。その際、中枢神経系、内分泌、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、骨・関節、血液・造血器、全身の腫瘍・炎症の検査法について学修する。また、内用療法の概要（使用薬剤の特徴、適応疾患、治療方法、安全管理）についても学修する。 (オムニバス/全30回) (5 三輪建太/28回) 核医学検査の基本事項から臨床的応用事項まで (13 宮司典明/2回) 核医学検査の安全管理に関する内容	オムニバス方式
	核医学検査技術学実験	核医学検査技術学、核医学機器工学にて学んだ核医学関連装置の諸特性を実際に理解する。その際、各コリメータの諸特性、ガンマカメラ、SPECT装置の性能評価の手法を学び、装置の特性や限界について理解する。核医学装置にて収集された画像はフィルタ処理されて再構成されることから、様々なフィルタ処理や再構成の組み合わせによる画質への影響および特性を理解する。また、放射能測定に用いるドーズキャリブレーションの特性評価の手法を学び、適切な使用方法を身に付ける。 (オムニバス方式/全30回) (5 三輪建太、13 宮司典明/19回) (共同) ガンマカメラの性能評価、ガンマカメラの精度評価、ガンマカメラの収集データを用いた画像解析 (① 久保均/1回) 放射性同位元素研究施設の実験解説 (① 久保均、4 長谷川功紀/9回) (共同) 非密封RIの安全取扱いとRI標識・標識率の測定 (5 三輪建太/1回) 核医学検査技術学実験におけるまとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	核医学薬剤学	核医学薬剤学は、核医学診断と治療に用いられる放射性薬剤に関する学問分野であり、近年の診療放射線技師にとり必要不可欠である。本講では、診療放射線技師が診療に携わる際の必須事項として、放射性薬剤それぞれの診断・治療の作用機序および放射性同位元素の特性とその種類を学習する。具体的には、核医学とIn-vivo診断に必要な放射線医薬品、各種シンチグラフィに用いる薬剤とその標識法について学習する。さらに、医薬品として必要な各種試験法などの品質検定法について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	核 医 学 検 査 技 術 学	核医学はトレーサー科学でもあり、その根幹は薬物動態である。本講義では、高度な核医学画像診断に用いられる放射性医薬品とその性質を学習し、体内挙動と解析法を学習する。具体的には、核医学画像が放射線計測の装置と手法により決定づけられることを学習し、核医学動態検査の手法、解析手法などについて習得する。その内容は、動態解析手法の基礎、ダイナミック収集、画像再構成、動態画像処理及び動態画像解析、モデル解析、動態評価等を含むものである。 (オムニバス方式／全15回) (4 長谷川功紀／7回) 薬力学と薬物動態学 (5 三輪建太／8回) 各シンチグラフィにおける動態解析学	オムニバス方式
	先端核医学検査技術学	核医学技術は、撮像機器、放射性医薬品、補正・再構成・解析技術の進展に伴い発展している。そこで、最先端核医学技術の現状や問題点、今後の展望について学修する。具体的には、既存技術と最新技術との差異を明らかにしながら、検査の基礎となる撮像機器および補正・再構成技術の原理と得られる画像・データを関連づけて学修する。高度な核医学画像診断に用いられる放射性医薬品とその性質を学習し、体内挙動と解析法を理解する。内用療法・Theranosticsに使用される放射性医薬品を知り、イメージングと治療の関わりを理解する。また、内用療法と外部放射線治療、小線源治療との違いを理解する。 (オムニバス／全15回) (5 三輪建太／13回) 核医学技術の研究開発の動向 (4 長谷川功紀／2回) 放射性トレーサ、薬物動態、動態解析	オムニバス方式
	放 射 線 治 療 技 術 学	放射線治療において正確な線量投与を実現するための放射線治療機器の基本構成、動作原理及び動作特性について理解する。電子直線加速器の加速原理から照射野形成機器の基本構成を理解すると共に臨床で求められる幾何学的、線量の精度についても理解を深める。また、その精度を担保、保証するための保守管理、品質管理活動の必要性や頻度、手法についても理解する。同様にして粒子線治療で利用される円形加速器の加速原理、照射野形成方法についても学ぶ。近年では外部放射線治療装置に画像誘導機能が標準的に搭載されていることから、画像誘導機器の基本構成、動作原理及び利用方法について理解する。密封小線源治療においては特にリモートアフターローディング装置の基本構成と動作原理について理解する。そのほか実際の照射時に利用する関連器具の使用法や建屋の遮蔽構造についても理解する。 (オムニバス形式／全30回) (3 加藤貴弘／24回) リニアック、円形加速器、定位放射線治療装置、強度変調放射線治療装置、密封小線源治療装置、温熱療法装置、画像誘導機器 (14 原田崇臣／6回) 陽子線治療装置、炭素線治療装置、ホウ素中性子捕捉療法装置	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 放射線治療技術学	放射線治療技術学	放射線治療は、画像診断等に基づき決定された病巣範囲に対して放射線を用いて治療することを目的としている。放射線を照射する方法としては体外から照射する外部放射線治療と体内から照射する小線源治療に大別される。いずれの方法も画像診断を中心として病巣の範囲を決定し、治療計画装置を用いて最適な治療計画を立案、照射という流れで実際の治療が行われる。五感に感じるができない放射線を直接的に視認することが難しい体内病巣に対して正確に照射するためにはさまざまな工夫が必要とされる。ここで言う正確さには空間的精度と線量的精度の2つの意味があり、いずれが欠けても効果的な治療には結びつかない。この2つの達成目標を具現化するために必要な患者固定方法、治療計画画像撮影方法、治療計画方法、画像誘導方法に関する知識と技術を理解する。また、放射線治療の一連のプロセスは治療モダリティによって異なる部分もあることも理解する。 (オムニバス方式/全30回) (3 加藤貴弘/16回) 放射線治療技術概論、治療装置、定位放射線治療、強度放射線治療、小線源治療について (6 佐藤久志/8回) 悪性腫瘍の治療、放射線治療計画 (14 原田崇臣/6回) 陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法	オムニバス方式
	放射線治療機器工学実験	高エネルギー放射線治療装置の特性と精度管理の方法について実験を通して理解を深める。リニアックの基本機能であるガントリ、コリメータ、カウチの構造および駆動範囲、動作スピードについて実機を動作させることにより確認するとともに、それらの基本的な幾何学的精度試験方法を習得する。ガントリ、コリメータなどの回転精度検証としてスターショットをラジオクロミックフィルムにより実施する。また、光照射野と実照射野の一致性、照射野内線量分布の平坦度についても同様にラジオクロミックフィルムを用いて検証することで実務的な管理手法を身に付ける。 (オムニバス方式/全30回) (3 加藤貴弘、14 原田崇臣/6回) (共同) リニアックの幾何学的構造及び機能と精度管理手法の概要と手順 (3 加藤貴弘、8 福田篤志、10 大葉隆、14 原田崇臣/24回) (共同) 数値照射野・光照射野・X線照射野の一致性 コリメータ・ガントリの回転精度検証 ウェッジの特性評価	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線治療計画演習	放射線治療の一連のプロセスの中で重要な地位を占める放射線治療計画について、計画画像収集、画像融合方法、標的体積の決定・輪郭入力方法、治療計画立案、最適化計算の考え方、線量分布計算、治療計画の評価について総合的に学習する。高エネルギーX線に加えて電子線についても学習する。また、治療計画装置を利用する前に実施するコミッションングについて、基本となるビームデータの登録からCT値電子密度変換テーブルの作成まで、その特徴と利用上の注意点を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (3 加藤貴弘/1回) 放射線治療計画演習について (3 加藤貴弘、14 原田崇臣/7回) (共同) 治療計画装置の基本構成、強度変調放射線治療の治療計画 (3 加藤貴弘、6 佐藤久志/7回) (共同) 画像融合処理・輪郭入力方法、X線治療計画	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	放射 線 治 療 技 術 学	放射線治療は、機能・形態を温存させながら悪性腫瘍を制御する治療法であり、患者の生活の質の観点からも大きな意義がある。腫瘍組織の放射線感受性・反応性及び治癒可能性について検討し、放射線の効果を左右する修飾因子について理解する。また、放射線治療の適応、臓器別治療法を理解し、集学的治療としての放射線治療について考察する。さらに近年、研究・開発が進められている高精度放射線治療の展開について検討し、人間としての尊厳を保ちながら、より快適な生活ができるように補助するための医療行為としての放射線治療について考察する。	
		先端放射線治療技術学	近年の放射線治療技術の進歩は著しく、汎用型の電子直線加速器（リニアック）に加えて定位放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT）専用機や粒子線治療、ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）のための治療装置が次々に開発され、臨床に供されている。汎用型リニアックでできる照射技術を把握したうえで定位放射線治療専用機やIMRT専用機の基本構造と特徴について理解する。粒子線治療については陽子線治療と炭素線治療の違いを理解するとともに従来の照射野形成方法である拡大散乱（パッシブ）法に加え最新技術であるペンシルビームスキヤニング法についてもその原理と特徴を理解する。BNCTについては中性子源として従来の研究用原子炉だけでなく最新の加速器を使った方法についても学ぶ。画像誘導技術も含めた先端の放射線治療技術が切り拓く新たな可能性や方向性について考察すると共に多様化する技術の効果的な活用方法について学ぶ。 (オムニバス形式／全15回) (3 加藤貴弘／10回) 粒子線治療・炭素線治療 (6 佐藤久志／2回) 定位放射線治療 (14 原田崇臣／3回) 呼吸同期照射・追尾照射、ホウ素中性子捕捉療法
	医用 画 像 情 報 学	医療情報学	医療機関では数多くの情報システムが稼働している。これらは一般的な情報システムの応用と考えると良いが、医療では部門ごとに異なったシステムが稼働していることが多く、それぞれに独自の標準規格があることも特徴である。これに加え、各部門システムや規格を同等に取り扱うために必要な、連携システムも必要となる。また、医療情報には個人を特定する情報（氏名や住所）や健康状態（病状や病歴）など、外部に漏洩させることが許されない重要な個人情報を取り扱うこととなるため、ガイドライン等の遵守が必須となる。本科目では医療で取り扱う情報データの取り扱いや標準規格、また、それらを稼働させるシステムや管理方法などを知ること、病院の部門を超えた医療技術者として必要な医療情報学に関する基礎知識と技術を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (2 高橋規之、9 広藤喜章／1回) (共同) 医療情報の概要、演習方法 (2 高橋規之／1回) 医療における情報の役割 ネットワーク (9 広藤喜章／13回) PACS、画像表示、標準規格、線量管理システム、遠隔医療システム
	医療画像工学	診療放射線技師にとって、診療に用いられる放射線画像の画像形成に関する知識を持つことは必要不可欠である。診断に適した放射線画像を得るためには、画像の良し悪し（画質）を客観的に評価するための定量的評価方法を身につけておく必要がある。そこで、本講義では、放射線画像論をはじめ、放射線画像の形成、画像形成のためのX線検出器の物理特性などに関連する原理・理論を学習する。また、放射線画像の画質に関する基礎知識として、鮮鋭性や粒状性などの画像の特性を学び、その定量的評価方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	医用 画像 情報 学	医療情報システムは様々なソフトウェアや端末を用いて稼動している。また、部門ごとに異なったシステムが稼動していることが多く、これらをLAN等のネットワークで繋ぎ、場合によっては部門システムとは異なる新たな連携システムを介するなどして、相互に連携させている。本科目では医療情報学で得た知識や技術をまとめ、医療情報データの取り扱いを医療現場で活用できるレベルにまで高める。特に、他部門との連携やそのネットワークの成り立ち、遠隔医療システムなど外部連携の仕組みなどを実際のデータの流れを見ながら学習する。また、診療放射線技師業務に欠かせない線量管理について、DICOMデータを活用し線量の最適化を考えることを演習形式にて行う。これにより医療現場に直結した実践力を高め、放射線検査部門に限らず病院全体の医療情報の取り扱いや情報管理を実施できる能力を獲得する。 (オムニバス方式/全15回) (2 高橋規之、9 広藤喜章/14回) (共同) LAN、オーダリングシステム、検像システム、モダリティ装置、会計システムへの情報共有演習 (9 広藤喜章/1回) FileMaker使用方法	オムニバス方式・ 共同 (一部)	
		医療画像工学演習	医療画像工学の講義内容に合わせて、物理的な医用画像評価法である特性曲線、プリサンブルDMTF、デジタルウィナーズペクトル(WS)の測定法、また、視覚的評価方法であるROC解析について演習を行う。さらに、診療画像検査技術学IIの講義で学んだ、実践的なデジタル画像処理技術である画像のデジタル化処理について演習を行う。これらを通して、医用画像の基礎知識、画像評価に必要な解析方法および基本的なデジタル画像処理技術を習得する。	共同
		画像解析学・演習	画像診断機器装置の進歩に伴い、画像解析技術の進歩も目覚ましい。CTやMR画像の多断面画像の作成や3D画像の作成、またそれらの画像を用いたサイズの計測などが行われている。核医学画像では、機能の定量的な評価や測定にも使用されている。診療放射線技師として、これら解析技術を習得することが必要不可欠になっている。ここでは、画像解析処理ソフトウェアを使用して、画像解析を行う上で前処理となる基本的なデジタル画像処理技術を習得し、さらに臨床画像を用いて3D画像の表示方法や、多断面画像表示方法を習得する。これらの技術を用いて、CT画像、MR画像、核医学画像を対象として画像解析方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 高橋規之/6回) デジタル画像処理、医用画像処理ソフトウェアOsirix操作 (12 田代雅実/3回) CT画像を用いた画像処理の手法、3D画像の表示方法や画像解析方法 (7 五月女康作/3回) MR画像を用いた画像処理の手法、3D画像の表示方法や画像解析方法 (5 三輪建太/3回) 核医学画像を用いた画像処理の手法、画像解析方法	オムニバス方式
		放射線安全管理学	診療放射線技師は、放射線・放射性物質(RI)を取り扱う職業であり、それを人体に照射することが業務である。医療においては患者さん及び一般公衆の安全性を確保し、かつ自身のそして医療スタッフの安全をも確保する必要がある。そのために、病院あるいは放射線を取り扱う施設では、様々な法令によって放射線に関する規制がなされている。放射線を取り扱う上で必要な法令の基準値、使用許可及び届け出、管理区域、構造設備、管理者の義務、線量限度等を学修する。 (オムニバス/全15回) (5 三輪建太/12回) 放射線障害防止法、電離放射線障害防止規則、診療放射線技師法 (10 大葉隆/3回) 医療法施行規則	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	放射線安全管理学	<p>放射線防護に関する概念及び、その防護方法について、様々な場面や事例を通して学習する。放射線防護で扱う量（防護量、実用量）や放射線管理に関する法令等をメインとして、施設周辺の環境管理や放射線の安全取扱いに関する方法を学んでいく。さらに医療施設で発生した放射性物質の放射性廃棄物の処理（空气中放射性物質濃度と排水中放射性物質濃度の管理）について実例を通して実施する。患者に関する医療被ばくの線量を把握するとともに、医療従事者の個人線量管理を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 福田篤志／1回) 放射線安全管理学の基礎</p> <p>(9 広藤喜章／7回) 国際放射線防護委員会の勧告および関連する単位と放射線被ばく の状況、自然、人口放射線源、廃棄物の処理、医療被ばく</p> <p>(10 大葉隆／7回) 外部・内部被ばくにおける放射線の防護、施設管理、個人の被ばく 管理</p>	オムニバス方式
	放射線管理学実験	<p>放射線の安全管理法として、電離箱式サーベイメータ、NaI (Tl) シンチレーション検出器、GM管式サーベイメータの特性を理解し、診療で使用するX線発生機器（X線撮影装置、乳房撮影装置、X線透視装置、X線CT撮影装置）の散乱線・漏洩線量と患者の被ばく線量測定方法を学び、放射線防護の方法を習得する。さらに、自然放射線の計測を通してそのレベルを知り、放射線事故時の状況を理解する。また、事故時の対応について外部被ばくと内部被ばくの観点から深く理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(10 大葉隆／10回) 自然放射線の測定方法 スマイヤ法による汚染測定について</p> <p>(8 福田篤志／10回) X線CT実習室内の散乱線・漏洩線量 臓器線量の測定とまとめ方</p> <p>(13 宮司典明／10回) サーベイメータの方向依存性とエネルギー依存性 放射線防護衣の遮蔽効果</p>	オムニバス方式
	放射線災害管理学	<p>放射線災害（原子力災害）は稀な頻度であるが、発災するとその影響は甚大となる。本講義では、過去の世界的な事故と福島第一原子力発電所事故から放射線災害時の歴史を紐解き、災害対応に関する3本の柱（①緊急時環境放射線測定、②避難退域時検査、③緊急被ばく医療）を学習する。これらには、原発由来の放射性物質による外部被ばくと内部被ばくにおける線量評価の学習も含まれる。他にも、放射線災害時における情報発信及び、住民との放射線災害時のコミュニケーションの事例を学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 福田篤志／1回) 放射線災害管理学の基礎</p> <p>(9 広藤喜章／5回) 世界の原子力発電所事故の被害と問題点 避難時の検査及び除染、測定の実際 放射線災害時の情報・コミュニケーションの在り方</p> <p>(10 大葉隆／9回) 福島第一原発事故の概要 住民避難と医療対応、被ばく線量の把握方法、健康調査 原子力災害対策指針の概要</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	医療 安全 管理 学	<p>医療従事者は、医療施設において患者やその家族が安全に、また、安心して医療を受けられるように心掛けなければならない。また、多職種によるチーム医療で対応することが多く、他職種の業務内容、役割を熟知したうえで医療スタッフに対する安全管理についても配慮することが重要となる。そのためにはそれぞれの施設で起こり得る事故やその予防法、対処法についてあらかじめ検討、熟知しておく必要がある。また、診療放射線技師の責任および業務の範囲を理解し、感染管理および医療安全に配慮できるようになる必要がある。本講義では、それらについて体系的に修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 佐藤久志／8回) 医療安全概論、リスクコミュニケーション・リスクマネージメント、院内感染対策、一次救命処置、造影検査に関する医療安全、放射線治療分野の医療安全</p> <p>(4 長谷川功紀／7回) 画像・医療情報管理に関する医療安全、一般撮影検査分野の医療安全、CT検査分野の医療安全、MR検査分野の医療安全、装置保守点検結果の保管と管理、放射線機器導入時・更新時の安全管理</p>	オムニバス方式
	臨床技術基礎演習	<p>医療従事者として必要とされる医療安全や感染制御などの基礎医科学技術や患者接遇に必要な知識の習得を行う。これらの知識は将来の専門性に囚われることなく、普遍的な知識として本学部の全学生が習得すべきものと位置づけ、将来様々な場面で実用できる知識を習得する。医療安全の視点の下に医療職としての役割、医療における課題等を演習から理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(51 義久精臣、129 見田洋子／3回) (共同) オリエンテーション、医療接遇</p> <p>(98 木村夏実、96 三橋佑平／2回) (共同) 高齢者・障害者・妊婦の特性</p> <p>(⑪ 林博史／1回) バイタルサイン</p> <p>(93 岡崎可奈子／2回) 患者移動</p> <p>(⑦ 矢吹省司、⑲ 小俣純一／1回) (共同) 清潔・不潔の概念とルール</p> <p>(⑬ 豊川真弘、100 三浦里織、99 堀越裕子／1回) (共同) 感染制御</p> <p>(51 義久精臣、86 高橋一人、99 堀越裕子、100 三浦里織／2回) (共同) 心電図の見方</p> <p>(12 田代雅実、① 久保均／1回) (共同) 応急手当</p> <p>(12 田代雅実、① 久保均、6 佐藤久志、2 高橋規之、3 加藤貴弘、8 福田篤志／2回) (共同) 基本的心肺蘇生法、AEDの使用法</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目 画像 診断 ・ 技術 学	<p>現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 佐藤久志／2回) 画像医学総論、放射線治療領域の画像医学</p> <p>(26 伊藤浩／2回) 中枢神経系の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p> <p>(57 石井士朗／1回) 腫瘍・骨・炎症・内分泌の疾患について、核医学を中心とした画像診断</p> <p>(158 黒岩大地／1回) 救急領域の画像診断</p> <p>(157 長谷川靖／2回) 腹部領域（泌尿器系、婦人科系）の画像診断</p> <p>(155 関野啓史／2回) 循環器領域の画像診断、血管を中心としたIVR</p> <p>(156 藤巻秀樹／2回) 腹部領域（肝臓、胆嚢、膵臓）の画像診断</p> <p>(138 森谷浩史／1回) 胸部領域の疾患について、主にCTを中心とした画像診断</p> <p>(151 歌野健一／1回) 腹部領域（消化管）の画像診断</p> <p>(160 箱崎元晴／1回) 筋肉・骨・関節の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p>	オムニバス方式
		<p>実践臨床画像学</p> <p>診療放射線技師が専門性を発揮して医療現場の中で診療画像情報を提供できるようになるためには、今までに体系的に学んできた知識や技術を束ねたり融合したりすることにより、より実践的かつ活用できる知識や技術となる。本科目では今までに得た知識や技術をまとめ上げ、臨床現場で実践的な活用できるレベルにまで高める。特に、患者対応、他職種との連携、医療情報の取り扱い、業務拡大で新たに必要となる手技、放射線防護や安全管理等について、臨床現場を想定した実践的な知識を能動的に得る。</p>	
		<p>実践臨床画像学演習</p> <p>診療放射線技師が専門性を発揮して医療現場の中で診療画像情報を提供できるようになるためには、今までに体系的に学んできた知識や技術を束ねたり融合したりすることにより、より実践的かつ活用できる知識や技術となる。本科目では今までに得た知識や技術をまとめ上げ、臨床現場で実践的な活用できるレベルにまで高める。特に、患者対応、他職種との連携、医療情報の取り扱い、業務拡大で新たに必要となる手技、放射線防護や安全管理等について、臨床現場を想定した実践的な知識と技術を能動的な演習により得る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	放射 線 総 合 (複 合)	<p>医療における放射線の役割はますます重要となっており、診断・治療においてなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では放射線の医療利用の実際を学び、診療において活用できる基礎知識を学習する。具体的には、放射線医学の誕生から、放射線診断学、放射線治療学、核医学を概説し、放射線医学を学んでいく。主として放射線診断学について講義する。放射線等で作られる画像の意味するところを、画像解剖学をもとにして講義していく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 佐藤久志／7回) 画像診断について、放射線治療の基礎、放射線治療の種類と装置・方法、温熱療法</p> <p>(8 福田篤志／1回) 医療で用いる放射線の種類、放射線物理学の基礎、放射線計測の基礎</p> <p>(10 大葉隆／1回) 放射線障害、医療被ばく、法的規制</p> <p>(① 久保均／3回) 画像診断装置、医療情報システムとその安全管理</p> <p>(5 三輪建太／2回) PETによる画像診断、核医学内用療法</p> <p>(3 加藤貴弘／1回) 中枢神経、頭頸部、胸部の放射線治療</p>	オムニバス方式
			診療放射線科学概論	<p>診療放射線技師は画像診断、核医学、放射線治療、放射線管理計測、医療情報などの分野で活躍する医療技術者である。本講義では、診療放射線技師が行う業務や社会における役割等を理解し、今後の学修を進めていく上での方向性を獲得することを目的とすると共に、学生それぞれの将来の診療放射線技師像を構築することをサポートする。具体的には、診療放射線技師の業務やその内容等を画像診断検査を中心に概説するとともに、診療放射線技師となるために学ぶべき事項を紹介する。そして、診療放射線技師となって社会に出て役割を担う様々な専門領域に関して画像診断検査との関連性を中心に説明し、種々の専門領域を統合的に学ぶ必要性和その方法を理解する。また、福島で放射線を学ぶことの意味を学生自身に考えさせ、その意義を見いだし個々の学修方針を構築できるように指導する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部診療放射線科学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	放射線 総合 (複 合)	<p>本学科を卒業するためには、最終年度に卒業研究を履修しなければならない。本演習では、卒業研究の履修に必要な知識と技術を獲得すると共に、能動的に卒業研究を実施できるように必要な能力の向上を図る。具体的には、卒業研究の意義と目的、本学における卒業研究の内容とその担当研究室の紹介、臨床研究を行う場合に必要倫理委員会での研究内容審査に関する知識と書類作成の実際、学会等で研究発表を行うための方法とそのため準備法等を教授し、演習形式で実際に書類や資料の作成を行う。これにより学生の研究に関する実践力を高め、卒後の自己研鑽を実施できる能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 久保均/3回) 卒業研究の実際、卒業研究の方法論と研究倫理、倫理申請書類等の実際</p> <p>(2 高橋規之、8 福田篤志、10 大葉隆、9 広藤喜章/1回) (共同) 応用医学物理学領域の研究</p> <p>(① 久保均、7 五月女康作、11 山品博子、12 田代雅実/1回) (共同) 医用画像科学領域の研究</p> <p>(4 長谷川功紀、5 三輪建太、13 宮司典明、3 加藤貴弘、6 佐藤久志、14 原田崇臣/1回) (共同) 核医学領域、放射線治療科学領域の研究</p> <p>(① 久保均、2 高橋規之、8 福田篤志、10 大葉隆、9 広藤喜章、7 五月女康作、11 山品博子、12 田代雅実、4 長谷川功紀、5 三輪建太、13 宮司典明、3 加藤貴弘、6 佐藤久志、14 原田崇臣/9回) (共同) 卒業研究発表会の聴講、卒業研究テーマの仮決定、卒業研究予行を通じた倫理申請書類等の準備</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	放射 線 総 合 (複 合)	本学科の4年間で学んだ基礎知識と、臨床実習を通して学んだ応用技術を総括した上で内容を再確認し、多様な診断・治療技術が共通の基盤によって成立していることを学び、演習を通して体系化した学修成果の固着化と応用力の向上を図る。対象となる領域は画像診断、核医学、放射線治療、放射線管理計測、医療情報など多岐に渡ることから、いくつかの領域を基盤として、実際の臨床におけるワークフローも含めた全体像を自身の中でイメージできるようにする。 (オムニバス方式/全15回) (5 三輪建太/2回) 演習に関するガイダンス、核医学検査技術学 (6 佐藤久志/1回) 基礎医学 (14 原田崇臣/1回) 放射線生物学 (13 宮司典明/1回) 核医学治療、放射線物理学 (4 長谷川功紀/1回) 放射化学 (7 五月女康作/1回) 医用工学 (12 田代雅実/1回) 診療放射線機器学 (① 久保均/1回) 診療画像検査学 (11 山品博子/1回) エックス線撮影技術学 (2 高橋規之/1回) 医用画像工学 (9 広藤喜章/1回) 医療情報学 (8 福田篤志/1回) 放射線計測 (3 加藤貴弘/1回) 放射線治療技術学 (10 大葉隆/1回) 放射線安全管理学	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	臨床 実習	<p>地域・社会の中で病院がどのように機能しているかを知り、その社会的意義と医療機関で勤務することの重要性を体感する。また、その中で診療放射線技師の果たしてきた役割について学ぶとともに今後果たすべき役割と社会からの期待、ニーズを感じ取り、それに応えるためには何ができるのかを考察する。それと共に、知的好奇心への刺激や学びの方向性の確認を促し、主体的に学び未知の課題に対して論理的にアプローチできる考察力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>① 久保均、11 山品博子/12回) (共同) オリエンテーション、病院の概要、接遇・見学の注意点、グループディスカッション</p> <p>① 久保均、11 山品博子、138 森谷浩史/18回) (共同) 市中病院の見学実習</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	臨床 実習	<p>3年生前期までに受講した講義、演習、実験・実習などを通じて獲得した臨床技能に関する知識や技能を総括するとともに、客観的臨床能力試験によりその成果を確認する。この中には臨床の実務的な内容に加えて医療安全や接遇など幅広い内容を含むものとする。診療画像技術学臨床実習、核医学技術学臨床実習、および放射線治療技術学臨床実習を受講する能力、および社会性があるかどうかを判定する。それぞれの分野は多様化する傾向にあるが、基本的な考え、取り組む姿勢は共通する部分が多く、論理的思考ができるかどうかという視点でも評価を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>① 久保均/4回) ガイダンス、臨床実習受講のための注意点</p> <p>① 久保均、10 大葉隆、11 山品博子、12 田代雅実/12回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習受講のための技能トレーニング 客観的臨床能力試験 (診療画像検査技術学)</p> <p>(5 三輪建太、13 宮司典明/6回) (共同) 核医学検査技術学臨床実習受講のための技能トレーニング 客観的臨床能力試験 (核医学検査技術学)</p> <p>(3 加藤貴弘、14 原田崇臣/6回) (共同) 放射線治療技術学臨床実習受講のための技能トレーニング 客観的臨床能力試験 (放射線治療技術学)</p> <p>① 久保均、10 大葉隆、11 山品博子、12 田代雅実、5 三輪建太、13 宮司典明、3 加藤貴弘、14 原田崇臣/2回) (共同) 講評</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部診療放射線科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	臨 床 実 習	<p>一般撮影検査（胸部・腹部・骨一般など）をはじめ、各種造影撮影検査、X線CT検査、MR検査、超音波検査などの診療画像技術に関する事項を、病院および検診施設での臨床実習を行うことで体得する。検査室入室から検査着への着替えなどの準備、そしてポジショニングから撮影までの一連の検査を「臨床実習日程表」に沿ったスケジュールに基づき臨床実習を行う。実習期間内に該当する検査が無い場合は実習指導者からの実地的な解説により学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全182回)</p> <p>(2 高橋規之、8 福田篤志、10 大葉隆、9 広藤喜章、11 山品博子/96回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習、単純撮影、病棟撮影、手術室、超音波検査、透視造影検査、骨塩定量検査、乳房撮影</p> <p>(12 田代雅実/24回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習、X線CT検査</p> <p>(7 五月女康作/24回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習、MR検査 (手術室を含む)</p> <p>① 久保均/16回 診療画像検査技術学臨床実習、画像診断検査</p> <p>(8 福田篤志、11 山品博子/18回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習、検診業務</p> <p>① 久保均、5 三輪建太、3 加藤貴弘/4回) (共同) 診療画像検査技術学臨床実習報告会</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	核 医 学 実 習	<p>核医学検査・治療技術に関する事項を、病院での臨床実習を行うことで体得する。目的別にさまざまな放射性医薬品を取り扱うが、それぞれの特徴と取り扱いの注意点について実際の臨床をフローを通して学ぶ。また、ガンマカメラを用いたSPECTやポジトロン核種を用いたPET検査について臨床に加えて放射線管理についても学ぶ。これら一連の検査を「臨床実習日程表」に沿ったスケジュールに基づき臨床実習を行う。実習期間内に該当する検査が無い場合は実習指導者からの実地的な解説により学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全66回)</p> <p>(5 三輪建太、13 宮司典明/40回) (共同) 核医学検査技術学臨床実習、核医学検査 (含核医学治療)</p> <p>① 久保均、4 長谷川功紀/16回) (共同) 核医学検査技術学臨床実習、核医学検査 (PET)</p> <p>① 久保均/8回) 核医学検査技術学臨床実習、核医学検査、診療画像検査技術学臨床実習、画像診断検査</p> <p>① 久保均、5 三輪建太、3 加藤貴弘/2回) (共同) 核医学検査技術学実習報告会</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部診療放射線科学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床実習	放射線治療技術学臨床実習	<p>放射線治療技術に関する事項を、病院での臨床実習を行うことで体得する。リニアックを用いた外部放射線治療（高エネルギーX線および電子線）と密封小線源を用いた腔内照射を中心に「臨床実習日程表」に沿ったスケジュールに基づき臨床実習を行う。患者固定具作成から治療計画CT撮影、治療計画、実際の照射、そして品質管理までの一連の行為を学ぶ。実習期間内に該当する治療が無い場合は実習指導者からの実際的な解説により学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全66回)</p> <p>(3 加藤貴弘、6 佐藤久志、14 原田崇臣/40回) (共同) 放射線治療技術学臨床実習、放射線治療</p> <p>(3 加藤貴弘、14 原田崇臣/16回) (共同) 放射線治療技術学臨床実習、放射線治療（陽子線治療）</p> <p>(3 加藤貴弘、14 原田崇臣/8回) (共同) 放射線治療技術学臨床実習、放射線治療（BNCT）</p> <p>(① 久保均、5 三輪建太、3 加藤貴弘/2回) (共同) 放射線治療技術学臨床実習報告会</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	卒業研究	卒業研究	<p>卒業研究は、本学科における画像診断、核医学、放射線治療、放射線管理計測、医療情報などの分野に関連する講義や実習で学んだ知識および技術を駆使し、指導教員の下、個別に設定した研究テーマで自ら研究を行うことで、知識と技術の総括、研究方法の体得を行うとともに論理的思考能力を養うものである。その内容は、学生ごとの個別テーマによる研究であり、適切なテーマを設定したうえで方法から実験、その結果に対する考察、結論に至るまでは指導教員との意見交換を通して実施される。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	初年 次 科目	<p>大学入学直後に、正しく学修に取り組み、その成果を実社会で活かす能力を身につけるための基盤をつくとともに、医療を学ぶ上で必要となる心構えを養う。専門医療技術者になるために必要となる修学内容について把握し、医療を通じた社会貢献について学修する。大学生として学修する上で必要な知識やスキルについて学ぶ。最後に、ともに学ぶ学生間でのプレゼンテーション、学生同士や教員とのディスカッションを行い、コミュニケーションの重要性を学ぶとともに4年間の学びのビジョンを明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9) 矢吹省司/1回 「大人の学び」基礎講座（我々は何を学び何をを目指すのか）</p> <p>(10) 高橋仁美/1回 社会人になるまでに学ぶこと</p> <p>(1) 小川一英/1回 医療人として働くために学ぶこと</p> <p>(12) 五百川和明/1回 コミュニケーションによって医療人は何をどう活かすのか</p> <p>(6) 亀岡弥生/1回 チームによる課題解決を学ぶ</p> <p>(3) 豊川真弘/1回 自ら学ぶことの意義</p> <p>(13) 林博史/1回 医療・医学</p> <p>(4) 北爪しのぶ/2回 研究・論文、男女共同参画</p> <p>(14) 久保均/1回 インターネット・リテラシー</p> <p>(7) 本多創史/1回 生命倫理</p> <p>(9) 矢吹省司、(10) 高橋仁美、(1) 小川一英、(12) 五百川和明、(3) 豊川真弘、(13) 林博史、(4) 北爪しのぶ、(14) 久保均/4回（共同） 修学基礎セミナー学修に関するグループワーク</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	修学基礎セミナー		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	初年次科目	<p>東日本大震災と福島第一原発事故後の福島の現状を学ぶ。福島の歴史、特に日本史上で、福島県が主要な舞台となった出来事（戊辰戦争、奥羽仕置、奥州合戦など）について学ぶ。また、福島県を構成する浜通り・中通り・会津という3つの地域の自然環境や暮らしの特徴について学ぶ。福島県立博物館で実際に歴史や文化に触れる。さらに福島県の芸術や食文化について学ぶ。福島の歴史や文化、そして現状を理解し、今後福島県はどのように進んで行く必要があるかを学ぶ時間とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9) 矢吹省司・146 開沼博/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(146 開沼博/5回) 福島県の現状、3.11までの福島、福島の今後の展望</p> <p>(147 阿部綾子/1回) 福島県の歴史</p> <p>(148 内山大介/1回) はま・なか・あいつの地域性</p> <p>(149 高橋充/2回) 福島県の歴史と文化</p> <p>(150 堀宜雄/1回) 福島県の近代美術概観</p> <p>(151 増渕鏡子/1回) 福島出身の作家や美術</p> <p>(152 橋本恵里/1回) 福島出身作家や美術コレクション</p> <p>(153 平出美穂子/1回) 福島の食文化</p> <p>(154 鈴木賢二/1回) 福島の食文化</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	福島県を知る		
	ライフデザイン		<p>自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の理念である「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する。」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生を充実させるためにできること、手立てをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法をグループで学びあい、集団討議させることで、より確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。</p>
自然科学系科目	数学 I	<p>現代の科学はすべて数学を基礎として成り立っている。数学は、生物学、経済学、医学、医用工学などへの応用に非常に有力である。大学1年生で学ぶ「微分積分学」と「線形代数学」は数学の概念の中でも最も重要な基礎である。また、これから多くの数学以外の専門科目を学ぶうえで必要となってくる。</p> <p>この授業では、「微分積分学」の中の「1変数の微分」と「線形代数」の中の「行列と1次変換」の概念を理解し、基礎的な計算力を身に付ける。</p>	共同
	数学 II	<p>多くの自然現象を記述する方程式として、微分方程式がある。微分方程式を解くことによって物体の運動の実態などを明らかにすることができる。現象を見てそれを支配する法則を微分方程式モデルに表現することは、それを解くことと同じく重要である。</p> <p>微分積分学は、自然現象や社会の仕組み、工業技術に関することがらを解明するときには必要不可欠である。</p> <p>この授業では「微分積分学」の中の「1変数の積分」と「微分方程式」の中の「常微分方程式」の概念を理解し、簡単なモデルの解法を学習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系科目	応用数学	<p>複数の要因によって生起する自然現象を理解するには「多変数の微積分学」の概念が必要となる。複数の要因の変化が動的に現象に影響を及ぼしているモデルを記述する道具が「偏微分方程式」であり、偏微分方程式を解析するためのツールが「フーリエ変換」と「ラプラス変換」の理論である。「フーリエ変換」はMRI、X線コンピュータトモグラフィ(CT)、陽電子放射型コンピュータトモグラフィ(PET)などの医用イメージングの理論や医用画像処理など様々な分野で非常に重要な役割を果たしている。</p> <p>この授業では、多変数の微積分学、フーリエ変換、ラプラス変換の基本的な考え方を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆/5回) (共同) 偏導関数、連鎖律、合成関数の偏導関数の計算、重積分の定義、重積分を用いて立体の体積計算、偏微分の応用、重積分の応用</p> <p>(⑮ 安達隆/10回) ラプラス変換、フーリエ変換</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	統計学	<p>医療における統計学の意義は、大きくわけて3つある。1つは、現状を把握することである。例えば、胃がん死亡数は減ってきているか、この病気はどのようなサブタイプに分かれるか等は、記述統計を使って把握することができる。2つめは、予測することである。例えば、検査が陽性のときの発症確率、薬が効く確率等は、推測統計を使って予測することができる。3つめは、因果関係を示すことである。例えば、たばこを吸うと肺癌になりやすくなる、この薬を使ったら病気が治る確率が高くなる等である。とくに因果関係を示すことは難しく、バイアスを除いて正しくデータを観測し、交絡を除いて原因と結果の関係を正しく評価する必要がある。統計を使って、研究と診療におけるデータの特徴を導き出し、分析する能力を身に付けることが必要である。この授業では、記述統計、推測統計(推定・検定)の基本的な考え方を身に付ける。</p>	
	情報処理	<p>大学で学び、社会に出て行くためにコンピュータやネットワークの理解と活用法の習得は必須である。本科目ではコンピュータとネットワークによる基本的な情報処理の仕組みと活用法を理解するとともに、コンピュータ・リテラシーを高める。また、ソフトウェアの機能、役割、構成などを理解してその活用法を実践的に学ぶとともに、データの扱い方や情報セキュリティの基本、情報倫理・関連法制度を知ることで、医療技術者として必要な情報処理に関する基礎知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆/5回) (共同) コンピューター・ネットワークに関して、情報セキュリティ、情報倫理</p> <p>(⑩ 柴田恭子、⑮ 安達隆、142 田代雅実/10回) (共同) ソフトウェアのインストール、データベースの活用、オフィススイートの活用、科学計算ソフトウェアの活用</p>	オムニバス・共同 (一部)
	化学 I	<p>専門科目を学ぶ上で必要となる化学全般(主に無機化学、有機化学)の基礎的な知識を身につける。化学は、物質を基本とした学問なので、まず物質を構成する原子の構造、原子間の結合、物質の量的取り扱いについての基本的な事項を学習する。その後、個々の元素(非金属元素、金属元素)の性質について学び、無機化合物に関する理解を深める。また、酸と塩基、酸化と還元の本質について理解する。そして、生体を理解する上で重要な有機化学については、官能基の特徴に基づいて個々の化合物の性質を学ぶと共に、それらの反応を理解する上で基盤となる知識を身につける。</p>	
	化学 II	<p>化学Iで学んだ知識を基盤として、専門科目を学ぶ上で必要となる物理化学、分析化学の基礎的な知識を身につける。まず、反応速度と化学平衡の概念を理解し、溶液の性質について学ぶ。その後、化合物を分析する上で重要となるデータ処理の手法について学んだ上で、基礎的な検出、定量法について、滴定を中心に学習する。そして、分子分光分析法、原子分光分析法、質量分析法、核磁気共鳴分光法について、その原理を理解する。また、混合物の分離分析に利用されるクロマトグラフィーおよび電気泳動の原理について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	自然科学 系科目	生物学 I	医療を志す者にとって、基本的な生物学の知識は最も重要な素養の一つである。本講義では、生物学の発展に寄与した重要な発見の歴史に触れることで先人たちの努力によって蓄えられてきた知識の重みを感じながら、すべての生物に共通な特徴（細胞、組織、エネルギー代謝、呼吸、情報伝達、遺伝）について系統的に学習し、生物の有する普遍性と特殊性について理解する。最後に生物の多様性と進化をもたらさしめる生物の可塑性を考察することで、生物のダイナミズムに触れる。
	生物学 II	本講義では、個体を構成している細胞の構造と機能について、細胞生物学・分子遺伝学・分子生物学の面から基本的原理を学ぶことで、生物の持つシステムティックな機構について理解する。また、最新の生物学的知見や技術を紹介し医療との関連についても学ぶことで、生物学の基礎的な発見がどのように医療へと応用されていくのかを学ぶ。最後に、分子レベル、細胞レベルにおける人体の防御機構（放射線に対する防御機構も含む）を学ぶことで、生物がどのように外部からのストレスに応答し、守っているのかを理解する。	
	物理学 I	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、物質が関与する現象は物理学の原理にしたがっていることが考えられる。また、医療の現場では多くの医療機器に満ちており、これらの医療機器は物理学の原理にしたがって作動している。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では力と運動、電磁気、原子と原子核に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、力と運動では、力のつり合い、質点の運動、質点系と剛体の力学、相対性理論について学ぶ。電磁気では、静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導と交流、電磁波について学ぶ。最後に、原子と原子核では、電子、原子、原子核、放射線について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(87 反町篤行/10回) 物理学の基本的な考え方、力と運動、原子と原子核</p> <p>(94 五月女康作/5回) 電磁気</p>	オムニバス方式
	物理学 II	<p>人体の動きから人体内部の生命現象に関して物質が関与する現象、医療の現場では使用されている医療機器は物理学の原理にしたがっている。そのため、物理学の知識が医療に対して不可欠である。本講義では物理学Iで習得した物理学の知識を基盤として、弾性体と流体、振動と波動、温度と熱に関する基本法則と考え方について学習し、理解することを目的とする。まず、弾性体と流体では、固体の変形、静止している流体、運動している流体について学ぶ。振動と波動では、振動、波動、音波、光学、について学ぶ。最後に、温度と熱では、熱現象、熱力学、分子運動論、熱力学の応用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(87 反町篤行/8回) 弾性体と流体、温度と熱</p> <p>(127 大森康孝/7回) 振動と波動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	自然科学系科目	<p>自然科学（物理学、化学、生物学）に関する実験を通して、各科目への理解を深めることを目的とする。各分野においていくつかのテーマに関連した実験を行い、得られたデータの解析・分析の仕方、実験レポートの書き方などを身につける。</p> <p>物理学実験では、単振り子、プランク定数、放射線計測に関する実験を行い、基本的な実験機器の扱い方を身につけるとともに、物理学の基本法則や考え方などを確認、理解する。</p> <p>化学実験では、中和滴定、メチルオレンジの合成、アスピリンの合成を行い、基本的な薬品および実験器具の扱い方を身につけるとともに、化学反応に対する知識を深める。</p> <p>生物学実験では、タンパク質の呈色反応、染色体標本の作成と観察、マウスの解剖と観察を行い、基本的な生物実験の実験器具の扱い方、顕微鏡を用いたサンプルの観察方法、解剖手法の基本を身につけ、生物資料の性質、形態、構造などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(87 反町篤行、49 佐々木道子、86 有吉健太郎/3回) (共同) ガイダンス、実験の説明、レポートの作成方法の指導</p> <p>(87 反町篤行/3回) 物理学実験(単振り子)</p> <p>(127 大森康孝/3回) 物理学実験(放射線計測)</p> <p>(94 五月女康作/3回) 物理学実験(プランク定数)</p> <p>(49 佐々木道子/9回) 化学実験</p> <p>(86 有吉健太郎/9回) 生物学実験</p>	オムニバス方式・共同 (一部)	
	人文・社会科学系科目	コミュニケーション論	<p>将来の医療専門職としての活動を見据え、相手の立場を理解し、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルを学ぶ。具体的には、心理学、行動科学的エビデンスに基づいて、1) 情報の受け取り方の個人差への理解を深め、2) コミュニケーションの土台となる非言語的なスキルや傾聴・共感のためのスキル、3) 情報を他者に適切に伝えるスキル、4) 患者主体の意思決定を支えるスキル、5) 他者の行動変容を支えるスキルを学び、患者の行動選択における医療従事者の役割を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(128 竹林由武/2回) コミュニケーションスキル、人間の情報処理過程とバイアス、リスク認知</p> <p>(128 竹林由武、138 青木俊太郎、247 松本貴智/8回) (共同) 非言語コミュニケーション、傾聴・共感のスキル、</p> <p>(138 青木俊太郎、128 竹林由武/5回) (共同) 医学情報を伝えるスキル、共同的意思決定、行動変容を支えるコミュニケーションスキル</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		言語と社会	<p>この授業は社会言語学の入門クラスで、言語と社会の関わりについて様々なテーマを扱う。言語が個人間、コミュニティ、社会での情報発信にどのような役割を果たしているのかを世代別、性別、異文化交流、マンガアニメの言語などを通じて学ぶ。また、各回で扱う言語のテーマが私たちとどう関わっているのかを知ること、将来医療現場や実生活で円滑なコミュニケーションを図り、他者をより理解するための言語スキルと知識を身につける。さらに、言語にまつわる体験談や疑問も共有し、クラス全体で共に考えていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文・社会科学系科目	人間関係論	主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究する。 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになることを目指し、1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。以上の力を培っていただけるように、講義やワークショップを展開する。	
	哲学	人間は人間であるかぎり、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことである。この授業では、そうした「とことん考え抜く」営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになる端緒を提供する。「知らないということを知っていること（無知の知）こそ最上の知である」とするソクラテスの洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついていると思うからである。西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指す。	
	心理学	心理学は、「こころ」やそれに関連する非常に幅広い事象について考えてきた学問である。例えば、知覚、記憶、認知、学習、感情、性格、動機づけ、発達（新生児期～老年期まで）、対人行動、集団（集団内、集団間）、組織、文化、健康、心理的支援など、非常に幅広い領域が心理学の研究対象となっている。この授業では、心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」とそれに関連する事象の特徴や仕組みについて、心理学の視点からどのように理解するかについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (47 三澤文紀/5回) 知覚、性格・知能、動機づけ、ストレスの心理、ストレスと臨床心理 (135 井口善生/3回) 脳と心 (155 藤岡理恵子/2回) 発達 (216 小林智之/5回) 社会心理	オムニバス方式
	倫理学	本講義では、倫理的な判断を下す際に、合理的に思考するとはどのようなことなのかを学ぶ。はじめに、基礎的な概念や方法について学び、その後、複数の事例を学生とともに検討することを通じて合理的に考える実践的なトレーニングをおこなう。具体的には、まず、カントの義務論とミルやベンサムなどの功利主義との違いについて学び、それらと対比する形で徳倫理学についても学ぶ。さらに権利論について紹介する。これらによって基礎概念を身につけたあと、法と道徳との関係、正の理論と善の理論との関係について具体的な事例を基に学ぶ。また近年のリベラリズムの思潮について紹介する。最後に、医療資源配分の問題についてグループワークをおこない、学生が主体的に考え発表する機会を設ける。	
	文学	日本の近代（明治、大正時代）から現代（昭和時代）にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を読むことによって、歴史的・文化的な背景をも学び、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力を養う。また、講義のなかでは、何回かは文学と命、病気、介護の在り方、公害の問題など、医療との接点の問題も扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	人文・ 社会科学 系科目	歴史と社会	この講義は、思想史の観点から維新前後の歴史を学び、概説からはうかがい知ることのできない歴史像を提供する。医療系の学部学生向けであるから、知識の習得よりも、当時の人々の思索の跡を辿って先人とともに考えることを優先し、学生の自ら考える力を育成する。 維新前後の人口数と現代のGDPの比較から、過去も現在も、他国から日本は大国に見えていた／いる事実を確認し、維新前後の問題を考えることは今の問題を考えることにつながると示唆する。徳川社会と朱子学との間にあった懸隔を知り、当時の人々が何に苦悩したのかを想像し、他者の身になってモノを考える力を養成する。217 伊藤仁斎とT. Hobbesの思想を比較し、その相違を説明できる力を育成する。荻生徂徠や本居宣長の思想を取り上げ、「御武威」から「皇威」へと権威が移動していく様を跡づける。最後に福沢諭吉や中江兆民の思想、アジア主義などを取り上げ、他国との関係構築について思索を深める。	
		死生観	死生観とは、生と死に関する考察である。この授業では、古今東西の宗教（仏教・儒教・神道・キリスト教・イスラム教など）が人間の生や死にどのように向き合ってきたかをふりかえり、そのさまざまな考察について、現代に生きる私たちの参考となるような形で提示する。 死と生についていろいろな資料を読み、受講者同士も意見を交わしながら多角的視点でこの問題について考える。そして、自分なりに積極的に死生観について考える姿勢を養うことにより、生と死に向き合う医療職の営みにも参考になる授業を目指す。	
		福島県の医療環境	福島県は総面積が広く、7地域（相双・いわき・県北・県中・県南・会津・南会津）に分かれており、地域別の特色がある。南会津地域は高齢化が顕著であり、相双地域は東日本大震災に伴う原発事故後に避難指示区域の状況が長期間続いたことにより、医療インフラが不十分である。この科目では、東日本大震災とはどのような震災だったのかとその影響について学ぶ。さらに各地域での医療環境の特徴について理解する。これらをもとに福島県で専門医療技術者が今後、どのようなことを担っていけるのかをグループワークによって議論し、発表する。 (オムニバス方式/全15回) (37 葛西龍樹/1回) 総論及び地域医療・へき地医療 (39 長谷川有史/1回) 災害時・後の医療への影響 (22 大平哲也/1回) 福島県の疾病罹患動向 (164 佐竹秀一/1回) 南会津過疎医療の現状 (165 小野田修一/1回) 災害後の医療の現状 (⑨ 矢吹省司、141 佐藤聡見、91 澄川幸志、93 佐藤久志、12 三浦里織/10回) (共同) 災害関連機関への見学実習、見学実習に関するグループワーク (※ 139 岡崎可奈子は令和4年度まで担当する) (※ 141 佐藤聡見は令和5年度から担当する)	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		社会福祉学	社会福祉を学ぶためには、人間や社会への深い認識や、広い視野を有すると同時に、社会福祉についての体系的・総合的な学びが求められる。さらには理論的な学びとともに、できるだけ人々の生活の現実や実態に触れることが大切である。 本講義では、社会福祉実践は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題にあることから、社会福祉の基本である、国民の生活と健康を保障するための支援についての原理・原則・体制などの原論と様々な福祉制度・システムと医療連携について、特に近年メインストリームとなっている地域福祉の視点からの総理解をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文・社会科学系科目	人間と教育	医療現場において患者および家族教育や支援は治療上重要な事項である。また職場における新人や臨床実習学生への教育など、教育学に関する知識は医療専門職にとって必須である。本科目では、医療専門職に必要な教育学の原理について教授する。 内容としては、教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向などにも触れる。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。	
	日本国憲法	当該授業では、日本国憲法の基礎知識及び判例につき講義していく。前半では基本的人権に関し、享有主体性や各人権の内容を理解し、具体的事案や判例を検討する。後半では、日本の統治機構に関し、条文を引用しながら講義を行う。日本国憲法の基礎知識を身につけるだけでなく、事例や判例の検討を通じて、未知の法律問題に直面した場合に合理的な結論を導き出せる法的思考力を養うことも目標とする。授業形態は講義形式であるが、学生同士での議論の機会も設け、学生が自ら考え、結論を導き出すプロセスも重視していく。	
	国際関係論	本講義の目的は、転換期を迎えている今日の世界と日本を理解するための分析視点と考察枠組みを学ぶことにある。この場合、2011年3月11日の東日本大震災以後の日本を取り巻く国内・国際情勢に焦点を当てつつ、授業を行なう。その際、「グローバル(global+local)」という視点を手掛かりに、3.11の被災地福島と転換期世界との関連性を理解することに重点を置くものである。具体的には、「東アジアのダイナミズム」、「BOPビジネス」、「クール・ジャパン」、「ダークツーリズム」などのテーマを取り上げる。	
	ジェンダー・セクシュアリティ論	ジェンダー／セクシュアリティ研究とは、「性」をめぐる様々な事柄（性別、性差、性欲、性行為など）について、自然科学ではなく社会科学の側からアプローチする学問分野である。本講義では、医療に携わる者として習得すべきジェンダー／セクシュアリティ研究の知見について解説する。授業ではイントロダクションでジェンダー／セクシュアリティ研究が扱う領域について学んだ後、「近代家族と女性・男性の就労」「性暴力とセクシュアル・ハラスメント」「日本における性的マイノリティ」の三つの大テーマについて学ぶ。	
外国語科目	英語 I A	英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、個々の場面において英語で効果的なコミュニケーションを図るための基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills(speaking & writing) の向上を図る。また、話し相手や状況にふさわしいボライトネスと英語表現を選択し、円滑なコミュニケーションをとれる力を養う。	
	英語 I B	英語 I Aに引き続き、英語でのコミュニケーション能力を高めるための基礎的な知識と「聞く、読む、書く、話す」の4技能を総合的に学習する。日常生活と関連した種々のトピックを題材として、ディスカッションスキルやジャンルを考慮したライティングスキルの基礎を養う。授業中の活動として、ペア・グループワークで課題に取り組み、それらの活動を通して実践的なproductive skills (speaking and writing) の向上を図る。また、グループワークでは、参考資料を正しく選択し、著作権等を遵守することを学ぶ。	
	英語 II A	医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。	
	英語 II B	英語 II Aに引き続き、医療に関する英文記事やニュースなどを通して、医療分野で用いられる英語の基礎的語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得する。授業では、英文記事やニュースの内容把握の他に、医療に関連する語彙・表現を覚える演習や内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、グループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、円滑なコミュニケーションに使えるproductive skills (speaking & writing) の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部臨床検査学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	外国 語 科 目		
	英語Ⅲ	医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体（箇条書き等）を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。	
	ドイツ語	グローバル化している世界の中で、私たちがまぎすしなければならないことは世界がどのように動いているかを知ることである。この授業では、この視点に立って、明治時代以降、医学、哲学、法学、教育等多方面で日本と関係を持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語を公用語とする国々について学習する。 なお授業の基本となるドイツ語の学習においては、ドイツ語でコミュニケーションを行うのに必要な「聞き、話し、読み、書く」能力の習得をめざすが、限られた授業時間数も考慮し、得意基本的なことがらをゆっくりと学習する。	
	フランス語	この授業は会話中心である。フランス語はどのような言葉か、フランスやカナダがどのような国かを学習することが第一目標である。単語の勉強が多いですが、文法は軽い。その他、フランス人の食文化やバカンスの取り方と楽しみ方などのトピックディスカッションもある。初めてフランス語を学習するために、直ぐに使えるフランス語を覚える上で「楽しい」、「面白い」という授業をする。	
	中国語	中国語の発音、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを活用して、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を培う。具体的な学習目標として、以下の5点の修得をめざす。(1) ピンイン（拼音：中国語で音節を音素文字に分け、ラテン文字化して表記する発音表記体系）を付した語彙や短文の正確な発音、(2) 基礎的な語彙や短文を正確に聞き取り簡体字とピンインで書き取ること、(3) 平易な日常会話、(4) 平易な作文、(5) 中国の文化、社会に対する初歩的な理解及び、中国への知的関心を持つとすることを身につけること。	
スペイン語	この授業では、ビデオ教材、ゲーム、音楽、映画、美術を使用した様々な教室活動を通してスペイン語の基礎を学ぶ。自己紹介の仕方、人と知り合う表現（名前、出身地、年齢、家族、大学、趣味等を聞いたり話したりする）、文法項目としては主語とser動詞、場所を表すestar動詞、「持つ」tener動詞を中心に学ぶ。学生達の興味と生活に密着したビデオ教材を使用し、文法、聞き取りとコミュニケーションの練習を行う。更に、スペイン語圏の国々の文化について内容を紹介する。		

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	人体の 構造 と 機能	<p>解剖学概論は専門医療技術者の基盤となる正常な人体の基本的な構造を学び、疾病を理解するための基礎を修得する。具体的には発生、骨格、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、平衡機能系、脳、細胞についての構造や働き、その関係性を理解する。また、さまざまな疾病になることで起こる身体の変化や病態についても解剖的視点から学び、理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 八木沼洋行/3回) 疾病を理解するための基礎的な人体の構造、発生、脳の解剖</p> <p>(17 和栗聡/2回) 疾病を理解するための基礎的な組織の構造と機能</p> <p>(32 山田仁/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨盤、四肢の骨と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(71 二階堂琢也/1回) 疾病を理解するための基礎的な頭部・顔面骨、脊柱、胸郭と筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(45 大谷晃司/1回) 疾病を理解するための基礎的な筋、神経、感覚系の解剖</p> <p>(24 風間順一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な骨の構造と成長、骨のリモデリング</p> <p>(180 西山慶治/2回) 疾病を理解するための基礎的な視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器、内分泌系の解剖</p> <p>(30 鈴木弘行/1回) 疾病を理解するための基礎的な呼吸器の解剖</p> <p>(5 義久精臣/1回) 疾病を理解するための基礎的な心臓、脈管系の解剖</p> <p>(29 丸橋繁/1回) 疾病を理解するための基礎的な消化器系の解剖</p> <p>(44 太田昌一郎/1回) 疾病を理解するための基礎的な泌尿器系、生殖器系の解剖</p>	オムニバス方式
		解剖学概論		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 人体の構造と機能	解剖学各論	<p>臨床検査技師に特に必要性の高い発生・呼吸・循環・神経・内分泌・脳・生殖器・感覚および筋骨格について集中的に理解を深める。今後、専門科目で重要となる画像検査に関わる知識やさまざまな検査に必要な知識を十分に活用するための基盤を作る。さらに発生を含めて、それぞれの臓器の機能や作用について理解して、それぞれの関係性にも着目して身体に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9) 矢吹省司/1回 臨床検査技師に特に必要性の高い骨、筋、関節の解剖</p> <p>(180 西山慶治/2回) 臨床検査技師に特に必要性の高い感覚器系、内分泌系の解剖</p> <p>(16 八木沼洋行/2回) 臨床検査技師に特に必要性の高い神経系の解剖、発生</p> <p>(5) 義久精臣/2回 臨床検査技師に特に必要性の高い心臓、脈管系の解剖</p> <p>(1) 小川一英/1回 臨床検査技師に特に必要性の高い血液の解剖</p> <p>(28 河野浩二/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い消化管の解剖</p> <p>(29 丸橋繁/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い肝臓、胆嚢、膵臓、排泄の解剖</p> <p>(30 鈴木弘行/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い呼吸器系の解剖</p> <p>(220 胡口智之/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い泌尿器系</p> <p>(107 片岡政雄/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い男性生殖器の解剖</p> <p>(105 添田周/1回) 臨床検査技師に特に必要性の高い女性生殖器の解剖</p> <p>(13) 林博史/1回 臨床検査技師に特に必要性の高い脳・脳神経の解剖</p>	オムニバス方式
	解剖学演習	<p>解剖学概論および解剖学各論において修得した基礎的な知識を、御遺体を用いて解剖知識を応用できるように講義・演習を行うことにより、さらに理解を深める。臓器や筋骨格、さまざまな身体の構造を3次的に理解して、性別による違いや個体差についても理解する。授業は、小グループに分かれて肉眼解剖の見学を通して、知識を深めるための講義を実施する。また、グループワークにより人の身体の構造の理解と個体差などについての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 八木沼洋行、17 和栗聡、140 小俣純一/9回) (共同) 筋・関節・神経・脈管、臓器・脳に関する解剖講義・演習</p> <p>(140 小俣純一/6回) 実習から学んだことに関するグループワークによる演習</p>	集中・オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 人体の構造と機能	組織学	<p>組織学は生化学、生理学、病理学と密接に関連しており、それらの理解のためにも必須の学問である。ヒトの体は、分子、細胞内小器官、細胞、組織、器官、器官系、個体と階層的に構成されている。光学顕微鏡や電子顕微鏡の画像から正常組織の微細構造を観察し、そして階層構造を理解し、また組織の構成を学び、構成する細胞同士の相互作用、さらにその機能的意義についても理解を深める。構造のあるところに機能が生まれるという考え方にに基づき、形態から機能への関連を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(62 長谷川功紀/11回) 総論、呼吸器、生殖器、内分泌、皮膚・感覚器</p> <p>(② 字月美和/3回) 循環器・脈管、消化器</p> <p>(① 小川一英/1回) 血液・骨髄</p>	オムニバス方式
	組織学実習	<p>組織学実習では、染色され視認可能となった組織切片を顕微鏡で観察・スケッチすることで、組織学で学んだ知識の定着を図る。染色技術により分子は可視化される。そして顕微鏡での観察を通して、組織中での分子局在、細胞局在、細胞同士の相互作用、そして組織の構成を学ぶことができる。ヒトの体が、分子、細胞内小器官、細胞、組織、器官、器官系、個体と階層的に構成されていることを目で見て理解する。そして構造のあるところに機能が生まれるという考え方にに基づき、形態から機能への関連を観察から学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(62 長谷川功紀/22回) 総論、呼吸器、生殖器、内分泌、皮膚・感覚器</p> <p>(② 字月美和/6回) 循環器・脈管、消化器</p> <p>(① 小川一英/2回) 血液・骨髄</p>	オムニバス方式
	生理学 I	<p>生理学は身体とそれを構成している細胞や組織、器官や臓器についての正常な機能に関して学ぶものであり、医療技術者にとって必修の学問である。生命維持に欠かせない呼吸と循環、消化と排泄、そしてそれらを調節する自律神経や内分泌機能について学ぶ。また、細胞機能の基礎、活動電位やイオンチャネル、骨格筋の収縮、自律神経と運動神経、中枢神経、感覚、血液、代謝、生殖、恒常性のメカニズムについて学ぶ。生命現象がどのように営まれているのか、生体の働きについてのメカニズムを理解し医療技術者として必要な基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 義久精臣/9回) 細胞の構造と機能、循環器系の構成、心臓、呼吸器系、肺、消化と吸収、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節</p> <p>(① 小川一英/1回) 血液の組成と機能</p> <p>(② 字月美和/1回) 免疫</p> <p>(16 八木沼洋行/1回) 生殖</p> <p>(19 永福智志/3回) 神経、感覚、運動</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 人体の構造と機能	生理学Ⅱ	<p>生理学Ⅰと生理学実習で学んだ人体生理の正常機能に関する知識を基盤とし、それらの仕組みが破綻した時、どのような病態から病気が引き起こされるのかを理解する。各論として、免疫のしくみと疾患の病態、血液の働きと疾患の病態、循環や呼吸調節の障害とその病態、消化吸收異常に関する病態、脳や神経の疾患とその病態などに関して学ぶ。また、すべての臓器や調節系が相互に深く関わりあって機能していることなどを学び理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 義久精臣/10回) 病態生理の基礎知識、循環、呼吸、消化と吸収、腎臓、内分泌、それぞれの働きと異常、感覚器の働きと異常</p> <p>(① 小川一英/1回) 血液の働きとその異常</p> <p>(② 宇月美和/1回) 免疫の働きと異常・体温調節</p> <p>(⑬ 林博史/1回) 脳と神経の働きとその異常</p> <p>(104 加藤欽志/1回) 筋肉の働きとその異常</p> <p>(134 大原美紀/1回) 生殖の仕組みとその異常</p>	オムニバス方式
	生理学実習	<p>生理学Ⅰにより修得した人体生理学についての知識を基盤としさらに実習として体験型に発展させたものである。生理学は生体の複雑な統合機能を解明する学問である。中でも身近に感じることができ生体に生じる現象を体験し、また観察した結果をもとに、そのメカニズムについて自ら考察し、生理学の理解を深めることを目的とする。人体を対象とした筋の収縮や運動の仕組み、循環器や呼吸器などの生体の機能について観察できる実習を行う。また同時に、実験器具や装置の正しい使用方法や安全管理についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑤ 義久精臣/3回) 生理学実習概要の説明、レポート作成方法の指導、生理機能について実習の統括</p> <p>(12 三浦里織、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 血球観察</p> <p>(6 鈴木英明、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 腎機能測定</p> <p>(⑬ 林博史、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 正しい血圧測定</p> <p>(⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 心臓の観察</p> <p>(88 横塚美恵子、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 呼吸機能</p> <p>(139 岡崎可奈子、140 小俣純一、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 骨格筋と腱の観察</p> <p>(⑪ 柴喜崇、90 楠本泰士、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 末梢神経伝導速度</p> <p>(91 澄川幸志、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 視覚と皮膚感覚</p> <p>(145 木村夏実、⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/3回) (共同) 記憶と認知機能</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 人体の構造と機能	基礎生化学	<p>生化学は医学分野における様々な専門科目の基礎的な土台となり、生命現象を理解するためには必須の学問である。ここでは生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどの分子構造や化学的性質について学ぶと共に、これらの分子が体内でどのように生合成され、代謝されていくのか、そして遺伝情報物質として機能するための分子基盤について学ぶ。そして、細胞および生体レベルで恒常的機能を維持するために、これらの分子がどのような役割を果たしているのか理解した上で、その破綻がさまざまな疾患の発症と進行に果たす役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 北爪しのぶ/14回) タンパク質、酵素、生体高分子、生体膜、複合糖質の構造、生合成と機能的役割、遺伝子発現の制御、情報伝達の生化学</p> <p>(171 山口芳樹/1回) 構造の生化学</p>	オムニバス方式
	病態生化学	<p>病態生化学では、1年前期に行われた基礎生化学の知識をベースとして、分子の視点に立ちながらも、より広い視野から病態メカニズムを理解する。人体を構成する細胞は、外的環境の変化に由来するいろいろなシグナルを感知し、応答し、統合する。そこで、神経伝達物質やホルモンなどのシグナル分子による伝達のしくみについて学ぶとともに、シグナル破綻が引き起こす疾患メカニズムを学ぶ。さらには疾患発症において中心的な役割を果たす分子の生化学的変化が臨床症状に結びつく過程や、最新の診断薬および治療薬開発に向けた論理および手段の理解を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 北爪しのぶ/11回) 脂質や糖質、無機質の代謝、ホルモン、細胞増殖や癌、認知症などの病態と生化学</p> <p>(182 三善英知/1回) 消化器病態と生化学</p> <p>(183 大坪和明/1回) 糖尿病病態と生化学</p> <p>(184 植田幸嗣/1回) 癌マーカーと生化学</p> <p>(185 川谷誠/1回) ケミカルバイオロジーにおける生化学</p>	オムニバス方式
	生化学実習	<p>1年次に学んだ基礎生化学に対する理解やイメージを深めるため、生化学実習では実際に実験を行う。タンパク質、DNAなどの生体分子の性質を踏まえた上での定量方法を習得するとともに、電気泳動を用いたタンパク質の分離分析技術、特定のタンパク質を分離するためのクロマトグラフィー、検出のための免疫学的手法に加え、臨床化学の基本となる酵素活性測定や遺伝子検査学の基盤となるPCRに関する基本的な実験技術を習得する。これら一連の実験で得られた結果を科学的に解釈するために必要な基本的な考察方法を習得する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要					
(保健科学部臨床検査学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	医学 検査 の 基礎 と その 疾 病 と の 関 連	<p>薬理学は、薬物と生体の相互作用を探求する学問である。薬の作用を理解するためには、細胞内外の情報伝達の仕組みや、病気が発症することで情報伝達がどのような破綻をきたすのかを知る必要がある。そして薬物の理解とは、病気の原因となる異常に対し薬物がどのように作用するのかを理解する学問である。本講義では、薬物の作用機序を理解するために、その基礎的事項を学び、さらに細胞内外情報伝達物質と薬物との相互作用を理解し、薬物の臨床展開と治療効果について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑧ 下村健寿／2回) 薬理学の基礎、内分泌・代謝作用薬</p> <p>(⑰ 尾形浩／10回) 薬理学各論 (副交感神経に作用する薬物、交感神経に作用する薬物、麻酔薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液・造血管系作用薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、抗菌薬、抗腫瘍薬)</p> <p>(⑱ 西嶋剣一／3回) 薬理学総論 (薬理作用、薬物動態学、薬物開発等)</p>	オムニバス方式	
			医学概論	<p>まず医学の定義と医学の使命について学び、今日の医学がどのように発展してきたのか、また現代医学がどのように成り立っているのかを医学の歴史から学修する。さらに人体の構造と機能についての概要を学んだのち、病気の原因、病態と症状との関連について総論的に考える。また病気を診断するための様々な方法と治療の種類、さらには予防医学の考え方や健康を守っていくための医療制度と医療保障についての概要についても学ぶ。最後に生命倫理、医の倫理についても考え、専門領域に進む前のメディカルコモンセンスを身に着ける。</p>	
			病理学総論	<p>病理学は疾病の原因・本質を解明する学問であり、疾病を理解する上で基礎となる科目である。疾病に関する医療用語の意味と定義、疾病を起こす原因、疾病に伴う人体の機能的および形態的变化を科学的に理解し、説明できるレベルの知識を身につける。また疾病による組織の形態的变化を理解するとともに、各種疾病の本態を理解するには解剖、生理、生化、細菌等の基礎的知識が必要であり、これらの内容を総合的に組み合わせることによって疾病の背景を理解することができる。</p>	
			免疫学	<p>臨床で活躍する医療人として必要な生体防御機構について学習する。生体は常に細菌やウイルスなどの外敵から身を守る必要がある。この外敵から身を守るために、白血球を中心とする様々な細胞は相互に助成し合いコミュニケーションを取りながらチームプレイで作業している。この生命維持に重要な生体防御反応のメカニズムに関与する胸腺などの免疫を担当する免疫器官、白血球を中心とした免疫担当細胞、体液内の免疫を担う蛋白成分である抗体や補体、それらを活性化あるいは制御する際に分泌されるサイトカインについて、その特徴や機能について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(保健科学部臨床検査学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	医学 検査 の 基礎 と その 疾 病 と の 関 連	微生物学総論	感染症はすべての医療従事者に関連する重要な疾患である。感染症を根絶することは不可能であるが、早期治療による症状軽減や流行を拡大させないよう予防することは可能である。そのためには「病原体」を知り、「病原体と宿主との関係」を理解することが不可欠である。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の種類と特徴およびこれら微生物に対する宿主の感染防御機構について学ぶとともに、各臓器に特徴的な感染症、免疫低下患者に見られる日和見感染症、院内感染症、薬剤耐性菌感染症、人畜共通感染症などについて学ぶ。さらに、感染症診断に必要な微生物検査の種類と利用法、ならびに院内感染対策上重要な感染症を中心にそれぞれの感染対策法についても学ぶ。	
			放射線医学概論	医療における放射線の役割はますます重要となっており、診断・治療においてなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では放射線の医療利用の実際を学び、診療において活用できる基礎知識を学習する。具体的には、放射線医学の誕生から、放射線診断学、放射線治療学、核医学を概説し、放射線医学を学んでいく。主として放射線診断学について講義する。放射線等で作られる画像の意味するところを、画像解剖学をもとにして講義していく。 (オムニバス方式／全15回) (93 佐藤久志／7回) 画像診断について、放射線治療の基礎、放射線治療の種類と装置・方法、温熱療法 (95 福田篤志／1回) 放射線生物学の基礎、放射線計測の基礎 (121 大葉隆／1回) 放射線障害、医療被ばく、法的規制 (⑭ 久保均／3回) 画像診断装置、医療情報システムとその安全管理 (63 三輪建太／2回) PETによる画像診断、核医学内用療法 (61 加藤貴弘／1回) 中枢神経、頭頸部、胸部の放射線治療	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部臨床検査学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	医学検査の基礎とその疾病との関連	臨床技術基礎演習	<p>医療従事者として必要とされる医療安全や感染制御などの基礎医科学技術や患者接遇に必要な知識の習得を行う。これらの知識は将来の専門性に囚われることなく、普遍的な知識として本学部の全学生が習得すべきものと位置づけ、将来様々な場面で実用できる知識を習得する。医療安全の視点の下に医療職としての役割、医療における課題等を演習から理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑤ 義久精臣、172 見田洋子／3回) (共同) オリエンテーション、医療接遇</p> <p>(145 木村夏実、143 三橋佑平／2回) (共同) 高齢者・障害者・妊婦の特性</p> <p>(⑬ 林博史／1回) バイタルサイン</p> <p>(139 岡崎可奈子／2回) 患者移動</p> <p>(⑨ 矢吹省司、140 小俣純一／1回) (共同) 清潔・不潔の概念とルール</p> <p>(③ 豊川真弘、12 三浦里織、11 堀越裕子／1回) (共同) 感染制御</p> <p>(⑤ 義久精臣、9 高橋一人、11 堀越裕子、12 三浦里織／2回) (共同) 心電図の見方</p> <p>(142 田代雅実、⑭ 久保均／1回) (共同) 応急手当</p> <p>(142 田代雅実、⑭ 久保均、93 佐藤久志、60 高橋規之、61 加藤貴弘、95 福田篤志／2回) (共同) 基本的心肺蘇生法、AEDの使用法</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	医学 検査 の 基礎 と その 疾 病 と の 関 連 画像医学	<p>現在の医療において、画像診断はなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では特に画像診断学の基礎を学び、診療において活用できる基礎知識を得る。特に、疾患診断に必要な医用画像について、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、代表的な疾患の画像所見について学習する。講義では、人体の画像解剖をCT画像を用いて理解し、さらに一般的な疾病の臨床画像を示しながら画像診断法を学習し、診断の目的に適した画像の選択とそれらの画像のもつ臨床的意義について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(93 佐藤久志／2回) 画像医学総論、放射線治療領域の画像医学</p> <p>(33 伊藤浩／2回) 中枢神経系の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p> <p>(76 石井士朗／1回) 腫瘍・骨・炎症・内分泌の疾患について、核医学を中心とした画像診断</p> <p>(251 黒岩大地／1回) 救急領域の画像診断</p> <p>(250 長谷川靖／2回) 腹部領域（泌尿器系、婦人科系）の画像診断</p> <p>(248 関野啓史／2回) 循環器領域の画像診断、血管を中心としたIVR</p> <p>(249 藤巻秀樹／2回) 腹部領域（肝臓、胆嚢、膵臓）の画像診断</p> <p>(181 森谷浩史／1回) 胸部領域の疾患について、主にCTを中心とした画像診断</p> <p>(234 歌野健一／1回) 腹部領域（消化管）の画像診断</p> <p>(254 箱崎元晴／1回) 筋肉・骨・関節の診断について、主にMRI、CT、核医学の画像診断</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	医学 検査 の基 礎と その 疾 病と の関 連	<p>我々が自然界あるいは現代社会で生活していく際に、様々な種類の「放射線」に遭遇する。生活環境中にある放射線を環境放射線といい、自然界にもともと存在している放射線である自然放射線と、人間が作り出した核実験や原子力事故などで放出された放射性物質による人工放射線に分類される。それらのほとんどは、我々にとって利益にもなり有害にもなり得る。そこで、本科目では放射線に関する基本的な内容を理解したうえで、自然界や現代社会での放射線の存在やその動態について学ぶと共に、それらが人体や人類に与える影響について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(95 福田篤志/5回) 環境放射線に関する基礎知識、測定方法、評価方法</p> <p>(87 反町篤行/2回) 自然放射線、事故後の環境放射線モニタリングとその線量</p> <p>(158 塚田祥文/3回) 原子炉における放射性物質、土壌-用水-作物系における放射性物質、飲食物摂取による基準値の考え方</p> <p>(160 脇山義史/1回) 河川を通じた放射性物質の移動</p> <p>(159 和田敏裕/1回) 魚類を中心とした水系生態系における放射性物質</p> <p>(194 高田兵衛/1回) 海洋における放射性物質の動態</p> <p>(23 石川徹夫/2回) 環境放射線が人体に与える影響、東日本大震災による県民の外部・内部被ばく線量評価</p>	オムニバス方式
		保健 医療 福祉 と医 学 検 査	生命倫理学	<p>この講義では、身体と生命に関する倫理的な諸問題について学ぶ。20世紀後半以降、生命技術は著しく進展した。その歴史を知ると同時に、技術の進展が人間と社会にどのような問題を投げかけて来たのかを知る。さらに、技術と人間・社会との間に生じる倫理的諸問題について、どのように考えることが合理的であるのか、あるいはそうではないのか、を学ぶ。これらのことを通じて、生命技術と向き合うための基本的な姿勢を身につける。具体的には、まず、医療倫理の歴史や患者の自己決定権について学ぶ。また人工妊娠中絶・出生前診断とその倫理的問題、重症心身障害児の生命の質という問題を考える。さらに、移植医療の実際とその倫理的問題、高齢者の看取りとそこに関わる問題について学ぶ。最後に、検査結果が個人情報そのものと言えるのはなぜか、その保護が要求されるのはなぜかを学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	保健 医療 福祉 と 医学 検査	疫学・公衆衛生学 専門医療技術者に必要な地域・集団の心身の健康維持を図るための科学と技術について学習する。具体的には公衆衛生学領域における疫学の考え方、母子・学校・精神保健、感染症の成立要因とそれに基づく予防対策、公害や地域から地球規模の環境衛生について学ぶ。また近年の健康維持に対する最大の阻害要因である生活習慣病について予防対策も含めて学習する。保健統計については人口動態統計を中心に学び、さらに栄養と食品衛生、産業保健や保健医療制度などについて学習する。 (オムニバス方式/全15回) (21 安村誠司/5回) 総論、感染症、保健医療制度 (22 大平哲也/1回) 疫学の考え方 (67 坪井聡/1回) 人口動態 (66 岩佐一/2回) 母子保健、成人保健 (98 森山信彰/2回) 学校保健、精神保健 (126 中山千尋/1回) 地域と福祉 (65 各務竹康/2回) 地域における環境、産業保健学概論 (99 江口依里/1回) 保健統計	オムニバス方式
			衛生学演習 疫学・公衆衛生学の講義で学んだ知識をもとに、生活環境において健康に影響を与える環境要因に関する演習を行う。環境衛生に関する実習では照度・騒音など一般環境に加えガス濃度・粉塵などの有害環境の測定を实践して環境評価の実際を学ぶ。また上・下水処理場、福島県衛生研究所などの行政施設の見学を通して飲料水の水質検査、食品安全、環境微生物検査など環境衛生に関する検査が実際にどのように行われ、臨床検査技師がいかに関わっているのかを現場を通して知る。 (オムニバス方式/全15回) (65 各務竹康、125 増石有佑/6回) (共同) 一般環境、有害環境、体感温度の測定、環境評価実施 (12 三浦里織、13 丹野大樹、14 松田将門/9回) (共同) 飲料水の水質検査、下水の水質検査、食品安全・環境微生物に係る検査に関する施設の見学	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	保健 医療 福祉 と 医学 検査	<p>前半は、身の回りにおける様々な危機の種類、組織ガバナンスや医療安全を例にしてリスクマネジメントについての基本的な考え方を学習する。また患者と医療者の間で意見の食い違いから生じる紛争に対する解決法としての医療メディエーションの役割についても学ぶ。後半は、福島の地で起きた大規模複合災害を始め世界で起きた様々な災害について知り、必要な医療、福祉、保健などに対する医療者の役割と各種連携の実際について学習する。また災害が人々に与えるメンタルヘルスや、社会、地域住民とのリスクコミュニケーション、さらに日本、海外における災害時の危機管理体制や医療の役割について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 小川一英、173 三村邦裕/1回) (共同) オリエンテーション、危機管理学総論</p> <p>(173 三村邦裕/1回) 危機管理とリスクマネジメント</p> <p>(174 木村栄宏/3回) 組織における危機管理・内部統制、ケーススタディによるリスクへの対応、メディエーション、医療ADR、リスクガバナンス</p> <p>(176 種田憲一郎/2回) 医療安全と危機管理 (ヒューマンエラーとリスクマネジメント)</p> <p>(175 藤本一雄/3回) 自然災害の発生メカニズム、自然災害のハザード・リスク評価、自然災害対策について</p> <p>(121 大葉隆/1回) 東日本大震災と福島第一原発事故における危機管理</p> <p>(38 前田正治/1回) 災害と危機介入</p> <p>(39 長谷川有史/1回) 放射線災害における医療者の役割</p> <p>(177 佐藤千歳/2回) 災害医療とトリアージ、自然災害に対する国際協力</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		<p>臨床心理学は、日常的な困難、心の不調、人間関係のトラブルを抱える人々への心理的支援に関する心理学の一分野である。そこには、心理的支援の具体的方法のみならず、「どのように支援(治療)するのが良いか」といった支援(治療)に対する考え方(理論)、更には「そもそも人とはどのようなものか」といった人間観が、含まれている。そうした具体的方法・考え方(理論)・人間観が1つだけではなく、いくつもあつた。この授業では、そうした考え方(理論)・人間観を解説しながら、心理的支援の方法について紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47 三澤文紀/5回) 臨床心理学とは何か、クライアント中心療法、家族療法</p> <p>⑬ 林博史/1回) 精神疾患</p> <p>(247 松本貴智/4回) 心理的アセスメント、患者の心理、精神分析</p> <p>(128 竹林由武/5回) 認知行動療法、集団療法</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	医用 工学 および 情報 科学	<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本講義では、そのために必要な電気・電子工学に関する基礎知識を習得する。具体的には、電界と磁界などに関する電磁気学の基礎、オームの法則、直交流回路や共振回路、過渡現象などに関する電気工学の基礎、半導体と増幅回路などに関する電子工学の基礎、電気電子計測の基礎を学習する。また、センサ・トランスデューサなどの生体情報の収集、医用機器の安全対策を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>⑳ 西山篤/14回 医用工学概要、電界、磁界、直流・交流回路、変圧・整流</p> <p>㉑ 田中明/16回 半導体、アナログ・デジタル回路、AD・DA変換、生体情報の収集、電気安全対策</p>	オムニバス方式
			<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本実験では、医用工学の講義で学んだ電気・電子工学に関する基礎知識を、実験を行うことで体得する。具体的には、電子回路基礎実験、アナログ回路実験、半導体回路実験、デジタル技術実験、パルス回路実験、AD/DA変換実験を行う。また、センサー付き二足歩行ロボットの製作とプログラミングを行うことで、センサーの働きを体感すると共にその応用法を実践する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>㉒ 山口克彦/3回 電子回路基礎実験</p> <p>㉓ 西山篤/3回 アナログ回路実験</p> <p>㉔ 田中明/3回 半導体回路実験</p> <p>㉕ 山田昭博/3回 デジタル技術実験</p> <p>㉖ 鈴木健司/3回 パルス回路実験</p> <p>㉗ 久保均/3回 AD/DA変換実験</p> <p>㉘ 久保均、㉙ 山口克彦、㉚ 西山篤、㉛ 田中明、㉜ 山田昭博、㉝ 鈴木健司/12回 (共同) ロボット組み立て、コントロール法の習得</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
			<p>人を対象として、病気に対する治療効果を評価し、病気の原因を解明することを目的として行われる研究が臨床研究である。臨床研究は、観察研究と介入研究の2つのタイプに分けられる。臨床研究で用いられる統計的な考え方や解析方法を理解し、結果を過大評価することなく正確な判断ができるようになる必要がある。この授業では、講義「統計学」の内容を踏まえて、臨床研究のデザインと結果をどう解釈するか、基本的な考え方を身に付ける。</p>	
			<p>講義「統計学」「医療統計学」で学んだ内容を踏まえて、演習を通して、実際にデータの解析を行うことができるようになる。授業は小グループに分かれて演習を行う。解析ソフトとしてSPSSの使い方を習得する。先行研究を読み、関心のあるテーマの決定、研究デザイン、エンドポイント、サンプルサイズ計算、統計解析手法の決定、データクリーニング、報告書作成、報告用スライドの作成と発表を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	チ ー ム 医 療	
		チーム医療とは何かを学ぶ。まず、医療がどのように成り立っているのかを理解する。職業倫理を理解し、医療人としての基本的な態度を培う。チーム医療を構成する様々な専門医療技術者の業務内容について詳しく学び、果たすべき役割や責任を理解する。その後実施の現場を見学し、それぞれの専門医療技術者がどのような業務を行っているかを知る。チーム医療Iでは、まずチームで行うカンファレンスの意義を理解する。開講年次が1年生のため、病気に対する検討ではなく、倫理的な問題など人としてどう考えるかの課題を与えて、チームでその課題について議論し、まとめて発表する。医療とは異なる職場で行われているチームでの活動の実際とその意義・有用性を理解する。最後に、再度グループで症例検討を行い、まとめて発表する。	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 19時間 演習 11時間
		チーム医療 I (概論)	
		<p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(① 小川一英/1回) 医療の中で医師が果たす役割</p> <p>(42 高橋香子/1回) 医療の中で看護師、保健師が果たす役割</p> <p>(53 神先秀人/1回) 医療の中で理学療法士が果たす役割</p> <p>(⑫ 五百川和明/1回) 医療の中で作業療法士が果たす役割</p> <p>(60 高橋規之/1回) 医療の中で診療放射線技師が果たす役割</p> <p>(8 菅野光俊/1回) 医療の中で臨床検査技師が果たす役割</p> <p>(231 石井重亮、226 菅野和広/1回) (共同) 医療の中で薬剤師、言語聴覚士が果たす役割</p> <p>(138 青木俊太郎、178 阿部真典/1回) (共同) 医療の中で公認心理師、義肢装具士が果たす役割</p> <p>(229 福原之博、235 門馬成郎、236 佐藤亜希美/1回) (共同) 医療の中で臨床工学技士、ソーシャルワーカー、医療事務が果たす役割</p> <p>(89 阿部浩明、⑬ 星真行、144 田中善信、145 木村夏実、61 加藤貴弘、93 佐藤久志、8 菅野光俊、11 堀越裕子、12 三浦里織/3回) (共同) 附属病院での見学</p> <p>(⑨ 矢吹省司/2回) チーム医療とは何か、まとめ</p> <p>(⑦ 本多創史/1回) 医療と倫理 (症例1の供覧と問題点の検討)</p> <p>(⑨ 矢吹省司、⑦ 本多創史/1回) (共同) 医療と倫理 (症例2の供覧と問題点の検討)</p> <p>(179 鈴木優/2回) 現場でのチームカンファレンス</p> <p>(73 大内一夫/1回) 現場でのチームカンファレンス</p> <p>(⑨ 矢吹省司、53 神先秀人、55 森下慎一郎、89 阿部浩明、⑬ 星真行、⑫ 五百川和明、92 藤田貴昭、119 石川陽子、144 田中善信、145 木村夏実、60 高橋規之、61 加藤貴弘、93 佐藤久志、95 福田篤志、① 小川一英、⑤ 義久精臣、8 菅野光俊、11 堀越裕子、12 三浦里織/11回) (共同) チームカンファレンスに関するグループワーク</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	チーム医療	<p>チーム医療IIでは、チーム医療の実践について学ぶ。そのため、はじめにTeam Stepsでチームの重要性を学ぶ。その後呈示された症例を元に、自分の職種は何か出来るか、何をすべきかについてグループ内で討論する。さらに医学部と看護学部の学生と共に小グループに分かれて、討論する機会を設ける。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある症例とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(176 種田憲一郎、⑨ 矢吹省司、55 森下慎一郎、89 阿部浩明、⑧ 星真行、141 佐藤聡見、⑫ 五百川和明、58 倉澤茂樹、⑬ 林博史、120 川又寛徳、60 高橋規之、95 福田篤志、93 佐藤久志、① 小川一英、③ 豊川真弘、6 鈴木英明、9 高橋一人、43 和田久美子、81 菅野久美、82 大川貴子、114 片桐和子、115 古溝陽子、137 吾妻陽子/3回) (共同) Team STEPPS</p> <p>(⑨ 矢吹省司、55 森下慎一郎、89 阿部浩明、⑧ 星真行、141 佐藤聡見、⑫ 五百川和明、58 倉澤茂樹、⑬ 林博史、120 川又寛徳、60 高橋規之、95 福田篤志、93 佐藤久志、① 小川一英、③ 豊川真弘、6 鈴木英明、9 高橋一人、43 和田久美子、81 菅野久美、82 大川貴子、114 片桐和子、115 古溝陽子、137 吾妻陽子/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク</p> <p>(⑨ 矢吹省司、55 森下慎一郎、89 阿部浩明、⑧ 星真行、141 佐藤聡見、⑫ 五百川和明、58 倉澤茂樹、⑬ 林博史、120 川又寛徳、60 高橋規之、95 福田篤志、93 佐藤久志、① 小川一英、③ 豊川真弘、6 鈴木英明、9 高橋一人、43 和田久美子、81 菅野久美、82 大川貴子、114 片桐和子、115 古溝陽子、137 吾妻陽子、45 大谷晃司、46 亀岡弥生、253 安田恵/6回) (共同) 症例供覧、グループワーク、カンファレンス見学</p>	集中・オムニバス方式・共同 (一部)
	研究方法論	<p>研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。そのために、論文の基本的な構成について学び、既知の研究内容を把握するためにも、文献検索方法を習得する。研究目的からの研究立案について、介入研究、観察研究、事例研究、質的研究等、各研究デザインに関する実際の研究をもとに、学生に考え、議論してもらおう。研究の倫理的な問題について理解する。実際の研究例を見ながら具体的な研究の進め方について学ぶことで、卒業研究に向けた準備とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 北爪しのぶ/6回) 研究のステップ、研究倫理、論文の基本構成、読み方、基礎研究、文献検索</p> <p>(120 川又寛徳/4回) オリエンテーション、疑問のモデル化、測定デザイン、症例・事例研究</p> <p>(95 福田篤志/1回) 測定機器 (適応と限界)</p> <p>(⑤ 義久精臣/1回) 介入研究 (バイアス、交絡、治験、RCT)</p> <p>(⑩ 高橋仁美/1回) 観察研究 (縦断研究、横断研究)</p> <p>(114 片桐和子/1回) 質的研究</p> <p>(232 家村俊一郎/1回) 産学連携研究</p>	オムニバス方式
	形態検査学	<p>「病理学総論実習」は、病理学総論の講義と並行し、解剖学、生理学、生化学を十分に理解した上で行う実習である。疾病に伴う生体諸臓器の病的変化における形態学的特徴を観察し、スケッチを通して理解を深める。疾病の様々な原因に伴う循環障害や代謝異常の結果として萎縮、壊死、再生などの組織形態学的変化を理解するために実習する。また、これらの変化が複雑に観察される炎症や腫瘍についても形態学的に理解できるように、用語の使い方を考えながら、判定方法を身につける。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	形態検査学	<p>「病理学各論」では、病理学総論や病理学総論実習で学んだ知識をもとに、解剖組織学、生理学、生化学の基本を十分に理解しながら、各臓器の疾病の原因に伴う病理組織学的変化の特徴を学ぶ。悪性腫瘍、心筋梗塞、肺炎、肝硬変、腎不全、造血器疾患を中心に、解剖組織学的変化や生化学的变化を理解できるように講義する。また、各臓器の悪性腫瘍については、過形成、良性腫瘍の鑑別を病理組織学的に行う際に重要な形態学的所見についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 宇月美和/14回) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、泌尿器疾患、生殖器・乳腺疾患、神経疾患、運動・感覚・皮膚疾患、自己免疫性疾患</p> <p>(35 橋本優子/1回) 造血器疾患</p>	オムニバス方式
		<p>「病理検査学」では、病理組織診断を行う際に必要な病理組織標本作製技術を学習し、病理診断における標本作製の意義を理解する。病理検査は、病理診断に必要な染色標本作製することが最大の目的である。したがって、疾病や病変の組織像を基本として、その病変の診断を明確にするために必要な標本作製方法を講義の主軸として進める。病理検査に用いられる病理組織標本の作製手技および原理を理解し、病理診断に用いる基本的な染色であるヘマトキシリン・エオジン (H-E) 染色や特定の目的物を染め出す特殊染色の原理および手技を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 宇月美和/1回) 検体組織の切出し</p> <p>(7 梅澤敬/7回) 腎疾患に対する染色、血球染色、粘液染色、組織内金属の染色、内分泌細胞の染色、脂肪染色</p> <p>(9 高橋一人/7回) 検体組織の固定・脱灰、組織包埋法、標本薄切、H-E染色、病原体の染色、結合組織の染色</p>	オムニバス方式
		<p>「病理検査学」で学習した手技や原理などの知識を基盤に、病理学総論、病理学総論実習、病理学各論の内容を踏まえて、病理組織細胞学的検査を行うための標本作製技術を習得する。なぜ病理組織細胞学的検査を行わなければならないのかを常に考え、標本作製の意義を第一に考えながら、病理組織標本作製に関わる一連の行程を学習する。また、自らが作製した染色標本を顕微鏡で観察しスケッチを行い、病理組織細胞学的検査の診断に果たす検査技術の役割についても理解を深める。</p>	共同
		<p>「細胞検査学」は、臨床検査技師を目指す全学生が細胞診断学の基本を習得するための講義である。「病理検査学」と並行して、病理検査の中の一つである細胞診検査の意義、目的、利点、検査の特性を十分に理解するとともに、検査の目的に応じた検体採取、検体処理および標本作製法について学ぶ。また、婦人科・呼吸器・泌尿器・消化器・甲状腺・乳腺・体腔領域に出現する正常細胞や悪性細胞の細胞学的特徴や両者の鑑別方法について、細胞診断学の基本を広く学ぶ。さらに、術中迅速細胞診検査やオンサイトサイトロジーなど、実臨床における細胞診検査の新たな有用性や発展性についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 宇月美和/1回) 細胞診検査の目的</p> <p>(7 梅澤敬/6回) 細胞の見方、専門用語、細胞診標本作製、細胞診の報告様式、細胞診の基礎・実際(婦人科、消化器、体腔液)、細胞診の発展・応用</p> <p>(9 高橋一人/8回) 細胞診の基礎・実際(呼吸器、泌尿器、乳腺、甲状腺、リンパ節)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	形態 検査 学	血液検査学Ⅰ	前半の血液学総論では、まず赤血球、白血球、血小板といった血液を構成する細胞の産生機構、機能、形態、さらに止血機構、凝固・線溶系の基礎知識について学習する。後半の血液検査技術学では、総論で学んだ基礎知識を基に血液検査で用いられる検査技術について学ぶ。血球計測では赤血球、白血球、血小板の用手的な計測法に加え自動血球計測装置の原理と使用法、形態検査では末梢血、骨髓における正常、異常細胞の違いを知り、これら細胞を同定するための様々な染色法について学習する。また血小板機能を評価するための検査や凝固機能検査については、検査の原理を学ぶことはもちろんであるが、異常値の臨床的な意義についても学習する。さらに血液細胞を客観的に評価するためのフローサイトメトリー法や染色体・遺伝子検査についても基本原理からさらに臨床的応用の具体例について学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) ① 小川一英/19回 血液学総論(血液の基礎、血球、形態検査、止血機構、凝固機構) (14 松田将門/11回) 血液検査技術学(血球計測、血小板機能検査、凝固検査)	オムニバス方式
		血液検査学Ⅱ	代表的な血液疾患について学ぶとともに、血液疾患の診断・治療に血液検査学Ⅰで学んだ血液検査技術がいかに関わっていくかを病態を考えながら学習する。赤血球系疾患では主に様々な貧血についての病態と検査による鑑別法、造血器腫瘍では、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液診療で遭遇する代表的な腫瘍性疾患についての病態・診断法を学ぶ。また血小板・凝固・線溶異常では、代表的な血小板機能異常症や血友病などの先天性凝固異常症についての検査法について学び、さらにすべての診療科で遭遇する可能性のある播種性血管内凝固については病態から検査値異常が得るメカニズムについて学習する。	
		血液検査学実習	血球数の測定は用手法と自動機器で測定することにより、様々な器具と測定装置の基本的な取り扱い方を習得する。止血・凝固検査は主に用手法による検査を実践することで、検査法の原理を考えながら実習を行い、得られた検査値と病態との関係について理解を深める。血液像の実習については、自ら染色した末梢血塗沫標本を観察し、まず正常血球成分の形態的特徴を理解する。さらにバーチャルスライドシステムにより異常血球についても幅広く観察する。骨髓像は主にバーチャルスライドを使用し正常細胞を理解した後、白血病など様々な造血器疾患で出現する異常細胞について幅広く観察し、実臨床に即した実技を習得する。 (オムニバス方式/全42回) (14 松田将門/21回) 血球計測、赤血球浸透圧抵抗試験、出血時間、凝固検査 ① 小川一英/12回 末梢血液像の観察、骨髓像の観察、スライドカンファランス (13 丹野大樹/6回) 末梢血の特殊染色 ① 小川一英、13 丹野大樹/3回 (共同) 末梢血塗沫標本作成、メイギムザ染色	オムニバス方式・ 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目 生物 化学 分析 検査 学	<p>臨床検査総論 I</p> <p>医療における臨床検査技師の役割と使命を理解し、臨床検査に関する心構えと一般的注意、リスクマネジメント、感染対策について学習する。採血行為やその他の検体採取の法的規約や採血手技、検体採取に関する手技などを習得する。臨床検査で扱う様々な検体についての取り扱い方を習得する。特に一般検査学の対象である尿、便、消化液、穿刺液などについて検体の採取法、取り扱い方法、化学的検査、形態学的検査などの基本的事項を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 菅野光俊/17回) 医療における臨床検査技師の役割と使命、採血法、検体の採取と保存法、検体の取り扱い方、尿検査、腎機能検査、便検査、その他の体液検査</p> <p>(6 鈴木英明/1回) 関係法規 (臨床検査技師に関する法律)</p> <p>(③ 豊川真弘/1回) 関係法規 (医療・保健・福祉に関する法律)</p> <p>(224 鈴木律子、225 河合裕美/11回) (共同) 尿沈査、尿中有形成分の同定、髄液検査、穿刺液の検査、精液の検査</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		<p>臨床検査総論実習</p> <p>臨床検査総論 I・II で学んだ一般検査などの基礎的技術、知識の習得を目的とする。採血、分離、保存の実践、分析に必要な比色計、天秤、比重計、PHメーターなどの機器の正しい使い方を実習しながら実践できるようにする。臨床検査というものをある程度認識し、さらにこの実習の成果を他の専門科目の実習に役立てる。尿比重、浸透圧、pH、尿蛋白定性・定量検査、尿糖定性・定量検査について測定原理の異なる複数の測定方法により検査を行う。また便、穿刺液、髄液などの一般検査についての実習も行う。</p> <p>(オムニバス方式/全60回)</p> <p>(8 菅野光俊、12 三浦里織/30回) (共同) 尿比重、浸透圧、尿蛋白、尿糖、血尿、便潜血、便脂肪染色、髄液化学検査</p> <p>(① 小川一英、12 三浦里織、11 堀越裕子、15 平田理絵、13 丹野大樹、14 松田将門/9回) (共同) 採血 (※ 15 平田理絵は令和5年度から担当する)</p> <p>(224 鈴木律子、225 河合裕美、12 三浦里織/21回) (共同) 尿沈査、穿刺液の検査、髄液細胞検査</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	生物化学分析検査学	<p>1953年にワトソンとクリックがDNAの二重らせん構造の発見したことによって、遺伝子の本体と複製のメカニズムが明らかにされた。その後まもなく、DNAが転写されてmRNAへ、そして翻訳によってタンパク質の順に伝達されるセントラルドグマが遺伝情報の伝達手段として提唱され、これが分子生物学の基礎概念となった。分子生物学Iでは、臨床検査の中でもニーズが拡大している遺伝子検査学を理解するための基盤となる。分子生物学や遺伝子工学の基礎に加え、遺伝子発現の調節を担う細胞情報伝達について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④ 北爪しのぶ/8回) 細胞が持つ受容体を介した情報伝達、タンパク質の操作と計測、遺伝子改変動物、真核細胞の機能、遺伝子組換え技術に対する研究倫理</p> <p>(10 飯島順子/16回) セントラルドグマ、DNAやゲノムの構造、DNAの複製や変異と相同組換え、転写の仕組み、翻訳、遺伝子組換え、転写調節機構、タンパク質の制御、調節RNA</p> <p>(77 本間美和子/1回) iPSとES</p> <p>(189 山地俊之/1回) ゲノム編集と感染</p> <p>(188 八代田陽子/1回) 酵母を用いたケミカルゲノミクス</p> <p>(80 井上直和/1回) 遺伝子組換えマウスを用いた研究</p> <p>(186 斎藤貴志/1回) 遺伝子組換えによる疾患モデルの作製</p> <p>(187 鈴木亜香里/1回) GWAS解析の実際</p>	オムニバス方式
		<p>2003年にヒトゲノムの全DNA塩基配列が決定されて以降、分子生物学・分子遺伝学をベースとした医療診断、治療技術は飛躍的な進歩をとげている。とくにがんの治療については、がんゲノム医療を基盤とした個別化医療の時代が到来している。この流れは臨床検査の現場にも見られ、様々な遺伝子検査学が取り入れられるようになっており、今後も遺伝子検査の実施項目の拡大が予想される。分子生物学IIでは、このように刻々と変化する遺伝子検査に対応出来るような、分子生物学・分子遺伝学の基礎に軸足を置き、がんゲノム医療総論など応用学的レベルまである程度踏み込んだレベルの授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 北爪しのぶ/1回) 遺伝子の構造と機能</p> <p>(10 飯島順子/8回) 遺伝子の構造異常と疾患、DNAおよびRNAの調整、ノンコーディングRNA、エピジェネティクス、DNAの変異・修復・組換え、遺伝疾患、遺伝子検査法、マイクロアレイとqPCR</p> <p>(74 渡邊尚文/3回) 遺伝子多型と疾患、染色体検査法、がんゲノム医療総論</p> <p>(227 赤間孝典/2回) がんのコンパニオン診断検査と遺伝子パネル検査、遺伝カウンセリングの実際</p> <p>(190 須賀淳子/1回) がんゲノム医療時代における技師の役割</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	生物化学分析検査学	分子生物学実習	2年次に学んだ分子生物学に対する理解やイメージを深めるため、実際に実験を行う。まずに分子生物学の基本となる生体試料からの核酸抽出と生化学的な核酸定量方法を学ぶ。ついで特定の遺伝子を増幅させるPCR法について学び、遺伝子工学の基礎的な部分までを習得する。また、リアルタイムPCRを用いた生体試料における特定遺伝子の定量方法を理解する。これら一連の実験を通して、分子生物学的な思考を学び、得られた結果を科学的に解釈するために必要な基本的な考察方法を習得することで、進化し続ける遺伝子検査学に対応出来る基礎力を身につける。	共同
	臨床化学検査学	臨床化学検査学	臨床化学検査学は臨床検査の対象となる体液成分（検査項目）について学び、それらの検査を行うのに必要な知識と技術を習得する学問である。講義では、多成分系の材料から目的成分だけを特異的、迅速、精密、正確に分析するための基本的手法である、分光光度分析法の原理、測定方法を学び、各種臨床化学的分析法について学習する。また、各種分離分析手法を学ぶとともに、検査項目の臨床的意義や異常値の出るメカニズムを学ぶ。正確な検査結果を出すだけでなく、出てきたデータを化学的に解析し、病態解析できるようになることが重要である。	
	臨床化学検査学実習	臨床化学検査学実習	本実習では、臨床化学検査学で学んだ知識および操作技術をもとに、患者から採取した血液、尿、その他に含まれる各種の成分を生化学的方法で定量することにより、患者診療に有用な検査情報を得る実践的手法を実習により習得する。無機質、糖質、蛋白質、脂質、非蛋白性窒素の定量検査、および酵素活性測定、血清蛋白電気泳動、リボ蛋白電気泳動の実習を行う。あわせて、生体試料の取り扱い方、得られたデータの分析及び解析方法を学び、臨床にあわせた応用まで理解を深めていく。	共同
病・生体防御検査学	微生物検査学	微生物検査学は感染症の原因となる微生物について学び、それらの検査を行うのに必要な知識と技術を修得する学問である。講義では、各臓器に特徴的な感染症とその治療法について学ぶとともに、検体中に存在する原因微生物の検出に必要な知識（培養方法、同定法など）および薬剤の有効性を推測するために必要な知識（薬剤感受性検査など）について学ぶ。感染症はすべての診療科に関連する重要な疾患である。近年では新型インフルエンザウイルス等の新興感染症や薬剤耐性菌による院内感染が社会的に大きな問題となっていることから、医療現場における感染症の現況と課題についても学修する。 (オムニバス方式/全30回) ③ 豊川真弘/25回 微生物の分類、臨床的に重要な細菌と性状、臨床的に重要なスピロヘータ・マイコプラズマ・真菌とその性状、微生物検査の種類と方法、抗菌薬の種類と特徴、薬剤耐性菌とその検査法、滅菌と消毒 (13 丹野大樹/1回) 抗酸菌 (20 錫谷達夫/4回) 臨床的に重要なウイルスとその性状	オムニバス方式	
	微生物検査学実習	微生物検査学実習	微生物検査学で学んだ知識および操作技術をもとに、実践に即した微生物検査法について実習する。具体的には、顕微鏡の基本的な取り扱い方や感染防御も含めた無菌的操作技術、滅菌・消毒法、分離培養法、生化学的および免疫学的検査を使用した微生物の同定法、染色・鏡検法を用いた形態学的手法による同定法、分離培養法で得られた細菌の薬剤感受性検査と薬剤耐性因子の検出法についても習得する。さらに、臨床材料を想定した模擬材料を用いた実習も行う。微生物検査の進め方ならびに結果解釈方法についても学修する。 (オムニバス方式/全90回) ③ 豊川真弘、13 丹野大樹/84回) (共同) 基本操作、染色法、分離培養法、細菌の同定法、嫌気性菌の培養・同定法、抗酸菌の培養・同定法、真菌の培養・同定法、薬剤感受性検査・耐性菌検査、菌株タイピング・抗原検査・遺伝子検査、材料別検査法 (20 錫谷達夫、97 石岡賢、124 宮崎希/6回) (共同) ウイルスの検査	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	医動物学 (オムニバス方式/全16回) (191 山本徳栄/8回) 総論、原虫類、線虫類、吸虫類・条虫類、衛生動物・昆虫媒介感染症 (191 山本徳栄、③ 豊川真弘/8回) (共同) 直接塗抹法・集卵法・虫卵の観察、シヨ糖遠心浮遊法・抗酸染色・原虫の観察、マラリアの検査法、虫卵と原虫の観察	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		免疫・輸血検査学 (オムニバス方式/全45回) (6 鈴木英明/23回) 抗原抗体反応、アレルギー検査、自己免疫疾患検査、腫瘍免疫検査、血清異常蛋白検査、感染症検査、免疫不全検査 (12 三浦里織/20回) 輸血・移植の歴史と意義、輸血用製剤、使用指針・適正使用、血液型、不規則抗体検査、交差適合試験、輸血副作用、新生児溶血性疾患、血小板抗体検査、移植、輸血・移植分野におけるチーム医療 (40 池田和彦/2回) 臓器移植、造血幹細胞移植、移植後免疫反応と合併症	オムニバス方式
		免疫・輸血検査学実習 抗原抗体反応を利用した検査は感染症検査や自己免疫疾患などを診断する上で欠かせない項目である。抗原抗体反応を利用した検査項目は免疫検査と輸血検査の2つの項目がある。免疫検査では、免疫に関連する疾患であるアレルギー、自己免疫疾患、腫瘍や免疫不全症などを診断する検査方法について修得する。これらの検査方法を採取した血清などの検体を沈降反応、凝集反応、溶血反応、凝集抑制試験およびイムノアッセイなどの検査原理ごとに分類して理解する。実習では検査原理の知識と操作技術を習得し、臨床に対応できる能力を養う。また、輸血検査においては臨床に即した検査方法で習得し、タイプアンドスクリーンと交差適合試験を中心にその原理と技術および判定方法を習得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 生理機能検査学	臨床生理検査学Ⅰ	<p>これまでに学んだ人体の生理学を基盤として、さらに知識を深めると共に、基礎的な生理機能検査技術について学ぶ。各検査についてその臨床的意義を正しく理解する。生理検査機器の原理や使用方法を理解し正確な臨床的意義のあるデータを得る。また、検査の注意事項を把握し生理検査機器を安全に正しく使用することを目的とする。さらに、生理検査は人体に直接触れて実施する検査でありコミュニケーションが大切であることを理解する。各論として、循環器系の病態生理および心電図、負荷心電図、心音図などの検査について学ぶ。また、呼吸器系の病態生理および肺活量検査を中心とした呼吸機能検査について学ぶ。また、聴覚、視覚などの感覚機能に関する生理と検査法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(5) 義久精臣/7回 生理機能検査総論、循環生理の基礎と心周期、心音、正常心電図、負荷心電図、睡眠時無呼吸症候群の検査</p> <p>(11) 堀越裕子/13回 ホルター心電図と動脈硬化検査、血管内皮機能検査、脈波検査、呼吸機能検査、標準聴力検査、インピーダンス検査、画像検査、超音波検査、感染対策と安全管理、</p> <p>(240) 脇岡奈保子/2回 心電図、不整脈など異常波形</p> <p>(130) 山田慎哉/2回 虚血性心疾患の異常心電図波形</p> <p>(18) 挟間章博/1回 呼吸生理の基礎</p> <p>(133) 福原敦朗/1回 血液ガス分析</p> <p>(129) 佐藤崇匡/1回 心肺運動負荷検査</p> <p>(245) 菊地大介/2回 耳の解剖生理と基礎、難聴とめまいの臨床</p> <p>(246) 佐藤廣仁/1回 鼻の解剖生理と検査</p>	オムニバス方式
	臨床生理検査学Ⅱ	<p>これまでに学んだ人体の生理学を基盤として、さらに知識を深めると共に、基礎的な生理機能検査技術について学ぶ。各検査についてその臨床的意義を正しく理解する。生理検査機器の原理や使用方法を理解し正確な臨床的意義のあるデータを得る、また、検査の注意事項を把握し生理検査機器を安全に正しく使用することを目的とする。さらに、生理検査は人体に直接触れて実施する検査でありコミュニケーションが大切であることを理解する。各論としては、神経生理についての病態と脳波や筋電図、神経伝導速度などの検査法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19) 永福智志/1回 神経生理の基礎として末梢神経と中枢神経</p> <p>(64) 浄土英一/1回 脳波検査の基礎</p> <p>(96) 高橋和巳/1回 神経検査の基礎</p> <p>(15) 平田理絵/12回 脳波検査、筋電図検査、神経伝導速度検査などの神経生理に関する検査法</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	生理 機能 検査 学	<p>これまでに学んだ人体の生理学を基盤として、さらに知識を深めると共に、基礎的な生理機能検査技術について学ぶ。各検査についてその臨床的意義を正しく理解する。生理検査機器の原理や使用方法を理解し正確な臨床的意義のあるデータを得る、また、検査の注意事項を把握し生理検査機器を安全に正しく使用することを目的とする。さらに、生理検査は人体に直接触れて実施する検査でありコミュニケーションが大切であることを理解する。各論としては、生理画像診断学を中心とした検査技術を学ぶ。検査に関する基礎知識と検査法、全身の超音波検査に関する基礎知識と検査法、核磁気共鳴画像検査また眼底検査などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>⑭ 久保均/14回) 画像検査の総論、核磁気共鳴画像検査、MR検査のまとめ 融合画像の作成とその意義</p> <p>(94 五月女康作/9回) MR検査の各論である脳検査、脊椎検査、心臓検査、 乳房と腹部検査、四肢と関節検査、血管検査</p> <p>(⑤ 義久精臣/12回) 超音波検査の基礎原理、安全管理、心臓と腹部超音波検査、</p> <p>(11 堀越裕子/4回) 頸動脈、下肢の動静脈</p> <p>(105 添田周/1回) 婦人科領域の超音波検査</p> <p>(230 大前憲史/1回) 泌尿器科領域の超音波検査</p> <p>(110 鈴木聡/1回) 甲状腺と乳腺領域の超音波検査</p> <p>(111 岩館学/1回) 福島県甲状腺検査</p> <p>(106 森隆史/1回) 眼科領域における解剖と病態</p> <p>(223 関向秀樹/1回) 眼底検査について装置と検査法</p>	オムニバス方式
		臨床生理検査学Ⅲ		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	生理機能検査学	<p>臨床生理検査学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ様々な検査法に関する知識と操作技術を基盤として、自ら経験し学ぶ。生体情報を正確かつ安全に記録する方法を身につける。生体はどのように反応するか、どのような生体情報が得られるのかを体験し生体機能に関する知識の定着を図る。実習を通し、生理検査機器の正しい安全な取り扱いや検査法を学ぶことに加え、被検者を体験することにより患者の立場を理解し、共感力を深め、医療人としての基礎を養う。心電図、筋電図、脳波、超音波検査、呼吸機能検査、感覚機能検査、核磁気共鳴画像検査などの実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全90回)</p> <p>(⑤ 義久精臣、11 堀越裕子、15 平田理絵、14 松田将門/6回) (共同) 心電図検査、心電図装置と安全管理、レートポテンシャル検査</p> <p>(⑤ 義久精臣、15 平田理絵/9回) (共同) 負荷心電図検査</p> <p>(11 堀越裕子、14 松田将門/12回) (共同) 頸動脈超音波検査、脈波伝導速度検査、血管内皮機能検査、標準純音聴力検査、脳波検査</p> <p>(⑤ 義久精臣、11 堀越裕子/24回) (共同) 腹部エコー検査、心臓超音波検査、眼底検査、生理検査の精度管理</p> <p>(15 平田理絵、14 松田将門/9回) (共同) 呼吸機能検査、睡眠時無呼吸検査</p> <p>(11 堀越裕子/3回) 甲状腺超音波検査</p> <p>(14 松田将門/9回) 脳波検査</p> <p>(15 平田理絵、192 菅野正彦/15回) (共同) 神経伝導速度検査、筋電図検査、味覚と嗅覚検査、聴性誘発反応検査</p> <p>(⑭ 久保均、94 五月女康作/3回) (共同) MR検査</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	臨床生理検査学実習		
	検査総合管理学	<p>現在の臨床検査は検査分野に関わらず、自動分析機器を抜きに検査を行うことは困難である。自動分析機器を有効に活用し、精確な検査結果を提供するために必要な、測定原理、方法、基本的な操作法について学習する。また、病院における検査部門の役割について学び、医療システムと検査室運営、データマネジメント、精度保証体制、様々な精度管理の手法、測定法の信頼性評価法等、質の高い医療を提供するために必要な基礎知識について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 菅野光俊/24回) 検査機器総論、化学容量器、分離分析装置、攪拌装置、恒温装置、測光装置、電気化学装置、純水装置、検査室管理、医療情報管理学、検査の精度保証、精度管理法、標準化、臨床検査技師の生涯教育</p> <p>(9 高橋一人/2回) 顕微鏡装置、専門機器 (病理)</p> <p>(14 松田将門/1回) 専門機器 (血液)</p> <p>(13 丹野大樹/1回) 専門機器 (微生物)</p> <p>(12 三浦里織/1回) 専門機器 (免疫血清)</p> <p>(11 堀越裕子/1回) 専門機器 (生理)</p>	オムニバス方式
	臨床検査総論Ⅱ		

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	検査 総合 管理 学	放射性同位元素検査技術学	臨床検査技師が関わる放射性同位元素（RI）を用いた検体検査は近年減少傾向にあるが、それでもRIを用いた検査が必要なものは存在し臨床現場における意義は従来と変わらず大きい。また、体外計測に関しては画像診断技術を中心に継続的に大きな発展を遂げている。そこで、本講義では検体検査にとどまらずRIを用いる検査全般について概説するとともに放射線に関する基礎知識や測定法、あるいは実際の取扱法や管理法などを教授し、RIを用いた検査全般について総合的に理解できることを目指す。	
	医療 安全 管理 学	医療安全管理学	<p>頻発する医療事故を概観し、医療職を取り巻く社会的環境と医療現場の現状について学ぶ。また、事故事例の分析を通して、その原因と要因を考察し、医療事故予防対策のあり方について考える。臨床検査は様々な検査分野の集合体でありそれぞれの検査業務に特有の検査過誤が発生しうることから、臨床検査室（検査業務）毎に考慮すべき検査過誤の内容とその予防対策法、事故発生時の対処法についても学修する。加えて、臨床検査技師による検査説明の必要性とその方法についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3) 豊川真弘/3回 医療安全管理学序論、検査室における安全管理（微生物検査）、臨床検査技師の業務拡大</p> <p>(8) 菅野光俊/1回 検査室における安全管理（検体検査室、時間外検査室）</p> <p>(9) 高橋一人/1回 検査室における安全管理（病理検査室）</p> <p>(11) 堀越裕子/1回 検査室における安全管理（生理検査）</p> <p>(12) 三浦里織/2回 検査室における安全管理（輸血検査）、臨床検査技師による検査説明</p> <p>(83) 木下美佐子/2回 医療安全管理（インシデントとアクシデント、リスクマネージメント）</p> <p>(73) 大内一夫/1回 医療事故、医療過誤、医療訴訟</p> <p>(233) 板垣俊太郎/1回 医療機関における安全管理（労働衛生）</p> <p>(228) 出羽仁/1回 医療機関における安全管理（医療機器）</p> <p>(36) 金光敬二/2回 医療機関における安全管理（感染対策、サーベイランスとアウトブレイク）</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	医療 安全 管理 学	<p>日常の精度管理は臨床検査における基本業務の一つである。検査室では検体到着から分析報告までの間に様々な精度管理を行うが、いくら検査部内での精度管理が十分でも、採取方法や保存条件が不適切な検体が提出されれば、正しい検査結果は報告できない。臨床現場における検体採取は医師や看護師によって行われるが、検体採取・保存に関する知識が十分とはいえず、臨床検査技師による技術指導や技師自身による検体採取の意義が高まっている。本演習では検体採取に必要な知識および技術について微生物学的検査検体を中心に講義および実習形式で学習する。また、臨床検査技師による検査説明の必要性と説明方法についても演習形式で学習する。</p> <p>(オムニバス形式・共同/全15回)</p> <p>③ 豊川真弘、13 丹野大樹/3回) (共同) 検体採取総論、技師による検体採取の意義、検体採取(微生物学的検査用検体:血液培養)および実習</p> <p>(75 鈴木政博、③ 豊川真弘/3回) (共同) 検体採取(微生物学的検査用検体:呼吸器検体)および実習</p> <p>(242 平岩朋子、243 伊藤崇、③ 豊川真弘/3回) (共同) 検体採取(微生物学的検査用検体:皮膚表在組織病変部等)および実習</p> <p>(36 金光敬二、③ 豊川真弘/3回) (共同) 検体採取(微生物学的検査用検体:糞便等)および実習</p> <p>(12 三浦里織、③ 豊川真弘/3回) (共同) 技師による検査説明</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
		臨床 病態 学	臨床病態学 I	<p>正確な臨床検査を行うためには、疾患の病因・病態に対する知識を身に着けることは極めて重要である。本講義では内科系疾患を中心に代表的な疾病の病因、病態、検査成績および治療について学び、診断、治療方針の決定や予後予測などに臨床検査がどのように関わっているのかを考えることで、検査によって得られるデータの解釈についての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑤ 義久精臣/5回) 循環器疾患、酸・塩基平衡の検査</p> <p>(102 斎藤純平/1回) 呼吸器疾患(肺感染症、閉塞性疾患)</p> <p>(70 谷野功典/1回) 呼吸器疾患(拘束性肺疾患、胸膜疾患、肺循環障害)</p> <p>(30 鈴木弘行/1回) 呼吸器疾患(肺がん)</p> <p>(26 金井数明/1回) 神経・運動器疾患(脳血管障害、感染症、てんかん)</p> <p>(27 藤原一男/1回) 神経・運動器疾患(変性・脱髄疾患、筋疾患)</p> <p>⑨ 矢吹省司/1回) 神経・運動器疾患(神経・運動器疾患の検査)</p> <p>(132 浅野智之/3回) アレルギー・膠原病</p> <p>(244 猪狩翔平/1回) 皮膚疾患</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 臨床病態学	臨床病態学Ⅲ	<p>正確な臨床検査を行うためには、疾患の病因・病態に対する知識を身に着けることは極めて重要である。本講義では内科系疾患を中心に代表的な疾病の病因、病態、検査成績および治療について学び、診断、治療方針の決定や予後予測などに臨床検査がどのように関わっているのかを考えることで、検査によって得られるデータの解釈についての理解を深める。臨床病態学Ⅲでは、主に内分泌疾患、代謝栄養疾患、腎・尿路系疾患、乳腺疾患、悪性腫瘍について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(241 鴻野央征/2回) 内分泌疾患(下垂体疾患・甲状腺疾患)、(副甲状腺疾患・副腎疾患)</p> <p>(101 待井典剛/2回) 内分泌疾患(内分泌疾患の検査)</p> <p>(25 島袋充生/3回) 代謝・栄養障害</p> <p>(24 風間順一郎/3回) 腎・尿路・生殖器疾患(内科分野)</p> <p>(105 添田周/1回) 女性生殖器疾患</p> <p>(109 赤井畑秀則/1回) 腎・尿路・生殖器疾患(外科分野)</p> <p>(31 大竹徹/1回) 乳腺疾患</p> <p>(① 小川一英/1回) 染色体・遺伝子異常の検査</p> <p>(112 徳田恵美/1回) 悪性腫瘍の臨床検査</p>	オムニバス方式
	臨床病態学演習	<p>これまでの臨床病態学Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、症例を通して臨床の現場で遭遇する疾患に対する知識の定着を図るとともに、病態と検査データの関係についてさらに理解を深める。具体的には学生は小グループに分かれ、一つの症例についての応用演習問題に対する解答を得るためにグループ毎にTBL (Team-based-learning) 形式でディスカッションを行い、それぞれ発表し評価を受ける。症例に対し学生がチーム内でディスカッションを行うことで、コミュニケーション力、対人関係構築力の向上を図ることも本演習の目的の一つである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 小川一英/7回) ガイダンスと3症例(貧血・造血器腫瘍・凝固異常につきTBL形式でディスカッションを行う)</p> <p>(⑤ 義久精臣/6回) 3症例(循環器、呼吸器、消化器疾患につきTBL形式でディスカッションを行う)</p> <p>(② 宇月美和/2回) 1症例(病理関連分野)につきTBL形式でディスカッションを行う</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	総合 演習	<p>臨床検査各分野に関する知識を修得し、医療に対する総合的視野と専門的知識の定着を図る。R-CPC (Reversed Clinico-Pathological Conference) を行い、臨床検査データを基に症例の病態を推測するトレーニングをする。これにより、臨床検査データと病態診断をリンクして考えることができる、より優れた臨床検査技師としての一歩を踏み出せる力を身につける。医療・医学の基礎となる臨床検査の意義を理解し、臨床検査が臨床現場でどのように捉えられ、その結果は他の医療従事者や患者へどんな影響を与えるのかを理解する。臨床検査を通じて、さらに医療に貢献できる臨床検査技師の育成を目的とした演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全60回)</p> <p>① 小川一英、8 菅野光俊/2回) (共同) R-CPC</p> <p>① 小川一英、14 松田将門/2回) (共同) R-CPC</p> <p>(41 志村浩己/4回) R-CPC</p> <p>① 小川一英、③ 豊川真弘、13 丹野大樹/2回) (共同) R-CPC</p> <p>① 小川一英、6 鈴木英明、12 三浦里織/2回) (共同) R-CPC</p> <p>(13 丹野大樹/6回) 公衆衛生学、臨床血液学、臨床微生物学</p> <p>(9 高橋一人/3回) 病理組織細胞学</p> <p>(7 梅澤敬/3回) 病理組織細胞学</p> <p>(11 堀越裕子/4回) 臨床生理学、医用工学概論</p> <p>(15 平田理絵/4回) 臨床生理学、医用工学概論</p> <p>① 小川一英/1回) 臨床病態学</p> <p>⑤ 義久精臣/1回) 臨床病態学</p> <p>② 字月美和/1回) 臨床病態学</p> <p>③ 豊川真弘/4回) 臨床微生物学、医動物学</p> <p>(6 鈴木英明/3回) 臨床免疫学・輸血学</p> <p>(8 菅野光俊/7回) 臨床検査総論、臨床化学</p> <p>(12 三浦里織/5回) 臨床検査総論、臨床免疫学・輸血学</p> <p>(14 松田将門/6回) 臨床化学、臨床血液学</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		総合演習		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床実習 臨床実習	臨床実習は、これまで学んできた知識や技術が、実践でどのように生かせるのか、あるいは生かさなければならないのかを、実習を通じて学ぶ。特に学内実習では学習困難な検査機器の取り扱い法、精度管理法、検査情報管理法などの管理運営に必要な実践的知識、患者への対応、対話、態度など医療人として必要なマナー、さらにはチーム医療の一員としての臨床検査技師の役割と責任について学ぶ。具体的には、各臨床検査部門を小グループに分けてローテートし、実際に検査の現場である医学部附属病院検査部、病理部、輸血・移植免疫部、研究機関等で実習や見学を行う。	
	卒業研究 卒業研究	個別にテーマを選択し、講義や実習を通して得た知識や技術を活かし、臨床検査学、基礎医学、臨床医学に関する研究を行う。研究の報告書、研究発表の方法を学ぶ。自主性を重んじながら指導教官の指導によって行われる。研究することの喜びを知り、研究の成果を共有することの重要性を学ぶ。目標を立て、その目標に向かって進む過程から得た経験や知識を得ることから、自分自身に自信を持ち、医療の高度専門化に対応できる臨床検査技師を育成する。	
	その他(選択) 健康食品学	食は生命維持の基本であり、疾病の予防や治療につながる大切な領域である。この講義は栄養学、食品学およびいわゆる健康食品の医療人に必要な基本的な知識を学ぶ。食品には様々な栄養成分が含まれており、体内でその成分は吸収、代謝され有効活用される。その有用性を習得するとともに、健康食品に含まれている成分の有用性と安全性も習得する。これらの知識を得ることで、一般消費者や患者に対して健康食品に対する正しい認識と指導ができる能力を身に付ける。 (オムニバス方式/全30回) (6 鈴木英明/20回) 食に関するアドバイザースタッフ、疾患と栄養、健康食品の概要、健康食品に用いられている成分の有用性と安全性、食の衛生管理と安全性、関係法規、医薬品開発の流れと科学的根拠、食品と医薬品の相互作用、嗜好品と医薬品の相互作用 (14 松田将門/10回) 栄養と食生活、栄養と食生活、摂食と消化・吸収、食品成分の機能性と有用性、疾患と栄養、栄養アセスメントとNST	オムニバス方式
	食品衛生学	飲食は我々の身体を恒常的に維持するために必要な行為である。一方、飲食物には栄養成分以外に人体に有害物質も含まれている場合がある。人体に有益な食品であっても適量を超えた場合には有害なものになってしまうこともある。これら飲食に起因する衛生上の危害を防止することが食品衛生学の目的である。そのために、食品衛生に関する過去の経験を整理し、その防止策について学習する。すなわち、食中毒の発生状況、食中毒細菌の特性、自然毒などの食品中に含まれている有害な物質の特徴を学び、危害防止のための対策や安全確保の手法について解説し、健康被害の発生抑制と発生した際の原因究明ができる技術者としての自覚を養成する。	
生殖補助医療技術学	不妊症治療において人工授精や体外受精などの生殖補助医療は欠かすことができないものとなっている。それらの業務を担当するのは胚培養士であり、その約半数が臨床検査技師の資格を有する。生殖補助医療を理解するには基礎生殖生物学から臨床の産婦人科学・泌尿器科学などにわたる広い知識が必要となる。本講義では生殖医療の基礎および臨床応用の現状を学習し、実際の生殖補助医療技術(配偶子操作、体外受精法、顕微授精法：卵細胞質内精子注入法、配偶子・胚の凍結融解法など)の実技を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (113 菅沼亮太/10回) 生殖医療一般論、配偶子の発生・受精機序・胚発生、生殖補助医療概論、体外受精・顕微授精技術、配偶子・胚の凍結技術 (237 菊地瑛子、238 野口香里/5回) (共同) 生殖補助医療技術演習(精子調整、顕微鏡操作、体外受精、凍結融解技術)	オムニバス方式・共同(一部)	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健科学部臨床検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	細胞検査士コース(選択)	基礎細胞診断学 「基礎細胞診断学」は細胞検査士養成コース専攻の基礎編となる科目である。標本作製技術を身につけながら、婦人科(子宮頸部・子宮体部・子宮付属器)、呼吸器、泌尿・生殖器、乳腺および甲状腺の細胞診検査において、感染症、悪性細胞と紛らわしい良性細胞、良性腫瘍や悪性腫瘍の臨床的背景を学び、解剖学、病理組織学、特徴的な細胞像について学ぶ。日常的によく遭遇する病変については、細胞学的特徴を理解し、細胞を同定できる能力を身に付けることを目標とする。 (オムニバス方式/全30回) (② 宇月美和/7回) 細胞診の目的、女性性器・呼吸器・泌尿器・乳腺・甲状腺領域の組織学 (7 梅澤敬/9回) 細胞診標本作製・婦人科領域の細胞診 (9 高橋一人/14回) 染色法、呼吸器・泌尿器・乳腺・甲状腺領域の細胞診	オムニバス方式
		基礎細胞診断学実習 「基礎細胞診断学実習」は細胞検査士養成コース専攻の基礎編となる科目である。「基礎細胞診断学」の講義内容と並行して、標本作製の実際と顕微鏡を用いた標本観察実習を行う。標本作製技術は主に液状検体の標本作製を行う。顕微鏡実習は婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺および甲状腺領域の病理組織像の特徴的な形態像をスケッチするとともに、細胞標本を用いて細胞像の特徴、および良悪の鑑別方法を学び、特徴的な像をスケッチする。また同時に、正常な細胞の中からがん細胞を拾い上げる(スクリーニング)技術も身に付けることを目標とする。 (オムニバス方式/全90回) (7 梅澤敬/39回) 細胞診標本作製・染色法、婦人科領域の細胞診 (9 高橋一人/51回) 呼吸器・泌尿器・乳腺・甲状腺領域の細胞診	オムニバス方式
		応用細胞診断学 「応用細胞診断学」は細胞検査士養成コース専攻の応用編となる科目である。消化器系、リンパ節、骨組織、軟部組織、神経組織および体腔領域の細胞診検査において、悪性細胞と紛らわしい良性異型細胞、良性腫瘍細胞や悪性腫瘍細胞の臨床的背景を学び、解剖学、病理組織学、特徴的な細胞像について学ぶ。特に体腔領域の細胞診検査については、病理学的背景から確認しにくい検査であることを理解しつつ、異常細胞を検出し、判定できる能力を身に付けることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (② 宇月美和/6回) 胆道系・脾・リンパ節・甲状腺・骨軟部・中枢神経・末梢神経・体腔の組織学 (7 梅澤敬/4回) 消化器系・骨軟部・脳脊髄液・神経系腫瘍・体腔液の細胞診 (9 高橋一人/5回) リンパ節の細胞診	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	細 胞 検 査 士 コ ー ス (選 択)	応用細胞診断学実習	<p>「応用細胞診断学実習」は細胞検査士養成コース専攻の応用編となる科目である。「応用細胞診断学」の講義と並行して行う実習で、消化器系、リンパ節、骨組織、軟部組織、神経組織および体腔領域の細胞診についての臨床的背景を学ぶ。続いて解剖学、病理組織学、特徴的な細胞像（炎症性疾患、非腫瘍性疾患、腫瘍）について学び、悪性細胞を判定できる知識を身に付けることを目標とする。また形態像をスケッチするとともに、細胞標本を用いて細胞像の特徴、および良悪の鑑別を学ぶ。同時に、正常な細胞の中からがん細胞を拾い上げる（スクリーニング）技術も身に付けることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全60回)</p> <p>(7 梅澤敬/36回) 消化器系・骨軟部・脳脊髄液・神経系腫瘍・体腔液の細胞診</p> <p>(9 高橋一人/24回) リンパ節の細胞診</p>	オムニバス方式
		実践細胞診断学	<p>「実践細胞診断学」は細胞検査士養成コース専攻の実践編となる科目である。3年次前期までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、細胞検査学、基礎細胞診断学および応用細胞診断学の知識に基づき、細胞検査士としての基盤を確立する。細胞検査士として必要な細胞判定能力を向上させるために、主要な細胞診材料となる婦人科(子宮頸部および子宮体部)、呼吸器、消化器、泌尿器、体腔液の細胞画像を用い、どのような細胞の判定を求められても対応できる細胞診断学的知識の習得を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 梅澤敬/9回) 細胞診のまとめ(子宮頸部・子宮体部、消化器、体腔液)</p> <p>(9 高橋一人/6回) 細胞診のまとめ(呼吸器、泌尿器)</p>	オムニバス方式
		実践細胞診断学実習	<p>「実践細胞診断学実習」は細胞検査士養成コース専攻の実践編となる科目である。3年次前期までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、細胞検査学、基礎細胞診断学および応用細胞診断学の知識に基づき、「実践細胞診断学」と並行して細胞検査士として必要な標本スクリーニングおよび細胞判定能力を習得するための実習を行う。主要な細胞診材料となる婦人科(子宮頸部および子宮体部)、呼吸器、消化器、泌尿器、体腔液の標本から、異常所見をスクリーニングによって見つけ出し、適切な細胞判定が行える能力を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全60回)</p> <p>(7 梅澤敬/36回) 細胞診のスクリーニングと細胞判定(子宮頸部・子宮体部、消化器、体腔液)</p> <p>(9 高橋一人/24回) 細胞診のスクリーニングと細胞判定(呼吸器、泌尿器)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部臨床検査学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	細胞 検査 士 コース (選 択)	
	臨床細胞診断学	<p>「臨床細胞診断学」は細胞検査士養成コース専攻の総括となる科目である。3年次までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、基礎細胞診断学、応用細胞診断学および実践細胞診断学の知識に基づき、細胞検査士として実臨床に対応できる知識の整理をするとともに各疾患の病態と細胞診検査の関連性を理解する。加えて、術中迅速細胞診検査やオンサイトサイトロジーなど、実臨床における細胞診検査の新たな有用性や発展性について学習するとともに、チーム医療の一員として多職種と連携し、がん医療へ貢献できる知識の習得を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全141回) (② 宇月美和/1回) 細胞診と病理 (総論)</p> <p>(7 梅澤敬/55回) 細胞診各論 (婦人科、消化器、体腔、非上皮・神経系)、細胞診検査技術 (標本作製・染色法・免疫染色・応用)、まとめ</p> <p>(9 高橋一人/45回) 細胞診各論 (呼吸器、泌尿生殖器、乳腺・甲状腺、リンパ節)、まとめ</p> <p>(105 添田周/1回) 婦人科領域の臨床</p> <p>(195 内海康文/2回) 婦人科領域の病理 (子宮頸部)</p> <p>(196 渡邊純/2回) 婦人科領域の病理 (子宮体部、子宮付属器)</p> <p>(30 鈴木弘行/1回) 呼吸器領域の臨床</p> <p>(197 五十嵐誠治/2回) 呼吸器・胸腔領域の病理</p> <p>(68 高木忠之/1回) 消化器領域の臨床</p> <p>(198 郡秀一/2回) 消化器領域の病理 (消化管「口腔、食道、胃、小腸、大腸」)</p> <p>(199 小田島肇/2回) 消化器領域の病理 (肝・胆・膵)</p> <p>(108 小川総一郎/1回) 泌尿・生殖器領域の臨床</p> <p>(200 手塚文明/2回) 泌尿・生殖器領域の病理</p> <p>(136 松本佳子/1回) 甲状腺領域の臨床</p> <p>(201 廣川満良/2回) 甲状腺領域の病理</p> <p>(31 大竹徹/1回) 乳腺領域の臨床</p> <p>(117 喜古雄一郎/2回) 乳腺領域の病理</p> <p>(① 小川一英/1回) リンパ節の臨床</p> <p>(252 佐々木栄作/1回) 体腔領域の臨床</p> <p>(35 橋本優子/2回) リンパ節病変の病理</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(保健科学部臨床検査学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	細胞検査士コース (選択)		(202 野沢佳弘/2回) 体腔領域の病理 (主に腹腔) (72 箱崎道之/1回) 非上皮領域の臨床 (203 日下部崇/2回) 非上皮領域の病理 (103 岩楯兼尚/1回) 神経領域の臨床 (204 鈴木博義/2回) 神経領域の病理 (205 吉岡治彦/2回) 非上皮・神経領域の細胞診 (206 福田利夫/2回) 細胞診検査技術 (207 坂本穆彦/2回) 細胞診断学のまとめ	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健科学部臨床検査学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	細胞 検査 士 コース (選 択)	<p>「臨床細胞診断学実習」は細胞検査士養成コース専攻の総括となる科目である。3年次までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、基礎細胞診断学、応用細胞診断学および実践細胞診断学の知識に基づき、「臨床細胞診断学」と並行して細胞検査士として実臨床に対応できるスクリーニング・細胞判定能力および標本作製技術を習得する。加えて、術中迅速細胞診検査やオンサイトサイトロジーなど、実臨床の要望に対応できる検査技術を習得するとともに、チーム医療の一員として多職種と連携し、がん医療へ貢献できる診断技術の習得を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/240回)</p> <p>(7 梅澤敬/87回) 細胞診各論(婦人科、泌尿生殖器、非上皮・神経系)、細胞診の応用</p> <p>(9 高橋一人/105回) 細胞診各論(呼吸器、消化器、乳腺・甲状腺、リンパ節)、細胞診標本作製・染色法</p> <p>(218 石井保吉/3回)、(219 栗田和香子/3回)、(208 村上今日子/3回)、(209 二瓶憲俊/3回)、(217 伊藤仁/3回) 婦人科領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(210 松木浩子/3回)、(211 佐藤陽子/3回) 呼吸器領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(198 郡秀一/3回) 食道、胃、小腸、大腸の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(255 村越政仁/3回) 肝・胆・膵の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(212 渡邊純子/3回) 泌尿器領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(213 緑川勝彦/3回) 乳腺の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(239 山谷幸恵/3回) 甲状腺領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(256 菅野寿也/3回) リンパ節病変の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(257 赤城美代子/3回) 体腔領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(214 古田則行/3回) 非上皮領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(205 吉岡治彦/3回) 神経領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p>	オムニバス方式
		臨床細胞診断学実習		